

岩手県文化財調査報告書第117集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

— 第56次発掘調査概報 —



平成15年3月

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第117集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

—— 第56次発掘調査概報 ——

平成15年3月

岩手県教育委員会



カラー写真1 56次調査区全景



中国産陶磁器



折敷（表）



折敷（裏）

序 言

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、12世紀北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡であり、古から先人先学がこの地を訪れて往時の栄華に思いをはせた地でもあります。

本遺跡は、一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴い、昭和63年から(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会により事業予定地内の緊急発掘調査が実施されました。調査の進行にともない、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・井戸跡・塀跡が発見され、また、おびただしい量のかわけ・墨画資料・各種木製品など、質・量ともに内容豊かな遺物が出土しました。これらの遺構・遺物は、12世紀後半、特に奥州藤原氏三代秀衡との関連が強く、本遺跡が『吾妻鏡』にみられる「平泉館」であるとの考えが多くの歴史家から指摘されているところでもあります。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省(現国土交通省)のひとかたならぬ御理解により、平成5年には遺跡の永久保存が決定し、平成9年3月には「柳之御所遺跡」として国の史跡に指定されました。

県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、この遺跡を後世に伝えるとともに広く活用されることを願い、将来的には史跡公園として整備し、平泉文化を全国に発信して参りたいと考え、平成10年度から本格的な発掘調査を実施しております。本年度は第2次三カ年計画の2年次となります。

本年度は、遺跡中樞部を囲む2条の堀跡の追跡調査を実施しました。調査の結果、30数基のトイレ状遺構が集中して見つかり、当時の生活の様子を具体的に分析できる資料が発掘されました。また、平泉では初めてとなる中国南部の吉州窯製の陶器片も出土し、奥州藤原氏の経済基盤の豊かさの一端を知る手がかりも発見されています。

この報告書は、平成14年度第56次調査発掘成果をまとめたものですが、文化財保護と平泉文化研究発展の一助になれば幸いと存じます。

調査の実施と報告書作成に当たり、御指導御援助賜りました、柳之御所遺跡調査整備指導委員会の先生方をはじめ、文化庁記念物課、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所等の関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

平成15年3月

岩手県教育委員会

教育長

五十嵐 正

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成14年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成14年5月13日から11月29日までである。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。

〈岩手県教育委員会事務局〉

生涯学習文化課長 吉川 健二
文化財保護監 小田野哲憲
文化財保護監補佐 伊藤 吉郎
主任埋蔵文化財主査 中村 英俊
柳之御所調査主査 齋藤 邦雄 (担当)
文化財専門員 佐々木 務 (担当)
文化財調査員 戸根 貴之 (担当)

〈(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長 木村 昇
調査第一課長 佐々木 勝
文化財調査員 杉沢昭太郎 (担当)

3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用した。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。
SA：塀・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀 SE：井戸・井戸状遺構
SG：圃池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他 SI：堅穴住居 P：柱穴
例：56SB1 第56次調査の第1号掘立柱建物跡
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて1/3を基本にしており、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 調査成果の一部については、柳之御所遺跡調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
6. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察は、『新版標準土色帖』を参考にした。
7. 柳之御所遺跡調査整備指導委員会の委員の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
(順不同：敬称略)
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県立博物館 平泉町教育委員会 平泉町文化財センター 柳之御所資料館
8. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目次

表紙写真

56SD39堀跡断面

巻頭カラー

56次調査区(北が上)

出土遺物

序言

例言

本文目次

| | | | |
|------------|----|----------------------|-----|
| 第I章 はじめに | 1 | 3 中国産陶磁器 | 31 |
| 第II章 検出遺構 | 5 | 4 瓦 | 32 |
| 1 掘立柱建物跡 | 5 | 5 木製品 | 33 |
| 2 井戸状遺構 | 6 | 6 その他の遺物 | 33 |
| 3 土坑 | 6 | 第IV章 まとめ | 80 |
| 4 溝・堀跡 | 9 | 第V章 付属 | 84 |
| 5 その他の遺構 | 11 | 1. 柳之御所から出土した木製品の樹種 | 91 |
| 第III章 出土遺物 | 31 | 2. 柳之御所遺跡のテフラ | 109 |
| 1 かわらけ | 31 | 3. 柳之御所遺跡における花粉分析 | 112 |
| 2 国産陶器 | 31 | 4. 柳之御所遺跡におけるトイレ遺構分析 | 117 |

表目次

| | | | |
|-----------|----|---------|----|
| 柱穴計測表 | 63 | 瓦観察表 | 73 |
| かわらけ観察表 | 67 | 木製品観察表 | 73 |
| 国産陶器観察表 | 69 | 出土遺物計測値 | 78 |
| 中国産陶磁器観察表 | 72 | | |

図版目次

| | | | |
|---------------------------------|----|------------------------|-------|
| 第1図 56SB1・56SB7 | 14 | 第13図 溝・堀断面⑤ | 26 |
| 第2図 56SB2・56SB5 | 15 | 第14図 溝・堀断面⑥ | 27・28 |
| 第3図 56SB3・56SB8 | 16 | 第15図 その他の遺構(SX) | 29 |
| 第4図 56SB4・56SB6 | 17 | 第16図 整地層断面 | 30 |
| 第5図 56SE1・56SE3・56SK25 | 18 | 第17図 かわらけ(1) | 34 |
| 第6図 56SK26~56SK31 | 19 | 第18図 かわらけ(2) | 35 |
| 第7図 56SK32~56SK34・56SK43・56SK67 | 20 | 第19図 かわらけ(3) | 36 |
| 第8図 56SK53・56SK80・56SK99・焼土 | 21 | 第20図 かわらけ(4) | 37 |
| 第9図 溝・堀断面① | 22 | 第21図 常滑産陶器(1) | 38 |
| 第10図 溝・堀断面② | 23 | 第22図 常滑産陶器(2) | 39 |
| 第11図 溝・堀断面③ | 24 | 第23図 常滑産陶器(3) | 40 |
| 第12図 溝・堀断面④ | 25 | 第24図 常滑産陶器(4)・瀬美産陶器(1) | 41 |

| | | |
|------|----------------------------|----|
| 第25図 | 渥美産陶器 (2) | 42 |
| 第26図 | 渥美産陶器 (3) | 43 |
| 第27図 | 渥美産陶器 (4)・須恵器系陶器 (1) | 44 |
| 第28図 | 須恵器系陶器 (2) | 45 |
| 第29図 | 須恵器系陶器 (3)・その他の遺物 | 46 |
| 第30図 | 中国産陶磁器 (1) | 47 |
| 第31図 | 中国産陶磁器 (2) | 48 |
| 第32図 | 中国産陶磁器 (3)ほか | 49 |
| 第33図 | 瓦 (1) | 50 |
| 第34図 | 瓦 (2) | 51 |

| | | |
|------|-------------------|-------|
| 第35図 | 木製品 (1) | 52 |
| 第36図 | 木製品 (2) | 53 |
| 第37図 | 木製品 (3) | 54 |
| 第38図 | 木製品 (4) | 55 |
| 第39図 | 木製品 (5) | 56 |
| 第40図 | 木製品 (6) | 57 |
| 第41図 | 木製品 (7) | 58 |
| 第42図 | 木製品 (8) | 59 |
| 第43図 | 木製品 (9) | 60 |
| 第44図 | 柳之御所遺跡遺構配置図 | 61-62 |

写真図版目次

| | | |
|--------|---|-----|
| 写真図版1 | 第56次調査区航空写真 | 135 |
| 写真図版2 | 56S B 1・56S B 2 | 136 |
| 写真図版3 | 56SE1・56SE3・56SK6・56SK16・ 56SK44 | 137 |
| 写真図版4 | 56SK19・56SK23・56SK25~56SK27 | 138 |
| 写真図版5 | 56S K 28~56S K 31 | 139 |
| 写真図版6 | 56S K 32~56S K 36 | 140 |
| 写真図版7 | 56S K 37~56S K 43 | 141 |
| 写真図版8 | 56S K 51~56S K 53 | 142 |
| 写真図版9 | 56SK54~56SK60・56SK62~56SK64 | 143 |
| 写真図版10 | 56SK65~56SK70・56SK72・56SK73 | 144 |
| 写真図版11 | 56SK77・56SK80・56SK84・56SK85・ 56SK87・56SK89 | 145 |
| 写真図版12 | 56SK15・56SK90・56SK93~56SK96・ 56SK99 | 146 |
| 写真図版13 | 56SD19・56SD20・56SD38・56SD40・ 56SX3 | 147 |
| 写真図版14 | 56S D 20・56S D 38 | 148 |
| 写真図版15 | 56S D 38・56S D 39埋跡 | 149 |
| 写真図版16 | 56S D 39 (T 2) | 150 |
| 写真図版17 | 56S D 39 (T 2)・熊間が淵 (T 2) | 151 |
| 写真図版18 | 遺物出土状況 (1) | 152 |
| 写真図版19 | 遺物出土状況 (2) ほか | 153 |
| 写真図版20 | 56SD20・56SD40 | 154 |
| 写真図版21 | 56SX16土橋・56SD40 | 155 |
| 写真図版22 | 整地層 | 156 |
| 写真図版23 | その他の遺構 | 157 |
| 写真図版24 | 作業風景ほか | 158 |
| 写真図版25 | かわらけ (1) | 159 |
| 写真図版26 | かわらけ (2) | 160 |
| 写真図版27 | かわらけ (3) | 161 |
| 写真図版28 | かわらけ (4) | 162 |
| 写真図版29 | かわらけ (5)・国産陶器 (1) | 163 |
| 写真図版30 | 国産陶器 (2) | 164 |
| 写真図版31 | 国産陶器 (3) | 165 |

| | | |
|--------|------------------|-----|
| 写真図版32 | 国産陶器 (4) | 166 |
| 写真図版33 | 国産陶器 (5) | 167 |
| 写真図版34 | 国産陶器 (6) | 168 |
| 写真図版35 | 国産陶器 (7) | 169 |
| 写真図版36 | 国産陶器 (8) | 170 |
| 写真図版37 | 国産陶器 (9) | 171 |
| 写真図版38 | 国産陶器 (10) | 172 |
| 写真図版39 | 国産陶器 (11) | 173 |
| 写真図版40 | 国産陶器 (12) | 174 |
| 写真図版41 | 中国産陶磁器 (1) | 175 |
| 写真図版42 | 中国産陶磁器 (2) | 176 |
| 写真図版43 | 中国産陶磁器 (3) | 177 |
| 写真図版44 | 中国産陶磁器 (4) | 178 |
| 写真図版45 | 中国産陶磁器 (5) | 179 |
| 写真図版46 | 瓦 | 180 |
| 写真図版47 | 木製品 (1) | 181 |
| 写真図版48 | 木製品 (2) | 182 |
| 写真図版49 | 木製品 (3) | 183 |
| 写真図版50 | 木製品 (4) | 184 |
| 写真図版51 | 木製品 (5) | 185 |
| 写真図版52 | 木製品 (6) | 186 |
| 写真図版53 | 木製品 (7) | 187 |
| 写真図版54 | 木製品 (8) | 188 |
| 写真図版55 | 木製品 (9) | 189 |
| 写真図版56 | 木製品 (10) | 190 |
| 写真図版57 | 木製品 (11) | 191 |
| 写真図版58 | 木製品 (12) | 192 |
| 写真図版59 | 木製品 (13) | 193 |
| 写真図版60 | 木製品 (14) | 194 |
| 写真図版61 | 木製品 (15) | 195 |
| 写真図版62 | 木製品 (16) | 196 |
| 写真図版63 | 木製品 (17) | 197 |
| 写真図版64 | その他の遺物 (1) | 198 |
| 写真図版65 | その他の遺物 (2) | 199 |

第I章 はじめに

1 調査経過

当教育委員会では、柳之御所遺跡が平成9年に国の史跡に指定されたことから、当遺跡を史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁・柳之御所遺跡調査研究指導委員会の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象として内容確認の発掘調査を計画的・継続的に実施している。三ヶ年を1サイクルとし、第I期整備対象区域である堀内部地区を中心として調査を実施している。

平成11年度実施した第50次調査では、既往の調査で確認された菴池や大型の建物など、帯で囲まれた中核域の周辺地域での12世紀代の遺構の広がりや密度を確認することを主要な目的として、遺跡の東側にあたる北上川右岸縁に調査区を設定し発掘調査を行った。その結果、12世紀代の遺構が現況の河岸縁まで分布し柳之御所遺跡の一部が北上川の侵食で失われていることが確認された。12世紀代の遺構についても、櫓や井戸状遺構の検出、複雑に重複する掘立柱建物などが多数検出され、複数時期にわたって遺跡が営まれたことが明らかにされた。また、「誓前村印」と刻印された銅印と器表面全体を漆の沁み込んだ麻布で被覆されたほぼ完全な形に近い白磁四耳壺が同一の井戸状遺構から出土した。地名を刻印したと推定される銅印の発見は、奥州藤原氏の統治システムを考察する上で貴重な資料となるばかりでなく、本邦の印章史の空白期を埋める資料として注目された。

平成12年度の第52次調査では、従来から指摘されていた菴池の周辺域の中心建物群とは異なるエリアから、建物の軸線の異なる大型の建物が検出された。これは、時期を異にして大型の建物で構成される複数の地域が存在したことであり、柳之御所遺跡の遺構の変遷を考えるうえで重要な課題を提示した。両者とも時期的には12世紀後半代、三代秀衡の時代に比定される遺構群であるが、中心域に移動があったことが想定されるものであり、この背景には平泉あるいは奥州藤原氏内部での何らかの重要な転換期を反映している可能性が考えられる。また、柳之御所遺跡は従来まで遺跡のピークが三代秀衡の治世12世紀第3四半期にあることが指摘されてきたが、今回の調査で新たに12世紀初頭あるいは前葉に位置づけられる一群の土器群が発見され、当遺跡が12世紀前半代初代清衡の時期まで遡ることが明らかにされた。これは、政庁「平泉館」の性格あるいは、奥州藤原氏の平泉での確立期の状況を推定させる重要な発見である。

平成13年度の第55次調査では、新たに菴池の北側に大規模な建物の存在が明らかとなり、柳之御所遺跡の中核施設の移動が想定されるようになった。また、初代清衡の時代である12世紀初め頃のかわけがまとまって発見され、柳之御所遺跡の開始年代と遺跡の性格、ひいては平泉奥州藤原氏の設立期の問題を考える上で非常に大きな問題を示唆することとなった。

平成14年度は第2次三ヶ年計画の第2年次に該当し、通年で第56次調査に相当する。今年度は、第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀（内堀）と張出施設を伴う溝の遺跡、北上川右岸縁での大型建物の展開の把握、遺跡を二分する外堀の遺跡をすることを目的として、堀内部地区の西側、堀に接する部分に調査区を設定した。

2 本年度の調査について

(1) 柳之御所遺跡調査整備指導委員会

当教育委員会では、平成10年度から柳之御所遺跡の内容確認調査を再開するにあたり、柳之御所遺跡調査研究指導委員会を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに追加登録されたことから、新たに3名の指導委員を委嘱し、委員会の名称を平成13年度から「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改めた。

さらに、今年度より柳之御所遺跡整備の基本計画策定の段階に入ることから、地元有識者2名の指導委員を新たに委嘱した。

本年度は以下の内容で委員会を開催した。

① 平成14年度第1回柳之御所遺跡調査整備指導委員会

平成14年7月26日(金) 平泉町役場

- ・ 柳之御所遺跡整備基本計画策定について(県教育委員会)
- ・ 柳之御所遺跡第56次調査発掘調査計画について(県教育委員会)
- ・ 平泉文化研究機関整備推進事業について(県教育委員会)
- ・ 平泉遺跡群関連発掘調査計画について(平泉町教育委員会・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・岩手県立博物館)
- ・ 現地視察 柳之御所遺跡(県教育委員会 中尊寺大池跡(平泉町教育委員会))

② 平成14年度第2回柳之御所遺跡調査整備指導委員会

平成15年2月13日(木) 平泉町役場

- ・ 柳之御所遺跡整備基本計画について(県教育委員会)
- ・ 平泉町の都市計画等について(平泉町建設課)
- ・ 平成14年度柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査成果等について(県教育委員会・岩手県立博物館・平泉町文化財センター)

柳之御所遺跡調査整備指導委員会

| 氏名 | 役職 | 専門分野 | 備考 |
|--------|------------------------------------|-------------|------------|
| 入岡田 宜夫 | 東北大学東北アジア研究センター教授 | 歴史学(古代・中世) | |
| 牛川 喜幸 | 京都橘女子大学教授 | 造園学・史跡整備 | |
| 遠藤 セツ子 | メビウスの会代表 | 地元有識者 | 新任 |
| 岡田 茂弘 | 東北歴史博物館長 | 考古学(古代) | |
| 小野 正敏 | 独立行政法人国立歴史民俗博物館助教授 | 考古学(陶磁器) | |
| 河原 純之 | 川村学園女子大学教授 | 考古学(中世) | 委員長 |
| 工藤 雅樹 | 福島大学教授 | 考古学・歴史学(古代) | 副委員長 |
| 斉藤 利男 | 弘前大学教授 | 歴史学(中世) | |
| 佐藤 信 | 東京大学大学院教授 | 歴史学(古代) | |
| 清水 繁 | 東京工芸大学教授 | 建築学 | |
| 清水 真一 | 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 建造物研究室長 | 建築学 | 平成14年度より就任 |
| 関宮 治良 | 平泉町商工会事務局長 | 地元有識者 | 新任 |
| 田辺 征夫 | 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 飛鳥藤原宮跡発掘調査部長 | 考古学(歴史) | |
| 玉井 哲雄 | 千葉大学教授 | 建築学 | |
| 西村 幸夫 | 東京大学大学院教授 | 都市工学 | |

柳之御所遺跡発掘調査年次別調査計画

| 年 次 | 調査回数 | 調 査 内 容 等 |
|----------|----------------|---|
| 第1次3ヵ年計画 | 平成10年度 第49次 | <ul style="list-style-type: none"> 堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1（28SB4と一部重複）の東側地区の解明。 23次調査時の23SB2建物跡の延長確認。 23SA3柱列跡、23SA1堀跡の延長確認。 48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討。 |
| | 平成11年度 第50次 | <ul style="list-style-type: none"> 池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。 4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。 42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸長状況追跡。 37次、42次の内容確認調査の時期に確認されていた溝・堀類の時期及び伸長状況の把握。 |
| | 平成12年度 第52次 | <ul style="list-style-type: none"> 堀内部地区、中心建物群の北側地区の解明。 祭祀遺構周辺域の解明。 無量光院との対峙地域の解明。 堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 |
| 第2次3ヵ年計画 | 平成13年度 第55次 | <ul style="list-style-type: none"> 中心建物群の北側地区の解明。 中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。 堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 現存する微高地状の高まりの性格把握。 北上川縁地域の状況把握。 |
| | 平成14年度 第56次 | <ul style="list-style-type: none"> 第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀（内堀）と張出施設を伴う溝の追跡。 北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。 遺跡を二分する外堀の追跡。 |
| | 平成15年度 第57次 | <ul style="list-style-type: none"> 堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 北上川縁地域の状況把握。 堀外部地区との連絡施設（道路・橋等）の確認。 |

※ 第51次・53次・54次調査は平泉町教育委員会が実施。

(2) 調査の目的と調査の方法

平成14年度は柳之御所遺跡発掘調査第2次三カ年計画の2年目にあたり、堀内部地区の西側、堀に接する部分を主な調査対象地区として調査を実施した。

今年度は以下の内容を目的として調査を実施した。

- ① 第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀（内堀）と張出施設を伴う溝の追跡。
- ② 北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。
- ③ 遺跡を二分する外堀の追跡。

発掘調査にあたっては、昭和63年度の（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った緊急発掘調査の際に設定したグリッドに従った。グリッドの呼称についても同様である。

基本的には遺構の内容把握を主目的にしている。遺構の所属時期の確定・遺構の性格等を把握することを最優先しており、検出した遺構すべてを最終的な段階まで精査しているわけではない。なお、半載あるいは完掘した遺構については砂で埋め戻し、遺構面を保護し、可能な限り元の状態に復旧し保存を図っている。

柳之御所遺跡発掘調査年次計画

| 年 次 | 調査回数 | 調査面積 | 調査期間 | 予算(千円) | 備 考 | |
|----------|--------|------|--------|--------------|--------|------|
| 第1次三カ年計画 | 平成10年度 | 第49次 | 500㎡ | 5月15日～10月31日 | 18,211 | 国庫補助 |
| | 平成11年度 | 第50次 | 1,800㎡ | 5月13日～10月31日 | 32,236 | 国庫補助 |
| | 平成12年度 | 第52次 | 2,500㎡ | 5月15日～11月17日 | 43,341 | 国庫補助 |
| 第2次三カ年計画 | 平成13年度 | 第55次 | 3,100㎡ | 5月11日～11月13日 | 46,103 | 国庫補助 |
| | 平成14年度 | 第56次 | 4,000㎡ | 5月13日～11月29日 | 62,054 | 国庫補助 |
| | 平成15年度 | | 3,100㎡ | | | |

※ 平成14年度までは実績、15年度以降は予定

第Ⅱ章 検出遺構

今回の柳之御所遺跡56次調査は堀内部地区の中でも北西部から西端部にかけて調査区を設定した。北西部は北上川に一部面し、西端部は柳之御所を取り囲む堀跡に隣接する部分である。加えて堀間が淵の中にトレンチを複数設定し、堀跡の調査を実施した。

1 掘立柱建物跡

柳之御所遺跡56次調査では掘立柱建物跡が8棟検出された。今回の調査では遺構検出を原則とした調査であったため、遺物から所属時期を判断することができないものが殆どであるが、予測を含めて時期区分について見解を示したい。主に12世紀のものと同世のものに2大別される。

| | 遺 構 名 |
|------------|---|
| 12世紀に属する建物 | 56S B 1、56S B 2、56S B 3、56S B 4、56S B 5 |
| 近世に属する建物 | 56S B 6、56S B 7、56S B 8 |

(1) 12世紀の建物

各建物の柱間寸法は1尺を30.3cm、面積は1坪を3.3㎡として計算している。時期的な位置付けや用途については、全体的な視点から他の遺構との兼ね合いを含めて考察せねばならず、ここでは詳しく述べない場合もある。

56S B 1 「三間四面」の建物と考えられるが南側の庇の柱穴が12世紀より新しい溝跡等によって失われている。この遺構はかつて本遺跡11次調査で検出された2号掘立柱建物跡と同じものであり、今回の調査でその全体規模を把握した。身舎の柱間寸法は桁行で8尺、梁間9尺を基調としているようである。庇の柱穴は小さいものが多く間尺もばらつきが目立つ。

56S B 2 前述した56S B 1と同様、11次調査で検出された1号掘立柱建物跡と同じもので、本調査で全体規模を確認した。「三間四面」の建物跡で桁行が約40尺、梁間が34尺を測る。新旧関係はS B 1よりもS B 2のほうが古い。

56S B 3 堀内部地区でも最も西側、堀のすぐ傍に位置している。P559は12世紀の整地層よりも新しいが大半の柱穴は整地層を除去して検出した。桁行は4間・34尺、梁間は3間・18尺を測る。

56S B 4 堀内部地区でも最も北西側、堀のすぐ傍らに位置している。柱穴は12世紀の整地層を掘り込んでいたが、出土遺物の中に12世紀以外の遺物は見られなかった。桁行が5間・33尺、梁間は2間・15.3尺を測り、P628により間仕切りされている。

56S B 5 平面プランでは56S B 3と重複するが、新旧関係は不明である。建物北側に対して、南側は標高が低くなっていること、東側には攪乱があることなどから建物の全体規模を把握していない可能性がある。

(2) 近世の建物

堀内部地区では北西側にあたる50-52グリッドを中心とした地区から3棟の建物を検出した。

56SB6 桁行4間、梁間2間で柱間寸法は8.3尺を基調としている。東側の梁行は3基の柱穴で構成されていると考えた。建物周囲には近世から近代の遺物が分布していることや、建物規模から農民の屋敷の主屋と考えられる。

56SB7 桁行3間、梁間2間でP346によって間仕切りをもつ建物と想定した。位置関係から56SB6に伴う付属小屋と考えられる。

56SB8 斜面部に立地し、規模は1×1間で柱痕も小さい。仮小屋的な施設と考えられる。

2 井戸状遺構

柳之御所遺跡56次調査では3基の井戸状遺構を検出し、その中で2基の井戸状遺構を精査した。

56SE1 66-53グリッドに位置し56SD19より古い。開口部は径2m程であるが、底面に向かうほど窄んでいく。底面は硬く締まった砂層に達しているが、それを更に一段掘り下げている。埋土の大半は地山ブロックを不規則に含む人為堆積である。かわらけは手づくね・ロクロ整形ともに見られ、1層と16層から主に出土し、他からはごく微量しか出土していない。常滑産陶器は4点、深美産陶器6点、須恵器系陶器1点、白磁1点、木製品（無加工含む）が1.5箱出土している。井戸状遺構の中では遺物量の少ない方である。

56SE3 57-58グリッドに位置している。現代まで機能していた木桶によって上部は掘削されていた。開口部で径2m程であるが、深さ1m付近までは窄まり、その下は垂直に掘り込まれていた。今回の調査は深さ約2.6mまでで中断している。埋土は基本的に地山ブロックを不規則に含む人為堆積である。かわらけは細片のみ、他に石製の鉢が出土している。

3 土坑

土坑は99基検出されている。12世紀の土坑は56SK1、3、6、12、19、24-43、51-60、62-70、72、77、80、84、85、87、89-91、93-97、99、101の59基がある。その他は近世から近代に属する可能性が高いと思われる。以下、実際に精査した12世紀の土坑を中心に記載する。

56SK31 62-50グリッドに位置している。周辺の類似した遺構からトイレ状遺構と考えられるが、それを裏付けるちゅう木や種子が確認されておらず、周辺で確認されているトイレ状遺構とは様相を異にする。埋土1層から中国南部の吉州窯で作られたと見られる陶器片が出土している。吉州窯製の製品の出土は平泉では初出である。この他にかわらけや、木製品等が出土している。

56SK33 63-50グリッド～64-50グリッドに位置している。遺構の深さから井戸状遺構と考えられるが、ちゅう木や種子の出土などから、後にトイレ状遺構に転用されたものと見られる。かわらけや常滑・深美などの国産陶器、白磁片、漆器碗や平瓦、鉄滓、全体に炭化している部材等も出土している。

56SK53 73-50グリッドに位置している。埋土には炭粒をほぼ全体に含んでいる。埋土につやのある黒色土があり、種子・ちゅう木なども出土することから、トイレ状遺構の特徴をもつ。かわらけと、常滑・深美

などの国産陶器の出土量がほぼ同じ量である。かわらけなどから、12世紀後半の遺構と考えられる。

56SK67 70-52グリッドに位置している。埋土につやのある黒色土があり、種子・ちゅう木なども出土することから、トイレ状遺構の特徴をもつ。かわらけの出土量が、他の精査したトイレ状遺構と比較して著しく少量である。

56SK80 56-50グリッドに位置している。整地層を掘り込んで構築されている。埋土上位の1層には人頭大の河原石を含み、埋土下位はグライ化している。精査途中で断面が崩落してしましたが、かわらけは各層から出土している他、瀬美産陶器2点、焼土塊、鉄製品等が出土している。

56SK99 56-51グリッドに位置し、整地層を掘り込んでつくられている。埋土には炭灰を多く含み、1層と3層からかわらけがまとめて出土した。他に産地不明陶器2点が出土し様々なものを廃棄する坑であったと考えられる。

| 遺構名 | 種別 | 時期 | その他特記事項 |
|--------------------|--------|-------------|--|
| 56SK1(36SK30) | 土坑 | 12世紀 | |
| 56SK2 | 土坑 | 時期不詳 | 56SK5及び56SK103より古い。 |
| 56SK3 | 土坑 | 12世紀 | |
| 56SK5 | 土坑 | 時期不詳 | 56SK103・56P73より古く、56SK2・56P87より新しい。 |
| 56SK6 | 土坑 | 12世紀 | 56SD19より古い。 |
| 56SK7 | 墓坑 | 近世以降 | |
| 56SK8 | 墓坑 | 近世以降 | |
| 56SK9 | 墓坑 | 近世以降 | 56SK19より新しい。 |
| 56SK10 | 墓坑 | 近世以降 | 56P160より新しい。 |
| 56SK11 | 土坑 | 時期不詳 | 56P197より古く、56SK18より新しい。 |
| 56SK12 | 土坑 | 12世紀 | 56SK23より古い。 |
| 56SK13 | 墓坑 | 近世以降 | 56P156より新しい。56P157と切りあうが、新旧関係は不明。 |
| 56SK14 | 墓坑 | 近世以降 | |
| 56SK15 (36SK30) | 土坑 | 12世紀の可能性が高い | 56SK24・56SK81・56SK82・56P639より古い。 |
| 56SK16 | 土坑 | 時期不詳 | 56SK44より古く、56SD15より新しい。 |
| 56SK17 | 土坑 | 時期不詳 | 56SD5・56SD6より古い。 |
| 56SK18 | 土坑 | 時期不詳 | 56SK11・56P93・56P98・56P99・56P100・56P101・56P197より古く、56SD15より新しい。 |
| 56SK19(36SK35) | 土坑 | 12世紀 | 56SK9・56P153より古い。 |
| 56SK20 | 墓坑 | 近世以降 | 56SD40・56SX16より新しい。 |
| 56SK21 | 土坑 | 12世紀以降 | 56P210、56SD40・56SD12より新しい。 |
| 56SK22 | 墓坑 | 近世以降 | 56SD40より新しい。 |
| 56SK23 | 土坑 | 時期不詳 | 56SK12より新しい。砂が入っている。 |
| 56SK24 | 土坑 | 12世紀 | 56SK15(36SK30)より新しい。 |
| 56SK25 | 土坑 | 12世紀 | かわらけ、木製品出土。 |
| 56SK26 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、種子、木製品、炭化物出土。 |
| 56SK27 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、種子、木製品、炭化物出土。 |
| 56SK28 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、同産陶器、中国産磁器、種子、木製品、炭化物出土。 |
| 56SK29 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、国産陶器、種子、木製品、炭化物出土。 |
| 56SK30 | 土坑 | 12世紀 | 木枠を検出。上部は削平を受けていると見られる。 |
| 56SK31 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、国産陶器、中国産陶器、木製品出土。中国産陶器は吉州窯の製品と考えられる。 |
| 56SK32 | 土坑 | 12世紀か | かわらけ小片出土。 |

| | | | |
|----------|--------|------|---|
| 56 S K33 | 井戸状遺構 | 12世紀 | かわらけ、国産陶器、中国産磁器、平瓦、鉄滓、砥石、種子、木製品、漆器、炭化物出土。 |
| 56 S K34 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、国産陶器片、炭化物出土。 |
| 56 S K35 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 S D40より新しい。 |
| 56 S K36 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 S D40より新しい。 |
| 56 S K37 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 S D40より新しい。 |
| 56 S K38 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K39 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K40 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K41 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K42 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K43 | 土坑 | 12世紀 | 遺構の深さはあまりない。かわらけ、国産陶器、壁土出土。 |
| 56 S K44 | 土坑 | 近世以降 | 56 S D7・56 S D19より古く、56 S D15・56 S K16より新しい。 |
| 56 S K45 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S D40・56 S X16より新しい。56 P209と切りあうが、新旧関係は不明。 |
| 56 S K46 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S X16より新しい。 |
| 56 S K47 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S D40より新しい。 |
| 56 S K48 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S D40より新しい。 |
| 56 S K49 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S D40より新しい。 |
| 56 S K50 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S D40より新しい。 |
| 56 S K51 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K52 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K53 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、国産陶器、種子、木製品出土。 |
| 56 S K54 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 P265より古い。 |
| 56 S K55 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 P267より古い。 |
| 56 S K56 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K57 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K58 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K59 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K60 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K62 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 S K63より古い。 |
| 56 S K63 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 S K62より新しい。 |
| 56 S K64 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K65 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K66 | トイレ状遺構 | 12世紀 | 56 P291より新しい。 |
| 56 S K67 | トイレ状遺構 | 12世紀 | かわらけ、木製品出土。 |
| 56 S K68 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K69 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K70 | トイレ状遺構 | 12世紀 | |
| 56 S K71 | 土坑 | 時期不詳 | |
| 56 S K72 | 土坑 | 12世紀 | 56 S K73より古い。 |
| 56 S K73 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S K72より新しい。 |
| 56 S K74 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S X16・56 S D40より新しい。56 P163と切りあうが、新旧関係は不明。 |
| 56 S K75 | 墓坑 | 近世以降 | 56 P320・56 S X16・56 S D40より新しい。 |
| 56 S K76 | 墓坑 | 近世以降 | 寛永通宝出土。 |
| 56 S K77 | 土坑 | 12世紀 | 56 P423より新しい。 |
| 56 S K78 | 土坑 | 時期不詳 | 56 P349より新しい。56 P351と切りあうが、新旧関係は不明。 |
| 56 S K79 | 土坑 | 時期不詳 | |
| 56 S K80 | 井戸状遺構 | 12世紀 | 整地層よりも新しい。かわらけ、国産陶器、漆製品、壁土出土。 |
| 56 S K81 | 土坑 | 時期不詳 | 56 S K15 (36 S K30) と切りあうが、新旧関係は不明。 |
| 56 S K82 | 土坑 | 時期不詳 | 56 S K15 (36 S K30) よりも新しい。 |
| 56 S K83 | 土坑 | 時期不詳 | |

| | | | |
|------------|----|-------|-----------------------------------|
| 56 S K 84 | 土坑 | 12世紀 | 56 S D 29・56 S X 10より新しい。 |
| 56 S K 85 | 土坑 | 12世紀 | |
| 56 S K 86 | 土坑 | 時期不詳 | |
| 56 S K 87 | 土坑 | 12世紀 | |
| 56 S K 89 | 土坑 | 12世紀か | |
| 56 S K 90 | 土坑 | 12世紀か | 56 S D 20より古い。 |
| 56 S K 91 | 土坑 | 12世紀 | 56 S D 34より古い。 |
| 56 S K 92 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S D 40より新しい。 |
| 56 S K 93 | 土坑 | 12世紀か | 56 S K 94より古い。 |
| 56 S K 94 | 土坑 | 12世紀か | 56 S K 93・56 P 744・56 P 745より新しい。 |
| 56 S K 95 | 土坑 | 12世紀か | 56 S K 96より古い。 |
| 56 S K 96 | 土坑 | 12世紀か | 56 P 742より古く、56 S K 95より新しい。 |
| 56 S K 97 | 土坑 | 12世紀か | |
| 56 S K 99 | 土坑 | 12世紀 | 整地層より新しい。かわらけ、国産陶器、中国産陶器出土。 |
| 56 S K 100 | 墓坑 | 近世以降 | |
| 56 S K 101 | 土坑 | 12世紀 | 56 S D 20より古い。 |
| 56 S K 102 | 墓坑 | 近世以降 | 56 S D 10より古く、56 P 198より新しい。 |
| 56 S K 103 | 土坑 | 時期不詳 | 56 S K 2・56 S K 5より新しい。 |

4 溝・堀跡

56次調査では35条の溝跡と3条の堀跡を検出した。この内、12世紀に属する溝はSD 4・20・24・28・41である。同様に堀跡SD 38～40が12世紀の遺構である。溝の平面図は長大になるため遺構配置図を参照して頂きたい。

〈溝 跡〉

56 S D 4 掘立柱建物跡56 S B 1を構成するP 33とP 48とを結ぶように検出された。埋土は人為堆積と判断した。本遺構も建物跡に関連すると考えられる。出土遺物なし。

56 S D 20 66～53グリッドから59～60グリッドにかけて検出された。過去に報告された41 S D 1、52 S D 26と同じ遺構である。56 S D 38・56 S D 40より新しく、56 S D 21より古い。今回の調査ではその全体規模を把握した。全長は約85mで上幅は1～4m、深さは0.2～1.1mを測る。標高の最も高いところ(66～53)から掘り込みが開始されていることを断面観察から確認した。本溝はそれから低い方へ蛇行して流れ、最も西側に面した部分は「コ」字状の張出をもつように掘削されている。それからは南側へ向きを変え柳之御所を取り囲む堀跡56 S D 38に流れ込んでいる。本遺構から柳之御所を囲む堀跡56 S D 38に土砂を流し込む状況把握した結果、56 S D 38は12世紀後半頃にはかなり埋まっていたことも明らかになったのである。

埋土は基本的に自然堆積である。これまでの調査により本遺構は1189年の奥州藤原氏の滅亡時に開口していたと推測されており、柳之御所遺跡の最終段階の遺構と位置付けられている。多量のかわらけの他、150片を越える国産陶器、白磁6片(193g)、瓦、焼土塊などが出土している。

56 S D 24 60～49グリッドに位置する。12世紀の遺構と思われる56 S X 15と同時期か古い溝跡である。

56 S D 28 56～52グリッドに位置している。12世紀の整地層を掘り込んで構築されているが、埋土の質感から近世以降の遺構ではないと判断した。かわらけが少量出土している。

56 S D 41 58～49グリッドに位置し、12世紀の整地層を掘り込んで構築されているが、本遺構も12世紀段階

に機能していた可能性が高い。

〈堀跡〉

柳之御所堀内部地区を取り囲む2条の堀は、内側の堀を56SD38、外側の堀は56SD39とした。今回の調査では、柳之御所と無量光院との間に立地する猫間が淵と呼ばれる低地にT1-T4としたトレンチを設定してこれらの堀跡を検出し、一部精査も行った。

56SD38 (41SD2) 後述する56SD39とほぼ平行に走り、堀内部地区を取り囲む堀跡である。56SD38として今回の調査では、長さ約20m、幅約3mのトレンチを57-65グリッド、58-65グリッドに設定した。遺構は現在の町道の下を通るために、町道の東側を中心とした一部分を調査したに過ぎないものの、今回設定したトレンチとT2の東端で、両端が確認されている。上幅は約10m、深さは少なくとも3m以上あるものと考えられる。遺物としては、かわらけ24,775g、常滑・瀬美・須恵器系などの国産陶器片2,174g（うち、常滑988g、瀬美1,140g）、中国産磁器51g（白磁21g・青白磁30g）、平瓦、丸瓦、柱状高台、壁土、下駄や鍛などの木製品等が出土している。かわらけや陶磁器の出土量は、外側の堀（56SD39）と比べるとかなり多いのが特徴である。かわらけや陶磁器等の遺物出土状況から、12世紀後半には埋まりかけているものと考えられる。また、28層より下層については出土遺物の主体は木製品となる。堀土の土質もシルト質が主体となり、間に砂質土が入ってくる。

なお、27層から、焼成及び保存状況がよくなかったため、図化できなかったものの、比較的大きな丸瓦の破片が1点出土している。

56SD39 (T1) では遺構検出のみを行った。上幅は6.5mを測り56SD38との距離は最短で7.2m程である。表土からは瓦が57片と比較的多く出土している。

56SD39 (T2) は現地表面から35-85cm掘り下げた段階で検出された。56SD37より古い。上幅約6.5m、下幅3.3m、深さは約2.1mを測る。底面は概ね平坦で断面形は逆台形を呈する。断面A-Bはトレンチの北西面、C-Dは南東面である。埋土は基本的に自然堆積の様相を呈する。泥質及び砂質土が交互に流れ込んでおり、地表から1m以上深くなるとグライ化が著しい。これは猫間が淵の堆積土にも言えることで、堀と猫間が淵の土をはっきりと区別して掘り下げるのは非常に難しかった。そのため最初に断面A-Bでは散って掘りすぎ気味にサブトレンチを入れて堀の規模を断面で把握してから全体の精査に入った。精査の結果、断面A-Bを作成した地点では堀の底面からの立ち上がり（西側）が極端に緩やかになっていることが明らかになった。これは抑々、猫間が淵という土質の柔らかい低地を掘削して堀を構築しているため、壁が崩落したためと推察される。56SD38とは最短距離で3.7mを測る。出土遺物を見ると、かわらけ(5,130g)、常滑産陶器9片、瀬美産陶器15片、白磁3片、瓦3片が出土したほか木製品（無加工含む）がコンテナ(42×32×30cm)で7箱出土した。

56SD39 (T3) では遺構検出のみを行った。上幅は8-9mを測る。

56SD39 (T4) は現地表面から25-50cm掘り下げた段階で検出された。上幅は5.5m以上、下幅2.8m、深さ1.2mを測り、底面は平坦で断面形は逆台形を呈する。埋土は基本的に自然堆積である。個々の堆積土については注記を参照して頂ければ判るが、要約すると泥質・砂質土が交互に流れ込んだ様相を呈し、グライ化が著しい。東側の壁はいわゆる地山であったのに対し、西側は猫間が淵の堆積土が壁になっている。出土遺物を見るとかわらけ(8,830g)、常滑産陶器14片、瀬美産陶器18片、須恵器系陶器2片、白磁4片、青磁1片、焼土塊2片、羽口1片の他、木製品・動植物遺体がコンテナ(42×32×30cm)で3箱見られた。こ

の中には底部に脚が取り付くと見られる折敷(4109)がある。

盛土地兼 堀の遺構検出面に於いて56SD39の両側辺沿いに人為的に盛土された部分が検出された。言い方を変えれば56SD38と56SD39の間と、56SD39に西隣して盛土の広がりを確認した。猫間が溝に設定したT1-T4のトレンチ何れにもこうした盛土が分布していることが明らかとなった。T2の断面A-Bでは①②層と、4-7層が相当する。T4の断面A-Bでは1-3層がこれにあたる。層厚は40-70cmで上部は水田耕作によって削平されており上部構造は不明である。黄褐色土と黒褐色土の混合土が主体で、これは堀を構築した際に生じる土質とは明らかに異なる。猫間が溝以外から持ち込まれていると考えるのが妥当であろう。56SD38は明瞭にこの盛土を切って掘り込まれていた。一方、56SD39も盛土を切るか盛土と同時並行で掘り込まれたように断面では観察された。2条の堀には盛土を介して新旧関係があり、56SD38より56SD39のほうが最初に構築されたと言える。しかし2条の堀の時期的な差は殆どないという印象をもつ。56SD39(及び盛土)を構築し、直ぐに56SD38を掘削したと解釈したい。遺物は殆ど入らず須美産陶器3片、瓦1片が出土したに過ぎない。前述したように上部が削平されているため性格については難しい。現段階の見解としては2条の堀の間に土壘が存在していたが、軟弱な猫間が溝に堀を構築したため崩れを防ぐための地業かを想定している。

56SD40 65-50グリッドから57-59グリッドにかけて位置している。52SD26の古段階と同じ遺構である。12世紀の遺構と考えられる56SK35-37、同じく12世紀の56SD20よりも古い。今回の調査でその全体規模を把握することができた。全長約65mで西側に緩やかに膨らむ弓状を呈する。上幅が5-6m、下幅3.5-4m、深さは0.8-1.2mを測る。底面は概ね平坦で底面の標高は、北側が高く南側が低くなる。全体規模を把握したと前述したように、両端部が検出されたため、その部分をそれぞれ精査し、平面だけでなく断面の観察に於いて明らかに底面から垂直気味に外傾して立ち上がっている壁面を確認した。よって削平によってプランが徐々に失われていくといったことは決してない。これは56SD20の北端部も同様である。埋土は底面から底面直上にかけて薄く黒褐色土を主体とする自然堆積層が見られる他は人為堆積である。所謂地山ブロックを多量に含む暗褐色土で一気に埋め戻されている。また本遺構には62-52グリッド付近に小規模な土橋(56SX16)が設けられている。出土遺物はこの埋め戻された土からのみ少量出土している。本遺構に伴うとみせる底面付近からは自然木片しか出土していない。しかしながら、他の12世紀の遺構との重複関係では何れも本遺構が古く、12世紀のある段階には機能を失い埋め戻された施設といえる。そうした意味からも12世紀の中でも古い段階に位置付けられる可能性を有する。

両先端部が止まっていることから排水目的の溝とは考えられないことや、その規模や土橋を設置していることから堀内部地区の西側を区画する目的の堀と見る方が素直であろう。但し両先端部が如何なる理由で止まっているのか不明である。おそらくは当時の地形的な要因によるものと推測するが、それについてはまとめて触れることとする。

5 その他の遺構

56SX1 70-59グリッドに位置している。土壘状の高まりを有していたもので、今回の調査では土層断面と地形測量を行った。長さ23m、幅1.5-4m、地表から0.7mの高さがある。灰黄色粘土や黄褐色土を用いて構築されている。かわらけや国産陶器片などが出土しているものの遺構の時期は判然としにくい。

56SX2 56SX1と並行して71-56グリッドに位置している。今回の調査では土層断面と地形測量を行っ

た。長さ8m、幅2.8m、地表から0.6m程の高さがある。にぶい黄褐色土や褐色土で構築されており、かわらけや白磁片が出土したが所属時期は12世紀とは断定できない。

56S X 3 64-53グリッドに位置し、56S D19・20よりも古い。他の遺構に切られているが、円形を基調とした平面形であったと考えられ、土坑とした方が適切であったかもしれない。埋土は自然堆積か人為堆積か判然としない。出土遺物は56S D20の遺物が混じっている可能性があるが遺構の所属時期は12世紀である。

56S X 4 68-53グリッドに位置している。開口部2.5×2.3m、深さ1.3m、底面は凹凸が著しい。埋土は地山ブロックを不規則に含む人為堆積が主体で、底面付近の8・10層のみが自然堆積である。かわらけや渥美産陶器片が少量出土しているが何れも埋め戻された層からの出土である。他時期の遺物を含まないことから、本遺構の所属時期は12世紀と考えたいが性格は判然としない。

56S X 9 70-55グリッドに位置している。不整形で掘り込みも浅く残存状況は悪い。埋土は人為堆積と考えられかわらけや陶器片が散在する状態で出土した。12世紀の遺構であろう。

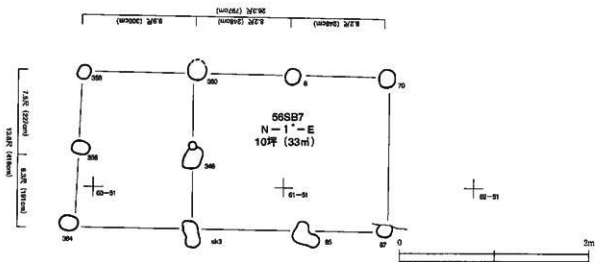
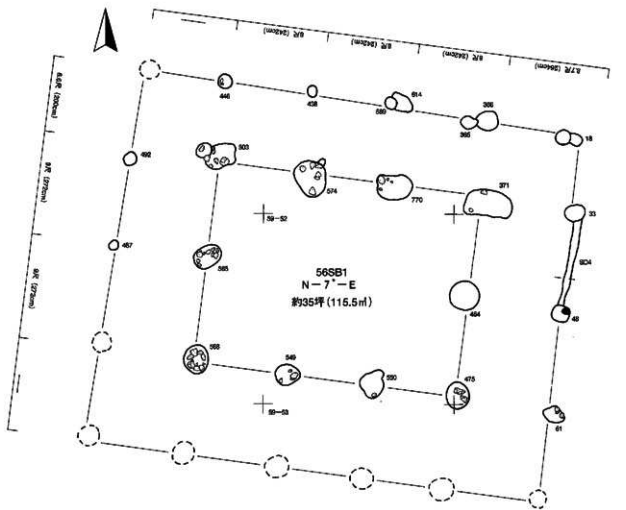
56S X 15 60-50グリッドに位置し11次調査の1～4号集石と同じものである。56S D24よりは新しいが所属時期は不明である。

56S X 16 内堀56S D40の北端部から南西へ19m (63-53グリッド) に位置している土橋である。長さ6m、上幅2.8～1.5m、下幅は約3mと推測される。北側2カ所で精査した結果、底面から土橋上面への立ち上がりを観察され、遺跡ののり基盤層を掘り残すかたちで土橋を構築していることが明らかになった。内堀に直交するように設置されており、軸線はN-40°-Wを指す。門などの付属する施設は判然としない。56S D40内堀に伴う土橋であるので12世紀に位置付けられる。

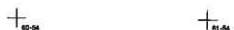
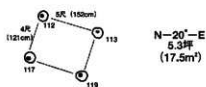
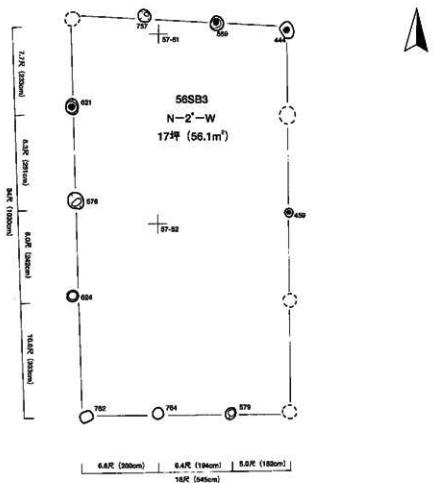
56S X 17 58-50グリッドに位置しており、11次7号溝と同じ遺構で不整形な溝状を呈している。埋土を見ると12世紀の整地層をつくる際に一緒に埋められた様相を呈しており、開口していたのはそれよりも古いと考えられる。調査部分では水性堆積の状況は認められなかった。人為的に構築された遺構なのか、周囲に数多く分布する雨裂溝の一種なのかよく判らない。

整地層 堀内部地区の西端、柳之御所を囲む堀に隣接して位置している(60-49グリッド-56-51グリッド)。南北最大約20m、東西最大23mの範囲に盛土地業の痕跡が広がっていた。12世紀の56S K80・99より古い。56S K93-96は整地層を除去した段階でプランを確認したが、埋土が似ていたため識別できなかったかもしれない。整地層の土層断面を見ると大きく3層に分けられる。上層が黒褐色土に炭粒や遺物細片を多量に含むもの、下層に灰黄褐色土に炭粒や遺物細片を微量含む層、この間に廃棄された焼土層(1～3cm程)が部分的に入る。但し、これらに極端な時期差は存在しないと考えられる。第8回の焼土はこの整地層から検出されたもので、焼土を廃棄したものである。整地層は柱穴を検出するためにベルトを残して掘り下げた。旧表土は平坦ではなく凹凸のある地形で、多数の雨裂溝が堀に向かって延びており、こうした地形を整えるための地業であったと理解できる。堀を挟んで対岸でも同様に整地層が見られる。かわらけ(12,861g)、国産陶器22片、青磁1片、瓦1片の他、焼土塊が1,870g出土した。

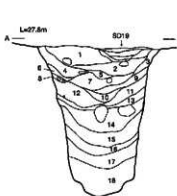
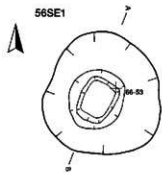
猫間が淵 トレンチ T 2 において猫間が淵の精査を行った。柳之御所を取り囲む堀はⅣ層直下で検出されていることから12世紀当時の猫間が淵は現地表面から1mも低くならないことが判る。それからⅤ層は十和田 a 降下火山灰である。よって10世紀前半代の猫間が淵は現地表面から1.5m下がったところになる。これより下位では土器・石器の出土はなかった。基本的に砂質と泥質土が交互に堆積しており、流水と沈殿を繰り返していた様子が読みとれる。しかしそれはかなり古い時代のことで前述したように12世紀段階では現在とあまり変わらず、低湿地のような景観であったと理解される。深さ3.3mまで掘り下げたが基盤層には達しなかった。XⅠ～XⅤ層では自然木がまとまって見られ、湧水も若干認められるようになる。



第1圖 56SB1・56SB7



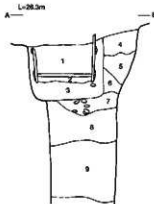
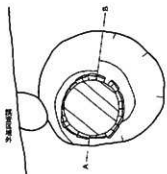
第3圖 56SB3・56SB8



56SE1

- 1 10YR4/6灰黄褐色土 地山ブロックをごく微量含む 炭粒をごく微量含む 粘性やや有 締っている
 - 2 10YR4/3赤い黄褐色土 地山ブロック大量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 3 2.5Y7/4淡黄色地山ブロック主体 その隙間に灰黄色土入る 粘性やや有 締りやや有
 - 4 2.5Y6/3赤い黄褐色土 地山ブロック小粒を多量に含む 炭粒を多量に含む 粘性やや有 締っている
 - 5 2.5Y4/1黄褐色土 地山ブロックを微量含む 炭粒を微量含む 粘性有 締りやや有
 - 6 2.5Y4/1黄褐色土 地山ブロック少量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 7 5Y4/1灰褐色土 炭粒少量 地山ブロック多量に含む 粘性やや有 締りやや有
 - 8 5Y5/1灰色砂質土 地山ブロック微量 自然埋蔵 粘性やや有 締りやや有
 - 9 10Y4/1灰褐色土 地山ブロック大量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 10 10Y5/1灰褐色土 黒色土ブロック微量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 11 5Y3/1赤い面土 地山ブロック多量 炭粒微量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 12 10Y4/1灰褐色土 地山ブロック大量多量含む 粘性やや有 締っている
 - 13 7.5GY5/1緑灰色土 炭粒微量含む 粘性やや有 締り弱
 - 14 7.5GY5/1緑灰色土 粘性やや有 締り弱
 - 15 9G5/1緑灰色砂質土 部分的に黒褐色土も混れ込んだ状態で見られる 粘性やや有 締り弱
 - 16 10YR5/3黒褐色土 緑灰色の地山との互層 粘性やや有 締り弱
 - 17 5G5/1緑灰色土 黒褐色土をごく微量含む 粘性やや有 締り弱
 - 18 5G5/1緑灰色土 黒褐色土との互層 塊分多量 粘性やや有 締り弱 (自然埋蔵に見える)
- ※ 定規しても境界は認められなかった。かつては黒褐色の砂層を掘り込んだ時点で水が出たのか？水が出る穴は数ヶ所多くあったのか？
- ※ 14-17は遺物少ない

56SE3



56SE3

- 1 10YR2/2黒褐色土 部分的に地山ブロック含む ビニール袋・缶ローヒ等が入っていた 粘性弱 締り弱
 - 2 5G4/1緑褐色土 地山ブロック・炭粒を少量含む 粘性弱 締りやや有
 - 3 5G4/1緑褐色土 地山ブロック少量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 4 7.5YR5/6褐色土 赤い黄褐色土ブロック少量含む 粘性弱 締っている
 - 5 5Y7/1淡黄色土 地山ブロックが主体で、その隙間に赤い黄褐色土が入る 粘性弱 締っている
 - 6 7.5GY4/1緑褐色砂質土 河原石少量入る 粘性やや有 締っている
 - 7 10GY5/1黄褐色土 多量の砂を含む 粘性やや有 締りやや有
 - 8 7.5GY4/1緑褐色砂質土 明ネリブ灰色土ブロック含む 量は少量含む 粘性弱 締っている
 - 9 10GY4/1黄褐色砂質土 明ネリブ灰色土ブロック含む (小さい)を多量に含む 粘性弱 締っている
- ※ 河原石に1cm程度の黒褐色土層が見られるほど混れ込んだ土と見られる

56SK25



56SK25

- 1 10YR5/2灰黄褐色砂質粘土 層に10YR5/1黄褐色粘土有 締り無し 粘性有 粘粒に水かけ・石を含む 隙間に炭化粒を含む
- 2 10YR6/6黄褐色粘土 締り無し 粘性強

† 85-60

0 5m

第5図 56SE1・56SE3・56SK25

63-49
56SK26



56SK27



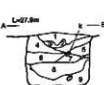
56SK27

- 1 7.5YR6/4黄褐色土 締りなし 粘性なし
- 2 10YR5/1灰褐色土 締りなし 粘性有 炭素入り1% 一部に7.5YR7/1褐色土と7.5YR6/1褐色土を含む
- 3 10YR6/4黄褐色土 締りなし 粘性有 かわらけ片混入 堆山粘土混入
- 4 10YR8/4黄褐色土 締りやや悪い 粘性有 炭素入り1% 堆山 下部に赤土が混入
- 5 10YR6/4黄褐色土 (赤っぽい) 締りやや悪い 粘性有 炭素入り2% 赤土混入1% 下層砂混入
- 6 10YR6/4黄褐色土 締りなし 粘性有 炭素入り3% 赤土混入2%
- 7 2.5Y/6/2に赤い黄砂 締りなし 粘性有 赤土混入2% 下部に赤土が混入 10YR5/1灰褐色土を含む
- 8 2.5Y/2暗灰色土 締りやや悪い 粘性有
- 9 5Y/6オリーブ黄砂 締りなし 粘性有 赤土混入2% 粘土を含む 一部に10YR5/1灰褐色土を含む
- 10 5Y/2オリーブ黄砂土 締りやや悪い 粘性有 くりかけの砂子混入
- 11 7.5Y/6/1緑灰色土 締りやや悪い 粘性有 木片混入 2.5Y/7/2黄褐色土を含む
- 12 10YR2/2黒褐色土 締り悪い 粘性有 くりかけの砂子混入
- 13 10YR1/1黒褐色土 締りやや悪い 粘性有 砂子あり 10YR4/2黄褐色土 混入含む
- 14 10YR3/2黒褐色土 締り悪い 粘性有 赤土混入
- 15 10YR1/1黒褐色土 締り悪い 粘性有 炭素入り1%



56SK26

- 1 10YR5/2灰黄褐色砂質 締り強 粘性なし 炭素入り1% 赤土混入3%
- 2 10YR7/2に赤い黄褐色土 締りなし 粘性有 炭素入り1% 赤土混入10%
- 3 10YR2/1黒褐色土 締りなし 粘性有 炭素入り1%
- 4 10YR6/4黄褐色土 一部に10YR8/3黄褐色粘土を含む 締りなし 粘性有 炭素入り1%
- 5 10YR4/4黄褐色土 一部に2.5Y/6/2に赤い黄褐色土を含む 締りなし 粘性有 炭素入り1%
- 6 5Y/6オリーブ黄砂土 締りなし 粘性有 炭素入り1%
- 7 5Y/5/6オリーブ粘土 締りなし 粘性有 炭素入り1%
- 8 9.5Y/4/1緑灰色土 締りやや悪い 粘性有
- 9 10YR2/1黒褐色土 締りなし 粘性有 炭素入り1%



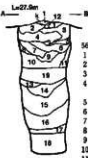
56SK29



56SK29

- 1 10YR7/2に赤い黄褐色 3%赤土混入 締り強 粘性なし
- 2 10YR3/1黒褐色土 1%炭素入り 締りなし 粘性なし 高部 かわらけ有
- 3 10YR1/7/1黒褐色土 炭素入り 締りやや悪い 粘性やや有 木片有
- 4 10YR6/4に赤い黄褐色粘土 締り悪い 粘性有
- 5 10YR2/2黒褐色土 30%粘土混入 締り悪い 粘性有
- 6 10YR7/2に赤い黄褐色粘土 締り悪い 粘性強
- 7 10YR2/2黒褐色シルト質粘土 砂子混入 締りなし 粘性なし

56SK28



56SK28

- 1 10YR6/4灰白砂質 締りなし 粘性なし 堆山粘土混入1%
- 2 10YR6/2に赤い黄褐色土 締りなし 粘性有 堆山粘土混入30%
- 3 10YR7/2に赤い黄褐色土 締りなし 粘性有 堆山粘土混入50%
- 4 10YR2/1黒褐色土 締りやや悪い 粘性有 炭素入り1% 堆山粘土混入2%
- 5 10YR7/4に赤い黄褐色土 締り悪い 粘性有 堆山粘土混入5%
- 6 7.5Y/6/1緑灰色土 締り悪い 粘性強 堆山粘土混入3%
- 7 5Y/6/1灰褐色土 締り悪い 粘性強 堆山粘土混入2%
- 8 10YR1/7/1黒褐色土 締りやや悪い 粘性有 木くず混入
- 9 10YR2/1黒褐色土 締り悪い 粘性有 木くず混入
- 10 10YR6/2黒褐色土 締りやや悪い 粘性強
- 11 10YR3/1黒褐色土 締り悪い 粘性有
- 12 10YR2/2黒褐色砂質 締り悪い 粘性なし 炭素入り
- 13 5Y/6オリーブ黄色 黒褐色土まじらを含む 粘土 締りやや悪い 炭素はほとんどなし
- 14 2.5Y/4/1暗オリーブ灰色 締り悪い 砂子混入1%を含む
- 15 7.5Y/4/1灰色 木製品 植物等を含む
- 16 7.5Y/3オリーブ黄 植物性の炭化物多量を含む
- 17 10YR1/7/1黒 植物質(ワラ状のものや種子など)のものを多く含む 締り悪い
- 18 7.5Y/5/1暗灰色粘土質 締り悪い 遺物なし
- 12-15は人為堆積

56SK30



56SK30

- 1 10YR5/6黄褐色粘土 一部に10YR6/1褐色色粘土を含む 締り強 粘性強 炭素及/底部に木炭片(薪材?)有



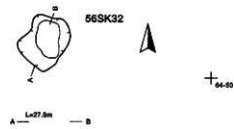
56SK31



56SK31

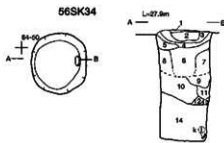
- 1 10YR3/1黒褐色土 5%炭素入り 締り強 粘性なし かわらけ有
- 2 2.5Y/6/4に赤い黄色土 15%赤土混入 5%黒土混入 締り強 粘性 少々有 やや締り強い
- 3 10YR3/1黒褐色土 締り強 粘性なし 木片有
- 4 2.5Y/6/4に赤い黄色土 締り強 粘性やや有 1%赤土混入
- 5 2.5Y/6/3に赤い黄色土 締り強 粘性有 1%赤土混入 3%黒土混入
- 6 2.5Y/6/1オリーブ灰色粘土 締り強 粘性有 2%赤土混入 かわらけ有
- 7 10YR3/2黒褐色粘土 締り強 粘性有

第6図 56SK26~56SK31



56SK32

- 1 2.5Y7/2暗黒土少量混入 締り強 粘性なし かわらけ有
- 2 7.5YR5/6暗灰土少量混入 締り強 粘性やや有

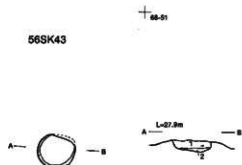


56SK34

56SK34

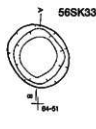
- 1 2.5Y7/2灰土 締り弱 粘性なし
- 2 5Y2/1オリーブ黒土 30% 7.5YR2/6暗黒土混入 締り良し かわらけ・灰あり 粘性有
- 3 7.5YR5/6暗黒土 50% 5Y7/2灰土混入 締り強 粘性なし 炭混入
- 4 7.5Y7/2灰オリーブ黒土 締り良し 炭混入 粘性強
- 5 2.5Y4/2灰黒土 締りやや弱し 炭混入 粘性なし
- 6 2.5Y4/2暗灰土 40%に灰い黄色土混入 10%明赤褐色土混入 粘性やや有 灰・かわらけ混入
- 7 2.5Y6/4に灰い黄色土 10%明赤褐色土混入 粘性強 炭混入
- 8 2.5Y7/2暗黒土 10%に灰い黄色土混入 粘性やや有 炭混入
- 9 8G5/1緑灰色土 灰褐色土のブロック多量混入 粘性やや有 締り弱
- 10 8G5/5オリーブ灰色土 黄灰色土ブロック多量混入 粘性やや有 締り弱
- 11 10YR4/1暗灰色土 黒山ブロック多量に含む 粘性やや有 締り弱
- 12 8G5/1緑灰色土 黒褐色土上に少量含む 粘性やや有 締り弱
- 13 8G5/5オリーブ灰色土 粘性やや有 締りやや有
- 14 8G5/4暗オリーブ灰色土 粘性強 締り強 かわらけ・炭混入

56SK43



56SK43

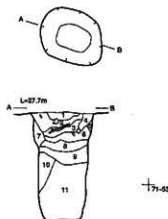
- 1 10YR2/2暗褐色土 締り強 粘性有 かわらけ片を含む 多量の炭化物を含む 灰黄色土・明赤褐色土ブロックを含む 人為的堆積か?
- 2 10YR2/6暗赤褐色シルト質粘土と10YR2/2灰黄色シルト質粘土の混合層 締り強 粘性強 炭混入



56SK33

- 1 10YR2/1暗褐色土 締り強 粘性有 10YR7/1灰白色粘土ブロック 10YR4/2灰黄褐色粘土を含む
- 2 10YR2/1暗褐色土 締り有 粘性有 炭化物を少量含む かわらけ片を中量含む
- 3a 10YR2/2暗褐色土 締りやや有 粘性有 炭化物を少量含む かわらけ片を少量含む 礫をやや多く含む 緑灰色土ブロックを中量含む (中層部分に水層多く含む)
- 3b 土層は3層ほどに区別し (最下10YR2/1に含む) 水層西土増加 (3層とはこの層をさす)
- 4 10YR4/2灰黄色土と10YR7/3に灰い青灰色土の混合層 炭化物を微量含む 締り強 粘性強
- 5 10YR2/1暗褐色土 締り強 粘性有 明赤褐色土ブロックを少量含む
- 6 10YR2/1黒土 締り強 粘性ほとんどなし 水層の混入を主体とする (灰・かわらけを含む)
- 7 10YR2/1黒土赤質粘土 締りやや有 粘性やや有 黄灰色土を若干含む 水層の混入は少ない 炭化物少量混入
- 8 2.5Y3/1黒褐色土と10YR7/1明赤褐色土の層 前記はそれぞれ締り高し層状に堆積している 締り強 粘性あまりなし 水層・水混入を多量に含む かわらけ・礫砂を含む
- 9 10YR2/1黒土 黒山ブロック (緑褐色) 多量に含む 灰土の混入が少量混入 粘性有 締りやや弱 (横断面から約3m位の地点で自然露出層から3~6点出土)
- 10 2.5Y3/1暗オリーブ灰色土 黒山ブロック (オリーブ灰と灰白色土ブロック) 大量に含む 炭混入を含む 粘性有 締り弱 (断面は2.5Y3/1緑灰色土ブロックの1層が広く見える)
- 11 8G6/1緑灰色土 2.5Y2/1黒土 黒山ブロック (オリーブ灰色土) を多量に含む 粘性強 締り強 かわらけを少量含む

56SK67

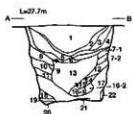
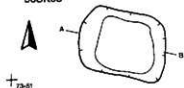


56SK67

- 1 10YR4/3に灰い黄褐色土 黒山ブロック大量に含む 粘性やや弱 締っている
- 2 10YR2/2暗褐色土 黒山ブロック多量含む 自然露出層混入 粘性やや有 締っている
- 2.5Y2/1黒土 本層ロウ含む かわらけ含む 粘性やや有 締りやや有
- 2.5Y6/2黄褐色土 黒山ブロック少量含む 粘性やや有 締っている
- 2.5Y7/4灰黄色土 粘性やや有 締り弱
- 10YR2/2暗褐色土 本層ロウ含む 粘性やや有
- 10YR4/2灰黄褐色土 黒山ブロック多量含む 粘性やや有 締りやや有
- 10YR2/2暗褐色土 粘土を含む 黒山ブロック多量含む 粘性有 締り弱
- 10YR2/2暗褐色土 灰黄褐色土・明赤褐色土ブロックを大量に含む 締りやや有 粘性有
- 10YR2/1暗褐色土 オリーブ灰色土ブロックを大量に含む 締りやや有 粘性有
- 10YR2/2暗褐色土 締り強 粘性やや有 ウチ基準の層子混入 10層より厚層は小さいがオリーブ灰色土を多く含む 本層ロウを含む

第7図 56SK32~56SK34・56SK43・56SK67

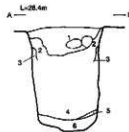
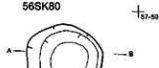
56SK53



56SK53

- 2.5Y7/2灰黄色粘土と10YR3/3暗褐色粘土の混合層 粘り強 粘性強 炭化物粒下(φ1-3mm)を少量含む
- 10YR2/2深褐色粘土 粘り強 粘性中 炭化物粒下(φ1-3mm)を少量含む
- 10YR2/2深褐色粘土 粘り強 粘性強 炭化物粒下(φ1-3mm)を少量含む 2.5YR/3灰黄色砂質粘土が上に厚く堆積する
- 10YR2/2深褐色粘土 粘り強 粘性強 堆山礫層か 人為堆積 炭化物ごくわずかに含む
- 10YR4/2黄褐色粘土 粘りやや有 粘性有 堆山ブロックを少量含む 炭化物を多く含む 礫を少量含む
- 2.5Y7/3黄褐色粘土 粘り有 粘性有 5層の上のブロックが少量混入 かわらけ片を少量含む 人為堆積か?
- 1.5YR3/3暗褐色粘土と10YR5/2灰黄色粘土の混合層 粘り強 粘性強 灰質腐植土内に炭化物を少量含む
- 7-2 10YR2/1深褐色粘土 粘り有 粘性有 炭化物粒子をわずかに含む
- 2.5Y7/2黄褐色粘土 粘りやや有 粘性有 炭化物粒子を少量含む 堆山ブロックを多く含む
- 2.5YR/3灰黄色粘土 粘りあまりなし 粘性中
- 5YR3/1オリーブ褐色粘土 粘りやや有 粘性有 炭化物粒下 ブロックを多く含む 焼土粒子を多く混入含む 堆山ブロックを多く混入含む
- 5G7/1明褐色粘土と2.5Y7/1黄褐色粘土の混合層 粘り強 粘性有 炭化物を少量含む
- 2.5YR/3灰黄色粘土 粘り強 粘性強 人為堆積か?
- 2層は5層の灰黄から20cm程度 10YR2/1黄褐色粘土 粘りやや有 粘性有 かわらけ含む 堆山ブロックをやや多く含む 炭化物をやや多く含む 焼土粒子を若干含む 下層は10YR3/1深褐色粘土 粘り有 粘性有 堆山ブロックを少量含む 焼土粒子を少量含む 炭化物を少量含む 様子様を多く含む
- 10YR3/1深褐色粘土 粘りやや有 粘性有 深黄色粘土ブロックを少量含む 人為堆積
- 5G7/1オリーブ褐色粘土 粘りやや有 粘性強 灰黄色粘土を少量含む
- 10YR2/1深褐色粘土 粘り強 粘性有 一部にウリ科の種子を含む
- 10YR2/1深褐色粘土 粘り有 粘性有 褐色粘土 炭化物有
- 2層は5層の灰黄から20cm程度 10YR2/1黄褐色粘土 粘りやや有 粘性有 かわらけ含む 堆山ブロックの崩壊を呈す 人為的堆積土のものか
- 10YR2/1深褐色粘土 粘りやや有 粘性有 炭化物を少量含む 緑黄色粘土を少量含む
- 10GY5/1緑黄色砂質粘土 粘り弱 粘性やや有
- 2.5Y/4黄褐色粘土 粘り強 粘性強
- 10YR2/1深褐色粘土 粘り強 粘性有 1層に腐植に入る 上部に未片含む
- 2.5YR/3灰黄色粘土 粘り強 粘性有
- 17層→22層までは人為堆積か?

56SK80



56SK80

- 10YR3/3暗褐色土 かわらけ細片を多量に含む 炭灰を多量に含む 10-20cm程度の自然石を多量に混入 粘性やや有 粘っている
- 10YR4/4褐色土 堆山ブロック多量 炭質腐植土も 粘性やや有 粘っている
- 2.5YR/2黄褐色土 炭灰ごく微量含む 粘性有 粘りやや有
- 5G7/1オリーブ褐色 粘性有 粘り弱
- 2.5YR/2に赤い黄色砂 粘性弱 粘りやや有
- 10GY5/1緑黄色泥炭 粘性弱 粘り弱
- 5層→6層はアライ混している

57-51

56SK99



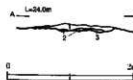
56SK99

- 10YR3/3暗褐色土 堆山ブロック微量 炭灰少量含む 粘性やや有 粘りやや有
- 2.5Y7/4黄褐色土と灰黄色土との混合土 炭灰微量含む 粘性有 粘りやや有
- 10YR4/4褐色土 炭灰多量含む 粘性やや有 粘りやや有
- 2.5Y7/4黄褐色土 炭灰ごく微量含む 粘性やや有 粘りやや有 炭灰少

※ 1・3層にはかわらけ入る

56-51

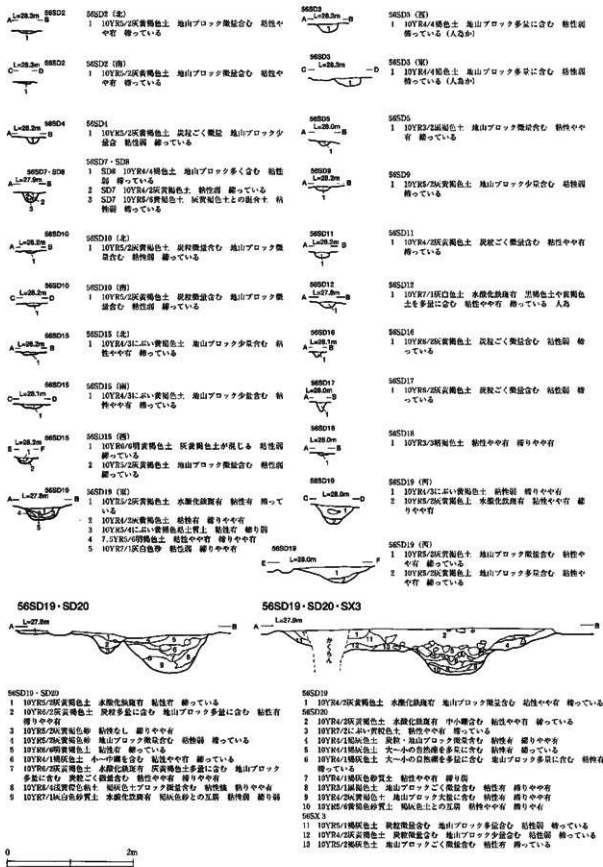
YG56焼土



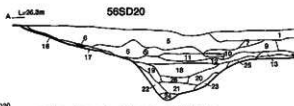
56 豊島管内焼土

- 5YR5/3暗褐色粘土と褐色土・黄褐色土の混土 何れもブロック 粘性やや有 粘りやや有(現地性ではない)
 - 10YR1/7褐色炭灰
 - 10YR7/1黄褐色土 褐色土ごく微量含む 粘性弱 粘りやや有(炭灰)
- ※ この焼土は3層の中にある 3層は2層の炭の層で上下に分けられるが、大きな球磨所ではないと思われる

第8図 56SK53・56SK80・56SK99・焼土



第9図 溝・堀断面①



56SD20

- 1 10YR5/2灰黄褐色土 締まっている 粘性やや有 酸化鉄が現れる
- 2 10YR7/1灰白色粘土 締りやや有 粘性やや有
- 3 2.Y7/3成実色粘土 締っている 粘性やや有
- 4 10YR5/2灰黄褐色土 締っている 粘性やや有
- 5 10YR4/1褐色土 締りやや有 粘性やや有 地山ブロックを多く含む
- 6 10YR4/2褐色土 締っている 粘性やや有 地山ブロックを少量含む
- 7 5GY6/1オリーブ灰土 締っている 粘性なし
- 8 2.GY4/1暗オリーブ灰土 締っている 粘性やや有
- 9 2.SY7/1オリーブ灰土 締っている 粘性やや有 結灰色シルト質粘土を多く含む
- 10 10YR5/4黄褐色土 締っている 粘性なし
- 11 10YR5/6黄褐色砂質粘土 締っている 粘性やや有 黄褐色粘土 緑褐色シルト質粘土を多く含む
- 12 2.GY7/1オリーブ灰土 締っている 粘性強 地山ブロックを少量含む
- 13 2.SY7/1暗オリーブ灰土 締っている 粘性強 結灰色シルト質粘土を少量含む
- 14 5Y7/2褐色土 締っている 粘性強
- 15 7.GY6/1緑褐色土 締っている 粘性強
- 16 10YR5/4黄褐色土 締っている 粘性やや有 地山
- 17 5Y7/2褐色土 締っている 粘性強
- 18 10YR5/4黄褐色土 2.SY7/1オリーブ灰土の混成物 締っている 粘性なし 炭化物及び地山ブロックを少量含む

- 19 5GY7/1暗オリーブ灰土砂質粘土 締りやや有 粘性やや有
- 20 5Y6/3オリーブ黄褐色土 締りやや有 粘性強
- 21 5Y6/2オリーブ砂 締りやや有 粘性なし
- 22 5Y7/3成実色粘土 締っている 粘性強
- 23 5Y7/3成実色粘土 締っている 粘性強
- 24 7.SY6/2暗オリーブ砂 締り強 粘性なし
- 25 5Y7/3成実色粘土 締っている 粘性強
- 26 5Y6/2オリーブ砂 締りやや有 粘性なし 炭化物を少量含む



56SD20

- 1 2.SY7/3成実色粘土 水酸化鉄混有 灰黄色土ブロック少量含む 大小礫少量含む 粘性やや有礫りやや有 (入)
 - 2 2.SY6/2成実色砂 成実色土少量含む 粘性強 礫り強 (自然)
 - 3 2.SY6/2成実色砂 粘性強 礫り強 (自然)
- ※ 大率は1層に建設が入る。2・3層には入らない
2と3は層が連続していた層

56SD21

A Le=27.2m B

- 1 10YR5/2灰黄褐色土 水酸化鉄混有 粘性やや有

- 2 10YR5/4明黄褐色土 粘性やや有 締っている

56SD21

C Le=27.2m D

- 1 10YR4/2灰黄褐色土 水酸化鉄混有 地山ブロック散在含む 粘性やや有 締っている

56SD23

A Le=27.7m B

- 1 10YR5/1褐色土 地山ブロック少量含む 粘性弱 締っている

56SD28

A Le=34.0m B

- 1 10YR5/2成実色粘土 炭粒・極小礫・地山ブロックを散在含む 粘性強 礫りやや有
- ※ 断面より厚い

56SD22

A Le=27.7m B

- 1 10YR4/1褐色土 水酸化鉄混有 粘性やや有 締っている

56SD22

C Le=27.7m D

- 1 10YR5/2成実色粘土 水酸化鉄混有 粘性やや有 締っている

56SD23、SD22

C Le=27.7m D

- 1 10YR5/2成実色粘土 水酸化鉄混有 粘性やや有 締っている

56SD23 (断面のある部分)

- 1 10YR4/4褐色土 粘性弱 締っている

- 2 10YR5/4成実色粘土 黄褐色土、褐色土ブロックと混成 粘性強 締っている

- 3 10YR5/1褐色土 自然礫含む 粘性やや有 締っている

- 4 10YR5/4成実色粘土 灰黄色土ブロック多量を含む 粘性やや有 礫りやや有

- 5 10YR4/1褐色土 地山ブロック大粒を少量含む 粘性やや有 礫りやや有

- 6 10YR5/4成実色粘土 水酸化鉄混有

- ※ 北・南端ははくれている

56SD38(41SD2)

A Le=25.9m



56SD38 (41SD2)

- 1 7.SY7/3成実色粘土 礫り強 粘性やや有 φ3-5cmの灰黄褐色粘土をブロック状に5%程度含む 地山塊含む

- 2 10YR4/2成実色粘土 礫り有 粘性なし 下部に酸化鉄が層状に含まれる部分有 草根に灰褐色粘土ブロックを散在含む

- 3 10YR4/3成実色砂質土 礫りやや有 粘性なし かわかけ片を少量 炭化物を微量含む

- 4 10YR4/4成実色砂質土 礫り強 粘性なし かわかけ片を少量含む

- 5 10YR3/2成実色砂質土 礫りやや有 粘性やや有 炭化物を少量含む かわかけ片を少量含む 礫を多く含む

- 6 10YR3/2成実色砂質土 礫り強 粘性なし 炭化物・かわかけ片を少量含む

- 7 10YR5/4成実色砂質土 礫り強 粘性なし

- 8 10YR4/4成実色砂質土 礫り強 粘性なし かわかけ片が散在する

- 9 10YR4/4成実色砂質土 礫り強 粘性やや有 かわかけ片1.2cm

- 10 10YR4/4成実色砂質土 礫り強 粘性あまりなし 明黄褐色砂質土ブロックを散在含む かわかけ片1点含む

- 11 10YR4/4成実色砂質土 礫りやや有 粘性なし

- 12 10YR3/4成実色砂質土 礫り強 粘性やや有 かわかけ片少量含む 炭化物微量含む

- 13 2.SY7/3成実色砂質土 礫り有 粘性やや有 かわかけ片少量含む

- 14 10YR4/4成実色砂質土 礫り有 粘性やや有 かわかけ片を少量含む

- 15 2.SY7/3成実色砂質土 礫り有 粘性やや有 かわかけ片を多く含む 礫を少量含む 炭化物を微量含む

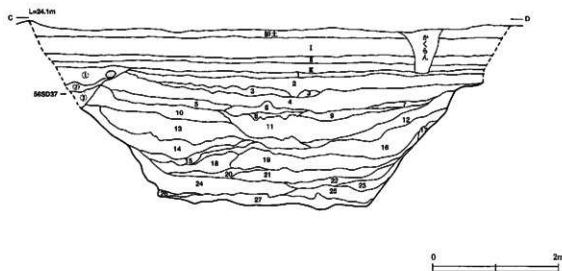


第10図 溝・畑断面 ②

- 16 10YR3/2暗褐色砂質粘土 粘り強 粘性やや有 塵・かわらけ片少 炭化物を
やや多く含む
- 17 2.5Y/4暗黄褐色砂 粘りあまりなし 粘性なし 炭化物を少量含む 黄褐色
粘上ブロッコを散見含む
- 18 10YR4/4褐色砂質粘土 粘り弱 粘性 かわらけ片を少量含む 炭化物を散
見含む 明黄褐色土ブロッコを散見含む
- 19 10YR4/4褐色砂質土 粘りあまりなし 粘性ほとんどなし 炭化物・かわらけ
片散見 黄褐色粘上ブロッコを少量含む
- 20 2.5Y/3オリーブ褐色砂質土と2.5Y/3暗オリーブ褐色砂質粘土の混成層 粘
りやや有 粘性やや有 かわらけ片・炭化物を散見含む
- 21 2.5Y/1灰褐色砂 粘りあまりなし 粘性なし 黄褐色粘土粒子(φ3mm)・炭
化物・かわらけ片を散見含む 水浸境線の境界あり
- 22 2.5Y/2灰黄色粘土 粘り強 粘性強 炭化物を散見含む
- 23 2.5Y/4オリーブ褐色砂質粘土 粘り強 粘性やや有 明黄褐色粘上ブロッ
コを散見含む
- 24 2.5Y/4/1暗オリーブ灰色砂 粘り弱 粘性あまりなし 炭化物をごく少量含
む
- 25 2.5Y/4/1暗オリーブ灰色砂 粘り弱 粘性あまりなし

- 26 2.5Y/2/1黒色シルト質土と7.5Y/3/1暗緑灰色砂の混成層 粘り弱 粘性やや
有 かわらけ片を散見含む 炭化物を散見含む 塵を少量含む
- 27 10YR3/2暗褐色砂質粘土 粘りやや有 粘性強 炭化物ブロッコをわずかに含
む 炭化物粒を少量含む 黄褐色粘土粒を若干含む
- 28 2.5Y/4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 粘り有 粘性強 炭化物粒を多く
含む かわらけ片を少量含む 高級品産出多し
- 29 10YR2/2暗褐色シルト質粘土 粘りやや有 粘性強 炭化物粒をやや多く含む
水汗が少量含まれる
- 30 10YR2/2暗褐色砂質土 粘り弱 粘性やや有
- 31 5Y/4/1暗オリーブ灰色砂質粘土 粘り弱 粘性やや有
- 32 2.5Y/1暗褐色シルト質土 粘り弱 粘性有 炭化物を散見含む
- 33 5G5/1緑灰色シルト粘土 粘り弱 粘性強
- 34 2.5Y/3/1暗褐色シルト質粘土 粘りやや有 粘性強
- 35 2.5Y/4/1暗オリーブ灰色 粘り強シルト質粘土 粘りやや有 粘性強
- 36 10YR4/4褐色砂 粘り有 粘性やや有
- 37 10YR4/2/1暗黄褐色粘土 粘り強 粘性強
- 38 7.5Y/5/1暗褐色粘土 粘り強 粘性有
- 39 2.5Y/3/1暗オリーブ灰色砂 粘りなし 粘性なし

56T2SD39

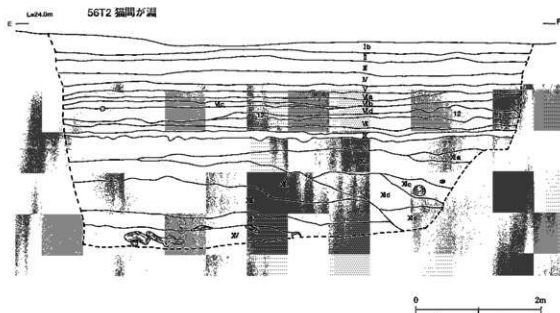


56 T 2 SD39 Ⅲ (断面)

- ① 10YR4/2灰黄褐色土 炭粒からかわらけ片を多量に含む 粘性やや有 腐っている
- ② 2.5Y/2/2黄褐色土 炭分を含む 粘性有 粘り弱
- ③ 10YR2/2暗褐色泥 粘性やや有 粘り弱
- I 10YR3/2暗褐色土 粘性やや有 粘りやや有 (粘性土)
- II 10YR6/6暗褐色土 炭土 粘性やや有 腐っている
- III 10YR3/2暗褐色土 粘性やや有 粘りやや有
- 1 10YR2/2暗褐色土 炭分散見含む 粘性有 粘りやや有
- 2 10YR4/3/1黄褐色土 炭分ごく少量含む 粘性やや有 腐っている
- 3 10YR6/6暗黄褐色土ブロッコ主体 その隙間に黄褐色土ごく少量 粘性やや有 粘りやや有
- 4 10YR2/2/1黄褐色粘土質土 粘性有 粘りやや有 (炭分散見含む)
- 5 10YR1/2灰黄褐色土 炭分ごく少量含む 粘性やや有 粘りやや有
- 6 10YR4/2灰黄褐色土 炭分含む 粘性やや有 粘りやや有
- 7 2.5Y/2/2灰黄色砂 炭分散見含む 粘性有 粘りやや有
- 8 2.5Y/2/2灰黄色砂 炭分散見含む 粘性なし 粘りやや有
- 9 10YR4/2灰黄褐色粘土 砂との互層を成す 粘性やや有 粘りやや有
- 10 10YR5/3/1黄褐色砂質土 粘性やや有 粘りやや有

- 11 10YR4/2灰黄褐色粘土 土に黄褐色砂との混成 粘性やや有 腐っている
- 12 10YR5/2灰黄褐色砂 部分的に炭粒土を含む 粘性なし 粘りやや有
- 13 2.5Y/2/1黄褐色土に黄褐色粘土との互層 粘性やや有 粘りやや有
- 14 7.5Y/1オリーブ褐色泥 部分的に緑灰色土を含む 粘性やや有 粘り弱
- 15 10YR2/2オリーブ褐色砂 塵との互層を成す 粘性弱 腐っている
- 16 10YR2/3暗褐色土 砂との互層を成す 15層との間に小水汗や水浸等が認められている 粘性やや有 粘り弱
- 17 10YR4/3/1黄褐色土 地山ブロッコ多量に含む 粘性やや有 粘りやや有
- 18 10Y3/2オリーブ灰色砂 炭質泥散見含む 粘性強 腐っている
- 19 2.5Y/4/2暗黄褐色 砂と互層を成す 炭化物散見含む 粘性やや有 粘りやや有
- 20 10Y3/2オリーブ灰色砂 黄褐色泥散見含む 粘性強 腐っている
- 21 2.5Y/4/2暗黄褐色泥 砂との互層を成す 炭粒を少量含む 粘性やや有 粘りやや有
- 22 7.5Y/4/2/1黄褐色砂 粘性強 粘りやや有
- 23 10Y3/2オリーブ灰色砂質土 粘性やや有 粘りやや有
- 24 2.5G5/1暗褐色シルト質土 炭分その隙間に砂が入る (褐色) 粘性やや有 粘りやや有
- 25 10Y4/1褐色土ブロッコ主体 その隙間に灰黄褐色土少量入る 粘性やや有 粘りやや有
- 26 2.5Y/2/2暗褐色泥 粘性有 粘りやや有
- 27 2.5Y/4/1黄褐色土 粘性やや有 粘りやや有 (腐りすぎ)

第11図 溝・掘断面 ③

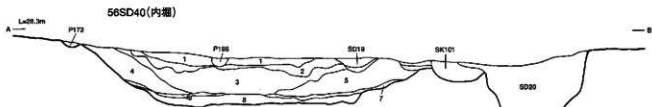


- 56 T2 築堤が図 (西側)
- Ib 10YR4/2灰黄褐色土 水田土 粘性やや有 締りやや有
 - II 10YR4/8明黄褐色土 床上 鉄分多量に含 粘性弱 締っている
 - III 10YR3/4暗褐色砂質土 粘性弱 締りやや有
 - IV 10YR4/2黄褐色土 粘性やや有 締っている
 - V 10YR4/2黄褐色土 鉄分大量に含む 粘性やや有 締っている
 - VIa 2.5Y3/2黒褐色土 粘性やや有 締っている
 - VIb 10YR4/3いぶい黄褐色砂質土 炭粒ごく微量含む 粘性やや有 締っている
 - VIc 10YR5/2灰黄褐色砂土 鉄分含む 粘性弱 締っている
 - VIId 10YR3/4暗褐色土 若干砂っぽい 鉄分多量含む 粘性弱 締っている
 - IX 10YR4/2灰黄褐色土 砂少量混じる 粘性やや有 締りやや有
 - X 10YR3/2暗褐色土 鉄分微量含む 粘性やや有 締っている
 - XI 2.5Y7/1灰白色火山灰 粘性なし 締りやや有
 - XII 2.5Y4/2暗灰黄色砂質土 鉄分ごく微量含む 粘性弱 締りやや有
 - XIIIa 10YR4/2灰黄褐色砂 炭は粗い 粘性なし 締っている
 - XIIIb 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂 粘性なし 締りやや有
 - XIIIc 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂 黄褐色土との互層 粘性なし 締りやや有
 - XIIIId 2.5Y4/1黄灰色砂質土 粘性やや有 締りやや有
 - XIIIe 10Y4/1灰色砂 炭がやや粗い 黄褐色土混じる 粘性弱 締りやや有
 - XIIIIf 5Y3/1オリーブ黒色土 炭粒ごく微量含む 粘性やや有 締っている
 - XIIIg 2.5GY4/1暗オリーブ灰色土 若干砂っぽい 粘性やや有 締りやや有
 - XIIIh 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂 黄褐色土との互層 粘性弱 締りやや有
 - XIIIi 2.5Y3/1黒褐色土 砂との互層 炭が多量に入る 粘性やや有 締りやや有

- 56 T4 S030
(堀北土層)
- かくらん 2.5Y3/2暗オリーブ黒色土 地山ブロック少量混入 粘性やや有 締りやや有
 - I 2.5Y3/2暗オリーブ黒色土 酸化鉄有 粘性やや有 締りやや有
 - II 10YR4/6褐色土 水田土 粘性弱 締っている
 - III 10YR2/1黒色土 酸化鉄有 粘性やや有 締りやや有
 - IV 10YR4/3いぶい黄褐色土 地山ブロック少量をごく微量含む 粘性やや有 締っている
 - V 10YR7/4明黄褐色土 粘性やや有 締っている (地山)
 - M 2.5Y7/4成黄色砂 砂とら-10cmの層からなる 粘性なし 締っている
 - N 2.5Y7/3成黄色砂 粘性やや有 締り弱
- T4 (築堤部分)
- 1 10YR5/4黄褐色土 暗褐色土ブロック少量含む 粘性やや有 締っている
 - 2 2.5Y7/3成黄色砂土 暗褐色土 黄褐色土ブロックと混合する 粘性やや有 締っている
 - 3 2.5YR/3黄褐色土 暗褐色土 小礫との混合土 粘性有 締っている
- T4 (66SD30)
- 1 2.5Y3/1黒褐色土 径20cm前後の河原石を含む 粘性やや有 締りやや有
 - 5 10YR4/4褐色土 小礫ごく微量含む 粘性弱 締りやや有

- T4 (66SD30)
- 4 10YR4/2灰黄褐色土 酸化鉄多量に見られる 小礫ごく微量含む 粘性やや有 締っている
 - 7 2.5Y3/1黒褐色土 中小礫少量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 8 10YR4/6褐色土 酸化鉄有 粘性有 締りやや有
 - 9 2.5Y4/1暗オリーブ灰色泥 酸化鉄有 粘性有 締りやや有 (沈殿層)
 - 10 5GY4/1暗オリーブ灰色土 地山ブロック多量混入 粘性やや有 締っている
 - 11 7.5Y3/2オリーブ黒色泥 粘性強 締りやや有 (沈殿)
 - 12 5Y3/1オリーブ黒色泥 粘性強 締りやや有 (沈殿)
 - 13 10YR2/1黒色土 炭粒大量 かわらけ餅片を少量含む 粘性やや有 締りやや有 (人為物) (水田)
 - 14 2.5Y3/5黄褐色土 礫混入土 粘性やや有 締りやや有
 - 15 10YR4/2暗灰黄色砂 粘性やや有 締り弱
 - 16 5Y4/1灰色泥 木部入る 粘性やや有 締っている
 - 17 7.5Y5/1灰色砂質土 粘性やや有 締りやや有
 - 18 5Y4/1灰色泥 地山ブロック少量含む 粘性強 締り固 (沈殿)
 - 19 2.5Y4/1暗オリーブ灰色泥 木部含む 粘性やや有 締り弱 (沈殿)
 - 20 7.5GY/1暗灰色砂 粘性やや有 締り弱 (炭れ込み)
 - 21 2.5Y4/1黄灰色土 粘性有 締り固
 - 22 5.6GYオリーブ砂質土 灰色土との混合土 木質腐植含 粘性やや有 締り固

第12図 溝・堤断面④



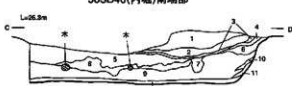
56SD40 (内堀)

P196 10YR7/4C(内)

- 1 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 2 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 3 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 4 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘り強 均質だが灰黄褐色土を露出

- 5 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘り強 均質だが灰黄褐色土を露出
- 6 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 7 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 8 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘り強 均質だが灰黄褐色土を露出 下面に10YR5/2(内)黄褐色粘土(3cm厚)
- 9 1-3層の人為堆積

56SD40(内堀)南端部



56SD40 (内堀) 南端部

- 1 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 2 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 3 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 4 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 5 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 6 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 7 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 8 5Y7/5(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 9 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 10 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 11 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 12 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- ※ 12層は内堀が掘られてすぐの段階で内堀が保っていた 上がたまたまは崩れ去っていたりしていた
- 1-2層は内堀を掘る
3層は人為的に埋める(跡上の埋め込み)
4層は埋まらないうちの時点で木などが堆積した
9-11層は崩壊していく段階

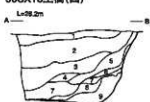
56SD40(内堀)北端部



56SD40 (内堀) 北端部

- 1 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 2 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 3 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 4 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 5 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 6 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 7 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 8 10YR5/2(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 9 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
 - 10 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- ※ 1-3層は人為堆積、4-7層は自然堆積、8-10層は崩壊

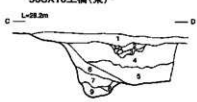
56SX16土橋(西)



56 内堀の一部 西

- 1 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 2 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 3 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 4 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 5 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 6 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 7 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 8 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 9 2.5Y7/4(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量

56SX16土橋(東)

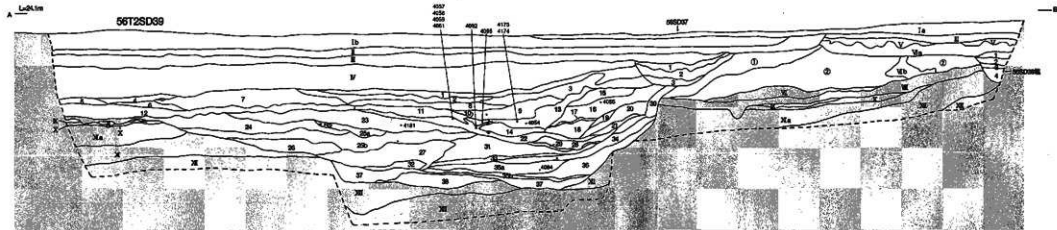


56 内堀の一部 東

- 1 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 2 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 3 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 4 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 5 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 6 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 7 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 8 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量
- 9 10YR7/4C(内)黄褐色粘土 粘土質 粘り強 炭化物少量 灰黄褐色土層 下面に炭化物少量



第13図 溝・堀断面 ⑤



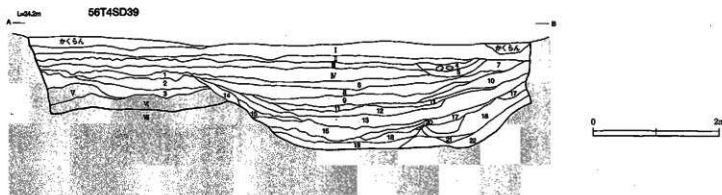
- 56 T2 SD39
T2 (堰上土層)
1 Ia 107/8に多い黄褐色砂質土 鉄分を含む 粘粒や中骨 粘り強
1 Ib 107/8に多い黄褐色砂質土 鉄分が若干欠けているのか 粘粒や中骨 粘り弱
2 2.5/2.5/1.5黄褐色粘土 粘性や中骨 粘りや中骨

T2 SD39

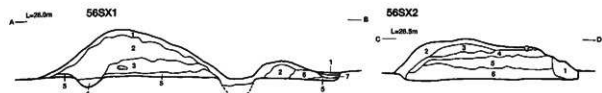
- 1 107/8に多い黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘粒弱 粘り弱
2 107/8に多い黄褐色土 鉄分を含む 粘粒弱 粘り弱
3 107/8に多い黄褐色土 鉄分を含む 粘土ブロック不規則に少量含む 粘性や中骨 粘りや中骨
4 2.5/2.4/1.5黄褐色土 黄褐色土との互層が顕著なところ 粘粒や中骨 粘りや中骨
5 2.5/2.4/1.5黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘粒や中骨 粘りや中骨 粘土ブロック不規則に少量含む
6 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土ブロック不規則に少量含む 粘粒弱 粘りや中骨
7 107/8に多い黄褐色土 鉄分を含む 粘土ブロック不規則に少量含む (よく目立つ) 粘粒や中骨 粘り弱
8 107/8に多い黄褐色土 鉄分を 若干多量含む 粘粒や中骨 粘り弱
9 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘性や中骨 粘り弱
10 2.5/2.5/1.5黄褐色土 黄褐色土との互層 粘粒なし 粘り弱
11 2.5/2.5/1.5黄褐色土 黄褐色土との互層 粘粒なし 粘り弱
12 107/8に多い黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘性や中骨 粘りや中骨
13 107/8に多い黄褐色土 粘土ブロック不規則に少量含む 粘粒や中骨 粘りや中骨
14 2.5/2.5/1.5黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘粒弱 粘り弱
15 107/8に多い黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘土ブロック不規則に少量含む 粘性や中骨 粘りや中骨
16 107/8に多い黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨 (注)
17 107/8に多い黄褐色土 粘土 粘粒中心が埋まる 粘粒や中骨 粘り強
18 7.5/2.4/1.5黄褐色土 粘粒や中骨 粘りや中骨
19 7.5/2.4/1.5黄褐色土 粘粒弱 粘り弱
20 107/8に多い黄褐色土 粘性や中骨 粘り弱

- 21 7.5/2.4/1.5黄褐色土 粘土ブロック不規則に少量含む 粘粒や中骨 粘りや中骨
22 2.5/2.5/1.5黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘粒弱 粘り強
23 2.5/2.5/1.5黄褐色土 黄褐色土との互層 粘粒弱 粘りや中骨
24 2.5/2.5/1.5黄褐色土 黄褐色土との互層が顕著なところ 粘粒弱 粘りや中骨
25 2.5/2.5/1.5黄褐色土 鉄分を豊富含む 粘粒弱 粘りや中骨
26 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土ブロック不規則に少量含む 粘粒弱 粘りや中骨
27 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土ブロック不規則に少量含む 粘粒弱 粘りや中骨
28 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘粒弱 粘りや中骨
29 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘粒弱 粘りや中骨
30 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層が顕著なところ 粘粒や中骨 粘りや中骨
31 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘粒弱 粘りや中骨
32 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘り弱
33 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘り弱
34 107/8に多い黄褐色土 粘土ブロック不規則に少量含む 粘粒弱 粘りや中骨
35 7.5/2.4/1.5黄褐色土 粘粒弱 粘り強 (他の層より)
36 107/8に多い黄褐色土 粘粒弱 粘り強 (他の層より)
37 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘粒や中骨 粘りや中骨
38 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘粒や中骨 粘りや中骨
39 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘粒や中骨 粘りや中骨
40 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘粒や中骨 粘りや中骨

- T2 (堰下側) 土層?
① 107/8に多い黄褐色土 黄褐色粘土ブロック多量を含む 粘性や中骨 粘り弱
② 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層が顕著なところ 粘土ブロック不規則に少量含む 粘性や中骨 粘り弱
T2 (堰下側) 土層?
Ia 107/8に多い黄褐色土 粘粒弱 粘性や中骨 粘りや中骨
Ib 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
II 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
III 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
IV 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
V 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
VI 2.5/2.4/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘り弱
VII 2.5/2.4/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘り弱
VIII 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
IX 107/8に多い黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
X 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨
XI 2.5/2.5/1.5黄褐色土 粘土との互層 粘性や中骨 粘りや中骨



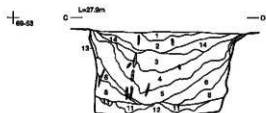
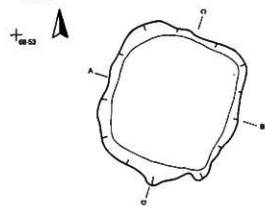
第14図 溝・堀断面 ⑥



- 56SX1
- 1 10YR2/3暗褐色土 草根多 粘性やや有 締りやや有
 - 2 2.5Y7/2灰黄色粘土 其中に暗褐色土及び明褐色砂質土ブロックを多量に含む 粘性强 締っている
 - 3 10YR5/3暗褐色土 粘性やや有 締りやや有
 - 4 2.5Y6/2K黄褐色土 明褐色砂 灰黄色粘土ブロックを多量に含む 粘性强 締っている
 - 5 2.5YR2/4浅黄赤土 粘性强 締っている (地山)
 - 6 2.5YR6/4にぶい黄褐色土 暗褐色土ブロック少量含む 粘性强 締り弱
 - 7 7.5GY6/1緑灰色砂 粘性なし 締りやや有 埋め戻した砂

- 56SX2
- 1 10YR7/3にぶい黄褐色土 粘性强 締っている 過去の調査で露出した部分
 - 2 10YR4/6褐色土 本量多 粘性强 締り強
 - 3 10YR6/4にぶい黄褐色土 地山ブロック少量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 4 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む 粘性やや有 締りやや有
 - 5 10YR6/6明褐色土 地山ブロック大量含む 粘性やや有 締っている
 - 6 10YR4/6褐色土 地山 粘性やや有 締っている

56SX4



- 56SX4
- 1 10YR2/3暗褐色土 地山ブロック少量含む 粘性强 締っている
 - 2 2.5Y7/2黄褐色土ブロック全体 その一部に灰黄色土 粘性强 締っている
 - 3 2.5Y6/4黄褐色土 灰砂多量に含む 粘性やや有 締っている
 - 4 2.5Y7/4浅黄赤土ブロック主体 (一部グライ化) その一部に黒褐色土少量含む 粘性やや有 締っている
 - 5 5G8/1緑灰色土と黒褐色土の混成土 粘性やや有 締っている
 - 6 10YR2/2暗褐色土 にぶい黄褐色土ブロックを少量含む 粘性やや有 締っている
 - 7 5G5/1緑灰色土と黒褐色土との混成土 粘性やや有 締っている
 - 8 10Y7/2灰白色土 部分的に砂っぽい所もある 粘性やや有 締りやや有
 - 9 5Y7/3暗褐色土 灰分多量含む 粘性やや有 締っている
 - 10 5G6/1緑灰色砂質土 粘性やや有 締りを欠く
 - 11 2.5Y6/2暗赤黄土 浅黄赤土との混成土 粘性やや有 締りやや有 (締り方?)
 - 12 2.5Y4/2暗黄赤土 粘性やや有 締っている
 - 13 10YR3/3暗褐色土 粘性强 締っている
 - ※ 8・10層が自然堆積 他は人為堆積
 - 14 5Y7/3黄褐色土 地山ブロック・灰黄色・明褐色土ブロックの混成土 粘性强 締っている

56SX9



- 56SX9
- 1 10YR4/2灰黄褐色土 明黄褐色地山ブロックと混成 炭化物を少量含む 粘性强 締っている

第15図 その他の遺構 (SX)

第三章 出土遺物

56次調査で出土した遺物は、かわらけ（ロクロ・手づくね）、国産陶器（常滑、濠美、須恵器系）、輸入陶磁器（白磁、青磁、青白磁、陶器）、瓦（軒平瓦、軒丸瓦、平瓦、丸瓦）、木製品（ちゅう木、箸、桶、下駄ほか）、石製品、鉄器、羽山などがある。本文中では頁数の関係もあり、個々の遺物についての説明はおこなわない。個々の遺物の特徴については観察表に記してある。

1 かわらけ

12世紀のかわらけは56次調査全体で136,895g 出土した。56次調査の南側及び西側部分の表土は第11次、36次、42次、52次調査により除去されており、そこからも遺物は多量に出土していることから、本来はもっとかわらけの出土量は多かった筈である。

出土したかわらけは遺構出土のものを中心に記載した。全部で126点を図示した。個々の特徴については表に記してあるので、文章ではとくに記載を控えることとした。手づくねとロクロかわらけに分けられる。そして手づくねかわらけは以下のように分類される。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| C 3…2段なで、口縁部面取りなし | C 4…2段なで、口縁部をつまみ上げ |
| C 5…2段なで、口縁部面取りあり | D 2…1段なで、口縁部外反 |
| D 3…1段なで、口縁部面取りなし | D 4…1段なで、口縁部面取りあり |

その他に内折かわらけがある。

ロクロかわらけについては特別、形態分類をしていない。

表中の法量は実測図上で計測した。よって反転実測で求められた数値を記している場合もある。重さは残存している重さである。色調は代表的な部分の色を記した。残存度は正確な数値による測定値ではなく、表面積の残存率を目分量によって測ったものである。

2 国産陶器

今回の調査でも12世紀の国産陶器（常滑産、濠美産、須恵器系）の破片が多量に出土している。常滑産陶器は396片（19,150g）、濠美産陶器は468片（32,790g）、須恵器系陶器（古代の須恵器を含む）が97片（6,049g）である。合計すると961片（57,989g）になる。56SI20からの出土が最も多く、56SD38堀跡も狭い調査範囲ではあったが出土量が多い。

3 中国産陶磁器

56次調査で中国産陶磁器は白磁62片（767g）、青磁2片（12g）、青白磁1片（30g）が出土した。実測図には代表的なものを、写真と観察表には実測できないものも加えて掲載した。中国産陶磁器は17片（178g）が出土し、その大半を掲載した。中国産陶磁器の構成は以下になる。

以前から指摘されていたことだが陶磁器の種類では白磁が圧倒的に多く次いで陶器、青磁、青白磁となる。柳之御所堀内部地区では平泉遺跡群の中でも陶器の割合が多い。器種別には壺類が大半を占め、碗皿類の倍近くにのぼる。

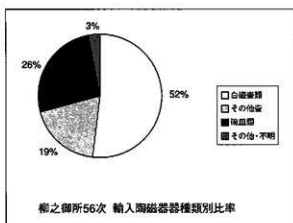
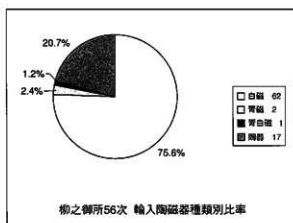
56次調査輸入陶磁器種構成

白磁

| 器種 | | 壺類 | | | | 碗類 | | | | | | | | | | | 皿類 | | | | | | | 袋物 | | | |
|---------|----|-----|------|----|----|----|------|------|---|----|----|---|----|-----|-----|---|------|------|----|-----|-----|----|---|----|-----|----|---|
| 組分類 | 白磁 | II系 | III系 | 不明 | 皿類 | 碗 | 化磁青碗 | 化磁土碗 | 碗 | II | IV | V | VI | VII | Vか皿 | 皿 | 化磁土皿 | 化磁土皿 | II | 月か皿 | III | IV | V | VI | VII | II | |
| 遺跡名 | 総数 | 2 | 21 | 20 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 2 | 3 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 柳之御所56次 | 62 | 2 | 21 | 20 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 2 | 3 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 |

青磁・青白磁・陶器

| 種類 | | 青磁 | | | | | | | | | | 青白磁 | | | | | 陶器 | | | | | |
|---------|----|------|---|---|------|------|------|------|-----|---|---|-----|---|----|----|----|----|----|----|-------|---|---|
| 分類 | 青磁 | 龍泉窯系 | | | 同安窯系 | | | | 青白磁 | | | | | 陶器 | | | | | | | | |
| 器種 | | 碗 | 皿 | 壺 | 13C碗 | 13C皿 | 15C碗 | 15C皿 | 碗 | 皿 | 血 | 血 | 壺 | 小壺 | 特殊 | 特殊 | 黄蓋 | 緑蓋 | 紋胎 | 13C陶器 | | |
| 遺跡名 | 総数 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 12 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 柳之御所56次 | 20 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 12 | 0 | 1 | 0 | 0 |



4 瓦

56次調査では12世紀の瓦は138点(5.397%)出土した。この中から状態のよいものを中心に丸瓦7点と平瓦7点を掲載した。

とくに猫間が淵の中に位置する56SD38・56SD39堀跡(T1)を検出する際に多量の瓦片が出土している。この場所は堀内部地区にある岡池や中心建物群と猫間が淵を挟んだ対岸にある無量光院との間に位置している。

3001は陽刻の連珠剣頭三巴文が施される軒平瓦と思われる。3002は連珠三巴文の軒平瓦である。3010は陰刻剣頭文を施す軒平瓦、3014の軒平瓦はあまり平泉遺跡群では見かけない文様をもつ。唐草文の一種であろうか。

丸瓦、平瓦は胎土や質感など様々なものが見られるが、今回の調査で出土した瓦には軟質な焼成で胎土に細かい砂粒が混じるものと、硬質で灰色に発色する焼成で胎土には砂粒はあまり混入していないものに分けられる。前者には3001・3002・3003・3004・3006・3007・3012が、後者は3005・3008・3009・3011・3013が該当する。

5 木製品

木製品については、実測図および写真図版を掲載したものの118点、写真図版のみのもの154点の計272点を掲載した。

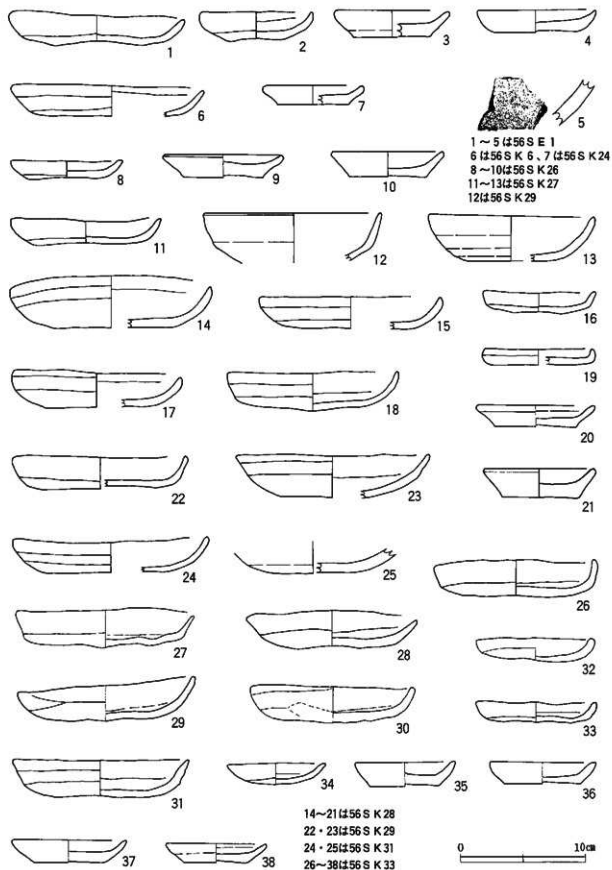
主な木製品の出土地点は、56SD38（11SD2）、56SD39などの堀、56SK33などのトイレ状土坑、56SE1、竊間が淵である。このうち、56SD39は掲載したもののうちの139点を占める。また、竊間が淵から出土したものは、すべて自然木である。

実測図を掲載したもののうち、特記すべきものについて述べる。

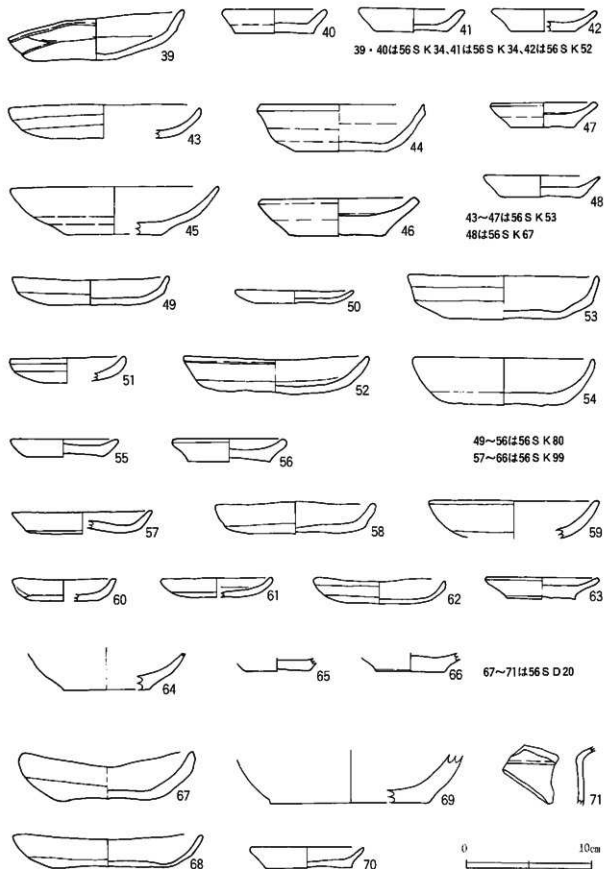
4005、4069は曲物銅板である。いずれも破片であり、曲物の容量を特定することはできない。4030、4035、4083は漆器輪である。いずれも破片ではあるが、両面黒漆塗りである。4083は漆の剥離が著しい。4031は部材である。表面全体が炭化している。4044は楯である。柄の部分は今回の調査では検出されなかった。先端に穿孔がある。4047は扇の骨である。下部のみの残存である。4051、4055、4092、4095は下駄である。うち、4055、4092は連曲下駄、4051、4095は差歯の下駄である。差歯のものはいずれも歯の部分のみである。4095は歯の部分が残っており、さらに割を継いでいる様子も伺える。4054は杓子形木製品である。ほぼ完形の状態で残っているが、杓子としては大型すぎるものであり、本来別の用途があったものと思われる。4085は墨書のある板片である。文字の左払いの部分のみであり、内容については不明である。4093は彫形木製品である。4097は輪である。漆などの塗られた痕跡は認められない。底部にクロクロの爪跡がある。4105、4107はいずれも用途不明品であるが、樹皮の綴じ具がある。4109は折敷である。三辺に縁が残っている。裏面に多数の釘跡が認められる。なお、この折敷については、まとめの項で改めて詳説する。このほかに、ちゅう木16点、箸14点などが出土している。

6 その他の遺物

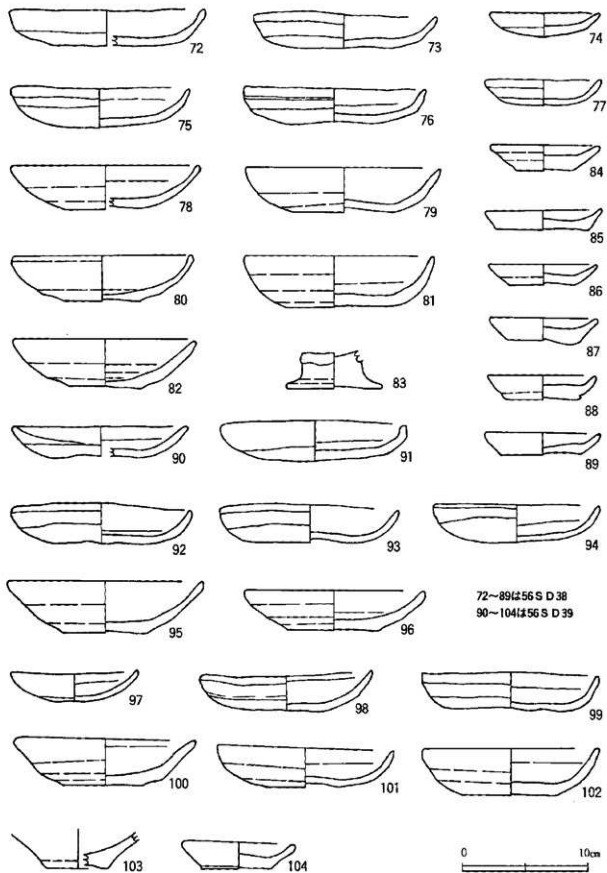
5001・5002は増場の破片である。出土した全てを図示している。5003は石製の鉢になる。5004は鍾（35.6g）と思われる。金属の種類は不明で12世紀のものではないかもしれない。5005は鉄釘の可能性ある。5006は基石であろうか。5007は土師器高台付坏と思われる。内面黒色処理は施されていない。5008～5010は縄文土器である。若下であるが赤色の漆が残っており、文様の上から彩色していたようである。時期は晩期であろう。5011は羽口である。5012は銅製品だが小片により種類は判らない。5013の銭貨は篆書体の聖宋元寶（1101年初鑄）と思われる。脆いため拓本はとらなかった。5020・5021は焼けた粘土塊である。今回の調査では全部で6,370g出土している。主に整地層の中に含まれており、中には整土が焼け残ったようなものもみられるが多くは破片が小さく一既に整土の焼けたものと断ずることができないものもある。整地層でみられた廃棄土層とも関係が予想される遺物である。



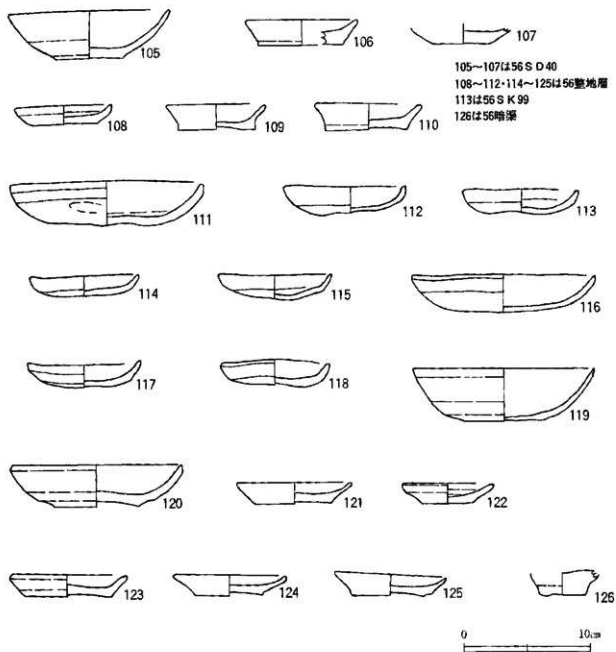
第17図 かわらけ(1)



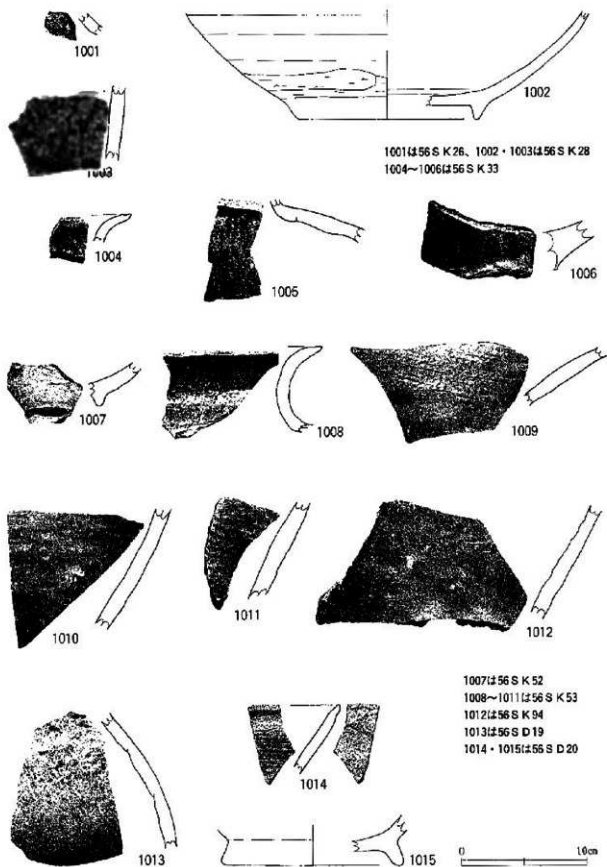
第18図 かわらけ(2)



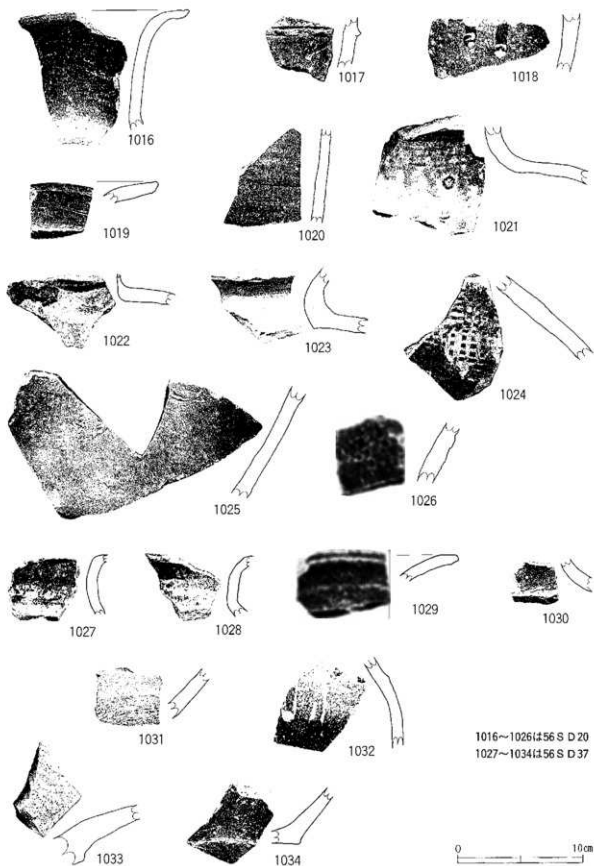
第19図 かわらけ(3)



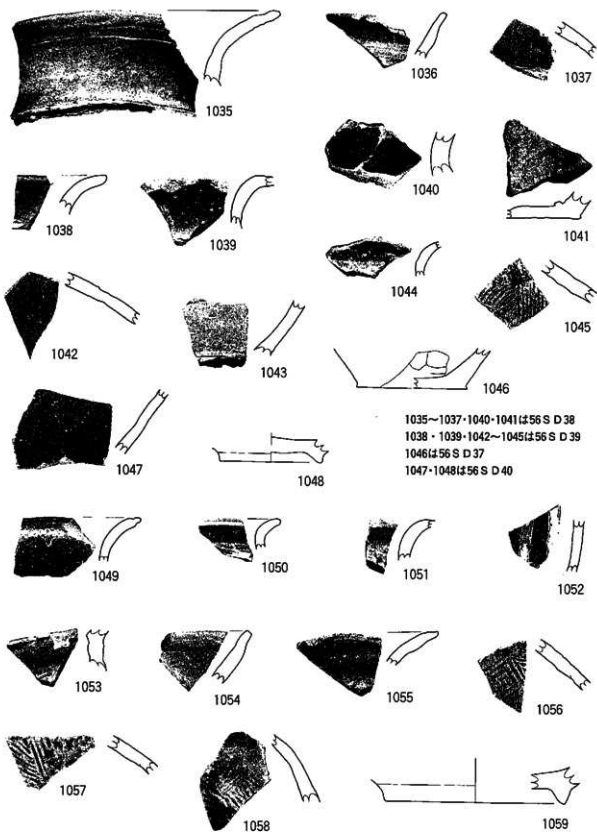
第20図 かわらけ(4)



第21図 常滑産陶器(1)



第22図 常滑産陶器(2)

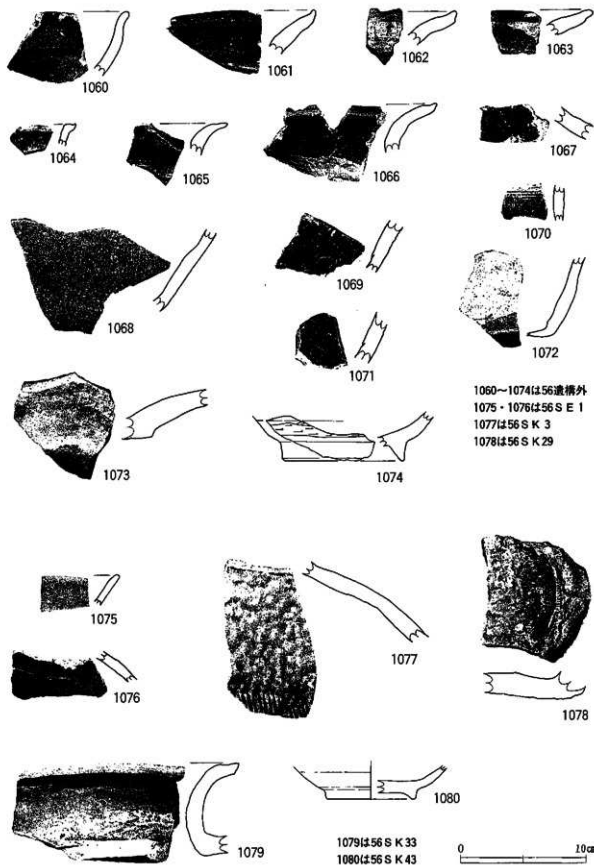


1035~1037・1040・1041は56 S D 38
 1038・1039・1042~1045は56 S D 39
 1046は56 S D 37
 1047・1048は56 S D 40

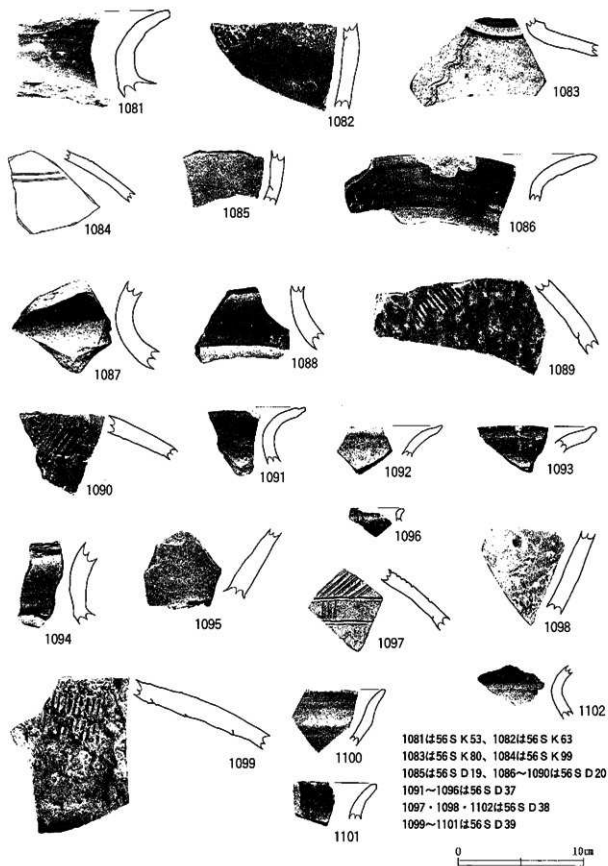
1049は56 S X 1、1050は56 S X 3、1051・1052は56 S整地層
 1053は56 S X 16、1054~1059は56遺構外

0 10cm

第23圖 常滑産陶器(3)

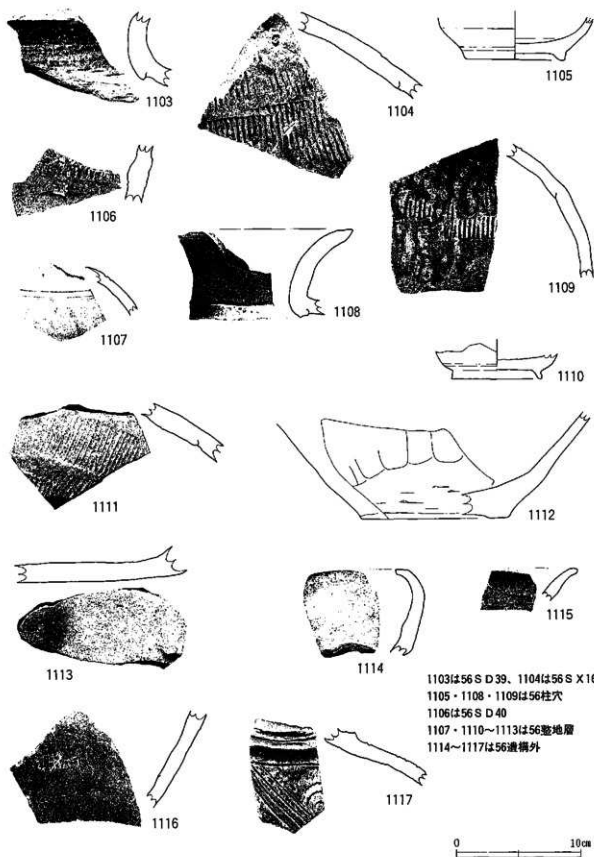


第24図 常滑産陶器(4)・瀬美産陶器(1)



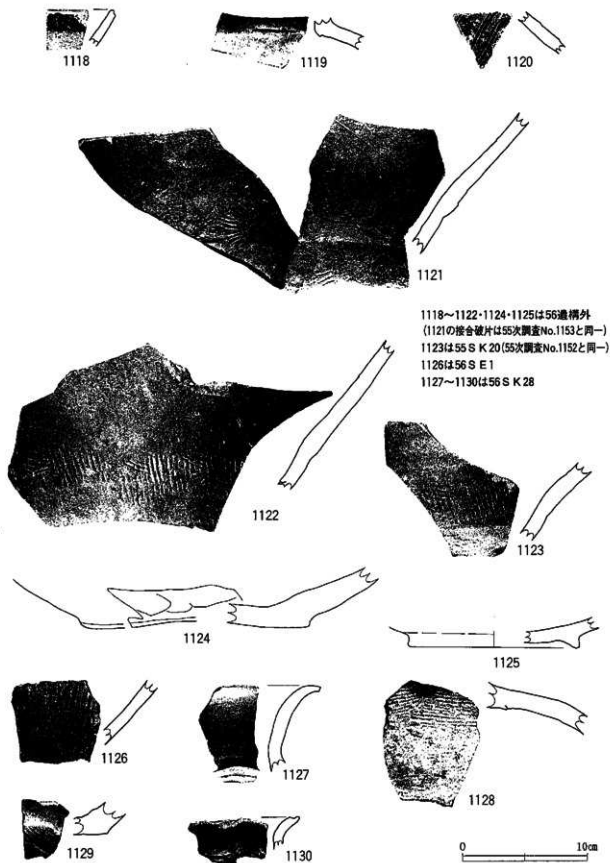
1081 \pm 56 S K 53、1082 \pm 56 S K 63
 1083 \pm 56 S K 80、1084 \pm 56 S K 99
 1085 \pm 56 S D 19、1086 \sim 1090 \pm 56 S D 20
 1091 \sim 1096 \pm 56 S D 37
 1097 \cdot 1098 \cdot 1102 \pm 56 S D 38
 1099 \sim 1101 \pm 56 S D 39

第25図 渥美産陶器(2)

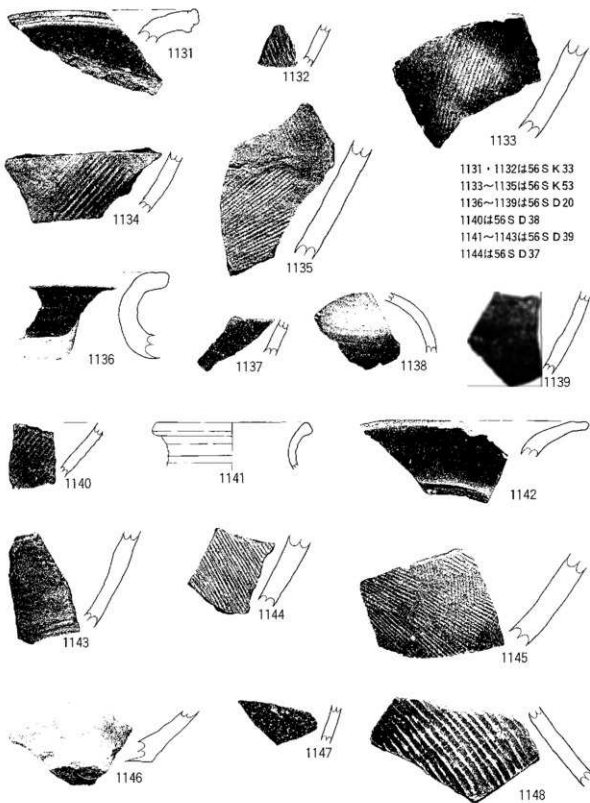


1103は56 S D 39、1104は56 S X 16
 1105・1108・1109は56柱穴
 1106は56 S D 40
 1107・1110～1113は56地層
 1114～1117は56遺構外

第26図 渥美産陶器(3)



第27図 渥美産陶器(4)・須恵器系陶器(1)

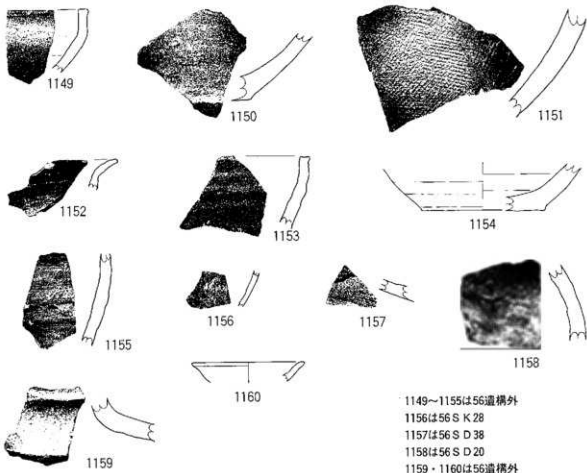


1131・1132は56 S K 33
 1133~1135は56 S K 53
 1136~1139は56 S D 20
 1140は56 S D 38
 1141~1143は56 S D 39
 1144は56 S D 37

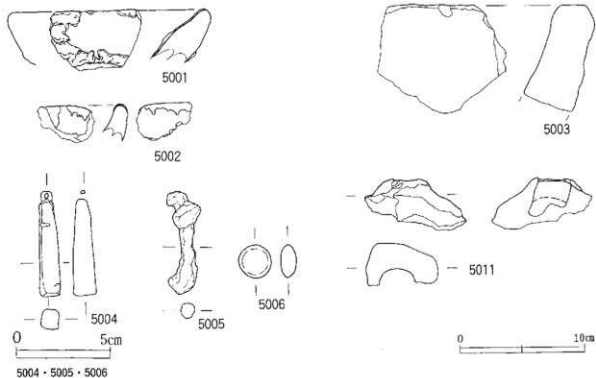
1145・1146は56 S x 1、1147は56整地層、1148は56柱穴

0 10cm

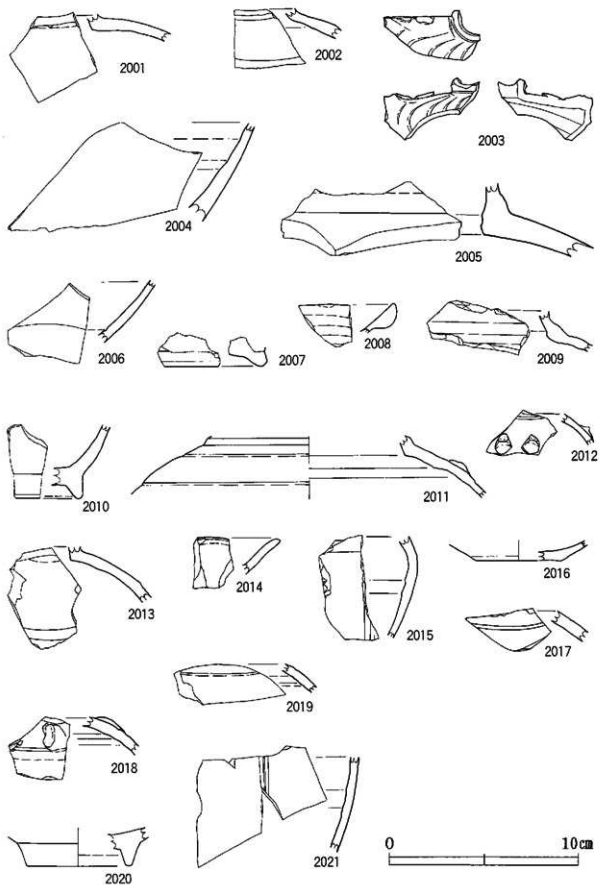
第28図 須恵器系陶器(2)



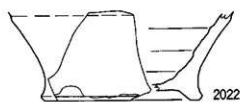
1149~1155は56遺構外
 1156は56 S K 28
 1157は56 S D 38
 1158は56 S D 20
 1159・1160は56遺構外



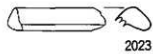
第29図 須恵系陶器(3)・その他の遺物



第30图 中国産陶磁器(1)



2022



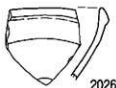
2023



2024



2025



2026



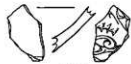
2027



2028



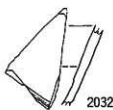
2029



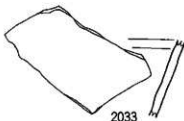
2030



2031



2032



2033



2034



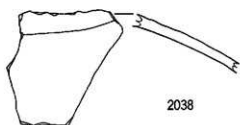
2035



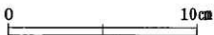
2036



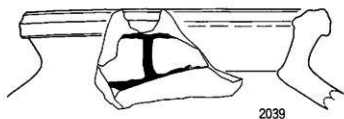
2037



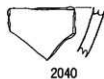
2038



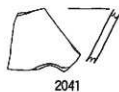
第31图 中国産陶磁器(2)



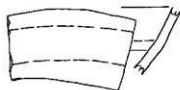
2039



2040



2041



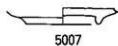
2042



2043



2044



5007



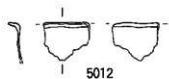
5008



5009



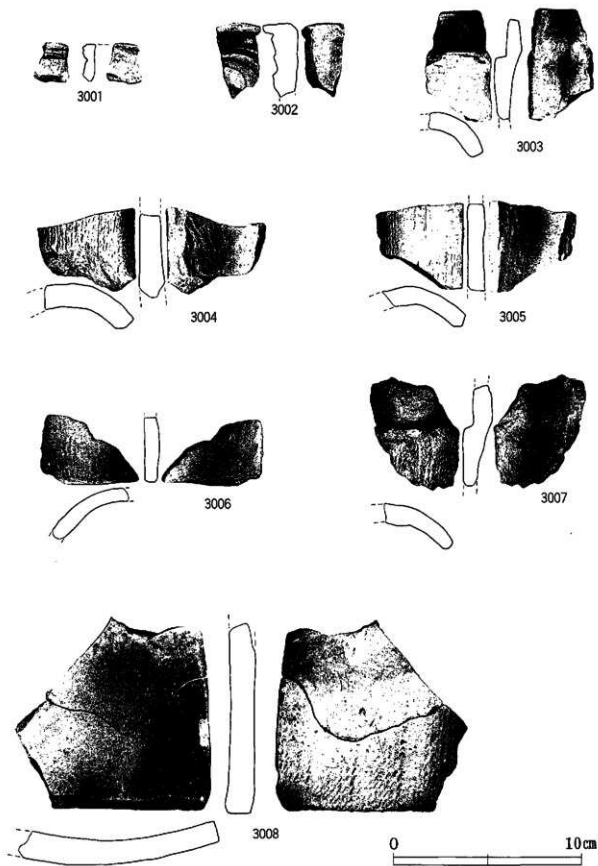
5010



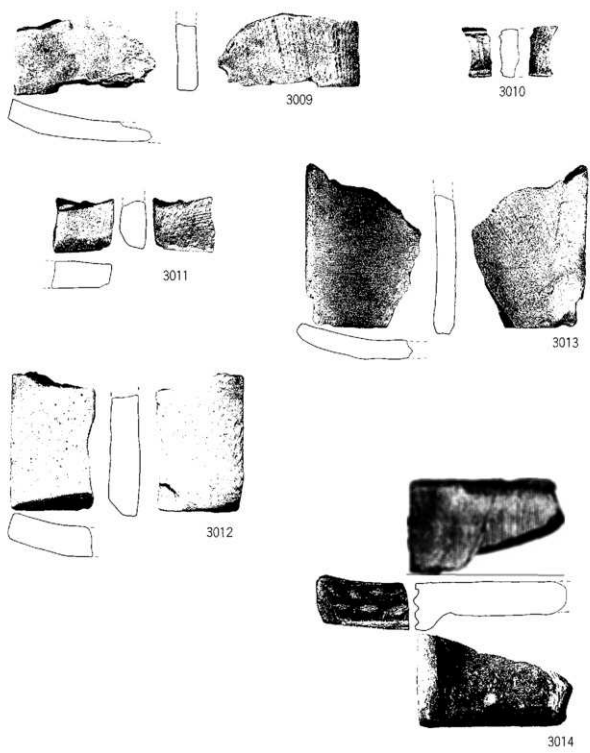
5012



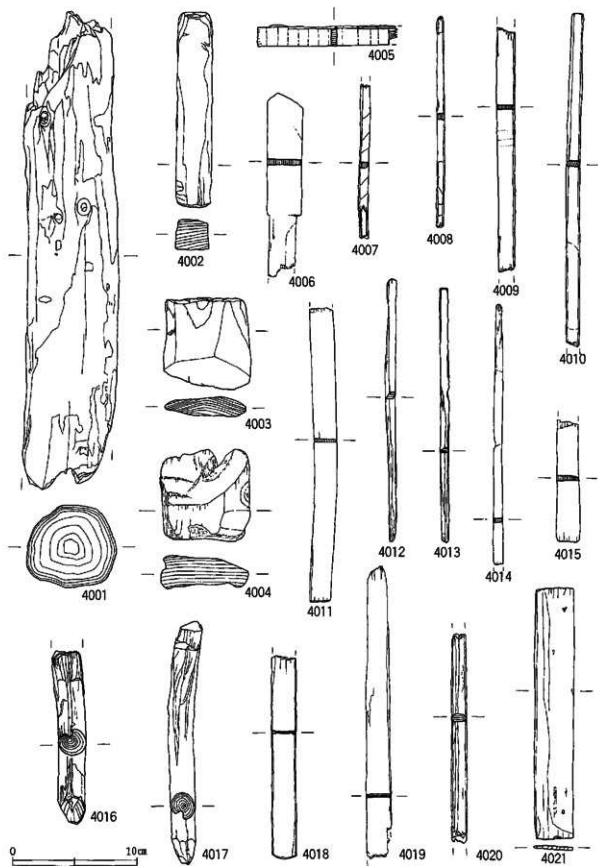
第32図 中国産陶磁器(3)ほか



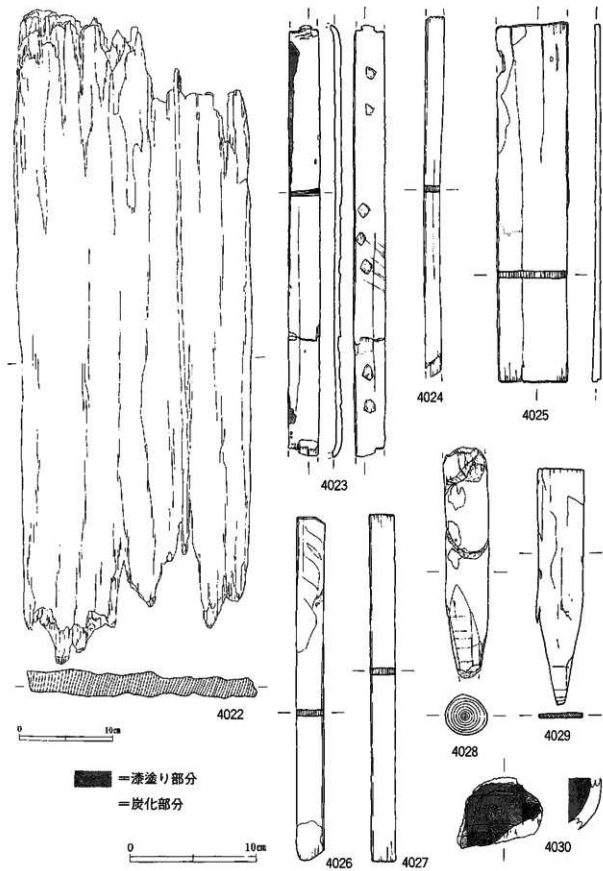
第33图 瓦 (1)



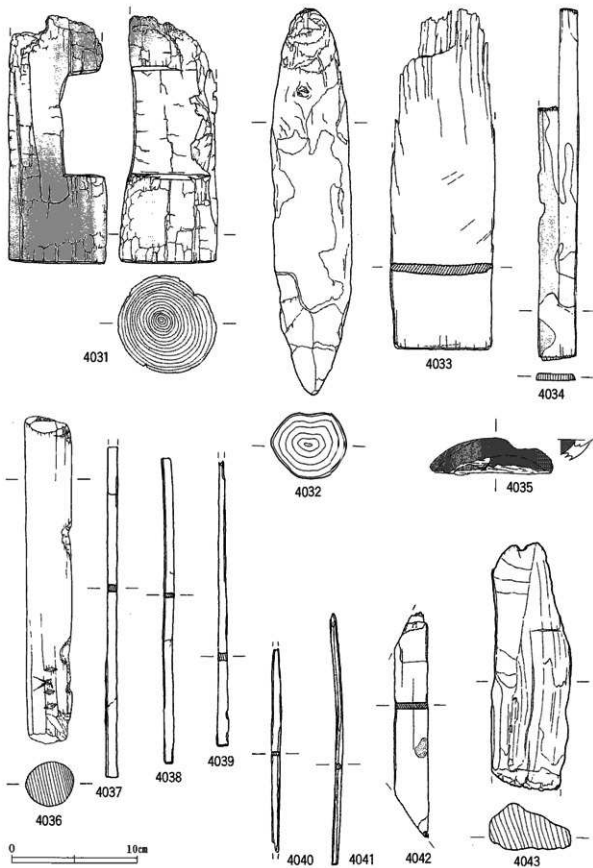
第34圖 瓦 (2)



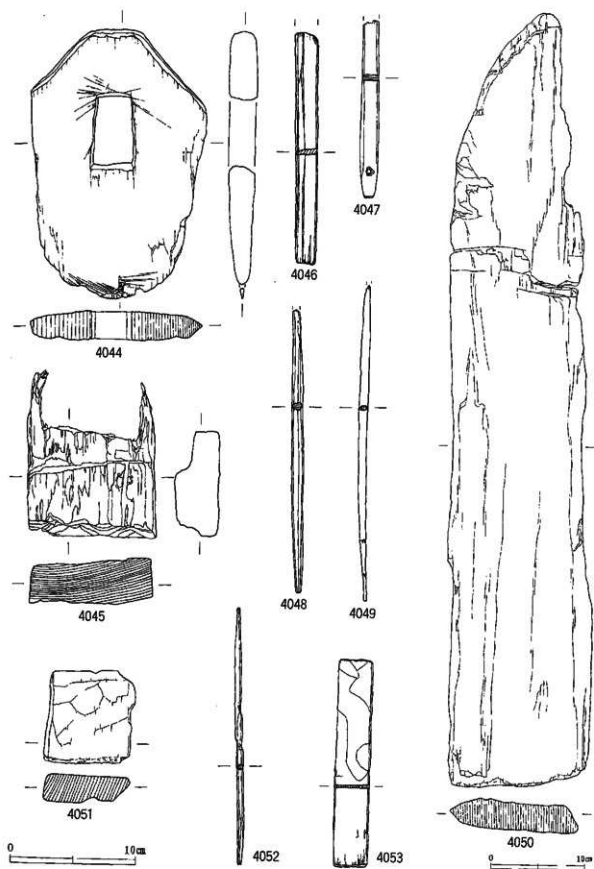
第35圖 木製品(1)



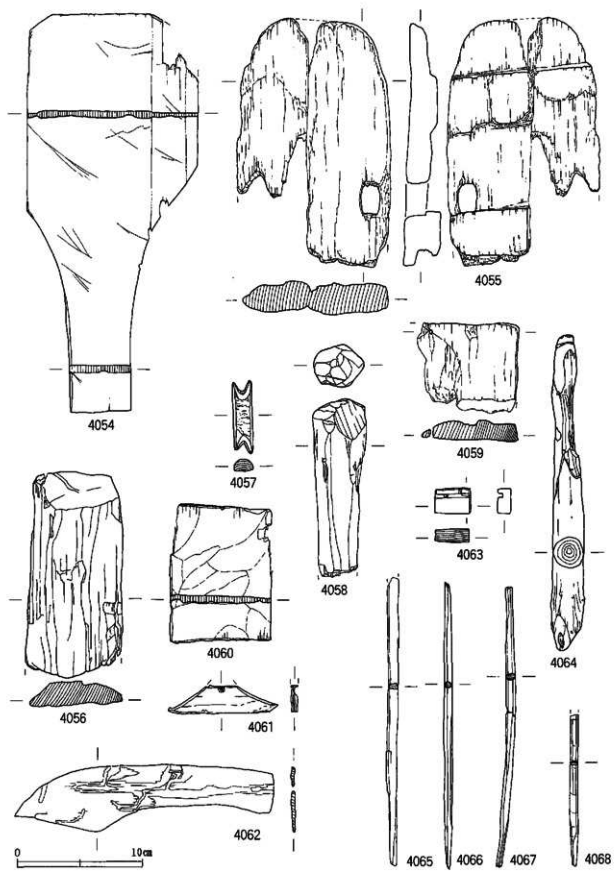
第36図 木製品(2)



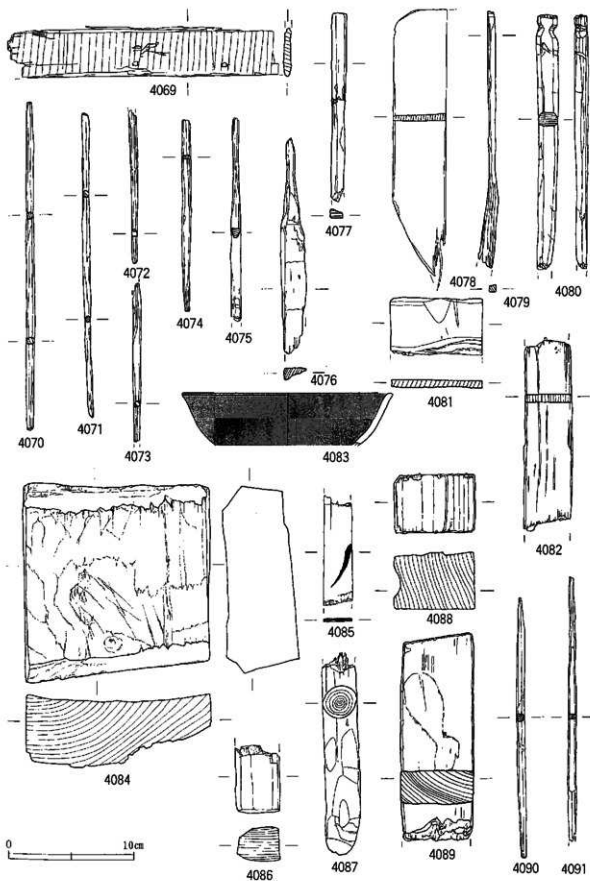
第37図 木製品（3）



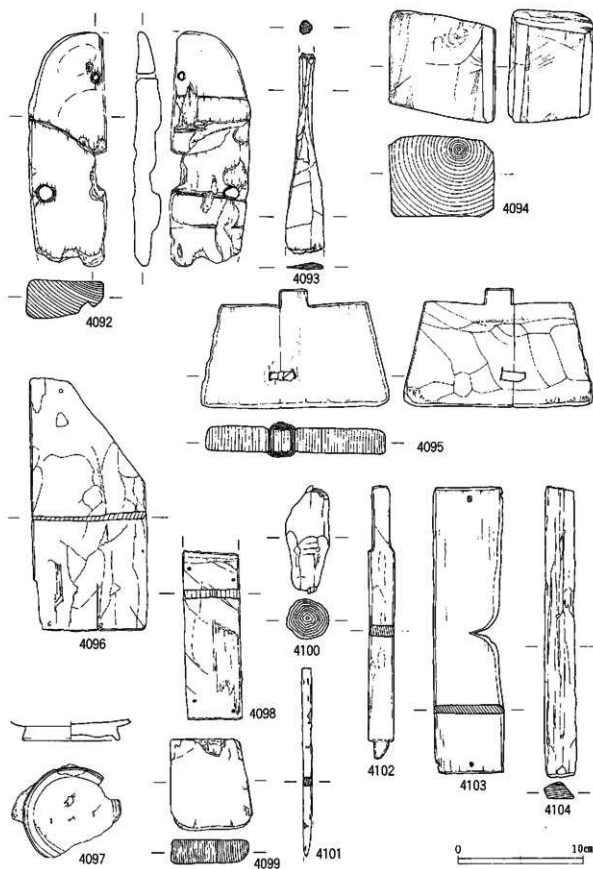
第38图 木製品(4)



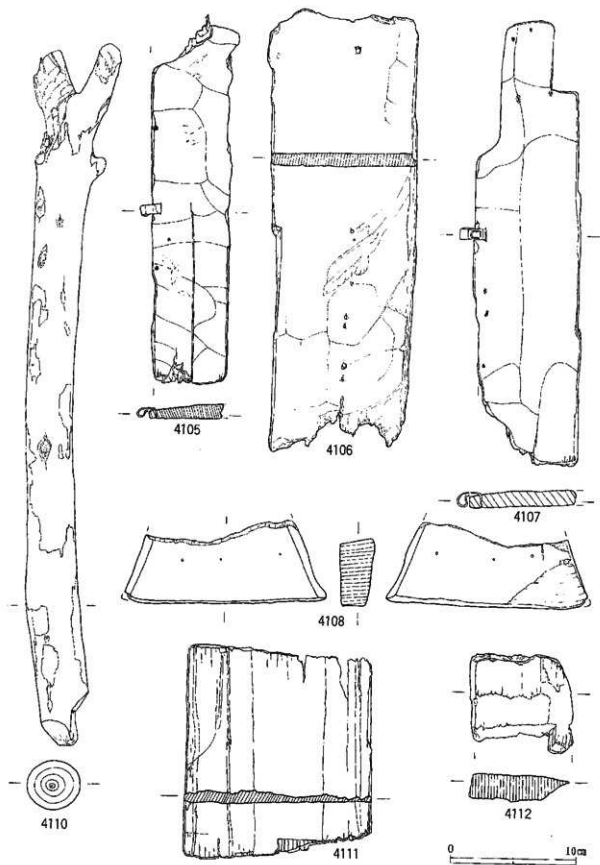
第39圖 木製品 (5)



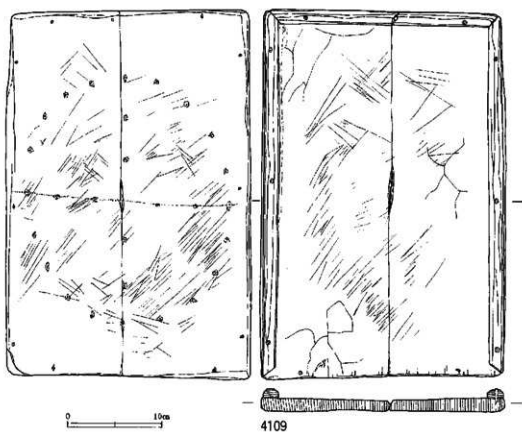
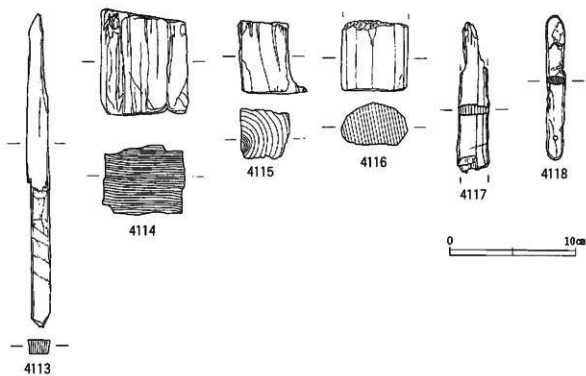
第40圖 木製品 (6)



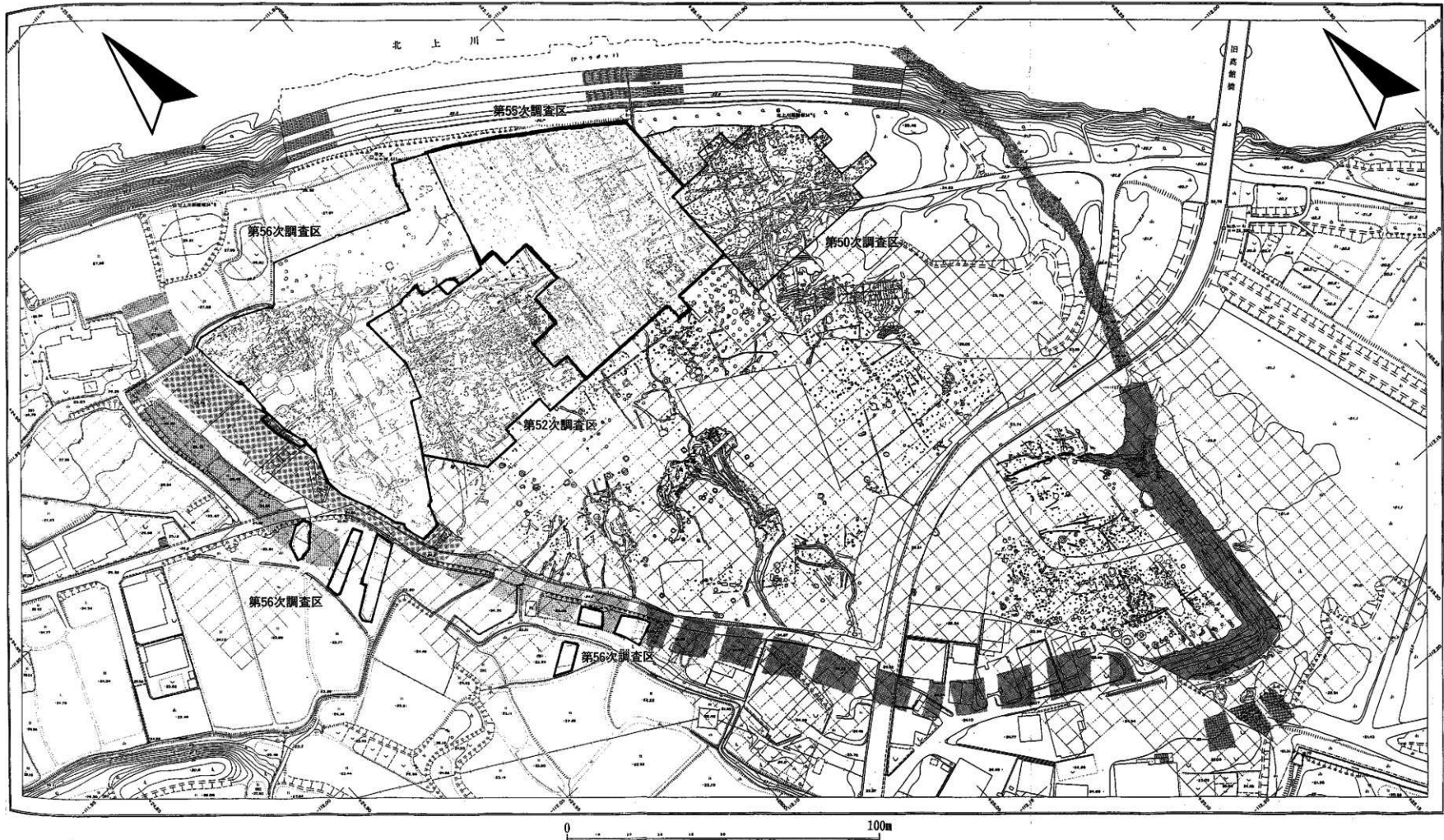
第41圖 木製品(7)



第42圖 木製品(8)



第43図 木製品(9)



第44図 柳之御所遺跡調査区全図

| 柱穴番号 | 標高 (m) | 深さ (cm) | 建物番号 |
|------|-----------|------------|-------|
| P1 | 28.279 | | |
| P2 | 28.250 | | |
| P3 | 28.213 | | |
| P4 | 28.251 | | |
| P5 | 28.173 | | |
| P6 | 28.222 | | 56SB7 |
| P7 | 28.230 | | |
| P8 | 28.239 | | |
| P9 | 28.227 | | |
| P10 | 28.222 | | |
| P11 | 28.221 | | |
| P12 | 28.217 | | |
| P13 | 28.230 | | |
| P14 | 28.228 | | |
| P15 | 28.212 | | |
| P16 | 28.227 | | |
| P17 | 28.232 | | |
| P18 | 28.205 | | 56SB1 |
| P19 | 28.218 | | |
| P20 | 28.215 | | 56SB2 |
| P21 | 28.224 | | 56SB6 |
| P22 | 28.204 | | |
| P23 | 28.219 | | |
| P24 | 28.197 | | |
| P25 | 28.182 | | |
| P26 | 28.181 | | |
| P27 | 28.180 | | |
| P28 | 28.189 | | |
| P29 | 28.195 | | |
| P30 | 28.182 | | |
| P31 | 28.170 | | |
| P32 | 28.166 | | |
| P33 | 28.177 | | 56SB1 |
| P34 | 28.170 | | |
| P35 | 28.198 | | |
| P36 | 28.158 | | |
| P37 | 28.180 | | 56SB6 |
| P38 | 28.164 | | |
| P39 | 21.168 | | 56SB2 |
| P40 | 21.160 | | |
| P41 | 28.137 | | |
| P42 | 28.150 | | |
| P43 | 28.160 | | |
| P44 | 28.177 | | |
| P45 | 28.180 | | |
| P46 | 28.102 | | |
| P47 | 28.090 | | |
| P48 | 28.131 | | 56SH1 |
| P49 | 28.134 | | |
| P50 | 28.090 | | |
| P51 | 28.114 | | 56SB6 |
| P52 | 28.111 | | |
| P53 | 28.120 | | |
| P54 | 28.128 | | 56SB2 |
| P55 | 28.110 | | |
| P56 | 28.102 | | |
| P57 | 28.090 | | |
| P58 | 28.084 | | |
| P59 | 28.098 | | |
| P60 | 28.074 | | |
| P61 | 28.053 | | 56SD1 |
| P62 | 28.057 | | |
| P63 | 28.212 | | 56SB2 |
| P64 | 28.183 | | 56SB6 |
| P65 | 28.169 | | |
| P66 | 28.154 | | |

| 柱穴番号 | 標高 (m) | 深さ (cm) | 建物番号 |
|------|-----------|------------|----------------|
| P67 | 28.150 | | |
| P68 | 28.167 | | |
| P69 | 28.196 | | |
| P70 | 27.831 | | 56SB7 |
| P71 | 27.789 | | |
| P72 | 27.980 | | |
| P73 | 27.995 | | |
| P74 | 28.156 | | |
| P75 | 28.154 | | 56SH6 |
| P76 | 28.135 | | |
| P77 | 28.143 | | |
| P78 | 28.161 | | |
| P79 | 28.131 | | |
| P80 | 28.133 | | |
| P81 | 28.119 | | |
| P82 | 28.125 | | |
| P83 | 28.110 | | |
| P84 | 28.156 | | |
| P85 | 28.179 | | 56SB7 56SH2 |
| P86 | 28.153 | | |
| P87 | 28.128 | | 56SD7 |
| P88 | 28.153 | | |
| P89 | 28.158 | | |
| P90 | 28.165 | | |
| P91 | 28.125 | | |
| P92 | 28.090 | | |
| P93 | 28.180 | | |
| P94 | 28.090 | | |
| P95 | 28.125 | | 56SB6 |
| P96 | 28.130 | | 56SB6 |
| P97 | 28.155 | | |
| P98 | 28.165 | | |
| P99 | 28.085 | | |
| P100 | 28.115 | | |
| P101 | 28.065 | | |
| P102 | 28.080 | | |
| P103 | 28.020 | | |
| P104 | 28.087 | | |
| P105 | 28.045 | | |
| P106 | 27.879 | | 56SB2 |
| P107 | 28.025 | | |
| P108 | 27.995 | | |
| P109 | 28.025 | | |
| P110 | 27.954 | | |
| P111 | 28.132 | | |
| P112 | 27.957 | | 56SB8 |
| P113 | 27.925 | | 56SB8 |
| P114 | 27.966 | | |
| P115 | 27.972 | | |
| P116 | 27.984 | | |
| P117 | 27.960 | | 56SD8 |
| P118 | 27.922 | | |
| P119 | 27.933 | | 56SB8 |
| P120 | 27.984 | | |
| P121 | 28.011 | | |
| P122 | 28.016 | | |
| P123 | 27.945 | | |
| P124 | 27.785 | | |
| P125 | 27.890 | | |
| P126 | 27.810 | | |
| P127 | 27.955 | | |
| P128 | 27.926 | | |
| P129 | 27.890 | | |
| P130 | 27.935 | | |
| P131 | 27.760 | | |

| 柱穴番号 | 標高 (m) | 深さ (cm) | 建物番号 |
|------|-----------|------------|-------|
| P132 | 27.692 | | |
| P133 | 28.195 | | |
| P134 | 28.185 | | |
| P135 | 28.185 | | 56SB6 |
| P136 | 27.933 | | |
| P137 | 27.959 | | |
| P138 | 27.925 | | |
| P139 | 27.892 | | |
| P140 | 27.868 | | |
| P141 | 27.905 | | |
| P142 | 27.918 | | |
| P143 | 27.810 | | |
| P144 | 27.745 | | |
| P145 | 27.725 | | |
| P146 | 27.700 | | |
| P147 | 27.706 | | |
| P148 | 27.695 | | |
| P149 | 27.660 | | |
| P150 | 27.620 | | |
| P151 | 27.580 | | |
| P152 | 28.089 | | 56SH6 |
| P153 | 28.104 | | |
| P154 | 28.115 | | 56SB6 |
| P155 | 28.100 | | |
| P156 | 28.088 | | |
| P157 | 28.075 | | |
| P158 | 28.028 | | |
| P159 | 28.034 | | |
| P160 | 28.120 | | 56SB6 |
| P161 | 28.150 | | |
| P162 | 28.155 | | 56SB6 |
| P163 | 28.130 | | 56SB6 |
| P164 | 28.170 | | |
| P165 | 28.160 | | |
| P166 | 28.140 | | |
| P167 | 28.185 | | |
| P168 | 28.170 | | |
| P169 | 28.195 | | |
| P170 | 28.170 | | |
| P171 | 28.095 | | 56SB6 |
| P172 | 28.030 | | |
| P173 | 28.060 | | |
| P174 | 27.950 | | |
| P175 | 28.150 | | |
| P176 | 27.875 | | |
| P177 | 28.055 | | |
| P178 | 28.055 | | |
| P179 | 28.035 | | |
| P180 | 28.030 | | |
| P181 | 27.905 | | |
| P182 | 27.845 | | |
| P183 | 27.835 | | |
| P184 | 28.030 | | |
| P185 | 28.020 | | |
| P186 | 28.020 | | |
| P187 | 28.000 | | |
| P188 | 28.010 | | |
| P189 | 27.980 | | |
| P190 | 27.965 | | |
| P191 | 27.915 | | |
| P192 | 27.770 | | |
| P193 | 27.760 | | |
| P194 | 27.880 | | |
| P195 | 27.885 | | |
| P196 | 27.785 | | |
| P197 | 28.090 | | |

柱穴計測表(1)

| 柱穴番号 | 標高 (cm) | 深さ (cm) | 建物番号 | 柱穴番号 | 標高 (cm) | 深さ (cm) | 建物番号 | 柱穴番号 | 標高 (cm) | 深さ (cm) | 建物番号 |
|------|------------|------------|-------|------|------------|------------|-------|------|------------|------------|----------------|
| P198 | 28,125 | | 56SD6 | P264 | 27,630 | 34.5 | | P331 | 28,270 | | |
| P199 | 27,860 | | | P265 | 27,568 | | | P332 | 28,245 | 18.0 | 56SD4 |
| P200 | 27,880 | | | P266 | 27,572 | | | P333 | 28,260 | 22.0 | |
| P201 | 27,730 | | | P267 | 27,572 | | | P334 | 28,370 | 49.5 | |
| P202 | | | | P268 | 27,576 | | | P335 | 28,150 | 24.0 | |
| P203 | 27,660 | | | P269 | 27,570 | | | P336 | 28,140 | 29.4 | |
| P204 | 27,740 | | | P270 | 27,560 | | | P337 | 28,260 | | |
| P205 | 27,766 | | | P271 | 27,558 | | | P338 | 28,135 | 21.5 | 56SH4 |
| P206 | 27,777 | | | P272 | 27,595 | | | P339 | 28,280 | 11.2 | 56SB4 |
| P207 | 27,756 | | | P273 | 27,533 | | | P340 | 28,200 | 29.8 | |
| P208 | 27,725 | | | P274 | 27,468 | | | P341 | 28,245 | 29.3 | |
| P209 | 28,020 | | | P275 | 27,428 | | | P342 | 28,295 | | |
| P210 | 27,860 | | | P276 | 27,468 | | | P343 | 28,180 | | |
| P211 | 27,940 | | | P277 | 27,394 | | | P344 | 28,215 | | |
| P212 | 27,843 | | | P278 | 27,393 | | | P345 | 28,285 | | |
| P213 | 27,832 | | | P279 | 27,390 | | | P346 | 28,195 | | 56SB7 |
| P214 | 28,145 | | | P280 | 27,460 | | | P347 | 28,255 | | |
| P215 | 27,744 | | | P281 | 27,568 | | | P348 | 28,275 | | |
| P216 | 28,998 | | | P282 | 27,651 | | | P349 | 28,160 | | |
| P217 | 27,862 | | | P283 | 27,630 | | | P350 | 28,175 | | |
| P218 | 27,000 | | | P284 | 27,614 | | | P351 | 28,215 | | |
| P219 | 27,799 | | | P285 | 27,612 | | | P352 | 28,185 | | |
| P220 | 27,764 | | | P286 | 27,390 | | | P353 | 28,175 | | |
| P221 | 27,765 | | | P287 | 27,585 | | | P354 | 28,290 | | |
| P222 | 27,724 | | | P288 | 27,616 | | | P355 | 28,195 | | 56SB2 |
| P223 | 27,728 | | | P289 | 27,620 | | | P356 | 28,085 | | 56SB7 |
| P224 | 27,734 | | | P290 | 27,636 | | | P357 | 28,125 | | 56SB2 |
| P225 | 27,744 | | | P291 | 27,605 | | | P358 | 28,275 | | 56SB7 |
| P226 | 27,719 | | | P292 | 27,604 | | | P359 | 28,265 | | |
| P227 | 27,755 | | | P293 | 27,862 | | | P360 | 28,170 | | 56SD7 |
| P228 | | | | P295 | 27,856 | | | P361 | 28,175 | | |
| P229 | 27,982 | | | P296 | 27,834 | | | P362 | 28,180 | | |
| P230 | 27,712 | | | P297 | 27,800 | | | P363 | 28,150 | | |
| P231 | 27,780 | | | P298 | 27,799 | | | P364 | 28,145 | | 56SB7 |
| P232 | 27,762 | | | P299 | 27,810 | | | P365 | 28,200 | | 56SD1 |
| P233 | 27,769 | | | P300 | 27,809 | | | P366 | 28,210 | | 56SB1 |
| P234 | 27,751 | | | P301 | 27,818 | | | P367 | 28,235 | | |
| P235 | 27,775 | | | P302 | 27,860 | | | P368 | 28,215 | | |
| P236 | 27,737 | | | P303 | 27,555 | | | P369 | 28,210 | | |
| P237 | 27,772 | | | P304 | 27,630 | | | P370 | 28,160 | | |
| P238 | 27,755 | | | P305 | 27,564 | | | P371 | 28,145 | | 56SH1 56SH2 |
| P239 | 27,598 | | | P306 | 27,609 | | | P372 | 28,170 | | |
| P240 | 27,600 | | | P307 | 27,927 | | | P373 | 28,170 | | |
| P241 | 27,590 | | | P308 | | | | P374 | 28,170 | | |
| P242 | 27,565 | | | P309 | 27,809 | | | P375 | 28,185 | | |
| P243 | 27,562 | | | P310 | 28,140 | | | P376 | 28,175 | | |
| P244 | 27,574 | | | P311 | 27,950 | | | P377 | 28,180 | | |
| P245 | 27,568 | | | P312 | 27,914 | | | P378 | 28,200 | | |
| P246 | 27,566 | | | P313 | 27,882 | | | P379 | 28,195 | | |
| P247 | 27,552 | | | P314 | 27,894 | | | P380 | 28,185 | | |
| P248 | 27,570 | | | P315 | 27,949 | | | P381 | 28,135 | 17.1 | |
| P249 | 27,523 | | | P316 | 27,873 | | | P382 | 28,115 | 15.9 | |
| P250 | 27,547 | | | P317 | 27,676 | | | P383 | 28,170 | 5.8 | |
| P251 | 27,571 | | | P318 | 27,774 | | | P384 | 28,230 | | |
| P252 | 27,572 | | | P319 | | | | P385 | 27,245 | | |
| P253 | 27,520 | | | P320 | 27,966 | | | P386 | 28,240 | | |
| P254 | 27,582 | | | P321 | 28,047 | | | P387 | 28,230 | | |
| P255 | 27,539 | | | P322 | | | | P388 | 28,235 | | |
| P256 | 27,549 | | | P323 | | | | P389 | 28,255 | | |
| P257 | 27,542 | | | P324 | 28,041 | | | P390 | 28,250 | 8.0 | |
| P258 | 27,587 | | | P325 | | | | P391 | 28,265 | 8.7 | |
| P259 | 27,586 | | | P326 | 28,205 | | | P392 | 28,260 | 18.8 | 56SH4 |
| P260 | 27,310 | | | P327 | 28,235 | | 56SH4 | P393 | 28,265 | 9.5 | |
| P261 | 27,685 | | | P328 | 28,160 | 15.4 | | P394 | 28,270 | 25.6 | |
| P262 | 27,712 | | | P329 | 28,230 | | | P395 | 28,290 | | |
| P263 | 27,673 | | | P330 | 28,250 | | | | | | |

柱穴計測表(2)

| 柱穴番号 | 標高 (m) | 深さ (cm) | 建物番号 |
|------|-----------|------------|-------|
| P396 | 28.510 | 21.4 | |
| P397 | 28.215 | 36.3 | 56SH4 |
| P398 | 28.220 | 37.0 | 56SB4 |
| P399 | 28.210 | | |
| P400 | 28.270 | | 56SB4 |
| P401 | 28.265 | 16.3 | |
| P402 | 28.240 | | |
| P403 | 28.175 | | |
| P404 | 28.095 | | |
| P405 | 28.120 | | |
| P406 | 28.185 | 28.5 | |
| P407 | 28.150 | | |
| P408 | 28.230 | 19.8 | |
| P409 | 27.750 | | |
| P410 | 28.260 | | 56SB4 |
| P411 | 27.860 | | |
| P412 | 28.265 | | |
| P413 | 28.270 | | |
| P414 | 28.230 | | |
| P415 | 28.260 | 15.6 | |
| P416 | 28.255 | 19.5 | |
| P417 | 28.245 | 8.0 | |
| P418 | 28.075 | 39.0 | |
| P419 | 28.065 | 39.7 | |
| P420 | 27.934 | 6.9 | |
| P421 | 28.170 | | |
| P422 | 28.095 | | |
| P423 | 28.225 | | |
| P424 | 28.210 | | |
| P425 | 28.235 | | |
| P426 | 28.080 | | |
| P427 | 28.281 | | |
| P428 | 28.225 | | |
| P429 | 28.185 | | |
| P430 | 28.050 | | 56SB2 |
| P431 | 28.160 | | |
| P432 | 27.905 | | |
| P433 | 27.835 | | |
| P434 | 27.855 | | |
| P435 | 28.000 | | |
| P436 | 27.895 | | |
| P437 | 27.870 | | |
| P438 | 27.970 | | 56SB1 |
| P439 | 28.175 | | |
| P440 | 28.175 | | |
| P441 | 28.140 | | |
| P442 | 28.045 | | |
| P443 | 27.815 | | |
| P444 | 27.825 | | 56SB3 |
| P445 | 27.990 | | 56SB2 |
| P446 | 27.940 | | 56SB1 |
| P447 | 27.935 | | 56SB2 |
| P448 | 27.880 | | 56SB2 |
| P449 | 27.775 | | |
| P450 | 27.755 | | |
| P451 | 28.115 | | |
| P452 | 27.985 | | |
| P453 | 28.245 | 41.7 | 56SB4 |
| P454 | 28.070 | | |
| P455 | 28.195 | | 56SB2 |
| P436 | 28.265 | 21.5 | |
| P457 | 28.230 | 14.2 | |
| P458 | 27.743 | | |
| P459 | 27.689 | | 56SB3 |
| P460 | 27.744 | | |
| P461 | 27.803 | | |

| 柱穴番号 | 標高 (m) | 深さ (cm) | 建物番号 |
|------|-----------|------------|-----------------|
| P462 | 28.140 | | |
| P463 | 28.125 | | |
| P464 | 28.130 | | 56SB1・ 56SB2 |
| P465 | 28.165 | | |
| P466 | 28.135 | | |
| P467 | 28.260 | | |
| P468 | 28.130 | | |
| P469 | 28.250 | | |
| P470 | 28.240 | | |
| P471 | 28.110 | | |
| P472 | 28.085 | | |
| P473 | 28.090 | | |
| P474 | 28.065 | | 56SB2 |
| P475 | 28.095 | | 56SB1 |
| P476 | 28.225 | | |
| P477 | | | |
| P478 | 28.020 | | |
| P479 | 28.145 | | |
| P480 | 28.090 | | |
| P481 | 27.960 | | |
| P482 | 27.950 | | |
| P483 | 27.930 | | |
| P484 | 27.810 | | |
| P485 | 28.175 | | |
| P486 | 28.120 | | |
| P487 | 27.870 | | 56SB1 |
| P488 | 27.940 | | |
| P489 | 27.835 | | 56SD2 |
| P490 | 27.880 | | |
| P491 | 27.850 | | |
| P492 | 27.915 | | 56SB1 |
| P493 | 27.960 | | |
| P494 | 27.940 | | |
| P495 | 27.920 | | |
| P496 | 28.015 | | |
| P497 | 28.005 | | |
| P498 | 28.020 | | |
| P499 | 27.955 | | |
| P500 | 27.975 | | |
| P501 | 27.965 | | |
| P502 | 27.880 | | 56SB2 |
| P503 | 27.855 | | 56SB1 |
| P504 | 27.875 | | |
| P505 | 27.945 | | |
| P506 | 27.889 | | |
| P507 | 27.985 | | |
| P508 | 27.975 | | |
| P509 | 27.950 | | |
| P510 | | | |
| P511 | 28.265 | | |
| P512 | 28.230 | | |
| P513 | 28.215 | | |
| P514 | 28.235 | | |
| P515 | 28.075 | | |
| P516 | 28.120 | | |
| P517 | 28.140 | | |
| P518 | 28.165 | | |
| P519 | 28.140 | | |
| P520 | 28.035 | | 56SB2 |
| P621 | 28.145 | | |
| P522 | 28.130 | | |
| P523 | 28.095 | | |
| P524 | 28.065 | | |
| P525 | 28.070 | | |
| P526 | 28.055 | | |

| 柱穴番号 | 標高 (m) | 深さ (cm) | 建物番号 |
|------|-----------|------------|-------|
| P527 | 28.000 | | |
| P528 | 27.955 | | |
| P529 | 27.870 | | |
| P530 | 27.915 | | 56SB2 |
| P531 | 27.945 | | |
| P532 | 27.935 | | |
| P533 | 27.890 | | |
| P534 | 27.875 | | 56SB2 |
| P535 | 27.845 | | |
| P536 | 27.850 | | |
| P537 | 27.860 | | |
| P538 | 27.910 | | |
| P539 | 27.830 | | |
| P540 | 27.890 | | 56SB2 |
| P541 | 27.925 | | 56SB2 |
| P542 | 27.995 | | 56SB2 |
| P543 | 27.975 | | |
| P544 | 28.180 | | |
| P545 | 28.095 | | 56SB2 |
| P546 | 27.945 | | |
| P547 | 28.120 | | |
| P548 | 28.160 | | |
| P549 | 27.955 | | 56SD1 |
| P550 | 28.045 | | 56SB1 |
| P551 | 28.165 | | |
| P552 | 28.150 | | |
| P553 | 27.855 | | |
| P554 | 27.975 | | |
| P555 | 27.935 | | |
| P556 | 27.965 | | |
| P557 | 27.950 | | |
| P558 | 27.830 | | |
| P559 | 27.975 | 21.3 | 56SH3 |
| P560 | 28.125 | | |
| P561 | 27.815 | | |
| P562 | 27.825 | | |
| P563 | 27.988 | 22.3 | |
| P564 | 27.890 | | |
| P565 | 27.860 | | 56SD1 |
| P566 | 27.970 | | |
| P567 | 27.755 | | |
| P568 | 27.820 | | 56SH1 |
| P569 | 28.065 | | 56SB1 |
| P570 | 28.115 | | |
| P571 | 28.095 | | |
| P572 | 27.975 | | |
| P573 | 27.890 | | |
| P574 | 28.160 | | 56SD1 |
| P575 | 27.930 | 20.2 | |
| P576 | 27.893 | | 56SB3 |
| P577 | 27.975 | 63.5 | 56SH5 |
| P578 | 27.735 | 44.9 | 56SB5 |
| P579 | 27.720 | 25.6 | 56SB3 |
| P580 | 27.945 | | |
| P581 | 27.870 | 17.2 | |
| P582 | 28.260 | 10.6 | |
| P583 | 28.295 | | |
| P584 | 28.265 | 19.1 | |
| P585 | 28.210 | 39.5 | 56SB4 |
| P586 | 28.085 | 13.5 | |
| P587 | 28.060 | | |
| P588 | 27.975 | | |
| P589 | 28.140 | | |
| P590 | 28.215 | | |
| P591 | 28.230 | | |
| P592 | 28.220 | | |

柱穴計測表(3)

| 番号 | 出土位置 | 分類 | 法京 (cm) | | 底径/口径 | 高さ | 底径/口径 | 高さ | 色調 | 透存率 (%) | 胎土 | 備考 | 図版 |
|----|-------------|------|---------|-----------|-------|------|-------|-------|-----|---------|----------|-------|----|
| | | | 口径 | 底径 | | | | | | | | | |
| 1 | SE1 埋土上層 | D 3 | 14.0 | — | 2.7 | — | 80.0 | 灰白 | 50 | 細砂 | | 17 25 | |
| 2 | SE1 16層 | D 3 | 9.0 | — | 2.3 | — | 50.0 | 淡黄 | 30 | 細砂 | | 17 — | |
| 3 | SE1 12層 | ワタロ小 | 9.2 | 5.0 | 2.2 | 0.65 | 30.0 | 灰白 | 30 | 砂、骨針 | すのこ版 | 17 — | |
| 4 | SE1 1層 | ワタロ小 | 9.6 | 5.8 | 1.8 | 0.60 | 30.0 | 黄橙 | 30 | 砂、骨針 | | 17 — | |
| 5 | SE1 17層(仮) | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | 17 — | |
| 6 | SK6 埋土 | C 3 | 15.6 | — | — | — | 20.0 | 淡黄橙 | 25 | 細砂 | 風化著しい | 17 — | |
| 7 | SK24 埋土 | ワタロ小 | 8.0 | 5.6 | 1.5 | 0.70 | 20.0 | 淡橙 | 25 | 砂、骨針 | | 17 — | |
| 8 | SK26 3層 | D 3 | 8.8 | — | 1.6 | — | 40.0 | 灰白 | 30 | 細砂 | すのこ版 | 17 25 | |
| 9 | SK26 8層 | ワタロ小 | 9.6 | 5.3 | 1.8 | 0.66 | 90.0 | 淡黄 | 95 | 砂、骨針 | | 17 25 | |
| 10 | SK26 5層 | ワタロ小 | 9.0 | 6.0 | 1.5 | 0.67 | 30.0 | 灰白 | 30 | 骨針 | | 17 25 | |
| 11 | SK27 19層(中) | D 3 | 12.0 | — | 2.1 | — | 50.0 | 灰白 | 45 | 細砂 | 底に紐目 | 17 — | |
| 12 | SK29 3・4層埋土 | ワタロ小 | 13.8 | — | — | — | 40.0 | 灰白 | 20 | 砂、骨針 | | 17 — | |
| 13 | SK27 9層 | ワタロ大 | 13.0 | 7.0 | 3.7 | 0.54 | 50.0 | 灰白 | 30 | 砂、骨針 | 風化著しい | 17 — | |
| 14 | SK28 埋土 | C 4 | 16.0 | — | 4.2 | — | 60.0 | 黄灰 | 30 | 細砂 | | 17 — | |
| 15 | SK28 埋土 | C 4 | 14.6 | — | 2.6 | — | 50.0 | 淡黄 | 40 | 細砂 | | 17 — | |
| 16 | SK26 埋土 | D 2 | 9.0 | — | 1.8 | — | 30.0 | 灰白 | 45 | 細砂 | 底に指紋 | 17 25 | |
| 17 | SK26 埋土 | D 4 | 13.4 | — | 3.0 | — | 60.0 | 灰白 | 40 | 細砂 | | 17 — | |
| 18 | SK26 埋土 | C 3 | 13.8 | — | — | — | 130.0 | 灰白 | 80 | 細砂 | すのこ版 | 17 25 | |
| 19 | SK28 10層 | 内折れ | 9.2 | — | 1.3 | — | 20.0 | 灰白 | 30 | 細砂、骨針 | | 17 25 | |
| 20 | SK28 埋土 | ワタロ小 | 9.4 | 5.5 | 1.7 | 0.69 | 30.0 | 淡黄 | 35 | 砂、骨針 | | 17 — | |
| 21 | SK28 埋土 | ワタロ小 | 9.0 | 6.1 | 2.3 | 0.68 | 80.0 | 灰白 | 95 | 砂、骨針 | | 17 25 | |
| 22 | SK29 3層 | D 3 | 14.0 | — | 2.8 | — | 60.0 | 灰白 | 40 | 細砂 | 内面黒 | 17 — | |
| 23 | SK29 3・5層 | C 3 | 15.2 | — | 3.5 | — | 40.0 | 灰白 | 30 | 細砂 | | 17 — | |
| 24 | SK31 1層 | C 3 | 15.6 | — | 2.8 | — | 30.0 | 淡黄橙 | 20 | 細砂 | | 17 — | |
| 25 | SK31 6層 | ワタロ小 | — | 6.4 (2.0) | — | — | 60.0 | 灰白 | 35 | 砂、骨針 | | 17 — | |
| 26 | SK33 7層 | D 2 | 14.0 | — | 3.0 | — | 140.0 | 淡黄 | 70 | 細砂 | すのこ版 | 17 25 | |
| 27 | SK33 6層 | D 2 | 14.1 | — | 3.0 | — | 165.0 | 灰白 | 95 | 細砂 | すのこ版 | 17 25 | |
| 28 | SK33 7層 | D 2 | 13.6 | — | 2.5 | — | 150.0 | 灰黄 | 80 | 細砂、金糸母 | | 17 25 | |
| 29 | SK33 10層 | D 3 | 14.0 | — | 2.8 | — | 190.0 | 灰白 | 100 | 細砂 | すのこ版 | 17 25 | |
| 30 | SK33 8層 | C 3 | 13.0 | — | 2.9 | — | 165.0 | 灰白 | 95 | 細砂 | すのこ版、内面黒 | 17 25 | |
| 31 | SK33 埋土 | C 4 | 14.0 | 7.4 | 3.0 | 0.53 | 100.0 | 淡黄 | 40 | 細砂 | すのこ版 | 17 25 | |
| 32 | SK33 8層 | D 3 | 9.3 | — | 1.9 | — | 75.0 | 灰白 | 100 | 細砂 | | 17 25 | |
| 33 | SK33 8層 | D 3 | 9.6 | — | 1.6 | — | — | 灰白 | 30 | 細砂、金糸母 | | 17 — | |
| 34 | SK33 8層 | D 3 | 8.4 | — | 1.6 | — | 20.0 | にぶい黄橙 | 40 | 細砂、内面黒 | | 17 — | |
| 35 | SK33 8層 | ワタロ小 | 8.0 | 5.6 | 1.9 | 0.70 | 50.0 | 灰白 | 60 | 砂、骨針 | | 17 — | |
| 36 | SK33 11層 | ワタロ小 | 8.4 | 6.0 | 1.7 | 0.71 | 20.0 | 灰白 | 30 | 砂、骨針 | | 17 — | |
| 37 | SK33 8層 | ワタロ小 | 9.2 | 5.4 | 1.8 | 0.59 | 20.0 | 灰黄 | 40 | 砂、骨針 | 貯土に金糸母 | 17 — | |
| 38 | SK33 7・36層 | ワタロ小 | 8.0 | 3.0 | 1.5 | 0.63 | 40.0 | 橙 | 60 | 砂、骨針 | | 17 25 | |
| 39 | SK34 14層 | C 4 | 14.0 | — | 3.3 | — | 200.0 | 灰白 | 100 | 細砂 | すのこ版 | 18 26 | |
| 40 | SK34 2層 | ワタロ小 | 9.2 | 6.2 | 1.9 | 0.67 | 50.0 | にぶい橙 | 40 | 砂、骨針 | | 18 — | |
| 41 | SK34 6層 | ワタロ小 | 8.4 | 6.0 | 1.8 | 0.71 | 50.0 | 淡黄橙 | 80 | 砂、骨針 | | 18 — | |
| 42 | SK52 埋土 | ワタロ小 | 8.4 | 5.4 | 1.8 | 0.64 | 20.0 | にぶい黄橙 | 50 | 砂、骨針 | | 18 — | |
| 43 | SK53 1・2層 | C 3 | 14.4 | — | — | — | 40.0 | 淡黄橙 | 20 | 砂 | | 18 — | |
| 44 | SK53 埋土 | ワタロ大 | 13.6 | 7.8 | 3.7 | 0.57 | 180.0 | 灰白 | 70 | 砂、骨針 | | 18 26 | |
| 45 | SK53 1・2層 | ワタロ大 | 16.4 | 7.6 | 3.8 | 0.46 | 50.0 | 淡黄橙 | 20 | 砂、骨針 | | 18 — | |
| 47 | SK53 13層 | ワタロ小 | 8.5 | 5.1 | 2.0 | 0.69 | 65.0 | 淡黄橙 | 95 | 砂、骨針 | すのこ版 | 18 — | |
| 48 | SK67 2層 | ワタロ小 | 9.3 | 6.0 | 1.6 | 0.65 | 20.0 | 灰白 | 20 | 骨針 | | 18 — | |
| 49 | SK80 埋土上層 | D 2 | 12.4 | — | 2.0 | — | 40.0 | 淡黄橙 | 25 | 細砂 | すのこ版 | 18 — | |
| 50 | SK80 埋土下層 | D 3 | 9.2 | — | 1.1 | — | 25.0 | にぶい黄橙 | 45 | 砂、骨針 | 二次焼熟 | 18 — | |
| 51 | SK80 埋土下層 | D 4 | 9.2 | — | 2.0 | — | 45.0 | 淡黄 | 50 | 細砂 | すのこ版 | 18 26 | |
| 52 | SK80 埋土 | C 4 | 14.6 | — | 2.7 | — | 105.0 | 淡黄 | 50 | 細砂、砂? | | 18 26 | |
| 53 | SK80 埋土 | C 3 | 15.0 | — | 3.5 | — | 145.0 | 灰白 | 50 | 細砂 | すのこ版 | 18 26 | |
| 54 | SK80 埋土下層 | ワタロ大 | 14.3 | 6.2 | 3.7 | 0.43 | 215.0 | 黄橙 | 70 | 砂、骨針 | | 18 26 | |
| 56 | SK80 埋土下層 | ワタロ小 | 8.6 | 5.8 | 1.4 | 0.67 | 65.0 | 灰白 | 75 | 砂、骨針 | | 18 26 | |
| 56 | SK80 埋土下層 | ワタロ小 | 9.0 | 6.4 | 1.8 | 0.71 | 45.0 | 灰白 | 50 | 砂、骨針 | | 18 26 | |
| 57 | SK99 埋土 | D 2 | 11.2 | — | 1.7 | — | 30.0 | 淡黄橙 | 20 | 細砂 | 内面黒 | 18 — | |
| 58 | SK99 南平 | D 3 | 12.6 | — | 2.5 | — | 75.0 | 淡黄橙 | 50 | 細砂 | すのこ版 | 18 26 | |
| 59 | SK99 南平 | D 4 | 13.4 | — | — | — | 40.0 | 橙 | 30 | 細砂 | | 18 — | |
| 60 | SK99 南平 | D 3 | 8.2 | 3.2 | 1.7 | 0.63 | 10.0 | にぶい黄橙 | 5 | 細砂 | | 18 — | |
| 61 | SK99 埋土 | D 3 | 8.8 | — | 1.5 | — | 10.0 | 淡黄 | 20 | 細砂 | すのこ版 | 18 — | |
| 62 | SK99 南平埋土 | D 4 | 10.4 | — | 2.0 | — | 70.0 | 灰白 | 100 | 細砂 | 口唇に黒 | 18 26 | |
| 63 | SK99 埋土 | ワタロ小 | 9.0 | 5.3 | 1.6 | 0.59 | 60.0 | 黄橙 | 100 | 砂、骨針 | | 18 26 | |
| 64 | SK99 南平 | ワタロ大 | 12.4 | 6.8 | (2.0) | 0.55 | 20.0 | 淡黄橙 | 10 | 砂、骨針 | | 18 — | |
| 65 | SK99 南平 | ワタロ小 | — | 5.0 (1.0) | — | — | 35.0 | にぶい黄橙 | 30 | 砂、骨針 | | 18 — | |
| 66 | SK99 南平 | ワタロ小 | — | 5.4 (1.5) | — | — | 50.0 | にぶい橙 | 40 | 砂、骨針 | | 18 — | |
| 67 | SD20 埋土 | D 3 | 14.0 | — | 3.8 | — | 70.0 | 淡黄橙 | 30 | 細砂 | 風化著しい | 18 — | |

かわらけ観察表 (1)

| 番号 | 出 土 位 置 | 分 類 | 法長 (cm) | | | 底径/ 口径 | 高さ (R) | 色 調 | 遺存率 (%) | 胎 土 | 備 考 | 図版 | 写真 掲載 |
|-----|-----------------------|------|---------|------|-------|-----------|-----------|------|------------|-------|------|----|----------|
| | | | 口径 | 底径 | 高さ | | | | | | | | |
| 68 | SD20 竪上 | D3 | 13.0 | - | 2.6 | - | 30.0 | にふい殻 | 25 | 細砂 | | 18 | - |
| 69 | SD20 竪下段 | ロタロ | - | 12.6 | (1.3) | - | 60.0 | 淡黄 | 5 | 砂、骨針 | | 18 | 26 |
| 70 | SD20 竪上 | ロタロ小 | 9.0 | 6.6 | 1.7 | 0.73 | 30.0 | 黄 | 50 | 砂、骨針 | | 18 | - |
| 71 | SD90 横出 | - | - | - | - | - | 20.0 | 淡黄 | - | - | 十割器か | 18 | - |
| 72 | SD38 27層 | D2 | 14.4 | - | 2.9 | - | 100.0 | 灰黄 | 45 | 細砂 | | 19 | - |
| 73 | SD38 27層 | D4 | 14.4 | - | 3.0 | - | 210.0 | にふい殻 | 95 | 細砂 | | 19 | 26 |
| 74 | T2 SD38 3層 | D3 | 8.8 | - | - | - | 30.0 | 淡黄 | 50 | 細砂 | | 19 | 26 |
| 75 | SD38 27層 | C3 | 13.2 | - | 3.2 | - | 150.0 | 淡黄 | 98 | 細砂 | | 19 | 26 |
| 76 | SD38 28層 | C4 | 15.4 | - | - | - | 100.0 | 淡黄 | 60 | 細砂 | すのこ板 | 19 | 27 |
| 77 | SD38 27層 | C3 | 9.2 | - | 2.0 | - | 40.0 | 灰白 | 60 | 細砂 | 底に指紋 | 19 | 27 |
| 78 | SD38 28層 | ロタロ大 | 13.0 | 6.5 | - | 0.43 | 80.0 | 灰白 | 40 | 骨針 | | 19 | 27 |
| 79 | SD38 27層 | ロタロ大 | 13.6 | 7.8 | 3.5 | 0.50 | 120.0 | 灰白 | 60 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 80 | SD38 14層 | ロタロ大 | 14.3 | 5.9 | 3.6 | 0.41 | 135.0 | 灰白 | 80 | 砂、骨針 | すのこ板 | 19 | 27 |
| 81 | SD38 27層 | ロタロ大 | 14.2 | 7.6 | 4.0 | 0.54 | 280.0 | 灰白 | 90 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 82 | SD38 28層 | ロタロ大 | 14.6 | 6.5 | 3.9 | 0.45 | 120.0 | 淡黄 | 45 | 砂、骨針 | | 19 | - |
| 83 | SD38 竪上 | 柱状器台 | - | 8.0 | (3.2) | - | 95.0 | 淡黄 | 45 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 84 | SD38 27層 | ロタロ小 | 9.4 | 5.5 | 2.0 | 0.59 | 50.0 | 淡黄 | 60 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 85 | T1 SD38 竪上 | ロタロ小 | 9.2 | 7.4 | 1.7 | 0.80 | 60.0 | 淡黄 | 70 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 86 | SD38 27層 | ロタロ小 | 8.6 | 5.3 | 1.6 | 0.62 | 60.0 | にふい殻 | 100 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 87 | SD38 28層 | ロタロ小 | 8.6 | 5.7 | 2.0 | 0.66 | 60.0 | にふい殻 | 70 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 88 | SD38 27層 | ロタロ小 | 8.8 | 5.8 | 1.9 | 0.66 | 50.0 | 淡黄 | 50 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 89 | SD38 28層 | ロタロ小 | 9.2 | 6.3 | 1.7 | 0.68 | 60.0 | 灰白 | 80 | 砂、骨針 | | 19 | 27 |
| 90 | T2 SD38 竪上 | D3 | 13.8 | - | 3.0 | - | 50.0 | 灰白 | 30 | 細砂 | | 19 | 27 |
| 91 | T2 SD38 竪上 | D3 | 16.0 | - | 3.3 | - | 200.0 | 灰白 | 95 | 細砂 | すのこ板 | 19 | 27 |
| 92 | T2 SD38 27層 | D4 | 14.2 | - | 3.2 | - | 195.0 | 灰白 | 95 | 細砂 | すのこ板 | 19 | 27 |
| 93 | T2 SD38 28層 | D4 | 14.2 | - | 3.1 | - | 160.0 | 灰白 | 100 | 細砂 | | 19 | 28 |
| 94 | T2 SD90 皿・ R材、1-3層 | D4 | 13.2 | - | - | - | 100.0 | 灰白 | 80 | 細砂 | | 19 | 28 |
| 95 | T2 竪出 瓦層 | ロタロ大 | 13.4 | 6.8 | 4.1 | 0.44 | 70.0 | 灰白 | 30 | 骨針 | | 19 | - |
| 96 | T2 竪出層 SD38-39の間 | ロタロ大 | 13.4 | 7.6 | - | 0.57 | 120.0 | 淡黄 | 50 | 骨針 | | 19 | 28 |
| 97 | T4 SD38 1-3層 | D3 | 10.0 | - | 2.4 | - | 30.0 | 灰白 | 60 | 細砂 | | 19 | - |
| 98 | T4 SD38 13層 | D4 | 13.6 | - | 3.2 | - | 120.0 | 淡黄 | 50 | 細砂 | すのこ板 | 19 | 28 |
| 99 | T4 SD38 13層 | C3 | 14.0 | - | 2.8 | - | 60.0 | 淡黄 | 30 | 細砂 | 底に指紋 | 19 | - |
| 100 | T4 SD38 13層 | ロタロ大 | 14.4 | 6.6 | 3.8 | 0.46 | 170.0 | 灰白 | 60 | 砂、骨針 | | 19 | 28 |
| 101 | T4 横土中 | ロタロ大 | 13.8 | 6.2 | 3.3 | 0.45 | 110.0 | 淡黄 | 60 | 砂、骨針 | | 19 | 28 |
| 102 | T4 SD38 竪上 | ロタロ大 | 14.0 | 7.6 | 3.8 | 0.54 | 210.0 | 灰白 | 95 | 砂、骨針 | | 19 | 28 |
| 103 | T4 SD38 11-25層 | ロタロ小 | - | 5.0 | (2.5) | - | 20.0 | 黄 | 5 | 砂、骨針 | | 19 | - |
| 104 | T4 SD38 15層 | ロタロ小 | 9.0 | 5.7 | 2.3 | 0.63 | 60.0 | 灰白 | 60 | 砂、骨針 | | 19 | 28 |
| 105 | SD40 南武蔵野土 | ロタロ小 | 12.8 | 5.2 | 3.8 | 0.41 | 50.0 | 淡黄 | 40 | 砂、骨針 | | 20 | 28 |
| 106 | SD40 竪上 63-53 | ロタロ小 | 8.8 | - | 2.0 | - | 10.0 | 淡黄 | 20 | 砂、骨針 | | 20 | 28 |
| 107 | SD40 竪上 63-52 | ロタロ小 | - | 4.7 | (1.2) | - | 40.0 | 黄 | 65 | 砂、骨針 | | 20 | 28 |
| 108 | 竪出層 北平 | ロタロ小 | 8.0 | 5.7 | - | 0.71 | 30.0 | 淡黄 | 70 | 砂、骨針 | | 20 | 28 |
| 109 | 竪出層 北平 | ロタロ小 | 8.6 | 6.0 | 2.0 | 0.70 | 30.0 | にふい殻 | 40 | 砂、骨針 | | 20 | 28 |
| 110 | 竪出層 北平・ 北高野原土 | ロタロ小 | 8.4 | 6.5 | 2.2 | 0.77 | 80.0 | にふい殻 | 100 | 砂、骨針 | | 20 | 28 |
| 111 | 西側壁柱礎 上層 | C3 | 15.4 | - | 3.5 | - | 225.0 | 淡黄 | 100 | 細砂 | すのこ板 | 20 | 28 |
| 112 | 竪出層 南平上層 | D3 | 8.6 | - | 2.4 | - | 50.0 | 淡黄 | 80 | 細砂 | | 20 | 28 |
| 113 | SK99 西平上層 | D3 | 9.2 | - | 2.0 | - | 40.0 | 淡黄 | 80 | 砂 | | 20 | 29 |
| 114 | 竪出層 南平上層 | D3 | 8.6 | - | 1.7 | - | 40.0 | 淡黄 | 70 | 細砂 | | 20 | 29 |
| 115 | 竪出層 南平上層 | D3 | 8.8 | - | 2.0 | - | 50.0 | 淡黄 | 100 | 細砂 | | 20 | 29 |
| 116 | 竪出層 南平上層 | D4 | 14.4 | - | 3.0 | - | 110.0 | 灰白 | 95 | 細砂 | | 20 | 29 |
| 117 | 竪出層 南平上層 | C3 | 9.0 | - | 2.0 | - | 50.0 | 灰白 | 95 | 細砂 | | 20 | 29 |
| 118 | 竪出層 南平上層 | D4 | 8.6 | - | 2.2 | - | 60.0 | 淡黄 | 100 | 細砂 | | 20 | 29 |
| 119 | 竪出層 南平上層 | ロタロ大 | 14.2 | 6.3 | 4.2 | 0.44 | 200.0 | 黄 | 95 | 粗砂、骨針 | | 20 | 29 |
| 120 | 竪出層 南平上層 | ロタロ大 | 13.6 | 6.6 | 3.3 | 0.49 | 100.0 | 黄 | 60 | 砂、骨針 | | 20 | 29 |
| 121 | 竪出層 南平上層 | ロタロ小 | 9.0 | 5.9 | 2.7 | 0.66 | 60.0 | 黄 | 95 | 砂、骨針 | | 20 | 29 |
| 122 | 竪出層 南平上層 | ロタロ小 | 7.2 | 4.0 | 1.6 | 0.56 | 20.0 | 淡黄 | 70 | 砂、骨針 | 洗滌最小 | 20 | 29 |
| 123 | 竪出層 南平上層 | ロタロ小 | 9.2 | 6.8 | 1.7 | 0.74 | 120.0 | 淡黄 | 98 | 砂、骨針 | | 20 | 29 |
| 124 | 竪出層 南平上層 | ロタロ小 | 9.0 | 5.2 | 1.7 | 0.58 | 50.0 | 淡黄 | 98 | 砂、骨針 | | 20 | 29 |
| 125 | 竪出層 南平上層 | ロタロ小 | 8.8 | 6.2 | 1.7 | 0.70 | 50.0 | 淡黄 | 100 | 砂、骨針 | | 20 | 29 |
| 126 | 竪出層 南平上層 | 柱状器台 | - | 3.8 | (1.9) | - | - | 黄 | 30 | - | | 20 | - |

かわらけ観察表(2)

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 年代など | 色調 | その他 | 版取 | 写真 面取 |
|------|----|-----|--------|-----------------|-------|-------|-------------|----|----------|
| 1001 | 常滑 | 壺か | 胴部 | SK26 埴土 | 12C | オリーブ灰 | | 21 | 31 |
| 1002 | 常滑 | 片口鉢 | 底部 | SK28 9層 | 12C | 黄灰 | ヘラケズリ | 21 | 29 |
| 1003 | 常滑 | 壺 | 体部 | SK28 埴土 | 12C | 暗オリーブ | 外面に輪 | 21 | 31 |
| 1004 | 常滑 | 壺か | 口縁部 | SK33 2層 | 12C | 暗オリーブ | | 21 | 31 |
| 1005 | 常滑 | 広口壺 | 胴部 | SK33 6・8層 | 12C | 暗オリーブ | 3型式の壺か、外面に輪 | 21 | 31 |
| 1006 | 常滑 | 壺 | 底部 | SK33 埴土 | 12C | 黒褐 | | 21 | 31 |
| 1007 | 常滑 | 片口鉢 | 底部 | SK52 埴土 | 12C | 灰黄 | ヘラケズリ、外面に煤 | 21 | 31 |
| 1008 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SK53 13層 | 12C | オリーブ | 2型式か | 21 | 31 |
| 1009 | 常滑 | 壺 | 体部 | SK53 1・2層 | 12C | にぶい黄橙 | 押印 | 21 | 31 |
| 1010 | 常滑 | 壺 | 体部 | SK53 8-13層 | 12C | オリーブ黄 | | 21 | 31 |
| 1011 | 常滑 | 壺 | 体部 | SK53 1・2層 | 12C | 暗灰黄 | 2種類の押印 | 21 | 32 |
| 1012 | 常滑 | 壺 | 体部 | SK94 埴土 | 12C | にぶい赤褐 | 底部に近い部分か | 21 | 32 |
| 1013 | 常滑 | 壺 | 胴部 | SD19 (埴地層南半) | 12C | オリーブ | 外面に輪 | 21 | 32 |
| 1014 | 常滑 | 片口鉢 | 口縁部 | SD20 埴土(66-53) | 12C | 灰白 | 外面ヘラケズリ | 21 | 32 |
| 1015 | 常滑 | 片口鉢 | 底部 | SJ20 埴土 | 12C | 灰白 | 外面ヘラケズリ | 21 | 30 |
| 1016 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SD20(64-53) | 12C | にぶい赤褐 | 長頸壺か | 22 | 32 |
| 1017 | 常滑 | 壺 | 胴部 | SD20 埴土66-53 | 12C | 灰褐 | 突帯がつく | 22 | 32 |
| 1018 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD20 埴土 | 12C | 灰褐 | 突帯、輪の流れ | 22 | 32 |
| 1019 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SD20 埴土 | 12C | 褐灰 | 1b型式か | 22 | 32 |
| 1020 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD20 埴土 | 12C | にぶい黄 | | 22 | 32 |
| 1021 | 常滑 | 壺 | 胴部 | SD20(64-53) | 12C | 灰オリーブ | 3型式、胴部黒色 | 22 | 32 |
| 1022 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD20 埴土 | 12C | オリーブ灰 | | 22 | 32 |
| 1023 | 常滑 | 壺 | 胴部 | SD20 埴土 | 12C | オリーブ黄 | 2型式 | 22 | 32 |
| 1024 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD20 埴土 | 12C | 灰褐 | 押印、帯突か | 22 | 32 |
| 1025 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD20 埴土 | 12C | 暗青褐 | 2種類の押印 | 22 | 32 |
| 1026 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD20 埴土(59-60) | 12C | 黒褐 | 押印 | 22 | 32 |
| 1027 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SD37(T2) 1層 | 12C | 灰オリーブ | | 22 | 33 |
| 1028 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SD37(T2) 埴土 | 12C | オリーブ黄 | | 22 | 33 |
| 1029 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SD37(T2) 埴土 | 12C | 灰オリーブ | 2-3型式 | 22 | 33 |
| 1030 | 常滑 | 壺 | 胴部 | SD37(T3) | 12C | 灰赤 | 中国産陶器か | 22 | 33 |
| 1031 | 常滑 | 片口鉢 | 体部 | SD37(T2) 1層 | 12C | 灰白 | ヘラケズリ | 22 | 33 |
| 1032 | 常滑 | 広口壺 | 胴部 | SD37(T2) 埴土 | 12C | 灰青黄 | 外面に輪の流れ | 22 | 33 |
| 1033 | 常滑 | 壺 | 底部 | SD37(T3) | 12C | 黄灰 | 帯突か | 22 | 33 |
| 1034 | 常滑 | 壺 | 底部 | SD37(T2) 埴土 | 12C | 暗青灰 | 内面に輪 | 22 | 33 |
| 1035 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SD38(T1) | 12C | 褐灰 | 口縁に沈線 | 22 | 33 |
| 1036 | 常滑 | 片口鉢 | 口縁部 | SD38(T2) 1・2層 | 12C | 褐灰 | | 22 | 33 |
| 1037 | 常滑 | 三站壺 | 胴部 | SD38 19層 | 12C | 灰オリーブ | 内面無輪 | 22 | 33 |
| 1038 | 常滑 | 壺か | 口縁部 | SD39(T4) 埴土 | 12C | 灰赤 | 中国産陶器か | 22 | 33 |
| 1039 | 常滑 | 広口壺 | 口縁部 | SD39(T1) 埴土 | 12C | 灰オリーブ | 2-3型式、内面自然輪 | 22 | 33 |
| 1040 | 常滑 | 壺 | 胴部 | SD38(59-66) 3層 | 12C | 褐灰 | | 22 | 33 |
| 1041 | 常滑 | 壺 | 底部 | SD38(58-66) 3層 | 12C | オリーブ灰 | 胎土に小礫多量 | 22 | 33 |
| 1042 | 常滑 | 壺か | 体部 | SD39(T4) 8層 | 12C | 黒褐 | | 22 | 33 |
| 1043 | 常滑 | 片口鉢 | 底部 | SD39(T1) | 12C | 黄灰 | ヘラケズリ | 22 | 33 |
| 1044 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SD39(T2) | 12C | オリーブ灰 | 黄の可能性ある | 22 | 33 |
| 1045 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD38(T1) 埴土 | 12C | 暗オリーブ | 押印 | 22 | 33 |
| 1046 | 常滑 | 壺 | 底部 | SD37(T3) | 12C | にぶい橙 | | 22 | 30 |
| 1047 | 常滑 | 壺 | 体部 | SD40 横断面(63-53) | 12C | 暗赤褐 | 広口壺か | 22 | 33 |
| 1048 | 常滑 | 山形壺 | 底部 | SD40 埴土(62-52) | 12C | 灰白 | | 22 | 30 |
| 1049 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SX1 2層 | 12C | 暗赤褐 | 1b-2型式か | 22 | 33 |
| 1050 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | SX3 埴土 | 12C | 灰オリーブ | | 22 | 33 |
| 1051 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | 豊地層北半 | 12C | 灰オリーブ | | 22 | 33 |
| 1052 | 常滑 | 壺か | 体部 | 豊地層北半 | 12C | 黒褐 | 輪の流れ | 22 | 33 |
| 1053 | 常滑 | 壺 | 胴部 | SX16輪出面 | 12C | 灰 | 須臾系系陶器か | 22 | 33 |
| 1054 | 常滑 | 片口鉢 | T2 盤地層 | 12C | 灰白 | | | 22 | 34 |
| 1055 | 常滑 | 壺 | T2 皿層 | 12C | 黄灰 | | | 22 | 33 |
| 1056 | 常滑 | 壺 | T2 皿層 | 12C | 灰オリーブ | | 帯突か | 22 | 34 |
| 1057 | 常滑 | 壺 | T2 皿層 | 12C | 灰オリーブ | | 押印 | 22 | 34 |
| 1058 | 常滑 | 壺 | T2 皿層 | 12C | にぶい赤褐 | | 押印 | 22 | 34 |
| 1059 | 常滑 | 片口鉢 | T4 | 12C | 灰白 | | | 22 | 30 |
| 1060 | 常滑 | 片口鉢 | SX8-51 | 12C | 褐灰 | | | 22 | 34 |
| 1061 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | 59-59 | 12C | 黒褐 | | 22 | 34 |
| 1062 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | 灰黄 | 12C | 灰黄 | 中国産陶器か | 22 | 34 |
| 1063 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | 灰黄 | 12C | にぶい赤褐 | | 22 | 34 |
| 1064 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | 74-49 | 12C | 灰 | | 22 | 34 |
| 1065 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | 50-59 | 12C | 赤褐 | 内面に輪 | 22 | 34 |
| 1066 | 常滑 | 壺 | 口縁部 | 67-54 68-54 | 12C | 黒褐 | 内面に輪 | 22 | 34 |

国産陶器観察表(1)

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 年代など | 色調 | その他 | 図版 | 写真 掲載 |
|------|------|------|-----|-----------------|------|--------|-------------------------|----|----------|
| 1067 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 62-35 | 12C | 灰灰 | 押印 | 24 | 34 |
| 1068 | 滑灰 | 甕 | 胴部 | 74-49 | 12C | オリーブ黄 | | 24 | 34 |
| 1069 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 松本レンチ | 12C | 黒褐 | 押印 | 24 | 34 |
| 1070 | 滑灰 | 三節壺 | 肩部 | 表塚 | 12C | 黒灰 | | 24 | 34 |
| 1071 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 遺跡外 | 12C | 黒灰 | 押印 | 24 | 34 |
| 1072 | 滑灰 | 甕 | 底部 | 65-32 (水田橋) | 12C | 灰白 | 須恵器系陶器か | 24 | 34 |
| 1073 | 滑灰 | 甕 | 底部 | 61-60 | 12C | にぶい黄 | 押印 | 24 | 34 |
| 1074 | 滑灰 | 片口鉢 | 底部 | 57-61 0層 | 12C | 灰白 | 外周ヘラケズリ | 24 | 34 |
| 1075 | 滑灰 | 山茶碗 | 口縁部 | SE1・SD19 壇上 | 12C | 青灰 | | 24 | 35 |
| 1076 | 滑灰 | 壺 | 胴部 | 5E1 1-7層 | 12C | 暗オリーブ | 装束等文様 | 24 | 35 |
| 1077 | 滑灰 | 甕 | 肩部 | SK53 1・2層 | 12C | 暗オリーブ | 外周に輪 | 24 | 35 |
| 1078 | 滑灰 | 甕 | 底部 | SK29 壇上 | 12C | 緑灰 | 内面に輪 | 24 | 35 |
| 1079 | 滑灰 | 甕 | 口縁部 | SK33 1層 | 12C | 灰 | | 24 | 35 |
| 1080 | 滑灰 | 山茶碗 | 底部 | SK43 1層 | 12C | 明緑灰 | 内周に輪 | 24 | 30 |
| 1081 | 滑灰 | 甕 | 口縁部 | SK53 3-5層 | 12C | 灰 | | 25 | 35 |
| 1082 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SK63 検出面 | 12C | 暗赤褐 | | 25 | 35 |
| 1083 | 滑灰 | 壺 | 胴部 | SK80 壇上 | 12C | 灰白 | 割線 | 25 | 35 |
| 1084 | 灰地不明 | 甕 | 肩部 | SK99 壇上 | 12C | 黒灰 | 深黄塗か | 25 | 35 |
| 1085 | 滑灰 | 壺 | 体部 | SD19 壇上 | 12C | 灰オリーブ | 割線 | 25 | 35 |
| 1086 | 滑灰 | 甕 | 口縁部 | SD60 壇上 | 12C | 黒灰 | | 25 | 35 |
| 1087 | 滑灰 | 甕 | 胴部 | SD20 壇上 | 12C | 灰白 | | 25 | 36 |
| 1088 | 滑灰 | 甕 | 底部 | SD20 壇上(65-53) | 12C | 灰 | | 25 | 36 |
| 1089 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SD20 壇上 | 12C | 暗オリーブ | 外周に輪 | 25 | 36 |
| 1090 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SD20 壇上 | 12C | 暗オリーブ | 内面に輪 | 25 | 36 |
| 1091 | 滑灰 | 壺 | 口縁部 | SD37 (T2) 壇上 | 12C | 黒灰 | | 25 | 36 |
| 1092 | 滑灰 | 器種不明 | 口縁部 | SD37 (T2) 1層 | 12C | 灰白 | 内面に輪 | 25 | 36 |
| 1093 | 滑灰 | 甕 | 口縁部 | SD37 (T3) | 12C | 黄灰 | | 25 | 36 |
| 1094 | 滑灰 | 甕 | 胴部 | SD37 (T3) | 12C | 灰 | 須恵器系陶器か | 25 | 36 |
| 1095 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SD37 (T2) 1層 | 12C | 灰青褐 | | 25 | 36 |
| 1096 | 滑灰 | 小壺 | 口縁部 | SD37 (T2) 1層 | 12C前 | オリーブ系 | | 25 | 36 |
| 1097 | 滑灰 | 壺 | 胴部 | SD38 下層 | 12C | 黄灰 | 割線 | 25 | 36 |
| 1098 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SD38 (56-61) 壇上 | 12C | オリーブ | 外周に輪 | 25 | 36 |
| 1099 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SD39 (T4) 13層 | 12C | 灰オリーブ | | 25 | 37 |
| 1100 | 滑灰 | 山茶碗 | 口縁部 | SD39 (T2) 底部付近 | 12C | 灰 | | 25 | 37 |
| 1101 | 滑灰 | 不明 | 口縁部 | SD39 (T1) | 12C | 黒褐 | | 25 | 36 |
| 1102 | 滑灰 | 壺 | 肩部 | SD38 (56-61) 壇上 | 12C | 暗黄褐 | | 25 | 36 |
| 1103 | 滑灰 | 甕 | 胴部 | SD39 (T1) 表探 | 12C | オリーブ灰 | 外周に輪 | 26 | 36 |
| 1104 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SK16 検出面 | 12C | 暗オリーブ | 押印 | 26 | 37 |
| 1105 | 滑灰 | 山茶碗 | 底部 | 1418 壇上 | 12C | 灰白 | 産地自伝ない | 26 | 30 |
| 1106 | 滑灰 | 甕 | 体部 | SD40 (62-52) 壇上 | 12C | 灰 | 押印 | 26 | 37 |
| 1107 | 滑灰 | 壺 | 肩部 | 豊地府南平部上層 | 12C | 灰白 | 割線 | 26 | 37 |
| 1108 | 滑灰 | 甕 | 口縁部 | P275 壇上 | 12C | 黒灰 | | 26 | 38 |
| 1109 | 滑灰 | 甕 | 肩部 | P273 検出面 | 12C | 暗オリーブ | 押印 | 26 | 38 |
| 1110 | 須恵器 | 宮内付 | 底部 | 豊地層 北平部 | 12C | 灰白 | 12Cではない | 26 | 30 |
| 1111 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 豊地層 北平部 | 12C | 黄灰 | 外周に輪 | 26 | 37 |
| 1112 | 滑灰 | 甕 | 底部 | 豊地層 北平部検出面 | 12C | 黒灰 | | 26 | 30 |
| 1113 | 滑灰 | 甕 | 底部 | 豊地層 南平部下層 | 12C | 灰白 | | 26 | 37 |
| 1114 | 滑灰 | 壺 | 口縁部 | T2 豊地層 | 12C | 明青灰 | 内外周に輪 | 26 | 37 |
| 1115 | 滑灰 | 瓶・皿 | 口縁部 | T2 直轄 | 12C | 暗オリーブ系 | | 26 | 37 |
| 1116 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 豊地層(T2)N・V層 | 12C | 黒灰 | 内周に輪 | 26 | 38 |
| 1117 | 滑灰 | 壺 | 胴部 | T4 1-3層 | 12C | 灰オリーブ | 筋面文様 | 26 | 37 |
| 1118 | 滑灰 | 山茶碗 | 口縁部 | 59-62 | 12C | 灰 | 産地自伝ない | 27 | 37 |
| 1119 | 滑灰 | 甕 | 胴部 | 74-50 | 12C | 黄灰 | 外周に輪 | 27 | 38 |
| 1120 | 滑灰 | 甕 | 肩部 | 遺跡外検 | 12C | オリーブ灰 | 割線 | 27 | 38 |
| 1121 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 遺跡外 | 12C | 黄灰 | 筋面・検出面の筋面・検出面の筋面・検出面の筋面 | 27 | 38 |
| 1121 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 95次調査掘出 | 12C | 灰黄褐 | 常滑か | 27 | 38 |
| 1122 | 滑灰 | 甕 | 体部 | 遺跡外 | 12C | 灰黄褐 | 1121と同一個体 | 27 | 38 |
| 1123 | 滑灰 | 壺 | 体部 | 55SK20 壇上 | 12C | 灰褐 | 常滑か(55次調査 No.1152と同一) | 27 | 38 |
| 1124 | 滑灰 | 壺 | 底部 | 69-55 | 12C | 黒灰 | | 27 | 30-31 |
| 1125 | 滑灰 | 片口鉢 | 底部 | 67-54・68-54 | 12C | 黒灰 | | 27 | 30 |
| 1126 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SE1 壇上7層 | 12C | 黒灰 | 古代の須恵器か | 27 | 39 |
| 1127 | 須恵器系 | 長頸瓶 | 口縁部 | SK28 9層 | 12C | 青灰 | | 27 | 39 |
| 1128 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SK28 壇上 | 12C | 灰オリーブ | | 27 | 39 |
| 1129 | 須恵器系 | 甕 | 底部 | SK28 壇上 | 12C | 青灰 | | 27 | 39 |
| 1130 | 須恵器系 | 甕 | 口縁部 | SK28 壇上 | 12C | 暗青灰 | | 27 | 39 |
| 1131 | 須恵器系 | 甕 | 口縁部 | SK33 壇上 | 12C | 黒灰 | | 28 | 39 |

国産陶器観察表(2)

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出七位置 | 年代など | 色調 | その他 | 図版 | 写真 図版 |
|------|------|-----|-----|----------------|------|-------|-----------|----|----------|
| 1132 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SK33 8層 | 12C | 青黒 | 古代の須恵器か | | 28 39 |
| 1133 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SK53 8-13層 | 12C | 灰 | | | 28 39 |
| 1134 | 須恵器系 | 壺 | 体部 | SK53 1-2層 | 12C | 褐色 | | | 28 39 |
| 1135 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SK53 1-2層 | 12C | 灰 | 胎土に小石含む | | 28 39 |
| 1136 | 須恵器系 | 甕 | 口縁部 | SD20 埴土 | 12C | 暗青灰 | | | 28 39 |
| 1137 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SD20 埴土 | 12C | 黒褐 | 胎土に砂多量 | | 28 39 |
| 1138 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SD20 埴土 | 12C | 灰 | | | 28 39 |
| 1139 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SI20 埴土兼土層 | 12C | 灰 | | | 28 39 |
| 1140 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SD38(59-66)3層 | 12C | 暗青灰 | 古代の須恵器か | | 28 39 |
| 1141 | 須恵器系 | 壺 | 口縁部 | SD39(T4)2・3層 | 12C | 灰 | 胎土に黒色小礫含む | | 28 39 |
| 1142 | 須恵器系 | 甕 | 口縁部 | SD39(T1) | 12C | 暗灰 | | | 28 39 |
| 1143 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SD39(T4)15層 | 12C | 青灰 | | | 28 39 |
| 1144 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SKD39(T1) | 12C | 灰 | | | 28 39 |
| 1145 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | SX1 2層 | 12C | オリーブ黒 | | | 28 40 |
| 1146 | 須恵器系 | 甕 | 底部 | SX1 2層 | 12C | 灰白 | 底面転糸切 | | 28 40 |
| 1147 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | 埴地層 北平部 | 12C | 暗灰 | | | 28 40 |
| 1148 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | P396 埴土 | 12C | 灰 | | | 28 40 |
| 1149 | 須恵器系 | 鉢 | 口縁部 | 埴土(T4) | | 灰 | | | 29 40 |
| 1150 | 須恵器系 | 甕 | 底部 | T4 | 12C | 灰 | | | 29 40 |
| 1151 | 須恵器系 | 甕 | 体部 | 60-53 | 12C | 黒褐 | | | 29 40 |
| 1152 | 須恵器系 | 甕 | 口縁部 | 65-53 | 12C | 青灰 | | | 29 40 |
| 1153 | 須恵器系 | 鉢 | 口縁部 | 濃横外 | 12C | 暗灰 | | | 29 40 |
| 1154 | 須恵器系 | 甕 | 底部 | 59-57 | 12C | 灰白 | | | 29 31 |
| 1155 | 須恵器系 | 壺 | 体部 | 68-53 | 12C | 灰 | | | 29 40 |
| 1156 | 須恵器系 | 不明 | 体部 | SK28 埴土 | 12C | 灰白 | 内面に軸の流れ | | 29 40 |
| 1157 | 須恵器系 | 不明 | 体部 | SD38 4層 | 12C | 灰白 | 須恵器系か | | 29 40 |
| 1158 | 須恵器系 | 不明 | 肩部 | SD20 埴土 | | 灰オリーブ | 須恵器系か | | 29 40 |
| 1159 | 須恵器系 | 不明 | 肩部 | S8-57 | 12C | 明緑灰 | | | 29 40 |
| 1160 | 須恵器系 | 皿 | 口縁部 | T4 | 12C | 灰白 | 須恵器系か | | 29 40 |
| 1161 | 常滑 | 甕 | 体部 | SK20 埴土 | 12C | 暗オリーブ | 外面の検酒赤 | | - 31 |
| 1162 | 常滑 | 甕 | 体部 | SK29 2層 | 12C | 灰 | 産地はわからない | | - 31 |
| 1163 | 常滑 | 甕 | 肩部 | SK29 2層 | 12C | 暗オリーブ | | | - 31 |
| 1164 | 常滑 | 広口壺 | 肩部 | SK33 6層 | 12C | 暗オリーブ | 押印、外面に軸 | | - 31 |
| 1165 | 常滑 | 甕 | 体部 | SK33 3層 | 12C | 灰赤 | | | - 31 |
| 1166 | 常滑 | 甕 | 体部 | SK33 埴土上部 | 12C | 灰白 | 蓋突か | | - 31 |
| 1167 | 常滑 | 広口壺 | 肩部 | SK34 2層 | 12C | 灰オリーブ | 甕か、外面に軸 | | - 31 |
| 1168 | 常滑 | 甕 | 体部 | SK53 8-13層 | 12C | 灰青褐 | | | - 32 |
| 1169 | 常滑 | 甕 | 肩部 | SD39(T4)黒土 | 12C | 灰オリーブ | 外面に軸 | | - 33 |
| 1170 | 常滑 | 甕 | 肩部 | 表土 | 12C | 灰オリーブ | 蓋突か | | - 34 |
| 1171 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SK29 2層 | 12C | 黒灰 | 押印 | | - 35 |
| 1172 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SK53 8-13層 | 12C | 灰 | 押印 | | - 35 |
| 1173 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SK60 埴土 | 12C | 黒褐 | | | - 35 |
| 1174 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SD20 埴土(60-56) | 12C | 灰 | | | - 36 |
| 1175 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SD37(T3) | 12C | 灰白 | 押印 | | - 36 |
| 1176 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SD38 埴土 | 12C | 灰 | 押印 | | - 36 |
| 1177 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SD39(T2)11-23層 | 12C | 暗青灰 | 内面に軸 | | - 36 |
| 1178 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SX3 埴土 | 12C | オリーブ灰 | 外面に軸 | | - 37 |
| 1179 | 瀬美 | 甕 | 体部 | SX9 埴土 | 12C | 灰白 | 押印 | | - 37 |
| 1180 | 瀬美 | 甕 | 肩部 | T2 Ⅱ層 | 12C | 灰白 | 押印 | | - 37 |
| 1181 | 瀬美 | 甕 | 肩部 | T2 埴地層 | 12C | 灰 | 外面に軸 | | - 37 |
| 1182 | 瀬美 | 甕 | 体部 | T4 検出時 | 12C | 灰オリーブ | 外面に軸 | | - 37 |
| 1183 | 瀬美 | 甕 | 体部 | 57-50 | 12C | 灰青 | 内面に軸 | | - 37 |
| 1184 | 瀬美 | 甕 | 肩部 | 67-54 68-54 | 12C | オリーブ青 | 外面に軸 | | - 37 |
| 1185 | 瀬美 | 甕 | 肩部 | 74-50 | 12C | 灰 | 押印 | | - 38 |
| 1186 | 瀬美 | 甕 | 体部 | 74-52 | 12C | 褐色 | | | - 38 |
| 1187 | 瀬美 | 甕 | 体部 | P198 埴土 | 12C | 灰オリーブ | 押印 | | - 38 |

国産陶器観察表(3)

| 台号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 年代分類 | 年代推定 | その他 | 図版 | 写真 掲載 |
|------|-----|----|------|---------------|------|-----------|----------------|----|----------|
| 2001 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SL1 埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 30 41 |
| 2002 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SK51 埋上 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 内面無塗 | | 30 41 |
| 2003 | 白磁 | 空母 | 底部 | SK19 後出時 | Ⅱ系 | 12C | 木目か | | 30 41 |
| 2004 | 白磁 | 甕 | 朱部 | SD20 埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 30 41 |
| 2005 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SD20 埋上 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 建溝塗 | | 30 42 |
| 2006 | 白磁 | 甕 | 体部下半 | SD37(T7)埋上 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 化粧土、大粒 | | 30 42 |
| 2007 | 白磁 | 甕 | 底部 | SD37(T7)1層 | Ⅱ系 | 12C | 器種不明な | | 30 42 |
| 2008 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | SD38 3層 | Ⅱ系 | 11C後～12C | | | 30 42 |
| 2009 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SD38(56-61)埋上 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 化粧土 | | 30 42 |
| 2010 | 白磁 | 甕 | 底部 | SD38(58-67)3層 | Ⅱ系 | 12C | 外面無塗まで | | 30 42 |
| 2011 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SD39(T1)1層 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 外面無塗 | | 30 43 |
| 2012 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SD39(T1)1層 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 小豆の塗 | | 30 42 |
| 2013 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SD39 埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 30 43 |
| 2014 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | SD39(T1)1層 | Ⅱ系 | 12C中～13C | | | 30 43 |
| 2015 | 白磁 | 甕 | 体部 | SK2 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | | | 30 43 |
| 2016 | 白磁 | 甕 | 底部 | T2 Ⅱ層 | Ⅱ系 | 12C中～13C | 二次焼 | | 30 43 |
| 2017 | 白磁 | 甕 | 胴部 | T3 Ⅲ・Ⅳ層 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 輪溝塗、沈積 | | 30 43 |
| 2018 | 白磁 | 甕 | 胴部 | T4 Ⅳ層 | Ⅱ系 | 12C | | | 30 43 |
| 2019 | 白磁 | 甕 | 胴部 | T4 49 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | | | 30 44 |
| 2020 | 白磁 | 甕 | 底部 | 58-58 0層 | V類 | 12C | | | 30 41 |
| 2021 | 白磁 | 甕 | 体部 | 74-49 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 縦に沈積 | | 30 44 |
| 2022 | 白磁 | 水注 | 底部 | 末土 | Ⅱ系 | 12C | 内面無塗 | | 31 41 |
| 2023 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | 表様 | Ⅱ系 | 12C | | | 31 41 |
| 2024 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | 表様 | Ⅱ系 | 12C中～13C | | | 31 44 |
| 2025 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | T2表様 | | | 近代か | | 31 41 |
| 2026 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | 63 51 | Ⅱ系 | 12C | 化粧土なし1層では? | | 31 43 |
| 2027 | 白磁 | 甕 | 胴部 | 口縁の漆 | Ⅱ系 | 12C | 口縁より分けられない | | 31 44 |
| 2028 | 青磁 | 甕 | 口縁部 | 整丸切 南平上層 | Ⅱ系 | 12C | 内面に片切り筋 | | 31 41 |
| 2029 | 青磁 | 甕 | 口縁部 | SI33(T4)2層 | Ⅱ系 | 12C | 内面に片切り筋 | | 31 44 |
| 2030 | 青白磁 | 甕 | 胴部 | T3 Ⅲ・Ⅳ層 | Ⅱ系 | 12C | 内面に文様 | | 31 41 |
| 2031 | 陶器 | 甕 | 体部 | SK31 1層 | 古州窯 | 12C | 内面に黒色の線 | | 31 44 |
| 2032 | 陶器 | 甕 | 体部 | SD20 埋上 | | 12C | 外面無塗 | | 31 44 |
| 2033 | 陶器 | 甕 | 体部 | SD20 埋上 | A群? | 12C | 外面無塗 | | 31 44 |
| 2034 | 陶器 | 甕 | 体部 | SD38(58 66)3層 | C群 | 12C | 外面無塗 | | 31 45 |
| 2035 | 陶器 | 甕 | 体部 | SD38(59-66)3層 | Ⅱ系 | 12C | 外面無塗 | | 31 45 |
| 2036 | 不明 | 甕 | 体部下小 | SI38(51-61)埋上 | | | 12世紀ではない | | 31 45 |
| 2037 | 陶器 | 甕 | 体部下小 | SD39(T1)1層 | | | 12世紀ではない | | 31 45 |
| 2038 | 陶器 | 甕 | 胴部 | SK9(59-56)埋上 | 古州窯 | 12C | 内面に文様 | | 31 45 |
| 2039 | 陶器 | 甕 | 胴部 | 66-53 | Ⅱ系 | 12C | 褐色の線 | | 32 41 |
| 2040 | 陶器 | 甕 | 胴部 | T3 Ⅲ・Ⅳ層 | 古州窯? | 12C | 褐色で線状に | | 32 45 |
| 2041 | 陶器 | 甕 | 胴部 | 末土 | Ⅱ系 | 12C | 外面に黄褐色の輪 | | 32 45 |
| 2042 | 陶器 | 甕 | 胴部 | 65-32田楽 | A群? | 12C | 外面無塗、内面無塗 | | 32 45 |
| 2043 | 陶器 | 甕 | 胴部 | 65-32田楽 | A群? | 12C | 外面無塗、文様、C群も焼 | | 32 45 |
| 2044 | 陶器 | 甕 | 胴部 | 表様 | A群? | 12C | 文様 | | 32 45 |
| 2045 | 白磁 | 甕 | 体部 | SK28 埋上 | Ⅱ系 | 12C | 内面に文様、化粧土無 | | 41 |
| 2046 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SK33 7層 | Ⅱ系 | 12C | 耳取り付く部分 | | 41 |
| 2047 | 白磁 | 水注 | 体部 | SD20(66-53)埋上 | Ⅱ系 | 12C | 内面無塗 | | 42 |
| 2048 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD20 埋上 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 内面無塗 | | 42 |
| 2049 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | SD20 埋上 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 化粧土有 | | 42 |
| 2050 | 陶器 | 甕 | 体部 | SD20 埋上 | A群? | 12C | | | 42 |
| 2051 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | SD37(T3)埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 42 |
| 2052 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD37(T3)1層 | Ⅱ系 | 12C | | | 42 |
| 2053 | 白磁 | 甕 | 朱部下小 | SD37(T3)埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 42 |
| 2054 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD38 埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 42 |
| 2055 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD38 埋上F層 | Ⅱ系 | 11C後～12C | | | 42 |
| 2056 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD39(T2)埋上 | Ⅱ系 | 12C | 二次焼 | | 43 |
| 2057 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD39(T2)埋上 | Ⅱ系 | 12C | 化粧土無 | | 43 |
| 2058 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD39(T4)2・3層 | Ⅱ系 | 12C | | | 43 |
| 2059 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SD39(T4)2層 | Ⅱ系 | 12C | 胎土灰白で質質、化粧土無 | | 43 |
| 2060 | 白磁 | 甕 | 胴部 | SD39(T4)埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 43 |
| 2061 | 白磁 | 甕 | 体部 | SD10(60-55)埋上 | Ⅱ系 | 11C後～12C | 内面無塗 | | 43 |
| 2062 | 白磁 | 甕 | 不明 | T2 埋上 | Ⅱ系 | 12C | 胎土灰白で質質、黒底 | | 43 |
| 2063 | 白磁 | 甕 | 口縁部 | T2 埋上 | Ⅱ系 | 12C | | | 43 |
| 2064 | 白磁 | 甕 | 体部 | T2 Ⅲ・Ⅳ層 | Ⅱ系 | 12C | | | 43 |
| 2065 | 白磁 | 甕 | 体部 | T2 Ⅱ層 | Ⅱ系 | 11C後～12C前 | 内面無塗、輪の酸化、化粧土無 | | 43 |
| 2066 | 白磁 | 甕 | 体部 | T3 Ⅲ・Ⅳ層 | Ⅱ系 | 12C | 胎土灰白で質質、化粧土無 | | 43 |

中国産陶磁器観察表(1)

| 番号 | 種類 | 器種 | 部位 | 出土位置 | 大宰府分類 | 大宰府の年代 | その他 | 図版 | 写真 図版 |
|------|----|----|------|--------|-------|-----------|------------------|----|----------|
| 2067 | 白磁 | 壺 | 体部 | 74-49 | Ⅱ系 | 12C | 内面無釉 | — | 43 |
| 2068 | 白磁 | 壺 | 体部 | T4 IV層 | Ⅱ系 | 12C | — | — | 43 |
| 2069 | 白磁 | 瓶 | 体部下半 | 60-53 | Ⅴa-c | 11C後-12C末 | — | — | 43 |
| 2070 | 白磁 | 不明 | 体部 | 73-50 | Ⅱ系 | 11C後-12C前 | 内面無釉 | — | 44 |
| 2071 | 白磁 | 不明 | 体部 | 66-53 | — | — | 内面無釉 | — | 44 |
| 2072 | 白磁 | 壺 | 体部 | 66-54 | Ⅱ系 | 12C | — | — | 44 |
| 2073 | 白磁 | 壺 | 体部 | 64-53 | — | 12C | 胎土淡灰色で微細な黒点 | — | 44 |
| 2074 | 白磁 | 壺 | 体部 | 66-53 | Ⅱ系 | 11C後-12C前 | 内面無釉 | — | 44 |
| 2075 | 白磁 | 碗 | 体部 | 69-55 | — | 12C | 胎土灰口で気泡あり軽い、化粧土無 | — | 44 |
| 2076 | 白磁 | 壺 | 体部 | 66-53 | Ⅱ系 | 11C後-12C前 | 内面無釉 | — | 44 |
| 2077 | 白磁 | 甕か | 体部 | 表探 | Ⅱ系か | 11C後-12C | 内面無釉 | — | 44 |
| 2078 | 白磁 | 壺 | 体部 | 表探 | Ⅱ系 | 12C | — | — | 44 |
| 2079 | 白磁 | 壺 | 体部 | P86 | Ⅱ系 | 12C | — | — | 44 |
| 2080 | 白磁 | 壺 | 体部 | 遺構外 | Ⅱ系 | 11C後-12C前 | 内面無釉 | — | 44 |

中国産陶磁器観察表(2)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 色調 | その他 | 高さ (R) | 図版 | 写真 図版 |
|------|-----|-------------|-------|-----------------|-----------|----|----------|
| 3001 | 軒丸瓦 | SD38(T1)検出面 | 灰質橙 | 三巴陽刺透珠文 | 8 | 33 | 46 |
| 3002 | 軒丸瓦 | SD39(T1)検出面 | 灰質 | 陽左三巴陽透珠文 | 45 | 39 | 46 |
| 3003 | 丸瓦 | SD39(T1)検出面 | 灰白 | 軟質な胎土、摩滅して | 80 | 33 | 46 |
| 3004 | 丸瓦 | SD39(T1)検出面 | 淡黄 | 軟質な胎土 | 105 | 33 | 46 |
| 3005 | 丸瓦 | SD39(T2)埋土 | 灰白 | 硬質な胎土で砂含まない | 75 | 33 | 46 |
| 3006 | 丸瓦 | 墓地面 南半部 | 橙 | 軟質な胎土、摩滅している | 45 | 33 | 46 |
| 3007 | 丸瓦 | 63-60 | に白い粒 | 硬質な胎土で砂多 | 120 | 33 | 46 |
| 3008 | 平瓦 | SD20 埋土 | 灰白 | 硬質な胎土 | 550 | 33 | 46 |
| 3009 | 平瓦 | SD38(T1)検出面 | 灰白 | 離れ砂、硬質な胎土 | 145 | 34 | 46 |
| 3010 | 軒平瓦 | T1 検出面 | 灰白 | 陽刺筋文 | 13 | 34 | 46 |
| 3011 | 平瓦 | SD38(T1)検出面 | 橙 | 硬質な胎土 | 55 | 34 | 46 |
| 3012 | 平瓦 | SD39(T1)検出面 | 淡黄 | 離れ砂が見られない、軟質な胎土 | 250 | 34 | 46 |
| 3013 | 平瓦 | 61-60 | 灰オリーブ | 胎土に骨針、硬質な胎土 | 220 | 34 | 46 |
| 3014 | 軒平瓦 | 遺構外 | 灰 | 離れ砂が見られない、硬質な胎土 | 320 | 34 | 46 |

瓦観察表(1)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | 法 尺 (cm) | | | 備 考 | 図版 | 写真 図版 |
|------|------|------------|----------|------|-----|------------------------|----|----------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 厚さ | | | |
| 4001 | 柱 | P447 埋土 | 37.8 | 7.5 | 7.0 | 樹皮残存 | 35 | 47 |
| 4002 | 不明 | SE1 埋土 | 15.4 | 2.8 | 2.5 | 残存状態不良 写真は左側面を掲載 | 35 | 47 |
| 4003 | 不明 | SE1 16層 | 7.1 | 6.9 | 1.6 | — | 35 | 47 |
| 4004 | 不明 | SE1 埋土 | 7.2 | 7.0 | 3.0 | — | 35 | 47 |
| 4005 | 曲物銅板 | SK26 8層 | 11.0 | 1.7 | 0.5 | — | 35 | 47 |
| 4006 | 不明 | SK26 8層 | 14.6 | 2.8 | 0.4 | 形代の可能性あり | 35 | 47 |
| 4007 | ちゅう木 | SK28 10層 | 12.2 | 0.8 | 0.5 | 写真図版は裏側掲載 | 35 | 47 |
| 4008 | ちゅう木 | SK28 10層 | 16.7 | 0.6 | 0.5 | 写真図版は裏側掲載 | 35 | 47 |
| 4009 | ちゅう木 | SK28 9層 | 19.3 | 1.5 | 0.3 | — | 35 | 47 |
| 4010 | ちゅう木 | SK28 10層 | 26.4 | 1.2 | 0.5 | — | 35 | 47 |
| 4011 | 不明 | SK53 13層下部 | 23.1 | 1.8 | 0.2 | 写真図版は裏側掲載 | 35 | 47 |
| 4012 | ちゅう木 | SK53 13層 | 20.7 | 0.8 | 0.6 | — | 35 | 47 |
| 4013 | ちゅう木 | SK53 13層 | 20.1 | 0.7 | 0.5 | 写真図版は裏側掲載 | 35 | 47 |
| 4014 | ちゅう木 | SK53 13層 | 20.6 | 0.8 | 0.3 | — | 35 | 47 |
| 4015 | 不明 | SK53 13層 | 9.6 | 1.9 | 0.4 | — | 35 | 47 |
| 4016 | 棒状製品 | SK34 14層 | 13.7 | 2.3 | 2.0 | 樹皮残存 | 35 | 47 |
| 4017 | 棒状製品 | SK34 14層 | 19.2 | 2.4 | 2.1 | — | 35 | 47 |
| 4018 | 不明 | SK67 埋土 | 16.1 | 1.9 | 0.2 | 写真図版は裏側掲載 | 35 | 47 |
| 4019 | 不明 | SK67 8層 | 23.1 | 1.9 | 0.2 | — | 35 | 47 |
| 4020 | ちゅう木 | SK67 8層 | 16.6 | 1.2 | 0.6 | — | 35 | 47 |
| 4021 | 不明 | SK67 12層 | 19.8 | 3.1 | 0.3 | 木釘跡2箇所あり 写真図版は裏側掲載 | 35 | 47 |
| 4022 | 板材 | SK67 3層 | 69.0 | 24.8 | 2.7 | 残存状態不良 | 36 | 48 |
| 4023 | 不明 | SK67 8層 | 34.1 | 2.5 | 0.5 | 黒漆付着 炭化部分あり ひし形状の跡みがある | 36 | 47 |

木製品観察表(1)

| 番号 | 器 種 | 出土位置 | 法 差 (cm) | | | 備 考 | 図版 | 写真 図版 |
|------|--------|----------------|----------|------|---------|------------------------|----|----------|
| | | | 最大径 | 最大幅 | 厚 さ | | | |
| 4024 | 不明 | SK67 8層 | 28.6 | 1.5 | 0.5 | 写真図版は裏側掲載 | 36 | 47 |
| 4025 | 折敷片 | SK38 3層 | 28.5 | 5.7 | 0.5 | 炭化部分あり | 36 | 48 |
| 4026 | 不明 | SK33 3層 | 27.2 | 2.2 | 0.5 | 炭化部分あり | 36 | 48 |
| 4027 | ちゅう木 | SK33 6層 | 27.3 | 2.0 | 0.6 | | 36 | 48 |
| 4028 | 楕状製品 | SK33 7層 | 18.3 | 3.4 | 3.2 | 加工痕あり 3片接合 削皮残存 | 36 | 48 |
| 4029 | 不明 | SK33 7層 | 18.6 | 3.7 | 0.4 | 写真図版は裏側掲載 | 36 | 48 |
| 4030 | 漆器類 | SK33 7層 | — | — | 4.0(器高) | 体部片 炭化部分あり 阿国黒漆塗り | 36 | 48 |
| 4031 | 漆器類 | SK33 6層 | 19.6 | 7.7 | 7.7 | 全体に炭化著しい 写真図版は裏側掲載 | 37 | 48 |
| 4032 | 楕状製品 | SK33 8層 | 30.4 | 6.1 | 5.3 | 加工痕あり 炭化部分あり 削皮残存 | 37 | 48 |
| 4033 | 不明 | SK33 8層 | 26.9 | 8.3 | 0.8 | | 37 | 48 |
| 4034 | 不明 | SK33 8層 | 27.6 | 3.2 | 0.5 | 炭化部分あり | 37 | 48 |
| 4035 | 漆器類 | SK33 8層 | — | — | 1.5(器高) | 体部片 阿国黒漆塗り | 37 | 48 |
| 4036 | 楕状製品 | SK33 8層 | 25.7 | 3.7 | 3.5 | 加工痕あり | 37 | 49 |
| 4037 | ちゅう木 | SK33 8層 | 26.1 | 1.0 | 0.6 | 写真図版は裏側掲載 | 37 | 49 |
| 4038 | ちゅう木 | SK33 8層 | 24.1 | 0.8 | 0.4 | 写真図版は裏側掲載 | 37 | 49 |
| 4039 | ちゅう木 | SK33 8層 | 22.5 | 0.9 | 0.6 | 写真図版は裏側掲載 | 37 | 49 |
| 4040 | ちゅう木 | SK33 8層 | 16.2 | 0.8 | 0.3 | | 37 | 49 |
| 4041 | 箸 | SK33 8層 | 20.0 | 0.5 | 0.5 | 先端に炭化部分あり 写真図版は裏側掲載 | 37 | 49 |
| 4042 | 不明 | SK33 8層 | 18.0 | 2.8 | 0.6 | 炭化部分あり | 37 | 49 |
| 4043 | 不明 | SK33 8層 | 19.5 | 6.5 | 3.7 | 加工痕あり 炭化部分あり 写真図版は裏側掲載 | 37 | 49 |
| 4044 | 根 | SD38 28層 | 21.4 | 14.0 | 2.3 | 先端に穿孔あり | 38 | 49 |
| 4045 | 部材 | SD38 28層 | 18.3 | 10.2 | 3.5 | 残存状態不良 | 38 | 49 |
| 4046 | 不明 | SD38 34層 | 18.4 | 1.8 | 0.5 | | 38 | 49 |
| 4047 | 刷の骨 | SD38 薄土 | 14.0 | 1.3 | 0.5 | 写真図版は裏側掲載 | 38 | 49 |
| 4048 | 箸 | SD38 薄土 | 22.3 | 1.0 | 0.6 | | 38 | 49 |
| 4049 | 箸 | SD38 薄土 | 23.5 | 0.7 | 0.4 | | 38 | 49 |
| 4050 | 部材 | SD39 T2 薄土 | 80.9 | 14.8 | 4.0 | | 38 | 50 |
| 4051 | 下駄板 | SD39 T2 8層 | 7.4 | 6.9 | 2.2 | 写真図版は裏側掲載 | 38 | 49 |
| 4052 | 箸 | SD39 T2 9~11層 | 20.3 | 0.6 | 0.4 | 写真図版は裏側掲載 | 38 | 49 |
| 4053 | 不明 | SD39 T2 13層 | 16.4 | 2.7 | 0.2 | | 38 | 49 |
| 4054 | 各種形木製品 | SD39 T2 13層 | 31.4 | 18.7 | 0.5 | | 39 | 50 |
| 4055 | 下駄 | SD39 T2 16層 | 19.9 | 12.1 | 2.9 | 歯面下駄 残存状態不良 | 39 | 50 |
| 4056 | 不明 | SD39 T2 13~22層 | 16.3 | 7.5 | 1.8 | 残存状態不良 | 39 | 50 |
| 4057 | 不明 | SD39 T2 22層 | 5.8 | 1.5 | 1.0 | 削皮残存 | 39 | 50 |
| 4058 | 楕状製品 | SD39 T2 22層 | 14.1 | 4.0 | 3.4 | 加工痕あり | 39 | 50 |
| 4059 | 不明 | SD39 T2 22層 | 7.2 | 8.1 | 1.5 | 穿孔あり | 39 | 50 |
| 4060 | 不明 | SD39 T2 22層 | 11.1 | 7.9 | 0.4 | 端部に穿孔あり | 39 | 51 |
| 4061 | 不明 | SD39 T2 22層 | 8.6 | 2.3 | 0.5 | 穿孔あり | 39 | 51 |
| 4062 | 不明 | SD39 T2 22層 | 20.5 | 5.5 | 0.3 | 写真図版は裏側掲載 | 39 | 51 |
| 4063 | 不明 | SD39 T2 25~31層 | 2.1 | 3.0 | 1.0 | | 39 | 51 |
| 4064 | 楕状製品 | SD39 T2 27~31層 | 24.7 | 2.5 | 2.4 | 加工痕あり | 39 | 51 |
| 4065 | 不明 | SD39 T2 27~31層 | 22.8 | 0.9 | 0.4 | | 39 | 51 |
| 4066 | 箸 | SD39 T2 27~31層 | 22.7 | 0.8 | 0.5 | | 39 | 51 |
| 4067 | 箸 | SD39 T2 27~31層 | 22.1 | 0.8 | 0.6 | | 39 | 51 |
| 4068 | 箸 | SD39 T2 27~31層 | 12.0 | 0.6 | 0.4 | | 39 | 51 |
| 4069 | 動物骨板 | SD39 T2 27~38層 | 21.4 | 3.8 | 0.5 | 穿孔2ヶ所あり | 40 | 51 |
| 4070 | 箸 | SD39 T2 27~38層 | 26.0 | 0.6 | 0.5 | | 40 | 51 |
| 4071 | 箸 | SD39 T2 27~38層 | 24.2 | 0.5 | 0.5 | | 40 | 51 |
| 4072 | 箸 | SD39 T2 27~38層 | 12.2 | 0.6 | 0.5 | | 40 | 51 |
| 4073 | 箸 | SD39 T2 27~38層 | 12.6 | 0.7 | 0.6 | | 40 | 51 |
| 4074 | 箸 | SD39 T2 27~38層 | 15.1 | 0.7 | 0.3 | | 40 | 51 |
| 4075 | 不明 | SD39 T2 27~38層 | 16.1 | 0.8 | 0.8 | | 40 | 51 |
| 4076 | 不明 | SD39 T2 27~38層 | 17.1 | 1.9 | 1.0 | | 40 | 51 |
| 4077 | 不明 | SD39 T2 31~38層 | 15.1 | 1.2 | 0.8 | | 40 | 51 |
| 4078 | 不明 | SD39 T2 31~38層 | 21.6 | 4.2 | 0.6 | 写真図版は裏側掲載 | 40 | 51 |
| 4079 | 不明 | SD39 T2 31~38層 | 18.3 | 1.1 | 0.7 | | 40 | 51 |
| 4080 | 不明 | SD39 T2 31~38層 | 20.1 | 1.8 | 1.2 | | 40 | 51 |
| 4081 | 不明 | SD39 T2 31~38層 | 7.2 | 4.6 | 0.7 | | 40 | 51 |
| 4082 | 不明 | SD39 T2 31~38層 | 15.4 | 3.8 | 0.6 | | 40 | 51 |
| 4083 | 漆器類 | SD39 T2 34層 | H.6(器高) | — | 1.1(器型) | 阿国黒漆塗り 後は剥離著しい | 40 | 52 |
| 4084 | 不明 | SD39 T2 35層 | 15.9 | 14.9 | 5.5 | 残存状態不良 | 40 | 52 |
| 4085 | 漆器板片 | SD39 T2 36~37層 | 8.7 | 2.2 | 0.2 | 剥離は不明 | 40 | 52 |
| 4086 | 不明 | SD39 T2 37~38層 | 5.4 | 3.5 | 2.8 | | 40 | 52 |
| 4087 | 楕状製品 | SD39 T2 37~38層 | 16.1 | 2.8 | 2.6 | 加工痕あり | 40 | 52 |
| 4088 | 不明 | SD39 T2 薄土 | 4.6 | 6.5 | 4.3 | 写真図版は裏側掲載 | 40 | 52 |
| 4089 | 不明 | SD39 T2 薄土 | 16.5 | 5.8 | 2.8 | | 40 | 52 |

木製品観察表(2)

| 番号 | 器種 | 出上位置 | 法 量 (cm) | | | 備 考 | 取扱 |
|------|-------|----------------|----------|---------|---------|---|-------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 厚 さ | | |
| 4090 | 蓋 | SD39 T2 埋土 | 20.6 | 0.7 | 0.7 | | 40 52 |
| 4091 | 蓋 | SD39 T2 埋土 | 21.0 | 0.6 | 0.4 | | 40 52 |
| 4092 | 下駄 | SD39 T2 埋土 | 18.5 | 6.2 | 3.0 | 連側下駄 | 41 52 |
| 4093 | 散水木製品 | SD39 T2 埋土 | 16.0 | 3.1 | 1.0 | | 41 52 |
| 4094 | 不明 | SD39 T2 埋土 | 8.8 | 8.4 | 6.5 | | 41 52 |
| 4095 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 13.4 | 4.5 | 0.7 | 木釘跡4ヶ所あり | 41 52 |
| 4096 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 20.1 | 9.0 | 0.6 | 穿孔あり 炭化部分あり 写真図版は裏側掲載 | 41 53 |
| 4097 | 襖 | SD39 T4 14・15層 | — | 7.6(直径) | 1.5(壁厚) | ロクロ爪跡あり 残存状態不良 | 41 53 |
| 4098 | 下駄曲 | SD39 T4 13層 | 9.4 | 14.9 | 2.0 | 割を避けている | 41 53 |
| 4099 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 7.1 | 6.1 | 2.0 | 写真図版は裏側掲載 | 41 53 |
| 4100 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 8.5 | 3.5 | 3.5 | 加工痕あり 写真図版は裏側掲載 | 41 53 |
| 4101 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 14.9 | 0.7 | 0.7 | 黒塗付着 写真図版は裏側掲載 | 41 53 |
| 4102 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 21.5 | 2.1 | 1.0 | 写真図版は裏側掲載 | 41 53 |
| 4103 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 22.5 | 5.5 | 0.7 | 木釘跡4ヶ所あり | 41 53 |
| 4104 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 22.9 | 2.5 | 1.5 | | 41 53 |
| 4105 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 29.2 | 6.5 | 1.0 | 糊皮の紐じ具あり | 42 53 |
| 4106 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 35.0 | 11.5 | 1.1 | 木釘跡4ヶ所あり 4107と重なり合って出土か | 42 53 |
| 4107 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 35.2 | 9.6 | 1.2 | 糊皮の紐じ具あり 4106と重なり合って出土か | 42 54 |
| 4108 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 16.0 | 6.7 | 3.0 | | 42 53 |
| 4109 | 筒敷 | SD39 T4 14・15層 | 39.0 | 26.0 | 2.4 | 炭化部分あり 台がついて高坏状になるか 水釘跡が周縁部及び取皿中央に精円状、十字に多数ある 表裏に保線多数あり | 43 54 |
| 4110 | 不明 | SD39 T4 16層 | 55.1 | 4.2 | 3.9 | 糊皮残存 加工痕あり 写真図版は裏側掲載 | 42 53 |
| 4111 | 不明 | SD39 T4 16層 | 17.0 | 14.7 | 1.0 | 残存状態不良 | 42 54 |
| 4112 | 不明 | SD39 T4 22層 | 7.8 | 8.0 | 2.0 | | 42 54 |
| 4113 | 不明 | SD39 T4 埋土 | 24.8 | 1.7 | 1.5 | 写真図版は裏側掲載 | 43 54 |
| 4114 | 不明 | SD39 T4 埋土 | 8.4 | 6.5 | 5.5 | 写真図版は裏側掲載 | 43 54 |
| 4115 | 不明 | SD39 T4 埋土 | 5.9 | 5.2 | 4.0 | | 43 54 |
| 4116 | 不明 | SD39 T4 埋土 | 5.6 | 5.2 | 3.5 | | 43 54 |
| 4117 | 不明 | SD40 12層 | 12.0 | 2.5 | 1.0 | 残存状態不良 | 43 54 |
| 4118 | ツノヘラ | 57-61 0層 | 11.4 | 1.5 | 0.7 | 穿孔あり 穿孔部が持ち手か? | 43 54 |
| 4119 | 不明 | SE1 16層 | 18.5 | 3.5 | 0.5 | | — 55 |
| 4120 | 不明 | SK26 5層 | 19.0 | 4.0 | 0.2 | 材質は竹 | — 55 |
| 4121 | 不明 | SK26 8層 | 17.7 | 4.0 | 2.0 | | — 55 |
| 4122 | ちゅう木 | SK27 4・3層 | 12.3 | 1.0 | 0.3 | | — 55 |
| 4123 | 不明 | SK27 5層 | 13.8 | 0.9 | 0.5 | 炭化部分あり | — 55 |
| 4124 | 不明 | SK27 13層 | 16.0 | 1.5 | 1.0 | 先端に炭化部分あり | — 55 |
| 4125 | 不明 | SK28 5層 | 10.5 | 1.1 | 0.5 | 炭化部分あり | — 55 |
| 4126 | 不明 | SK28 6層 | 9.0 | 1.8 | 1.5 | 炭化部分あり | — 55 |
| 4127 | 不明 | SK28 6層 | 16.0 | 1.5 | 1.2 | 両端に炭化部 | — 55 |
| 4128 | 漆材 | SK28 10層 | 10.0 | 2.0 | 1.0 | | — 55 |
| 4129 | 不明 | SK28 10層 | 16.0 | 3.0 | 0.5 | 炭化部分3ヶ所あり | — 55 |
| 4130 | 不明 | SK28 10層 | 17.5 | 1.5 | 0.6 | | — 55 |
| 4131 | 不明 | SK28 10層 | 17.4 | 1.2 | 0.6 | | — 55 |
| 4132 | 不明 | SK28 15層 | 18.0 | 2.0 | 0.4 | | — 55 |
| 4133 | 不明 | SK28 15層 | 15.5 | 3.5 | 0.4 | | — 55 |
| 4134 | 不明 | SK28 15層 | 10.5 | 2.0 | 2.0 | | — 55 |
| 4135 | 漆状製品 | SK28 15層 | 9.0 | 3.0 | 2.0 | 加工痕あり 炭化部あり | — 55 |
| 4136 | 不明 | SK30 1層 | 8.0 | 9.2 | 1.7 | | — 55 |
| 4137 | 不明 | SK31 埋土 | 9.8 | 2.7 | 1.0 | 黒塗付着 | — 55 |
| 4138 | ちゅう木 | SK53 13層 | 19.0 | 1.3 | 0.3 | 残存状態不良 | — 55 |
| 4139 | 不明 | SK67 8・9層 | 17.0 | 1.3 | 1.0 | 炭化部分あり | — 55 |
| 4140 | ちゅう木 | SK67 8層 | 24.5 | 1.9 | 0.5 | | — 55 |
| 4141 | 不明 | SK67 8層 | 24.0 | 1.5 | 1.3 | | — 55 |
| 4142 | 不明 | SK67 8層 | 37.5 | 1.2 | 0.5 | | — 55 |
| 4143 | 不明 | SK33 6層 | 26.0 | 3.5 | 3.0 | | — 56 |
| 4144 | 不明 | SK33 7層 | 36.0 | 13.0 | 2.0 | | — 56 |
| 4145 | 漆材 | SK33 8層 | 25.0 | 16.0 | 5.0 | | — 56 |
| 4146 | 不明 | SK33 7層 | 31.0 | 4.0 | 2.0 | | — 56 |
| 4147 | 不明 | SK33 8層 | 7.0 | 2.4 | 0.5 | 黒塗付着 | — 56 |
| 4148 | 不明 | SK33 8層 | 16.0 | 6.0 | 0.5 | | — 56 |
| 4149 | 不明 | SK33 8層 | 18.0 | 4.0 | 0.5 | 炭化部分あり | — 56 |
| 4150 | 漆材 | SK33 8層 | 16.5 | 8.0 | 7.5 | | — 56 |
| 4151 | 不明 | SD20 67-53 埋土 | 4.0 | 3.5 | 3.0 | | — 56 |
| 4152 | 不明 | SD38 28層 | 5.5 | 3.5 | 0.5 | | — 56 |
| 4153 | 不明 | SD38 35層 | 16.5 | 3.0 | 1.0 | | — 56 |

木製品観察表(3)

| 番号 | 器 種 | 出土位置 | 法 量 (cm) | | | 備 考 | 図版 | 写真 図版 |
|------|-------|----------------|----------|------|-----|------------------------|----|----------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 厚 さ | | | |
| 4154 | 不明 | SD38 28・29層 | 10.0 | 3.0 | 1.0 | 炭化部あり | — | 56 |
| 4155 | 不明 | SI38 36層 | 16.5 | 3.5 | 1.5 | | — | 56 |
| 4156 | 不明 | SD38 榎土 | 17.3 | 5.0 | 0.6 | 穿孔二ヶ所 | — | 56 |
| 4157 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 84.0 | 3.0 | 0.5 | | — | 57 |
| 4158 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 33.0 | 3.0 | 3.0 | | — | 57 |
| 4159 | 板片 | SD39 T2 榎土 | 40.0 | 8.0 | 1.0 | | — | 57 |
| 4160 | 不明 | SI39 T2 榎土 | 20.0 | 4.0 | 1.0 | | — | 57 |
| 4161 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 26.0 | 10.0 | 8.0 | | — | 57 |
| 4162 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 20.2 | 0.8 | 0.6 | | — | 57 |
| 4163 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 27.0 | 1.2 | 0.8 | | — | 57 |
| 4164 | 不明 | SD39 T2 | 13.0 | 0.6 | 0.2 | 6058と同時に取り上げ | — | 57 |
| 4165 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 22.5 | 3.0 | 2.5 | | — | 57 |
| 4166 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 9.0 | 5.3 | 1.0 | | — | 57 |
| 4167 | 不明 | SI39 T2 炭層付連 | 18.5 | 2.5 | 0.2 | 2片接合 | — | 57 |
| 4168 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 23.0 | 7.5 | 4.0 | | — | 57 |
| 4169 | 不明 | SD39 T2 榎土 | 17.0 | 7.0 | 6.0 | 燻皮残存 | — | 57 |
| 4170 | 板片 | SD39 T2 榎土 | 12.0 | 10.3 | 0.3 | | — | 57 |
| 4171 | 不明 | SD39 T2 9層 | 8.3 | 5.7 | 3.0 | | — | 57 |
| 4173 | 漆器軸 | SD39 T2 13層 | — | — | — | 4.8(高さ) 両面用漆塗り 漆は黒色著しい | — | 57 |
| 4174 | 漆器軸 | SD39 T2 13層 | — | — | — | 2.6(高さ) 両面用漆塗り 漆は黒色著しい | — | 57 |
| 4175 | 不明 | SI39 T2 8層 | 19.5 | 7.0 | 4.3 | | — | 58 |
| 4176 | 不明 | SI39 T2 27-38層 | 16.0 | 1.8 | 1.6 | | — | 58 |
| 4177 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 14.1 | 1.5 | 0.4 | | — | 58 |
| 4178 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 10.8 | 2.4 | 0.3 | | — | 58 |
| 4179 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 8.5 | 2.0 | 0.3 | | — | 58 |
| 4180 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 12.6 | 2.6 | 0.9 | | — | 58 |
| 4181 | 不明 | SD39 T2 23層 | 16.7 | 3.0 | 2.7 | | — | 58 |
| 4182 | 不明 | SI39 T2 27-38層 | 7.8 | 0.6 | 0.2 | | — | 58 |
| 4183 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 9.7 | 1.3 | 0.6 | | — | 58 |
| 4184 | 板片 | SI39 T2 27-38層 | 7.6 | 2.0 | 0.4 | | — | 58 |
| 4185 | 小片 | SD39 T2 27-38層 | 8.0 | 0.4 | 0.4 | | — | 58 |
| 4186 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 6.4 | 1.0 | 0.2 | | — | 58 |
| 4187 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 6.4 | 1.1 | 0.2 | | — | 58 |
| 4188 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 19.0 | 3.0 | 1.5 | | — | 58 |
| 4189 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 22.3 | 2.3 | 0.6 | | — | 58 |
| 4190 | 柄杓軸 | SD39 T2 27-38層 | 11.0 | 1.0 | 0.9 | 加工痕あり | — | 58 |
| 4191 | 不明 | SI39 T2 27-38層 | 12.0 | 0.6 | 0.6 | | — | 58 |
| 4192 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 8.0 | 3.8 | 1.3 | | — | 58 |
| 4193 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 9.0 | 4.0 | 1.5 | 炭化部分あり | — | 58 |
| 4194 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 12.5 | 6.0 | 3.5 | | — | 58 |
| 4195 | 不明 | SD39 T2 27-38層 | 4.3 | 3.8 | 1.6 | | — | 58 |
| 4196 | 板片 | SI39 T2 37層 | 20.5 | 8.3 | 1.0 | | — | 58 |
| 4197 | 不明 | SD39 T2 37層 | 15.5 | 1.2 | 0.2 | | — | 58 |
| 4198 | ひょうたん | SI39 T2 23層 | 8.0 | 4.3 | 0.2 | 穿孔あり | — | 58 |
| 4199 | 不明 | SD39 T2 37層 | 4.7 | 4.2 | 2.3 | | — | 58 |
| 4200 | 不明 | SD39 T2 37層 | 13.2 | 2.5 | 0.3 | | — | 58 |
| 4201 | 不明 | SD39 T2 37層 | 14.0 | 4.0 | 1.0 | | — | 58 |
| 4202 | 不明 | SD39 T2 37層 | 17.5 | 1.0 | 0.4 | | — | 59 |
| 4203 | 不明 | SD39 T2 37層 | 17.0 | 0.9 | 0.5 | | — | 59 |
| 4204 | 不明 | SD39 T2 31層 | 28.5 | 3.0 | 2.5 | 部材? | — | 59 |
| 4205 | 不明 | SI39 T2 31層 | 24.0 | 7.0 | 3.5 | 2片接合 | — | 59 |
| 4206 | 漆器軸 | SD39 T2 34層 | — | — | — | 4.8(高さ) 両面用漆塗り 漆は黒色著しい | — | 59 |
| 4207 | 不明 | SI39 T2 31層 | 29.0 | 1.1 | 1.0 | | — | 59 |
| 4208 | 不明 | SD39 T2 27か31層 | 17.0 | 4.0 | 3.0 | 炭化部分あり | — | 59 |
| 4209 | 不明 | SD39 T4 榎土 | 13.0 | 5.5 | 0.5 | | — | 59 |
| 4210 | 不明 | SD39 T4 榎土 | 12.0 | 5.5 | 1.0 | | — | 59 |
| 4211 | 部材 | SD39 T4 榎土 | 9.0 | 5.0 | 2.5 | | — | 59 |
| 4212 | 不明 | SD39 T4 榎土 | 6.5 | 5.0 | 2.0 | | — | 59 |
| 4213 | 部材 | SD39 T4 13層 | 13.5 | 5.5 | 2.0 | | — | 59 |
| 4214 | 不明 | SI39 T4 9層 | 13.5 | 3.5 | 3.5 | | — | 59 |
| 4215 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 8.0 | 6.5 | 0.7 | | — | 59 |
| 4216 | 不明 | SD39 T4 9層 | 5.5 | 5.2 | 2.8 | 穿孔あり | — | 59 |
| 4217 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 20.0 | 11.0 | 6.0 | 炭化部分あり | — | 59 |
| 4218 | 不明 | SD39 T4 12層 | 81.5 | 3.5 | 3.0 | | — | 59 |
| 4219 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 25.5 | 5.0 | 0.5 | 漆物底板? | — | 60 |
| 4220 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 12.5 | 1.6 | 1.3 | | — | 60 |

木製品観察表(4)

| 番号 | 器 種 | 出土地 | 法 量 (cm) | | | 備 考 | 写真 掲載 |
|------|-----|-----------------|----------|------|------|---------------|----------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 厚 さ | | |
| 4221 | 不明 | SD39 T4 14・15型 | 14.5 | 2.7 | 1.0 | 炭化部分あり 残存状況不良 | - 60 |
| 4222 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 11.0 | 7.0 | 4.0 | 全体に炭化 | - 60 |
| 4223 | 部材 | SD39 T4 14・15層 | 32.0 | 5.5 | 1.8 | | - 60 |
| 4224 | 不明 | SD39 T4 16層 | 54.0 | 3.2 | 2.8 | 糊皮残存 穿孔あり | - 60 |
| 4225 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 7.0 | 4.5 | 1.8 | 炭化部分あり | - 60 |
| 4226 | 不明 | SD39 T4 14・15層 | 9.7 | 3.0 | 1.3 | | - 60 |
| 4227 | 不明 | SD39 T4 19層 | 19.0 | 6.0 | 3.5 | 炭化部分あり | - 60 |
| 4228 | 不明 | SD39 T3 | 40.0 | 1.5 | 1.5 | | - 60 |
| 4229 | 不明 | SD39 1層 | 7.0 | 6.0 | 3.0 | 全体に炭化 | - 60 |
| 4230 | 不明 | SD40北端埋土 | 16.5 | 3.0 | 2.0 | | - 60 |
| 4231 | 不明 | SD40南端 12層 | 8.5 | 4.5 | 2.0 | | - 60 |
| 4232 | 不明 | 63-52 SD40トレンチ内 | 66.0 | 10.0 | 7.0 | | - 60 |
| 4233 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 102.0 | 38.0 | 25.0 | | - 61 |
| 4234 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 137.0 | 49.0 | 28.0 | | - 61 |
| 4235 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 90.0 | 31.0 | 18.0 | | - 61 |
| 4236 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 82.0 | 13.0 | 12.0 | | - 61 |
| 4237 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 107.0 | 26.0 | 20.0 | | - 61 |
| 4238 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 45.0 | 12.0 | 8.0 | | - 61 |
| 4239 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 37.0 | 15.0 | 17.0 | | - 61 |
| 4240 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 71.0 | 31.0 | 14.0 | | - 61 |
| 4241 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 51.0 | 15.0 | 10.0 | | - 61 |
| 4242 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 27.0 | 17.0 | 14.0 | | - 61 |
| 4243 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 23.0 | 12.0 | 5.0 | | - 61 |
| 4244 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 11.0 | 8.0 | 6.0 | | - 61 |
| 4245 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 20.0 | 12.0 | 6.0 | | - 61 |
| 4246 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 20.0 | 5.0 | 5.0 | | - 61 |
| 4247 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 62.0 | 27.0 | 21.0 | | - 62 |
| 4248 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 30.0 | 21.0 | 19.0 | | - 62 |
| 4249 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 33.0 | 12.0 | 10.0 | | - 62 |
| 4250 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 69.0 | 7.0 | 5.0 | | - 62 |
| 4251 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 61.0 | 16.0 | 12.0 | | - 62 |
| 4252 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 59.0 | 24.0 | 12.0 | | - 62 |
| 4253 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 36.0 | 16.0 | 7.0 | | - 62 |
| 4254 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 39.0 | 12.0 | 9.0 | | - 62 |
| 4255 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 30.0 | 14.0 | 8.0 | | - 62 |
| 4256 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 35.0 | 8.0 | 7.0 | | - 62 |
| 4257 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 59.0 | 12.0 | 5.0 | | - 62 |
| 4258 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 35.0 | 9.0 | 4.0 | | - 62 |
| 4259 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 74.0 | 13.0 | 3.0 | | - 62 |
| 4260 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 67.0 | 13.0 | 9.0 | | - 62 |
| 4261 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 77.0 | 19.0 | 12.0 | | - 63 |
| 4262 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 71.0 | 8.0 | 5.0 | | - 63 |
| 4263 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 37.0 | 20.0 | 13.0 | | - 63 |
| 4264 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 18.0 | 10.0 | 10.0 | | - 63 |
| 4265 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 45.0 | 10.0 | 8.0 | | - 63 |
| 4266 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 23.0 | 9.0 | 3.0 | | - 63 |
| 4267 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 20.0 | 13.0 | 9.0 | | - 63 |
| 4268 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 38.0 | 14.0 | 11.0 | | - 63 |
| 4269 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 38.0 | 11.0 | 10.0 | | - 63 |
| 4270 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 26.0 | 12.0 | 4.0 | | - 63 |
| 4271 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 25.0 | 9.0 | 9.0 | | - 63 |
| 4272 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 20.0 | 13.0 | 7.0 | | - 63 |
| 4273 | 自然木 | 竈間が瀝 T2 | 18.0 | 4.0 | 3.0 | | - 63 |

木製品観察表(5)

第IV章 まとめ

今回の調査区は堀内部地区の中でも西端部から北西部にかけて設定した。柳之御所を囲む堀跡に沿うように堀内部地区の西端部から北西部分を対象にしたことになり、一部は北上川縁まで達している。つまり今回検出された遺構群は堀内部地区の副地跡や中心建物群からは最も離れた場所に分布しているといえる。また柳之御所と無量光院との間にある竈間が淵にトレンチを複数設定し、堀跡の調査も実施した。

以下、56次調査で検出された12世紀の遺構・遺物で特筆されるものを列挙する。

1 遺構

堀跡 (56SD38・SD39)

柳之御所を取り囲む2条の堀跡について、今回は調査があまり及んでいなかった竈間が淵の中にトレンチを設け、その中を巡る堀跡の調査を実施した。現地表面から約35cm掘り下ると堀が確認できた。これまでの調査と同様に2条の堀は並んで検出され、柳之御所を囲む堀に因してはその全域で2条の堀が並行して延びている可能性が高くなった。つまり、ある地点では堀が1条に合流するとか、堀跡どうしに重複関係を持つといったことは考えにくくなった。よってこの2条の堀跡についてはほぼ同時期に構築され、機能していたと推測される。そして56SD20との関係などから12世紀後半にはその殆どが埋まっていることも判明した。堀のもつ防衛的な意味合いは12世紀後半には薄れるが、完全には埋まっておらず、依然として橋を使い続けていること、人為的に堀を埋め戻してもいないことなどから、奥州藤原氏滅亡段階まで柳之御所堀内部地区を区画する機能は有していたと解釈したい。

堀がつくられた時期は、出土した遺物から判断するのは難しい状況であった。前述したように12世紀後半(秀衡・泰衡期)には埋まりかけていることから、より時代が上るとみたほうがよい。恐らく12世紀前半、藤原清衡が平泉に移ってきた時にこの地に堀を巡らせた居館を築いたと考えるのが最も素直であろう。

これまでの発掘調査でこの堀に架かる橋跡については、その全容がほぼ明らかになったものが2カ所まで確認されている。何れも南側に位置しており、堀内部地区より西方の無量光院側や北方の柳之御所堀外部地区側へ通じる傾斜跡については判然としなない。また、2条の堀と堀との間と、外側の堀(56SD39)の外縁に沿って、12世紀当時に堀の構築と時を同じくして盛られた土を確認した。これに関しては土塁の基底部或いは竈間が淵という脆弱地盤に堀を掘削していることによる崩落を防ぐ地業と想定したが、部分的な調査であったため今後も内容を確認する調査は必要と考える。

内堀 (56SD40) と土橋 (56SX16)

これまでの発掘調査でも部分的に検出されていたが、52次調査で堀跡(内堀)であることが確認された遺構である。今回の調査で全体規模を把握した。堀内部地区の西端近くに位置しており、全長は65mを測る。特筆されることはこの堀の両端部が止まっていることである。埋土も底部及びその直上は自然堆積で無加工の木や種子が見られるが、多くは人為的に埋め戻されている。その中にもかわらけや陶器片はごく僅かしか入らない。そのため、この遺構が機能していた段階のかわらけや陶磁器といった時期判定できる資材が無いのである。12世紀に属する様々な遺構と重複関係にあるが、本遺構のほうが切られており遅くとも12世紀後半には埋め戻されていたようである。こうしたことから12世紀の中でも古い段階に位置付けられる可能性が高い遺構であるが、仮に12世紀前半(清衡期)に位置付けられるならば、柳之御所を囲む堀跡と同時存在であったことになりそれも不自然な感がある。そうすると12世紀中頃(基衡期)か11世紀代の可能性が考えられるが何れも考古学的根拠には乏しい。

この56SD40には土橋56SX16が設けられていた。内堀の中心よりは北側に偏った場所に位置しており、幅も2mに満たない小規模なつくりである。この土橋に対応するような道路状遺構の存在も想定されなければならない。遺構の時期と共に今後の検討課題として残っている。

堀の両端部が止まっていることについても現時点では明らかにできない。56SD20も同様に端部（標高が高いほう）が止まっており、両者は同じ理由に起因していると思われるのが妥当であろう。推測の域を出ないが、標高の高い北側部分（現況は水田と畑地で平坦な地形であるが）は以前、地元の方の話ではもう少し高まりを有していた地形であったと聞いたことがある。それを平坦に削平して水田とし、削った土で西側の柳之御所を囲む堀を埋めたというのである。12世紀当時、この微高地にぶつけるかたちで56SD40内堀とSD20津跡が止まっていると考えたい。そしてこの場所が平坦ではなかったため建物を建てるには適さず、トイレ状遺構しか分布していないと解釈したい。勿論、園池や中心建物群からは最も遠い場所でもある。また12世紀の整地層を除去した際に検出された多数の雨裂溝もこの微高地からの雨水による開析と考えられ、柳之御所を囲む堀跡もこうした地形に影響されて掘られたものと推測される。

トイレ状遺構

堀内部地区の北西部に30数基ものトイレ状遺構がまとまって分布しているのを確認した。前回の55次調査で検出された柳之御所でも最大規模の建物跡（55SB6）のすぐ西側に位置しており東西約60m、南北約25mの範囲に不規則に展開している。これまでにもトイレ状遺構は数多く検出されているが散在する傾向があり、今回のように密集して確認されたことはなかった。ここにはトイレ状遺構の他、12世紀の遺構は56SD40以外になく、柳之御所が機能している間は一貫して排泄物等を廃棄する場所であったことは確実である。先に触れたようにこの場所は堀内部地区の中でも園池や中心建物群からは最も離れた場所であること、かつては平坦な地形ではなかったため建物を構築するには適さない場所であったと推察されることなどが多数のトイレ状遺構が占地する理由として考えられる。

点在するものと密集して位置しているトイレ状遺構の分布の違いが如何なる要因によるものか改めて考えなければならぬ問題であるが、原則は今回密集して確認された場所を使い、散在するものは井戸跡の転用や各屋敷に付属するかたちで設けられた一時的なものであったとみたい。

猫間が淵

これまでに調査された結果と大きな違いは見られなかった。現況は主に水田で地表から約35cm掘り下げると柳之御所を囲む堀跡（56SD38・SD39）が確認できることから、12世紀から現代までの間に35cm程しか土の堆積は進んでおらず、今日と地形的に大きな変化はないようである。つまり、12世紀の猫間が淵は低地・低湿地的な地形であったといえ、常に水を湛えたような景観は少なくとも今回調査した地点付近では想定できない。仮に水が溜まるような状況であったならば柳之御所を囲む堀を掘削することも困難であったであろう。

T2に於いて猫間が淵を深掘りしているが、約3.3m掘り下げても基盤層には達しなかった。基本的に砂と泥とが交互に堆積するような様相を呈し、周囲からの流れ込みと沈殿を繰り返す様が見取れる。10世紀前半の十和田a降下火山灰を地表から-2.1mの地点で確認している。火山灰層より下位では土器・石器の出土はなく、自然木のみが見られる。

2 遺物

吉州窯系陶器

平泉遺跡群では初めての出土である。出土した56SK31はトイレ状遺構であり、埋土から1点だけ破片の

状態で出土している。つまり12世紀後半には何らかの理由で割れてしまい、その内の1片だけが排遺物などと共に廃棄されたことになることから遺物年代の下限は12世紀後半である。吉州窯陶器には様々な種類があるが本資料は白地鉄絵陶器になる。日本での出土事例を見ると草戸千軒町遺跡・平安京跡・博多遺跡群他があげられ時期は13-14世紀が中心となる。出土数も少なく吉州窯陶器の内容について明らかでない部分も多い中、12世紀後半を下らない本遺跡の資料は貴重な例といえる。

その他の中国産陶器

以前から指摘されてきたように梅之御所における中国産陶器の出土量は平泉遺跡群の中でも非常に多い。今回の調査では白磁壺類に次いで中国産陶器壺類の比率が高かった。これまでの調査で得られた資料を再度整理すれば立体的に復元、或いは個体数をより詳細に把握できるものがある可能性がある。一方、出土状況に国産陶器との差異は見出せない。遺構外出土遺物は12世紀当時から動いていることが予想されるが、改めて陶磁器類の遺跡内における分布状況を整理し、検出された建物跡等と関連づける作業も求められよう。

折 敷

今回の調査で出土した遺物の中で特筆すべきものの1つとして、56SD39のT4で出土した折敷があげられる。底板及び縁が残っており、大きさは縦39cm、横26cm、厚さ2.4cmを測る。縁については、四辺のうちの一辺は欠けているものの、三辺がほぼ完全な状態で残存する。縁については、一辺当り三ヶ所の木釘が打ってある。

底板の裏面には、十字及び楕円状に合計28ヶ所の釘穴が認められる。推定の域を出ないが、今回出土した折敷には木製の脚がついていた可能性が考えられる。

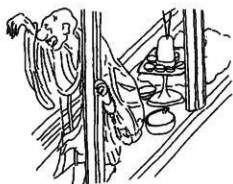
木製のものではないが、52次調査の際に52SE10より出土した大型の柱状高台について、羽柴直人氏が京都での事例などから、大型の柱状高台は『兵範記』に記されている「土高坪」であり、柱状高台の上に木製の折敷を乗せて使用したと述べている（羽柴2001）。

今回出土した折敷もおそらく木製の台がついていたものと考えられる。

また、底板の表面及び裏面には刃物状のものでつけられたと思われる傷跡が多数認められる。このことは、この折敷が、折敷として使用された後に、まな板など別の用途に転用されたと考えられる。

引用文献：

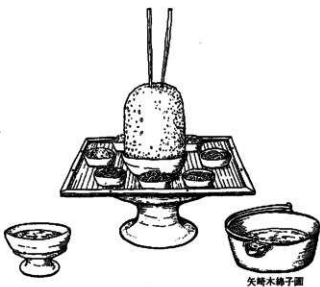
羽柴直人 2001 「平泉遺跡群のロクロかわらけについて」『岩手考古学』第13号



信貴山縁起の高杯



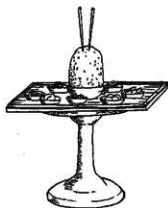
伴大納言縁巻の高杯



矢崎木梯子面

52SE10 かわらけの使用想定図

(羽柴2001より引用)



56次調査で出土した折敷の使用想定図

第V章 付 篇

I 柳之御所遺跡第56次調査出土材の樹種

高橋 利彦 (木工舎「ゆい」)

1. 試料

試料は12世紀代のもとのされる井戸・土坑・溝などから検出された木製品・加工材など105点と、藪間が淵トレンチから検出された自然木5点の計110点である(表I-1)。自然木の検出層準の上層には1和田a降下火山灰の堆積が確認されていることから、自然木は10世紀初頭以前のもものとされている。

遺跡は北上川右岸の河岸段丘縁(標高26~27m)に立地している。

2. 方法

プレパラートの作製には筆者が遺物から採取した材片を用いた。材片は少なくとも足かけ2年分を含み、かつできるだけ少ない量となるように、調査担当者との協議しながら採取した。剃刀の刃を用い、試料の木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)3面の徒手切片を作製し、これをガムクロラルで封入したプレパラートを、生物顕微鏡で観察・同定した。併せて各分類群1点の顕微鏡写真図版を作成した(図版1~5)。作製したプレパラートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料は以下の13分類群(ここでは属・節・種の異なった階級の分類単位を総称している)に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名とその配列は「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」(佐竹ほか1989)にしたがい、県内での自然分布については「岩手県植物誌」(岩手植物の会1970)を参照した。また、一般的性質などについては「木の事典 第2~8巻」(平井1979-1981)も参考にした。

・モミ属 (*Abies* sp.) マツ科 No. 4102

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、年輪界は明瞭。樹脂細胞・樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなり、柔細胞内壁は粗く、末端壁にはじょうず状の肥厚が認められ、上下の縁辺細胞は不定形である。分節穿孔はスキ型(Taxodioid)で分節あたり1~4個。放射組織は単列、25細胞高を越えることもある。

モミ属は国内に5種あるが、県内にはモミ(*Abies firma*)が南部や沿岸部の低山地に、オオシラビン(アオモリトドマツ)(*A. mariesii*)が亜高山帯に分布する。モミの材はやや軽軟で、強度は小さく、割裂性は大きい。加工は容易、保存性は低い。棺や卒塔婆など葬祭具に用いられるほか、建具・器具・家具・建築材など各種の用途がある。

・スギ(*Cryptomeria japonica*) スギ科 No. 4002, 4005, 4006, 4007, 4008, 4009, 4010, 4011, 4012, 4013, 4014, 4015, 4019, 4021, 4022, 4024, 4025, 4026, 4027, 4029, 4033, 4034, 4037, 4038, 4039, 4040, 4041, 4042, 4045, 4047, 4048, 4052, 4053, 4054, 4055, 4060, 4061, 4062, 4065, 4066, 4067, 4068, 4069, 4072, 4075, 4077, 4078, 4080, 4082, 4084, 4085, 4086, 4088, 4090, 4095, 4096, 4098, 4099, 4101, 4111, 4114, 4116, 4117, 4109a, 4109b, 4109c, 4109d, 4109e

早材部から晩材部への移行は急~やや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹

脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔はスギ型で分野あたり2（1-4）個。放射組織は単列、15細胞高程度まで。

スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では、現在植林面積第一位の重要樹種であり、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樽桶類・舟材など各種の用途がある。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科 No. 4001, 4018, 4020, 4023, 4051

早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔はヒノキ型 (Cupressoid) で分野あたり2（1-4）個。放射組織は単列、15細胞高程度まで。

ヒノキ属にはヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) とサワラ (*C. pisifera*) の2種がある。ヒノキは国内ではスギに次ぐ植林面積をもつ重要樹種であるが、県内には自生しない。サワラは県中南部に自生し、また植栽される常緑高木で多くの園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

・アスナロ (*Thujaopsis dolabrata*) ヒノキ科 No. 4046, 4049, 4070, 4071, 4074, 4089, 4091, 4093, 4094, 4103, 4113

早材部から晩材部への移行は緩やかで、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔は小型のヒノキ型〜スギ型で分野あたり1-6個。放射組織は単列、1-15細胞高であるが5細胞高前後の低いものが多い。

アスナロは本州・四国・九州に自生する日本特産の常緑高木で時に植栽される。北海道（渡島半島以南）・本州北部には変種ヒノキアスナロ（ヒバ）(*T. dolabrata* var. *hondai*) がある。材はやや軽軟で保存性は高い。建築・土木・家具・器具材など各種の用途が知られている。

・ハンノキ属 (*Alnus* sp.) カバノキ科 No. 4238, 4252, 4254

散孔材で、管孔は放射方向に2-4個が複合または単独で配列、横断面ではやや角張った楕円形。道管は階段穿孔をもち、段 (bar) 数は10-30、壁孔は密に対列状に配列、放射組織との間では網目状となる。放射組織は同性、単列、1-30細胞高のもの集合組織がある。柔組織は短接線状〜散在状。年輪界はやや不明瞭。

ハンノキ属は国内に約10種が自生し、属としては全国に分布する落葉高木である。県内にはヒメヤシャブシ (*Alnus pendula*) やハンノキ (*A. japonica*) など5種ほどが自生する。材はやや軽軟〜やや重硬で、加工は容易、薪炭材や各種器具材などとして用いられる。

・アサダ (*Ostrya japonica*) カバノキ科 No. 4016

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-4個が複合、横断面では楕円形。道管は単穿孔をもち、内壁にらせん肥厚が認められ、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-4細胞幅、1-30細胞高で、しばしば上下に連結する。時に結晶細胞が認められる。柔組織は短接線状。年輪界はやや不明瞭。

アサダは北海道（中南部）から九州に分布する落葉高木である。材は重硬で、割裂性は小さく、加工は困難である。器具・家具・機械・建築材などに用いられ、強度を必要とする用途に適している。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* sp.) ブナ科 No. 4235

環孔材で孔部は1-2列、孔間外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は横断面では楕円形、小道管は横断面では角張った円形-楕円形、ともに単独で配列する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものとの複合組織がある。柔組織は短接線状、周囲状。年輪界は明瞭。

クヌギ節はコナラ亜属(落葉ナラ類)の中で果実(ドングリ)が開花から2年目に熟すグループで、クヌギ(*Quercus acutissima*)とアベマキ(*Q. variabilis*)の2種がある。県内にはアベマキは自生せず、クヌギが中南部に分布する。クヌギは樹高15mになる落葉高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されることも多く、薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・枕材、櫓木などの用途がある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科 No. 4044. 4050

環孔材で孔部は1-3列、孔間外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火災状に配列する。大道管は横断面では円形-楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独で配列する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものとの複合組織がある。柔組織は短接線状、周囲状。年輪界は明瞭。

コナラ節はコナラ亜属の中で果実が開花の年に熟すグループで、カシワ(*Quercus dentata*)・ミズナラ(*Q. crispula*)・コナラ(*Q. serrata*)・ナラガシワ(*Q. aliena*)といくつかの変・品種がある。このうちコナラは樹高20mになる落葉高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・櫓材などの用途があり、薪炭材としてはクヌギに次ぐ優良材である。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科 No. 4004. 4032. 4059. 4105. 4106. 4107. 4108. 4110. 4112

環孔材で孔部は1-多列、孔間外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火災状に配列する。大道管は単独、横断面では円形-楕円形、小道管は単独および2-3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った楕円形-多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状-網目状となる。放射組織は同性、単(一部2)列、1-15細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、櫓木などに用いられる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata*) ニレ科 No. 4030. 4035. 4083. 4092. 4097

環孔材で孔部は1-2列、孔間外で急激に管径を減じたのち漸減し、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は横断面では円形-楕円形、単独。小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-10細胞幅、1-60細胞高でしばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにもなる。材はやや重硬で、強度は大きい加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途に用いられ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つにあげられる。

・カエデ属 (*Acer* sp.) カエデ科 No. 4057

散孔材で横断面ではやや角張った楕円形、単独または2-3個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔をもち、壛孔は対列-交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-20細胞高。柔組織はターミナル状、周囲状または随伴散在状、接線状。年輪界はやや明瞭。

カエデ属は国内に26種が自生し、また多くの品種があり植栽されることも多い。属としては琉球を除くほぼ全土に分布する落葉高木-低木である。県内にはイロハモミジ (*Acer palmatum*)やハウチワカエデ (*A. japonicum*)など15種ほどが自生する。材は一般にやや重硬・強靱で、加工はやや困難、保存性は中程度である。器具・家具・建築・装飾・旋作・薪炭材などに用いられる。

・エゴノキ属 (*Styrax* sp.) エゴノキ科 No. 4031

散孔材で横断面では楕円形、2-4個が複合または単独で配列、年輪界付近で管径を減少させる。道管は階段穿孔をもち、段数は5-10、壛孔は交互-対列状に配列、放射組織との間では瘤状となる。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-30細胞高で、時に上下に連結する。柔組織は短接線状、散在状。年輪界は不明瞭。

エゴノキ属は国内に3種あるが、県内にはエゴノキ (*Styrax japonica*)とハクウンボク (*S. obassia*)が自生する。材はやや重硬で割裂しにくく、加工はやや容易、旋作・器具・薪炭材などに用いられる。

・トネリコ属 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科 No. 4251

環孔材で孔部は2-3列、孔部外で急に管径を減少させたのち漸減する。管壁は厚く、横断面では円形-楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔をもち、壛孔は小型で密に交互状に配列、放射組織との間では網目状-篩状となる。放射組織は同性-異性、1-4細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状、ターミナル状。年輪界は明瞭。

トネリコ属は国内に9種あるが、県内にはヤチダモ (*Fraxinus mandshurica* var. *japonica*)やトネリコ (*F. japonica*)など6種が自生する。いずれも落葉高木で、材質は種によって異なるが、一般には中庸-やや重硬で、韌性があり、加工は容易で、建築・器具・家具・旋作・薪炭材などに用いられる。

以上の同定結果を検出遺構や推定されている用途などにも一覧表で示す(表I-1)。

4. 考察

検討対象とされた110点の試料の6割強をスギが占めている。アスナロがこれに次ぎ、両種にヒノキ属とモミ属を加えた針葉樹が全体の8割弱にあたる86点を占めている(表I-2)。こうした傾向は柳之御所遺跡第55次調査(高橋 2003MS)や同第21次・41次調査など(以下先行調査と表記)(能城 1995, 高橋 1995)、隣接する志羅山遺跡第66・74次調査(高橋 2000a)、同第80次調査(高橋 2001)検出材でも認められている。これは、試料の多くが折敷やちゅう木をはじめとした薄板やその加工材で占められていることによるもので、割裂性に優れた針葉樹材が選択された結果(高橋 2000a)が表れたものといえよう。すなわち、「割り技法」による板作りが行われていた時代の用材選択の結果が表れているとみる事ができる。

対象とされた試料の半数近くはその用途が推定できていない加工材であるが、上記のように、多くが薄板状のもので、スギをはじめとして針葉樹が多く用いられている。また、用途によっては特定の樹種に偏った組成を示している(表I-2)ことから、用材の選択が行われていたことがうかがえる。

箸は14点が検討されたが、スギ(9点)とアスナロ(5点)が認められた。「両口箸」のほか、「片口箸」や「寸胴箸」と判断できるものも含まれている。破損しているものも多いが、形状によって使用樹種が異な

ることはないようである。箸は先行調査でも多数検出され、検討された試料のほとんどを二分群にヒノキを加えた針葉樹が占めている¹³⁾ (能城 1996)。また、志羅山遺跡66次調査出土試料では検討した18点すべてがスギであった (高橋 2000a)。

ちゅう木は13点を検討したが、スギ (12点) とヒノキ属 (1点) に同定された。箸者はちゅう木のほとんどは薄板を二次加工した板川材であろうと考えている (高橋 2000a) が、スギが9割近くを占める先行調査のような例¹⁴⁾ (能城 1996) とともに志羅山遺跡74次調査出土材のように、アスナロが多くスギの方が少ない例¹⁵⁾ (高橋 2000a) もある。

折敷は6点が検討された。底板が2点、縁¹⁶⁾が3点、木釘が1点である。いずれもスギ製であった。うち1点の底板 (No. 4109a) は四方に縁がつけられ、三方 (No. 4109b-d) が残存していた。残存している縁はそれぞれ3カ所が木釘で底版に打ち付けられており、うち8本が残存し、1本 (No. 4109e) を検討試料とした。木釘は古くから軟質材の緊結に用いられてきた方法であり、打ち込まれる材より硬質の別材 (例えばツギキや竹など) を用いる場合と、同材を用いる場合があるが、この試料は後者であった。なお、先行調査検出材には底板・縁・木釘ともスギの例が圧倒的に多い¹⁷⁾ (能城 1995、高橋 1995)。

椀は4点が検討された。いずれも破片で、3点は漆塗りであるが1点は漆の塗膜が確認されていない。すべてケヤキ製であった。第55次調査出土試料の2点もケヤキであり (高橋 2003MS)、先行調査でも漆器のほとんどがケヤキに同定¹⁸⁾されている (能城 1995、高橋 1995)。

下駄は4点あるが連筒下駄が2点、差筒下駄の歯が2点である。連筒下駄にはスギとケヤキ、差筒にはスギとヒノキ属が用いられていた。先行調査例¹⁹⁾でも連筒下駄の用材はケヤキが最も多くスギも認められ、また、差筒の用材はスギが多い (能城 1995)。一方、ヒノキ属の例は連筒・差筒ともなく、県内の遺跡でもこれまでのところ報告はないようである (高橋 2000b)。

ところで、No. 4023は用途不明の加工材であるが、両端部は曲面に加工され、一面には漆塗膜、他面には菱形の塗刻²⁰⁾が残されている。ヒノキ属が用いられていた。上述したように、ヒノキ属のうちサワラは自生が認められているが、ヒノキの自生北限は東北地方最南部の福島県いわき市とされている (福島県植物志編さん委員会 1987)。解剖学的特徴でサワラとヒノキの識別はできていないため試料がサワラでないとは断定できず、また、ヒノキの植栽木がなかったともいえないが、そのどちらの可能性も低いと考えている。おそらく、関東以西の地域からの移入品と思う。確実な鑑人品と判断できるものは、先行調査出土のイスノキ製櫛 (2点) とツゲ製櫛 (1点) (能城 1995、高橋 1995) や志羅山遺跡第66次調査出土のイスノキ製櫛 (高橋 2000a) などに限られるが、これまでヒノキあるいはヒノキ属に同定された木製品・加工材はもちろぬ、奥州藤原氏関連の遺跡から検出された木製品の中にも、同じく移入されたものが少なからず含まれているものと考えている²¹⁾。

十和田a降下火山灰層の下から検出された自然木からはハンノキ属・クスギ節・トネリコ属が認められた。出土地の歯間が歯は当時、低湿地であったとみられている。いずれも解剖学的特徴から種までの識別はできていないが、河川敷など湿性な立地に生育するハンノキ・クスギ・ヤチダモ (またはトネリコ) であろう。これまでのところ根株などは検出されていないようであるから、出土地付近に生育していたものではなく、北上川本流から遊流してきた流木の可能性もあろう。なお、12世紀代の池跡から検出された自然木 (85点) からはカエデ属・ヤナギ属・エゴノキ属など25分類群が認められている (能城 1995) が、その中にハンノキ属とクスギ節は含まれていない。これが検討試料数の差によるものなのか、時代や出土地の違いによるものなのかはわからない。

(注)

- 1) 143点がスギ(65)・アスナロ(44)・ヒノキ(32)に同定されているほか、今回の試料には認められなかったモミ属(1)と広葉樹のウコギ属(1)も報告されている。
- 2) 136点の中にはスギ(121)・アスナロ(9)・ネズコ(5)の針葉樹に加えて広葉樹のクリ(1)も認められている。
- 3) トイレ状土坑とされるSK12から検出された30点はアスナロ(21)とスギ(9)に同定されている。
- 4) 先行調査の報告書中では椋(三浦 1995)や榊木(能城 1995)と表記されている。
- 5) 底板(120点)にはスギ(97)・アスナロ(9)・ネズコ(6)・モミ属(5)・クリ(2)・ハリギリ(1)が、縁(28点)にはスギ(24)・アスナロ(3)・モミ属(1)が、木釘(25点)にはスギ(24)とアスナロ(1)が用いられている。ところで、能城氏は折敷の縁・曲物・祭祀具などの木取りは“柾目がやや多いものの、板目も結構使われており、曲物の底および蓋では、斜めのものを板目に含めると、板目の方が多くくらいである。これに対し、折敷の底板では(中略)80%近くが柾目であるなど、かなり明確な製品化が認められる。”としている。しかし、能城氏が板目に含めた「斜めのもの」は、木工では「追柾」と呼び、柾目に準ずるものとして扱われている木取りである(ちなみに、高級着せなどに語られる「四方柾」とは、この追柾が4個面すべてに表れているものを指している)。手元の資料では実数はわからないが、やや多いとされている柾目にこの追柾を加えると、板目の数はさらに少なくなるはずである。したがって、曲物と折敷底板の木取りの違いは、能城氏のいうほど大きなものにはなっていないと思う。
- 6) 検討された85点のうち71点が椀、14点が皿とされているが椀としたものの中には他の器種も含まれているようである。ケヤキのほかブナ属も2点用いられている。ブナ属製漆器のうち1点は椀であるが、もう1点の器種は手元の資料ではわからなかった。
- 7) 発掘報告書では23点(樹種が明らかにされたのは19点)が差歯か差歯か不明の下駄歯とされていた(三浦 1995)が、実測図を検討したところ、うち6点が差歯下駄、12点が差歯と判明した(高橋 2006b)。
- 8) ただしその加工は稚拙で、本来の加飾ではないのかもしれない。
- 9) こうした考えは、例えば、東北地方で最古の差歯下駄が本遺跡から検出され、藤原氏による搬入品と判断されていること(八重樫 2001)からも支持されると思う。

引用文献

- 福島県植物誌編さん委員会 1987 「福島県植物誌」
- 平井信二 1979-1981 「木の事典 第2～8巻」, かねえ書房
- 岩手植物の会 1970 「岩手県植物誌」
- 三浦謙一 1995 木製品類, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 柳之御所跡 一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査 (分冊3)」, 93-111, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 能城修一 1995 柳之御所跡から出土した木製品の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 柳之御所跡 一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査 (分冊1本文・図版)」, 433-456, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編) 1989 「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」, 平凡社
- 高橋利彦 1995 柳之御所跡第23次・31次調査出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 柳之御所跡 一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査

- 《分冊1 本文・図版》, 423-432, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋利彦 2000a 志羅山遺跡第66次・第74次調査出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第312集 志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書 一 岡遊水池事業関連遺跡発掘調査」, 433-444, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋利彦 2000b 県内の遺跡から出土した木質遺物の樹種 I. 下駄, 「岩手考古学会第25回研究大会資料」, 33-35
- 高橋利彦 2001 平泉町志羅山遺跡第80次調査出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第352集 志羅山遺跡発掘調査報告書(第47・56・67・73・80次調査) 都市計画街路毛越寺線整備事業関連遺跡発掘調査」, 649-662, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋利彦 2003MS 柳之御所遺跡第55次調査出土材の樹種, 7pp., 3pls., 木工会「ゆい」
- 八重樫忠郎 2001 衣生活4 装身具, 「いわて未来への遺産 古代・中世を歩く 奈良-安土桃山時代」, 173, 岩手日報社

E1-1 櫛之御所遺跡第56次調査出土材の樹種

| 試料番号 | 検出遺構など | 用 途 | 種 名 |
|------|------------|------|-------|
| 4001 | 56P447 埋土 | 柱 | ヒノキ属 |
| 4002 | 56SE1 埋土 | 不明 | スギ |
| 4004 | 56SE1 埋土 | 不明 | クリ |
| 4006 | 56SK26 8層 | 不明 | スギ |
| 4005 | 56SK26 8層 | 曲物側板 | スギ |
| 4009 | 56SK28 9層 | ちゆう木 | スギ |
| 4010 | 56SK28 10層 | ちゆう木 | スギ |
| 4008 | 56SK28 10層 | ちゆう木 | スギ |
| 4007 | 56SK28 10層 | ちゆう木 | スギ |
| 4025 | 56SK33 3b層 | 折敷 | スギ |
| 4026 | 56SK33 3層 | 不明 | スギ |
| 4027 | 56SK33 6層 | ちゆう木 | スギ |
| 4031 | 56SK33 6層 | 部材 | エゴノキ属 |
| 4029 | 56SK33 7層 | 不明 | スギ |
| 4030 | 56SK33 7層 | 漆塗椀 | ケヤキ |
| 4032 | 56SK33 8層 | 棒状品 | クリ |
| 4033 | 56SK33 8層 | 不明 | スギ |
| 4035 | 56SK33 8層 | 漆塗椀 | ケヤキ |
| 4034 | 56SK33 8層 | 不明 | スギ |
| 4042 | 56SK33 8層 | 不明 | スギ |
| 4037 | 56SK33 8層 | ちゆう木 | スギ |
| 4038 | 56SK33 8層 | ちゆう木 | スギ |
| 4039 | 56SK33 8層 | ちゆう木 | スギ |
| 4041 | 56SK33 8層 | 箸 | スギ |
| 4040 | 56SK33 8層 | ちゆう木 | スギ |
| 4016 | 56SK34 14層 | 棒状品 | アサダ |
| 4011 | 56SK53 13層 | 不明 | スギ |
| 4012 | 56SK53 13層 | ちゆう木 | スギ |
| 4013 | 56SK53 13層 | ちゆう木 | スギ |
| 4014 | 56SK53 13層 | ちゆう木 | スギ |
| 4015 | 56SK53 13層 | 不明 | スギ |
| 4022 | 56SK67 3層 | 板材 | スギ |
| 4019 | 56SK67 8層 | 不明 | スギ |
| 4024 | 56SK67 8層 | 不明 | スギ |
| 4020 | 56SK67 8層 | ちゆう木 | スギ |
| 4023 | 56SK67 8層 | 不明 | ヒノキ属 |
| 4021 | 56SK67 12層 | 不明 | スギ |

表I-1 (続き)

| 試料番号 | 検出遺構など | 用 途 | 種 名 |
|------|------------------|------|---------------|
| 4018 | 56SK67 埋土 | 不明 | ヒノキ属 |
| 4044 | 56SD38 28層 | 鉄 | コナラ・コナラ互属コナラ属 |
| 4045 | 56SD38 28層 | 部材 | スギ |
| 4046 | 56SD38 34層 | 不明 | アスナロ |
| 4047 | 56SD38 埋土 | 弱骨 | スギ |
| 4048 | 56SD38 埋土 | 箸 | スギ |
| 4049 | 56SD38 埋土 | 箸 | アスナロ |
| 4050 | 56SD39 T2 埋土 | 不明部材 | コナラ属コナラ互属コナラ属 |
| 4053 | 56SD39 T2 13層 | 不明 | スギ |
| 4055 | 56SD39 T2 16層 | 連歯下駄 | スギ |
| 4062 | 56SD39 T2 22層 | 不明 | スギ |
| 4060 | 56SD39 T2 22層 | 不明 | スギ |
| 4059 | 56SD39 T2 22層 | 不明 | クリ |
| 4061 | 56SD39 T2 22層 | 不明 | スギ |
| 4057 | 56SD39 T2 22層 | 不明 | カエデ属 |
| 4065 | 56SD39 T2 27~31層 | 不明 | スギ |
| 4067 | 56SD39 T2 27~31層 | 箸 | スギ |
| 4068 | 56SD39 T2 27~31層 | 箸 | スギ |
| 4066 | 56SD39 T2 27~31層 | 箸 | スギ |
| 4069 | 56SD39 T2 27~38層 | 曲物側板 | スギ |
| 4074 | 56SD39 T2 27~38層 | 箸 | アスナロ |
| 4070 | 56SD39 T2 27~38層 | 箸 | アスナロ |
| 4071 | 56SD39 T2 27~38層 | 箸 | アスナロ |
| 4073 | 56SD39 T2 27~38層 | 箸 | スギ |
| 4072 | 56SD39 T2 27~38層 | 箸 | スギ |
| 4075 | 56SD39 T2 27~38層 | 不明 | スギ |
| 4082 | 56SD39 T2 31~38層 | 不明 | スギ |
| 4078 | 56SD39 T2 31~38層 | 不明 | スギ |
| 4077 | 56SD39 T2 31~38層 | 不明 | スギ |
| 4080 | 56SD39 T2 31~38層 | 不明 | スギ |
| 4083 | 56SD39 T2 34層 | 漆塗椀 | ケヤキ |
| 4084 | 56SD39 T2 35a層 | 不明 | スギ |
| 4085 | 56SD39 T2 36・37層 | 墨書板片 | スギ |
| 4086 | 56SD39 T2 37・38層 | 不明 | スギ |
| 4051 | 56SD39 T2 8層 | 下駄差歯 | ヒノキ属 |
| 4052 | 56SD39 T2 9~11層 | 箸 | スギ |
| 4088 | 56SD39 T2 埋土 | 不明 | スギ |

表 I-1 (続き)

| 試料番号 | 検出遺構など | 用 途 | 種 名 |
|---------|------------------|--------|-------------------|
| 4092 | 56SD39 T2 埋土 | 連櫓下駄 | ケヤキ |
| 4091 | 56SD39 T2 埋土 | 箸 | アスナロ |
| 4094 | 56SD39 T2 埋土 | 不明 | アスナロ |
| 4089 | 56SD39 T2 埋土 | 不明 | アスナロ |
| 4090 | 56SD39 T2 埋土 | 箸 | スギ |
| 4093 | 56SD39 T2 埋土 | 匙形木製品 | アスナロ |
| 4054 | 56SD39 T2 13層 | 杓子形木製品 | スギ |
| 4095 | 56SD39 T4 13層 | 下駄蓋歯 | スギ |
| 4099 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | スギ |
| 4102 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | モミ属 |
| 4096 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | スギ |
| 4108 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | クリ |
| 4098 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | スギ |
| 4106 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | クリ |
| 4105 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | クリ |
| 4107 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | クリ |
| 4103 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | アスナロ |
| 4109(a) | 56SD39 T4 14・15層 | 折敷底板 | スギ |
| 4109(b) | 56SD39 T4 14・15層 | 折敷棧 | スギ |
| 4109(c) | 56SD39 T4 14・15層 | 折敷棧 | スギ |
| 4109(d) | 56SD39 T4 14・15層 | 折敷棧 | スギ |
| 4109(e) | 56SD39 T4 14・15層 | 折敷木釘 | スギ |
| 4101 | 56SD39 T4 14・15層 | 不明 | スギ |
| 4097 | 56SD39 T4 14・15層 | 椀 | ケヤキ |
| 4111 | 56SD39 T4 16層 | 不明 | スギ |
| 4110 | 56SD39 T4 16層 | 不明 | クリ |
| 4112 | 56SD39 T4 22層 | 不明 | クリ |
| 4113 | 56SD39 T4 埋土 | 不明 | アスナロ |
| 4116 | 56SD39 T4 埋土 | 不明 | スギ |
| 4114 | 56SD39 T4 埋土 | 不明 | スギ |
| 4117 | 56SD40 12層 | 不明 | スギ |
| 4238 | T2 猫間が淵 XI層 | 自然木 | ハンノキ属 |
| 4251 | T2 猫間が淵 IX-XV層 | 自然木 | トネリコ属 |
| 4255 | T2 猫間が淵 IX-XV層 | 自然木 | コナラ属コナラ 亜属クヌギ節 |
| 4252 | T2 猫間が淵 IX-XV層 | 自然木 | ハンノキ属 |
| 4254 | T2 猫間が淵 IX-XV層 | 自然木 | ハンノキ属 |

表1-2 柳之御所遺跡第56次調査出土材の主な用途別樹種構成

| 分類群\用途 | 箸 | ちゅう木 | 折敷 | 椀 | 下駄 | その他 | 自然木 | 合計 |
|--------|----|------|----|---|----|-----|-----|-----|
| モミ属 | | | | | | 1 | | 1 |
| スギ | 9 | 12 | 6 | | 2 | 40 | | 69 |
| ヒノキ属 | | 1 | | | 1 | 3 | | 5 |
| アスナロ | 5 | | | | | 6 | | 11 |
| ハンノキ属 | | | | | | | 3 | 3 |
| アサダ | | | | | | 1 | | 1 |
| クスギ節 | | | | | | | 1 | 1 |
| コナラ節 | | | | | | 2 | | 2 |
| クリ | | | | | | 9 | | 9 |
| ケヤキ | | | | 4 | 1 | | | 5 |
| カエデ属 | | | | | | 1 | | 1 |
| エゴノキ属 | | | | | | 1 | | 1 |
| トネリコ属 | | | | | | | 1 | 1 |
| 小計 | 14 | 13 | 6 | 4 | 4 | 64 | 5 | 110 |

- 図版1 1. モミ属 No. 4102
 2. スギ No. 4026
 3. ヒノキ属 No. 4023

- 図版2 4. アスナロ No. 4049
 5. ハンノキ属 No. 4238
 6. アサダ No. 4016

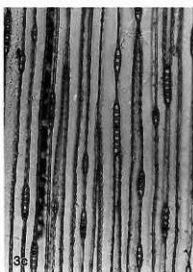
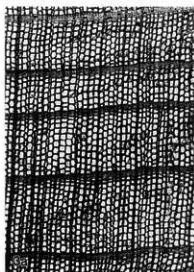
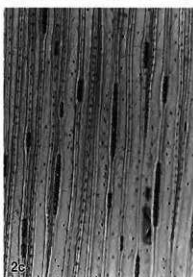
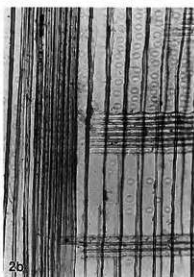
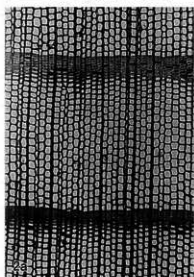
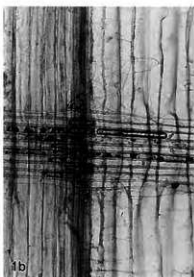
- 図版3 7. コナラ属コナラ亜属クスギ節 No. 4255
 8. コナラ属コナラ亜属コナラ節 No. 4050
 9. クリ No. 4106

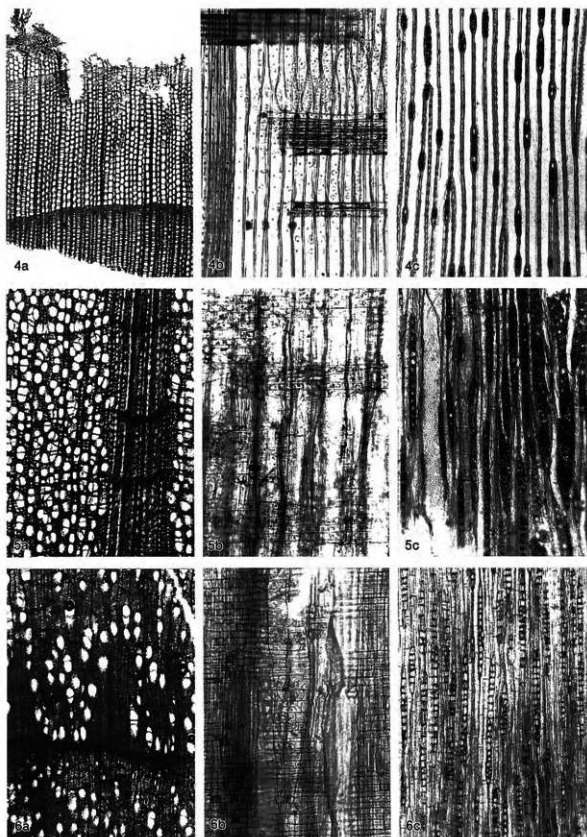
- 図版4 10. ケヤキ No. 4092
 11. カエデ属 No. 4057
 12. エゴノキ属 No. 4031

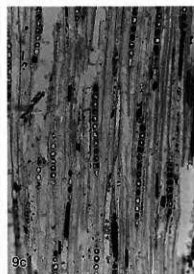
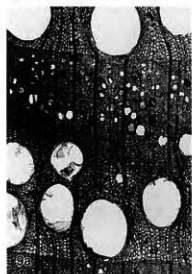
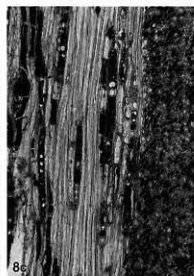
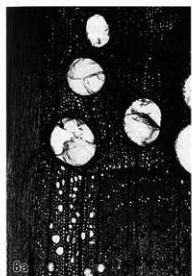
- 図版5 13. トネリコ属 No. 4251

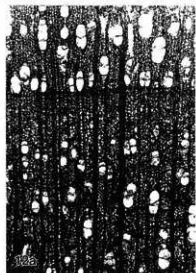
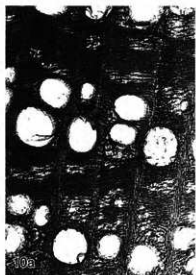
a:木口 x40 b:柾目 x100 c:板目 x100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柾目では左から右。











II 柳之御所遺跡第55次調査出土材の樹種

高橋 利彦 (木工会「ゆい」)

1. 試料

試料は12世紀のもとのされる井戸と土坑から検出された木製品や加工材48点である。いずれもポリエチレングリコール (PEG) による保存処理済みのものである。遺物や検出遺構については概報が刊行されている (岩手県教育委員会 2002)。なお、4013は概報では屑の骨とされていたが、一端が45度に加工されていることと釘穴が3カ所あけられていることから、筆者が折敷縁と判断し、本稿ではそのように表記した (縁を4013a、木釘を4013bとした)。

遺跡は北上川右岸の河岸段丘縁 (標高26~27m) に立地している。

2. 方法

プレバートの作製には、筆者が遺物から採取した材片などを用いた。担当者の立ち会いのもとで、一部の試料 (4092~4101) からは材片を採取し、残りの試料からは直接切片を採取した²¹⁾。剃刀の刃を用い、試料の木口 (横断面)・柁目 (放射断面)・板目 (接線断面) 3面の徒手切片を作製し、これをガムクロラルで封入したプレバートを、生物顕微鏡で観察・同定した。併せて各分類群1点の顕微鏡写真図版を作成した (図版1~3) が、直接切片を採取したものの中には小さかったり、望ましい方向で作製できなかったものもあることをお断りしておく。作製したプレバートはすべて木工会「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料は以下の8分類群 (ここでは属と種の異なった階級の分類単位を差控している) に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名とその配列は「日本の野生植物 木本Ⅰ」(佐竹ほか 1989) にしたがう。県内での自然分布については「岩手県植物誌」(岩手植物の会 1970) を参照した。また、一般的性質などについては「木の事典 第1・4・6・7巻」(平井 1979, 1980) も参考にした。

・スギ (*Cryptomeria japonica*) スギ科 4008, 4010, 4011, 4016, 4032, 4033, 4034, 4054, 4055, 4060, 4061, 4063, 4064, 4069, 4070, 4071, 4081, 4086, 4087, 4088, 4089

早材部から晩材部への移行は急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔はスギ型 (Taxodioid) で分野あたり通常2個。放射組織は単列、20細胞高程度まで。

スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では、現在植林面積第一位の重要樹種であり、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樽桶類・舟材など各種の用途がある。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科 4013a, 4013b, 4031, 4056, 4062

早材部から晩材部への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔はヒノキ型 (Cupressoid) で分野あたり1~4個。放射組織は単列、15細胞高程度まで。

ヒノキ属にはヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) とサワラ (*C. pisifera*) の2種がある。ヒノキは国内では

スギに次ぐ植林面積をもつ重要樹種であるが県内には自生しない。サワラは岩手県中南部以南に自生し、また植栽される高木で多くの園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樺や楠にするほか各種の用途がある。

・ネズコ (*Thuja standishii*) ヒノキ科 4090

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔はスギ型(ーヒノキ型)で分野あたり1-4個。インデンチャーが認められる。放射組織は単列、20細胞高を越えることもある。

ネズコは本州・四国に自生する常緑高木で、日本特産種である。材は軽軟で、加工は容易、強度は小さいが保存性は高い。建築・家具・器具材など各種の用途が知られている。

・アスナロ (*Thujaops dolabrata*) ヒノキ科 4005, 4006, 4035, 4080

早材部から晩材部への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔は小型のヒノキ型-スギ型で分野あたり1-6個。放射組織は単列、5細胞高前後の低いものが多い。

アスナロは本州・四国・九州に自生する日本特産の常緑高木で時に植栽される。北海道(渡島半島以南)・本州北部には変種ヒノキアスナロ(ヒバ) (*T. dolabrata* var. *hondai*)がある。材はやや軽軟で保存性は高い。建築・土木・家具・器具材など各種の用途が知られている。

・アサダ (*Ostrya japonica*) カバノキ科 4004

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-4個が複合、横断面では楕円形。道管は単穿孔をもち、内壁ならせん肥厚が認められ、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-4細胞幅、20細胞高程度であるが時に上下に連結する。結晶細胞が認められる。柔組織は短接線状。年輪界はやや不明瞭。

アサダは北海道(中南部)から九州に分布する落葉高木である。材は重硬で、割裂性は小さく、加工は困難である。器具・家具・機械・建築材などに用いられ、強度を必要とする用途に適している。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科 4047, 4048

環孔材で孔圏部は多列、小道管は火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形、小道管は横断面では角張った楕円形-多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、櫓木などに用いられる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata*) ニレ科 4001, 4002

環孔材で孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減し、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は横断面では円形-楕円形、単独。小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-10細胞幅、1-60細胞高でしばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにもなる。材はやや重硬で、強度は大きい、加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が

美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途に用いられ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つにあげられる。

・モクレン属 (*Magnolia* sp.) モクレン科 4050, 4091, 4092, 4093, 4094, 4095, 4096, 4097, 4098, 4099, 4100, 4101

散孔材で横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合する。道管は単穿孔をもち、壁孔は階段状～対列状に配列、放射組織との間では網目状～階段状となる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～40細胞高。柔組織はターミナル状。年輪界は明瞭。

モクレン属は国内に6種あるが、県内にはホオノキ (*Magnolia obovata*)・コブシ (*M. praecoccissima*)・タムシバ (*M. salicifolia*)の3種が自生する。ホオノキの材は軽軟で、割裂性が大きく、加工はきわめて容易で欠点が少ないことから、器具・建築・家具・建具材などのほか、指物・木地・下駄歯・刃物鞘など特殊な用途も知られている。コブシの材はホオノキに似るがやや硬く、ホオノキに準じた使われ方をする。

以上の同定結果を検出遺構や推定されている用途などとともに一覧表で示す(表I-1)。

4. 考察

検討対象となった48試料を通覧するとスギが最も多く(21点)、モクレン属(12点)がこれに次いでいる(表I-2)。スギをはじめとする針葉樹が多いことと、用途ごとに特定の樹種が用いられていることは第56次調査試料(高橋 印刷中)などとも共通する傾向である。

主な用途別の用材をみると、折敷および折敷?とされている試料は14点が検討対象とされ、スギ(9点)・ヒノキ属(4点)・ネズコに同定された。スギ製折敷は第56次調査試料(高橋 印刷中)でも認められ、第21次・41次調査など(以下先行調査と表記)検出試料(能城 1995)からはすべての分類群が認められている。このうち、4013は買頭で触れたように、筆者が折敷縁と判断したものである。釘穴は3カ所あり、中央の木釘だけが残存し、一方の端の釘穴部分で折れている。両端と中央に釘が打たれていたと判断し、全長は残存長に釘穴から端部までの長さを加えた約30cmと推定²⁷⁾した。縁・木釘ともヒノキ属が用いられていた。この両者が同一樹種で作られている例は、スギ製のものではあるが第56次調査試料でも認められ、それでは底板にも同じスギが用いられていた(高橋 印刷中)。

井戸枠は10点すべてがモクレン属であった。また、これに打ち込まれていたくさびにはクリ(2点)とモクレン属(1点)が用いられていた。モクレン属は加工はしやすいものの耐朽性が劣るためやや意外な感じを受けたが、例えば青森県内の平安時代の竪穴住居の構材とみられている炭化材の中にモクレン属が散見される例(鍋倉 1988, 高橋 2002など)があることを考えると、当時の用材としてはそれほど特異なものではなかったのかもしれない。

格子はスギ(4点)とヒノキ属・アスナロ(各1点)が用いられていた。先行調査ではヒノキ属1点が確認されている(高橋 1995)。

扉の骨は2点ともスギ製であった。第56次調査試料の中にもスギ製の扉の骨(1点)がある(高橋 印刷中)。先行調査検出材(能城 1995)ではスギ(2点)・アスナロ(3点)・不明(1点)のほか、竹製のものもあったとされている(三浦 1995)。

碗2点は漆塗りで、ともにケヤキ製であった。第56次調査試料4点もいずれもケヤキであり(高橋 印刷中)、先行調査でもほとんどの漆器²⁸⁾がケヤキ製であった(高橋 1995, 能城 1995)。

刀子柄2点はアスナロとモクレン属であった。先行調査試料19点の用材でもモクレン属がスギとともに最多数(6点)を占め、アスナロ(4点)も認められている²⁹⁾(能城 1995)。また、志羅山遺跡第66次調査

試料の中にもアスナロ製の刀子柄が認められている（高橋 2000）。

〔注〕

- 1) 採取した材片は水を加えて放置し、PEGを溶かしたあと通常の材試料と同様に3面の徒手切片を製作した。その他の試料は、各面が得られそうな部分に毛筆で温湯を塗り、表面のPEGを軟化させてから切片を切り出した。破損している部分などを利用して遺物の加工上の損傷をできるだけ避けるよう努めたため、良好な切片が得られたものは少ない。
- 2) この数値は、先行調査で計測できたもののほぼ半数が28-31cmであったとされている（三浦 1995）ことや、折敷・折敷?とされているものの計測値（岩手県教育委員会 2002）に近いことから妥当なものと思う。
- 3) 腕・皿85点のうち83点がケヤキ、2点がブナ属に同定されている。ブナ属の用いられている漆器のうち1点は椀であるが、他の1点の器種については手元の資料ではわからない。
- 4) ほかにヒノキ・ハシバミ属・カツラがある。

引用文献

- 平井信二 1979, 1980 「木の事典 第1・4・6・7巻」, かなえ書房
- 岩手県教育委員会 2002 「岩手県文化財調査報告書第113集 平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡 -第55次発掘調査概報-」
- 岩手植物の会 1970 「岩手県植物誌」
- 三浦謙一 1995 木製品類, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 柳之御所跡 一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査 (分冊3)」, 93-111, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 能城修一 1995 柳之御所跡から出土した木製品の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 柳之御所跡 一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査 (分冊1 本文・図版)」, 433-456, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫 (編) 1989 「日本の野生植物 木本Ⅰ」, 平凡社
- 鶴倉巳三郎 1988 李平下安原遺跡出土の炭化材, 「青森県埋蔵文化財調査報告書第111集 李平下安原遺跡 -主要地方道大鰐渡岡線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-」, 497-506, 青森県教育委員会
- 高橋利彦 1995 柳之御所跡第23次・31次調査出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集 柳之御所跡 一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査 (分冊1 本文・図版)」, 423-432, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋利彦 2000 志羅山遺跡第66次・第74次調査出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第312集 志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書 一関遊水池事業関連遺跡発掘調査」, 433-444, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋利彦 2002 青森市安田(2)遺跡出土炭化材の樹種, 「青森県埋蔵文化財調査報告書第321集 安田(2)遺跡Ⅲ -東北縦貫自動車道八戸線(青森-青森)建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-」, 90-96, 青森県教育委員会
- 高橋利彦 印刷中 柳之御所遺跡第56次調査出土材の樹種, 「岩手県文化財調査報告書第117集 平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡 -第56次発掘調査概報-」, 岩手県教育委員会

表Ⅱ-1 柳之御所遺跡第55次調査出土材の樹種

| 試料番号 | 検出遺構など | 用 途 | 種 名 |
|-------|-----------|------|-------|
| 4001 | 55SE1 19層 | 漆塗椀 | ケヤキ |
| 4002 | 55SE1 18層 | 漆塗椀 | ケヤキ |
| 4004 | 55SE1 19層 | 栓? | アサダ |
| 4005 | 55SE1 18層 | 不明 | アスナロ |
| 4006 | 55SE1 18層 | 不明 | アスナロ |
| 4008 | 55SE1 15層 | 鞘 | スギ |
| 4010 | 55SE1 14層 | 扇の骨 | スギ |
| 4011 | 55SE1 14層 | 扇の骨 | スギ |
| 4013a | 55SE1 15層 | 折敷縁 | ヒノキ属 |
| 4013b | 55SE1 15層 | 折敷木釘 | ヒノキ属 |
| 4016 | 55SE1 18層 | 部材 | スギ |
| 4031 | 55SE1 19層 | 格子 | ヒノキ属 |
| 4032 | 55SE1 18層 | 格子 | スギ |
| 4033 | 55SE1 9層 | 格子 | スギ |
| 4034 | 55SE1 19層 | 格子 | スギ |
| 4035 | 55SE1 19層 | 格子 | アスナロ |
| 4047 | 55SE1 井戸枠 | くさび | クリ |
| 4048 | 55SE1 井戸枠 | くさび | クリ |
| 4050 | 55SE1 井戸枠 | くさび | モクレン属 |
| 4054 | 55SK29 2層 | 折敷? | スギ |
| 4055 | 55SK29 2層 | 折敷? | スギ |
| 4056 | 55SK29 2層 | 折敷? | ヒノキ属 |
| 4060 | 55SK29 2層 | 折敷? | スギ |
| 4061 | 55SK29 埋土 | 折敷? | スギ |
| 4062 | 55SK29 2層 | 折敷? | ヒノキ属 |
| 4063 | 55SK29 埋土 | 折敷? | スギ |
| 4064 | 55SK29 2層 | 不明 | スギ |
| 4069 | 55SK29 埋土 | 不明 | スギ |
| 4070 | 55SK29 埋土 | 不明 | スギ |
| 4071 | 55SK29 埋土 | 不明 | スギ |
| 4080 | 55SK40 7層 | 刀子柄 | アスナロ |
| 4081 | 55SK40 7層 | 格子 | スギ |
| 4086 | 55SK43 7層 | 折敷 | スギ |
| 4087 | 55SK43 7層 | 折敷 | スギ |
| 4088 | 55SK43 7層 | 折敷 | スギ |
| 4089 | 55SK43 7層 | 折敷 | スギ |
| 4090 | 55SK53 7層 | 折敷 | ネズコ |

表Ⅱ-1 (続き)

| 試料番号 | 検出遺構など | 用途 | 種名 |
|------|-----------|-----|-------|
| 4091 | 55SK54 4層 | 刀子柄 | モクレン属 |
| 4092 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4093 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4094 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4095 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4096 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4097 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4098 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4099 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4100 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |
| 4101 | 55SE1 | 井戸枠 | モクレン属 |

表Ⅱ-2 柳之御所遺跡第55次調査出土材の主な用途別樹種構成

| 分類群\用途 | 折敷* | 井戸枠 | 格子 | くさび ^b | 扉の骨 | 碗 | 刀子柄 | その他 | 合計 |
|--------|-----|-----|----|------------------|-----|---|-----|-----|----|
| スギ | 9 | | 4 | | 2 | | | 6 | 21 |
| ヒノキ属 | 4 | | 1 | | | | | | 5 |
| クロベ | 1 | | | | | | | | 1 |
| アスナロ | | | 1 | | | | 1 | 3 | 4 |
| アサダ | | | | | | | | 1 | 1 |
| クリ | | | | 2 | | | | | 2 |
| ケヤキ | | | | | | 2 | | | 2 |
| モクレン属 | | 10 | | 1 | | | 1 | | 12 |
| 小計 | 14 | 10 | 6 | 3 | 2 | 2 | 2 | 9 | 48 |

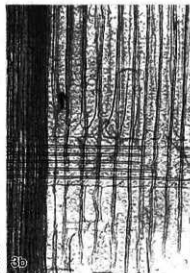
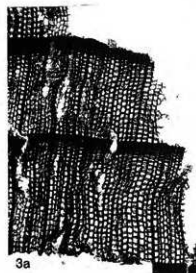
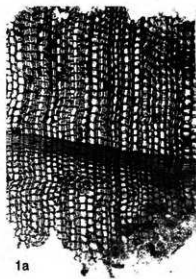
- 図版1 1. スギ 4011
2. ヒノキ属 4013a
3. ネズコ 4090

- 図版2 4. アスナロ 4005
5. アサダ 4004
6. クリ 4047

- 図版3 7. ケヤキ 4001
8. モクレン属 4099

a:木口 x40 b:柁目 x100 c:板目 x100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柁目では左から右。

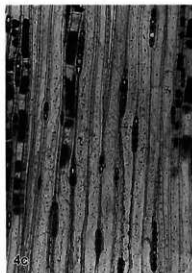




4a



4b



4c



5a



5b



5c



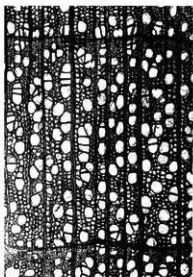
6a



6b



6c



2 柳之御所遺跡のテフラ

1. はじめに

東北地方北部岩手県域とその周辺に分布する後期更新世以降の地層や土壌の中には、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、十和田、鳴子など、さらには九州地方や北海道地方などに位置する火山などから噴出したテフラ（tephra, 火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く堆積している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかになっている指標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代のみならず、遺構や遺物の層位や年代などについても知るようになることができるようになっている。

そこでテフラ層およびその可能性のある土層が認められた平泉町柳之御所遺跡においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ組成分析と屈折率測定を行って指標テフラの検出同定を試みることにした。分析測定の対象となった試料は、試料①（YG56 SD39 T2 IX層）と試料②（YG21 SK23 5層）の2試料である。

2. テフラ組成分析

(1) 分析方法

2試料を対象として、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を試みた。分析の手順は、次のとおりである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により、1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で、250粒子を観察し、火山ガラスの形態色調別組成を求める（火山ガラス比分析）。
- 6) 偏光顕微鏡下で、重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を明らかにする（重鉱物組成分析）。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果をダイアグラムにして図1に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を表1と表2に示す。試料①には、火山ガラスが非常に多く含まれている。火山ガラスは、量が多い順にスポンジ状に発泡した軽石型（92.4%）、繊維束状に発泡した軽石型（5.6%）、無色透明のバブル型（0.4%）である。なお、重鉱物の比率が0.2%以下と非常に少なく、重鉱物組成分析は困難であった。ただし、ごく少量の斜方輝石や単斜輝石が認められる。

一方、試料②には、火山ガラスが少量含まれている。火山ガラスは、量が多い順に繊維束状に発泡した軽石型（1.6%）、無色透明のバブル型（1.2%）、スポンジ状に発泡した軽石型（0.8%）、淡褐色バブル型（0.4%）である。重鉱物としては、量が多い順に磁鉄鉱（43.2%）、角閃石（34.8%）、斜方輝石（16.4%）、黒雲母（1.6%）、単斜輝石（0.8%）が認められる。

3. 屈折率測定

(1) 測定方法

2試料について、日本列島とその周辺のテフラ・カタログ作成にも利用された温度一定型屈折率測定法（新

井, 1972, 1993) により、屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表 2 に示す。試料①に含まれる火山ガラス (最大径 0.6mm) の屈折率 (n) は、1.502-1.507 である。

一方、試料②に含まれる火山ガラス (最大径 0.5mm) の屈折率 (n) は、1.501-1.507 である。また斜方輝石と角閃石の屈折率 (n_1, n_2) は、各々 1.718-1.728 と 1.687-1.692 である。

4. 考察

試料① (YG56 SD39 T2 IX層) に含まれる火山ガラスについては、その形態や色調さらに屈折率¹などから、915年に十和田火山から噴出したと推定されている十和田 a 火山灰 (To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981) に由来すると考えられる。火山ガラスの量が非常に多く、純度が高そうなことから、一次堆積層の可能性が高いように思われるが、分析者が土層断面を再現していないことから言及は難しい。

一方、試料② (YG21 SK23 5層) に含まれるテフラ粒子のうち、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラスあるいはその一部については、屈折率から To-a に由来する可能性が考えられる。しかしながら、無色透明や淡褐色のバブル型ガラスについては、他のテフラに由来する可能性が考えられる。斜方輝石については、焼石村崎野 (Yk-M, 大上・吉田, 1984, 町田・新井, 1992) や焼石山形テフラ (Yk-Y, 大上・吉田, 1984, 町田・新井, 1992) などの焼石火山起源のテフラ、また鳴子荷坂テフラ (Nr-N, 早田, 1989) などに由来している可能性が考えられる。角閃石については、花山火砕流堆積物 (Hanf, 早田, 1989) に含まれる角閃石の屈折率とよく似ている。しかしながら、この鉱物については何らかの作用により変質をうけている可能性も考えられよう。いずれにしても、試料②には、複数のテフラに由来するテフラ粒子の混在している可能性が指摘される。

5. 小結

柳之御所遺跡において、テフラ組成分析と屈折率測定を行った。その結果、SD39のIX層に、十和田 a 火山灰 (To-a, 915年) に由来する可能性が非常に高いテフラ粒子が多く含まれていることが明らかになった。

* 1 今回得られた火山ガラスの屈折率は、テフラ・カタログ (町田・新井, 1992) に記載されている To-a の値よりも若干高い傾向にある。この原因としては、To-a のユニット間に火山ガラスの屈折率の違いがある可能性が考えられる (町田ほか, 1981)。また、カタログに記載された試料の採取地点が給源に近いために標準試料に含まれる火山ガラスが分厚く、さらに To-a の噴出年代が新しいために十分水相が進んでいないこと、遼隔地ではその進んで水相が進んで屈折率の違いが生じていることに起因すると考えられる (新井房夫群馬大学名誉教授談話)。より高精度の同定のためには、X線プロブマイクログラナイザー (EPMA) による火山ガラスの主成分化学組成分析などが有効と考えられる。

表1 火山ガラス比分析結果

| 試料 | bw(cl) | bw(pb) | bw(br) | md | pm(sp) | pm(fb) | その他 | 合計 |
|----|--------|--------|--------|----|--------|--------|-----|-----|
| ① | 1 | 0 | 0 | 0 | 231 | 14 | 4 | 250 |
| ② | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 4 | 240 | 250 |

数字は粒子数。bw：バブル型 (cl：無色透明, pb：淡褐色, br：褐色), md：中間型, pm：軽石型 (sp：スポンジ状, fb：繊維束状)。

表2 重鉱物組成分析結果

| 試料 | ol | opx | cpx | ho | bi | mt | その他 | 合計 |
|----|----|-----|-----|--------|----|-----|-----|-----|
| ① | | | | (分析不遇) | | | | |
| ② | 0 | 41 | 2 | 87 | 4 | 108 | 8 | 250 |

数字は粒子数。ol：カンラン石, opx：斜方輝石, cpx：単斜輝石, ho：角閃石, bi：黒雲母, mt：磁鉄鉱。

表3 屈折率測定結果

| 試料 | 火山ガラス (n) | 斜方輝石 (γ) | 角閃石 (n2) |
|----|-------------|-------------|-------------|
| ① | 1.502-1.507 | - | - |
| ② | 1.501-1.507 | 1.718-1.728 | 1.687-1.692 |

屈折率測定は、温度一定屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による。

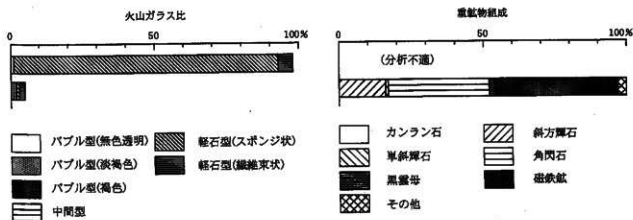


図1 テフラ組成ダイヤグラム

3. 柳之御所遺跡における花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 試料

試料は、柳之御所遺跡のSD39、T2より採取された堆積物で、試料1（21層、オリーブ黒色土）、試料2（24層、暗灰黄色砂）の2点である。

3. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で躰などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルトマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

顕鏡はプレパラート作製後直ちに生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、尚倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属科とした。

4. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉20、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉21、シダ植物胞子2形態の計44である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図1に示す。主要な分類群は写真に示した。また、寄生虫卵についても同定した結果、4分類群が検出された。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、マツ属単純管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、トチノキ、シナノキ属、アオイ科、ニフトコ属-ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科

〔草本花粉〕

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、セリ亜科、シソ科、オオバコ属、タンポポ属科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

〔寄生虫卵〕

回虫卵、鞭虫卵、広節裂頭条虫卵、マンソン裂頭条虫卵

(2) 花粉群集の特徴

1) 試料1 (21層)

草本花粉の占める割合がやや高い。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、ハンノキ属、クリが高率に出現し、スギ、カバノキ属、ブナ属などが伴われる。草本花粉ではヨモギ属、イネ属型を含むイネ科を主にカヤツリグサ科、キク亜科、アカザ科—ヒユ科などが伴われる。寄生虫卵が1cm³中から72個検出された。

2) 試料2 (24層)

草本花粉の占める割合が非常に高い。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、クリ、スギ、ツガ属がやや多い。草本花粉ではヨモギ属を主にイネ属型を含むイネ科、アカザ科—ヒユ科、オナモミ属、カヤツリグサ科などが伴われる。寄生虫卵は1cm³中で70個検出された。

5. 花粉分析から推定される雑生と環境

(1) 試料1 (21層)

イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、アカザ科—ヒユ科、クワ科—イラクサ科の草本などの人里雑草や耕地雑草の生育する人為環境が分布していたとみられる。イネ科にはイネ属型が伴われ、水田雑草であるミズアオイ属やタデ属サナエタ節も検出されることから、周囲に水田が広がっていたと考えられる。森林雑生としては、コナラ属コナラ亜属、クリを主要素とする二次林が分布し、低湿などにはハンノキ属が湿地林として生育していたと推定される。

(2) 試料2 (24層)

ヨモギ属、イネ科、アカザ科—ヒユ科、オナモミ属、クワ科—イラクサ科などの比較的乾燥した土地を好む草本で占められ、周囲は陽当たりの良いやや乾燥した環境であったと考えられる。ソバ属、アブラナ科などの花粉が出現することから、ソバやアブラナなどを栽培する畑が営まれていた可能性が示唆される。

なお、いずれの試料も花粉の残りが良く高密度であることから、保存状態の良い水浸かりの堆積環境であったと推定される。また、どちらも寄生虫卵の密度は低く、集落周囲の汚染程度とみなされる。人糞施肥を施していた可能性もあるがここでは言及できない。

表1 柳之御所遺跡における花粉分析結果

| 学名 | 分類群 | SD39 T2 | |
|---------------------------------------|-----------------------------|---------------------|---------------------|
| | | 21層 | 24層 |
| Arborealpollen | 樹木花粉 | 1 | 2 |
| Abies | モミ属 | | 1 |
| Tsuga | ツガ属 | 1 | 5 |
| Pinussubgen. Diploxylon | マツ属擬樺葉実亜属 | 1 | 1 |
| Pinussubgen. Haploxylon | マツ属樺葉實定実亜属 | 3 | 1 |
| Cryptomeriajaponica | スギ | 10 | 6 |
| Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae | イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 | 1 | |
| Juglans | クルミ属 | 2 | |
| Alnus | ハンノキ属 | 35 | 3 |
| Betula | カバノキ属 | 9 | 1 |
| Carpinus-Ostryajaponica | クマシダ属-アサダ | 6 | 3 |
| Castaneacremata | クリ | 28 | 8 |
| Castanopsis | シイ属 | 3 | 1 |
| Fagus | ブナ属 | 9 | 3 |
| Quercussubgen. Lepidobalanus | コナラ属コナラ亜属 | 52 | 8 |
| Quercussubgen. Cyclobalanopsis | コナラ属アカガシ亜属 | 4 | 1 |
| Ulmus-Zelkovaserrata | ニレ属-ケヤキ | 6 | 1 |
| Aesculusturbinata | トナリキ | 2 | 2 |
| Tilia | シナノキ属 | | 1 |
| Malvaceae | アオイ科 | 1 | |
| Sambucus-Viburnum | ニワトコ属-ガマズミ属 | 1 | |
| Arboreal・Nonarborealpollen | 樹木・草本花粉 | | |
| Moraceae-Urticaceae | クワ科-イラクサ科 | 58 | 140 |
| Nonarborealpollen | 草本花粉 | | |
| Gramineae | イネ科 | 46 | 46 |
| Oryzatype | イネ属型 | 9 | 6 |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 21 | 8 |
| Aneilemakaisak | イボクサ | 1 | |
| Monochoria | ミスアオイ属 | 1 | |
| Polygonum | タデ属 | 1 | 3 |
| Polygonumsecti. Persicaria | タデ属セキナエタデ節 | 2 | 2 |
| Rumex | ギシギシ属 | 1 | |
| Fagopyrum | フバ属 | 1 | |
| Chenopodiaceae Amaranthaceae | アカザ科-ヒユ科 | 12 | 23 |
| Caryophyllaceae | ナゲシ科 | 1 | 1 |
| Ranuncul | キンボウゲ属 | 1 | |
| Cruciferae | アブラナ科 | 1 | 1 |
| Impatiens | ツリフネソウ属 | 2 | |
| Apiaceae | セリ草科 | 2 | 1 |
| Labiatae | シソ科 | 1 | |
| Plantago | オオバコ属 | 1 | 1 |
| Lactacoidae | タンポポ科 | 2 | |
| Asteroidae | キク亜科 | 18 | 3 |
| Xanthium | オナモミ属 | 4 | 9 |
| Artemisia | ヨモギ属 | 62 | 153 |
| Fernspore | シダ植物胞子 | | |
| Mundulatype spore | 星条溝胞子 | 25 | 5 |
| Trilacetype spore | 三条溝胞子 | 1 | 1 |
| Arborealpollen | 樹木花粉 | 171 | 49 |
| Arboreal・Nonarborealpollen | 樹木・草本花粉 | 58 | 140 |
| Nonarborealpollen | 草本花粉 | 188 | 261 |
| Totalpollen | 花粉総数 | 417 | 430 |
| | 試料1cm ³ 中の花粉密度 | 2.4×10 ⁷ | 2.2×10 ⁷ |
| Unknownpollen | 未同定花粉 | 4 | 3 |
| Fernspore | シダ植物胞子 | 26 | 6 |
| Helmintheggs | 寄生虫卵 | | |
| Ascaris | 回虫卵 | 5 | 4 |
| Trichuris | 鞭虫卵 | 2 | 6 |
| Diphyllobothriumlatum (nibonkatense) | 広筋裂頭条虫卵 | 1 | |
| Diphyllobothriummansoni | マンソン裂頭条虫卵 | 1 | |
| Total | 計 | 9 | 10 |
| | 試料1cm ³ 中の寄生虫卵密度 | 7.2×10 | 7.0×10 |
| | 明らかな消化残渣 | (-) | (-) |

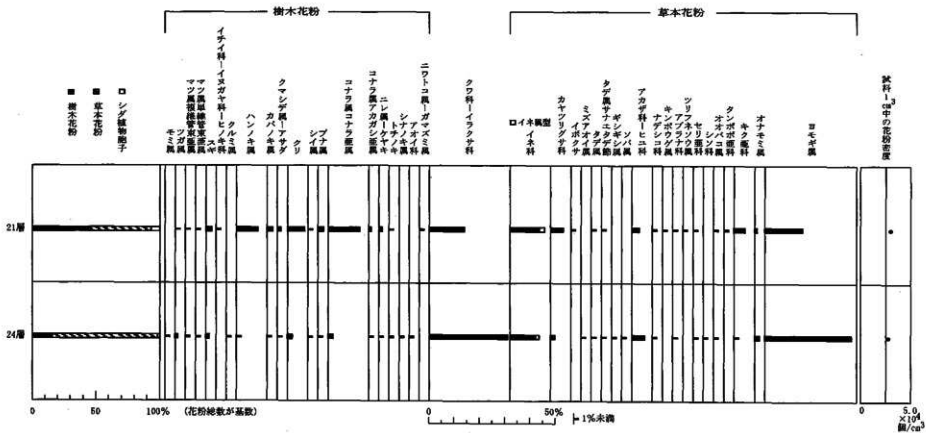


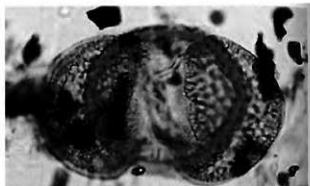
図1 柳之御所遺跡, SD39 T2における花粉ダイアグラム

柳之御所の花粉写真



1 トウヒ属

-10 μm



2 マツ属

-10 μm



3 スギ



4 ハンノキ属



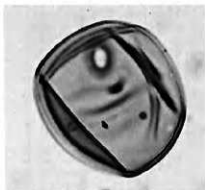
5 コナラ属



6 クワ科-イラクサ科



7 マメ科



8 イネ属型



9 カツリグサ科



10 ネギ属



11 ソバ属



12 ソバ属



13 アブラナ科

-10 μm

4. 柳之御所遺跡におけるトイレ遺構分析

I. はじめに

糞便の堆積物は、寄生虫卵密度、花粉群集組成、種実群集組成に特異性を示すため、他の堆積物は様相が異なる。したがって、これらの分析を総合的に行うことによって、トイレ遺構を識別することが可能である。さらに、その遺体群集から今まで以上に食べた食物を直接的に探ることができる。

ここでは、柳之御所遺跡で検出された土坑内の堆積土壌を対象に分析を行い、トイレ遺構の可能性について検討する。

II. 試料

試料は、YG56SK26の8層（緑灰色粘土、試料1）、YG56SK27の10層～11層（オリーブ黄色粘土～緑灰色粘土、試料2）と13層～15層（緑灰色粘土（灰黄褐色土含む）～緑灰色粘土、試料3）、YG56SK28の13層（オリーブ黄色粘土（黒褐色土含む）、試料4）1点、YG56SK29の7層（黒褐色シルト質粘土、試料5）、YG56SK33の8層（黒色土、試料6）、YG56SK53の13層（黒褐色粘土、試料7）、YG56SK67の8層（黒褐色土、試料8）、9層（黒褐色粘土、試料9）、11層（黒褐色粘土（オリーブ灰色粘土を多く含む）、試料10）の計10点である。

III. 方法

(1) 寄生虫卵分析

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1) サンプルを採量する。
- 2) 脱イオン水を加え攪拌する。
- 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈殿法を施す。
- 4) 25%フッ化水素酸を加え30分静置（2・3度混和）。
- 5) 水洗後サンプルを二分する。
- 6) 二分したサンプルの一方にアセトリシス処理を施す。
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製する。
- 8) 検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行う。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

(2) 花粉分析

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で糠などの大きな粒子を取り除き、沈殿法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後上澄みを捨てるという操作を

3回繰り返し行って行った。

検鏡はプレバカート作製後直ちに生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン (—) で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村 (1974, 1977) を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

(3) 種実同定

試料 (堆積物) に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行った。

- 1) 試料50～200cm³に水を加え放置し、泥化を行う。
- 2) 攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別を行う。
- 3) 残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数を行う。

同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

IV. 結果

(1) 寄生虫卵分析

出現した寄生虫卵は5分類群である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、試料1cm³中の寄生虫卵数をダイアグラムとして図1に示す。また、主要な分類群は写真に示した。以下に寄生虫卵の特徴を記す。

・回虫 *Ascaris lumbricoides*

回虫は世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられる。卵には受精卵と不受受精卵がある。遺跡等の堆積物では卵殻のみが検出され、長期の堆積年数による風化や処理過程における薬品使用のため、受精卵と不受受精卵の区別は不明瞭である。比較的大きな虫卵で、およそ80×60μmあり楕円形で外側に蛋白質膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。

・鞭虫 *Trichuris trichiura*

鞭虫は、世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高湿多湿な地域に多くみられる。卵の大きさは、50×30μmでレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、3～6週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。

・広節裂頭条虫 *Diphyllobothrium latum*

広節裂頭条虫は、北半球に分布し、特に北欧、北米、東北アジア地域に多い。卵の大きさは、66～75×45～53で楕円形。小蓋がある。ケンミジンコ類などの第1中間宿主を経て、第2中間宿主のマスやサケの生食によって感染する。

・カピラリア *Capillaria* sp.

鶏の小腸に寄生する毛体虫で、卵は大きさ形とも鞭虫卵に類似するが、両端栓状物がやや突出しその幅は小さく卵殻もやや薄い。鶏の生食や不完全な調理で感染する。

・不明虫卵

卵の大きさは30×50μmで淡黄色、小蓋がある。

1) YG56SK26、8層（試料1）

回虫卵、鞭虫卵、カビラリアが検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。

2) YG56SK27、10層～11層（試料2）、13層～15層（試料3）

試料2では回虫卵、鞭虫卵、広節裂頭条虫卵が検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。

試料3からは回虫卵、鞭虫卵、広節裂頭条虫卵が検出され、明らかな消化残渣が検出された。

3) YG56SK28、13層（試料4）

回虫卵、鞭虫卵、カビラリア、不明虫卵が検出され、明らかな消化残渣が検出された。

4) YG56SK29、7層（試料5）

回虫卵、鞭虫卵、広節裂頭条虫卵が検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。

5) YG56SK33、8層（試料6）

回虫卵、鞭虫卵、広節裂頭条虫卵が検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。

6) YG56SK53、13層（試料7）

回虫卵、鞭虫卵が検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。石細胞が検出された。

7) YG56SK67、8層（試料8）、9層（試料9）、11層（試料10）

試料8では回虫卵、鞭虫卵、広節裂頭条虫卵が検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。

試料9からは回虫卵、鞭虫卵が検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。試料10では回虫卵、鞭虫卵が検出されたが、明らかな消化残渣は検出されなかった。

（2）花粉分析

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉24、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉23、シダ植物孢子2形態の計53である。これらの学名と和名および粒数を表2に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図2に示す。主要な分類群は写真に示した。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ツツジ科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウグ属、アブラナ科、ワレモコウ属、ツリフネソウ属、ノブドウ、アカバナ科、セリ亜科、ナス科、オオバコ属、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

2) 花粉群集の特徴

・YG56SK26、8層(試料1)

草本花粉の占める割合が高く、特にイネ属型を含むイネ科が優占する。次いでアブラナ科が多く、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科などが出現する。樹木花粉は少なく、クリ、コナラ属コナラ亜属、トチノキなどが低率に出現する。

・YG56SK27、10層-11層(試料2)、13層-15層(試料3)

草本花粉の占める割合が高く、イネ属型を含むイネ科が優占する。試料2ではアブラナ科が多い。ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科、クワ科-イラクサ科などが出現する。

・YG56SK28、13層(試料4)

草本花粉の占める割合が非常に高く、特にイネ属型を含むイネ科が優占する。次いでアカザ科-ヒユ科が多く、ヨモギ属、アブラナ科、ソバ属、カヤツリグサ科などが出現する。樹木花粉は少なく、スギ、マツ属複雑管束亜属などが低率に出現する。

・YG56SK29、7層(試料5)

草本花粉の占める割合が非常に高く、アカザ科-ヒユ科が多く、次いでイネ属型を含むイネ科、アブラナ科などが出現する。樹木花粉は少なく、クリ、スギなどが低率に出現する。

・YG56SK33、8層(試料6)

草本花粉の占める割合が非常に高く、イネ属型を含むイネ科が優占する。次いでアカザ科-ヒユ科、ヨモギ属が多く、カヤツリグサ科、アブラナ科、セリ亜科などが出現する。樹木花粉は少なく、マツ属複雑管束亜属、クリ、スギなどが低率に出現する。

・YG56SK53、13層(試料7)

草本花粉の占める割合が非常に高く、イネ属型を含むイネ科およびアカザ科-ヒユ科が優占する。次いでヨモギ属が多く、アブラナ科、カヤツリグサ科などが出現する。樹木花粉は少なく、スギ、クリ、コナラ属コナラ亜属などが低率に出現する。

・YG56SK67、8層(試料8)、9層(試料9)、11層(試料10)

草本花粉の占める割合が高く、特にアブラナ科とイネ属型を含むイネ科が優占する。ヨモギ属、カヤツリグサ科、クワ科-イラクサ科が出現する。樹木花粉ではクリなどが出現する。

(3) 種実同定

1) 分類群

樹木8、草本13の計21が同定された。学名、和名および粒数を表3に示し、主要な分類群を写真に示す。

以下に主要な分類群の形態的特徴を記す。

【樹木】

ヤマクワ *Morus bombycis* 種子 クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。

キイチゴ属 *Rubus* 核バラ科

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。

ブドウ属 *Vitis* 種子 ブドウ科

茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

マタタビ *Actinidia polygama* Planch. ex Maxim. 種子 マタタビ科

暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分

布する。種皮はやや厚く堅い。

サルナシ *Actinidia arguta* Planch. ex Miq. 種子 マタタビ科

暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く堅い。

ガズミ属 *Viburnum* 核 スイカズラ科

茶褐色で楕円形を呈す。腹面に1本と背面に2本の溝が走り、下端に小さなへそがある。

〔草本〕

イネ *Oryza sativa* L. 穎

穎は茶褐色で扁平楕円形を呈し、下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状突起がある。完形のものは無かった。

スゲ属 *Carex* 果実 カヤツリグサ科

茶褐色で倒卵形、扁平である。果皮は柔らかい。

カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 果実

茶褐色でやや狭い倒卵形を呈す。断面は三角形である。

タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒褐色で頂端の尖る広卵形を呈す。断面は扁平で、表面には光沢がある。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

ヒユ属 *Amaranthus* 種子 ヒユ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、へそがある。断面は両凸レンズ形である。

ナデシコ科 *Caryophyllaceae* 種子

黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。

ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* Trautv. var. *Heterophylla* Hara 種子 ブドウ科

茶褐色で広卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が2つあり、背面のカラザは長く伸びる。

セリ科 *Umbelliferae* 果実

淡褐色～黄褐色で楕円形を呈す。果皮はコルク質で厚く弾力があり、片面に3本の肥厚した隆起が見られる。断面は半月形である。

エゴマ *Perilla frutescens* Britton var. *japonica* Hara 果実 シソ科

黒褐色～灰褐色で球形を呈し、下端はわずかに突出する。表面に大きい網目模様がある。径2.2～2.4mm。径2.2mm以上をエゴマとし、2.0mm以下をシソ属とした。

ナス *Solanum melongera* L. 種子 ナス科

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだへそがある。表面には網目模様がある。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。

葉下によると小粒種子（雑草メロン型）、中粒種子（マクワウリ・シロウリ型）、大粒種子（モモルディカ型）がある。

2) 種実群集の特徴

・YG56SK26、8層（試料1）

キイチゴ属、ヤマグワの樹木種実、ウリ、ナスの草本種実が出現する。

- ・YG56SK27、10層～11層（試料2）、13層～15層（試料3）
10層～11層（試料2）では、マタタビ、サルナシの樹木種実、ウリ類、ナスなどが出現する。13層～15層（試料3）では極めて種実が多く、アケビ属、マタタビ、サルナシの樹木種実、ウリ類、ナスの草本種実が多い。
- ・YG56SK28、13層（試料4）
マタタビ、サルナシの樹木種実、ウリ類、ナスの草本種実が多い。
- ・YG56SK29、7層（試料5）
樹木種実のキイチゴ属が多く、草本種実のウリ類は極めて多い。
- ・YG56SK33、8層（試料6）
アカザ属、ヒユ属、ナデシコ科などが検出される。
- ・YG56SK53、13層（試料7）
アカザ属などが検出される。
- ・YG56SK67、8層（試料8）、9層（試料9）、11層（試料10）
樹木種実ではキイチゴ属、草本種実ではウリ類とナス

V. 考察

1. トイレ遺構である可能性について

寄生虫卵の密度は、SK26の8層（試料1）、SK27の10層～11層（試料2）、13層～15層（試料3）、SK28の13層（試料4）、SK29の7層（試料5）、SK67の8層（試料8）、9層（試料9）、11層（試料10）で高く、SK33の8層（試料6）、SK53の13層（試料7）では低い。花粉分析の結果をみると、各試料ともイネ属型を含むイネ科の出現率が高く、SK27の10層～11層（試料2）、SK67の8層（試料8）、9層（試料9）、11層（試料10）ではアブラナ科の出現率も高い。また、SK28の13層（試料4）、SK29の7層（試料5）、SK33の8層（試料6）、SK53の13層（試料7）ではアカザ科～ヒユ科の出現率が高い。種実では、SK26の8層（試料1）、SK27の10層～11層（試料2）、13層～15層（試料3）、SK28の13層（試料4）、SK29の7層（試料5）、SK67の8層（試料8）、9層（試料9）、11層（試料10）から樹木種実のマタタビやサルナシ、草本種実のナスやウリ類など栽培植物を含む食用となる植物が検出され、SK33の8層（試料6）とSK53の13層（試料7）からはアカザ属などが検出された。

以上のことから、寄生虫卵密度が高く、食用となる種実が多く検出されたSK26の8層（試料1）、SK27の10層～11層（試料2）、13層～15層（試料3）、SK28の13層（試料4）、SK29の7層（試料5）、SK67の8層（試料8）、9層（試料9）および11層（試料10）は糞便の堆積とみなされる。したがって、これらの土坑がトイレ遺構であったかあるいは糞便の投棄場所であったと判断される。

なお、検出された花粉群集のうち、アブラナ科は食物となった植物に起因すると考えられるが、他は周囲の植物が反映されたものと思われる。

2. 食物について

寄生虫卵では回虫卵と鞭虫卵が多く、これらは野菜類や飲み水からの感染が多い。広節裂頭条虫卵の検出から、サケヤマスなどを摂食していたことが推定される。花粉では、野菜類が多く含まれるアブラナ科が多く、イネ属型やソバ属の穀類、菌用の可能性のあるアカザ科～ヒユ科が産出される。アカザ科～ヒユ科は糞便堆積と認められなかったSK33、SK53からも検出されている。種実では、ヤマグワ、アケビ属、キイチゴ属、ブドウ属、マタタビ、サルナシ、グミ属、ガマズミ属の食用になる樹木種実、イネ、エゴマ、ナス、ウリの

栽培植物が検出されている。イヌホウズキ、アカザ属、ヒユ属も食用ないし薬用であった可能性がある。

以上のことから、本遺跡に居住あるいは勤務していた人々は、イネ、ソバ属の穀類、エゴマ、ナス、ウリ、アブラナ科の栽培植物、ヤマグワ、アケビ属、キイチゴ属、ブドウ属、マタタビ、サルナシ、グミ属、ガマズミ属といった樹木種実の食用植物、魚類ではサケやマスの淡水魚を摂食していたことが示唆される。

3. 周辺の植生

花粉群集は周囲の植生を反映しているとみなされることから、遺構の周囲にはイネ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属、クワ科-イラクサ科のやや乾燥した人里に多い植物が生育していたと推定される。樹木ではクリヤスギなどの分布が示唆される。

Ⅵ. まとめ

柳之御所遺跡の土坑を分析した結果、SK26、SK27、SK28、SK29、SK67がトイレ遺構が糞便の投棄された土坑とみなされた。イネ、ソバ属の穀類、エゴマ、ナス、ウリ、アブラナ科の栽培植物、ヤマグワ、アケビ属、キイチゴ属、ブドウ属、マタタビ、サルナシ、グミ属、ガマズミ属の樹木種実の食用となる植物とサケやマスの淡水魚の摂食が認められた。また、周囲はイネ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属、クワ科-イラクサ科のやや乾燥した人里に多い植物が生育し、クリヤスギなどの樹木の分布が示唆された。

参考文献

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定-テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2-研究対象別分析法」, p.138-149.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ。科学, 51, p.562-569.
- 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年。第四紀研究, 11, p.232-233.
- 大上和良・吉田 充 (1984) 北上川中流域, 胆沢扇状地における火山灰層序。岩手大学工学部研究報告, 37, p.69-81.
- 早田 勉 (1989) テフロクロロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討-仙台平野北部の遺跡を中心に。第四紀研究, 28, p.269-282.
- 早田 勉 (1999) テフロクロロジー-火山灰で過去の時間と空間をさぐる方法。長友恒人編「考古学のための年代測定学入門」, 古今書院, p.113-132.
- Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extracting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245.
- 笠原安夫 (1985) 日本雑草図説。養賢堂, 494p.
- 笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類。弥生文化の研究第2巻生業。雄山閣出版, p.131-139.
- 金子清俊・谷口博一 (1987) 線形動物・扁形動物。医動物学, 新版臨床検査講座, 8, 医歯薬出版, p.9-55.
- 金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫。藤原京跡の便所遺構-藤原京7条1坊一, 奈良国立文化財研究所, p.14-15.
- 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原。新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店。

p. 248-262.

金原正明 (1999) 寄生虫. 考古学と動物学, 考古学と自然科学, 2, 同成社, p.151-158.

金原正明・松井章・金原正子 (1994) 便所堆積物から探る古代人の食生活. 助成研究報告 (平成4年度) 財団法人味の素文化センター, p.35-48.

高倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村 純 (1973) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.

中村 純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.

中村 純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.

中村 純 (1980) 日本産花粉の標識. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

藤下典之 (1992) 出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡米、伝搬、利用について. 考古学ジャーナルNo.354, ニュー・サイエンス社, p.7-13.

表1 柳之御所遺跡における寄生虫卵分析結果

| 分 類 名 | 和 名 | 56SK26 | | 56SK27 | | 56SK28 | 56SK29 | 56SK33 | 56SK33 | | 56SK67 | |
|---|------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | 8粒 | 19粒 | 19粒 | 19粒 | 13粒 | 7粒 | 8粒 | 13粒 | 8粒 | 9粒 | 11粒 |
| 学 名 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |
| Helminth eggs | 寄生虫卵 | | | | | | | | | | | |
| <i>Ascaris lumbricoides</i> | 回虫卵 | 472 | 154 | 708 | 536 | 276 | 55 | 20 | 156 | 554 | 122 | |
| <i>Trichuris trichiura</i> | 鞭虫卵 | 164 | 62 | 396 | 312 | 192 | 110 | 36 | 120 | 554 | 88 | |
| <i>Diphyllobothrium latum</i> (nematocercæ) | 広頭裂頭条虫卵 | | 4 | 12 | | 0 | 11 | | 5 | | | |
| <i>Capillaria</i> | カピラリア | 1 | | | 1 | | | | | | | |
| Unknown eggs | 不明虫卵 | | | | 1 | | | | | | | |
| Total | 計 | 637 | 220 | 1116 | 850 | 528 | 176 | 56 | 281 | 1108 | 210 | |
| | 資料中の寄生虫卵密度 | 4.5 | 1.5 | 1.2 | 1.1 | 5.8 | 1.8 | 4.5 | 2.2 | 8.9 | 1.5 | |
| | | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ | $\times 10^3$ |
| Stone cell | 石細胞 | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (+) | (-) | (-) | (-) | |
| | 明らかな消化残渣 | (-) | (-) | (+) | (+) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | |

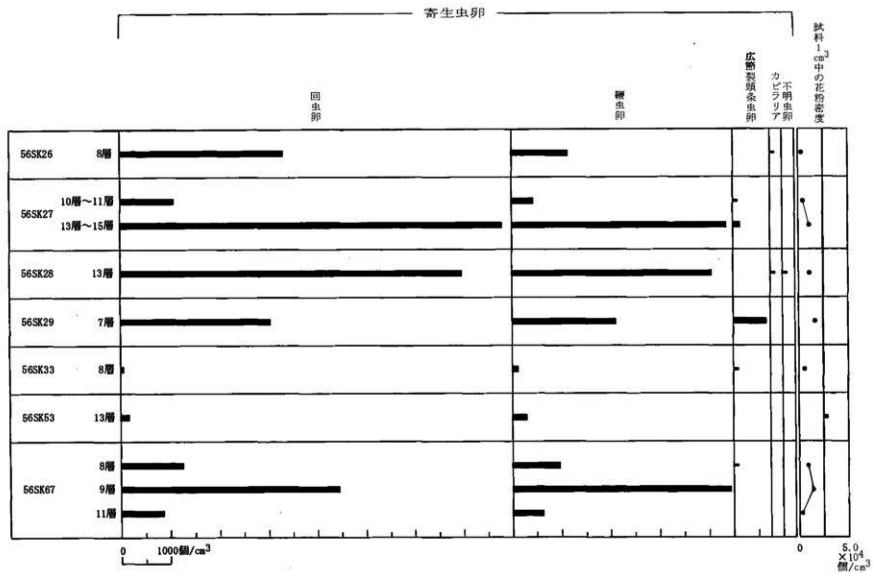


図1 柳之御所遺跡における寄生虫卵ダイアグラム

表2 柳之御所遺跡における花粉分析結果

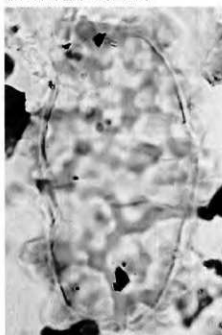
| 分類群 | 学名 | 和名 | 56SK26 | 56SK27 | 56SK28 | 56SK29 | 56SK33 | 56SK33 | 56SK67 | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | | 8層 | 1層-11層 | 13層 | 7層 | 8層 | 13層 | 8層 | 9層 | 11層 | |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| Arborealpollen 樹木花粉 | | | | | | | | | | | | |
| | Abies | モミ属 | | 2 | | | | 1 | | | 7 | |
| | Picea | トウヒ属 | | 1 | 2 | | | | | | 15 | 3 |
| | Tsuga | ツガ属 | | 1 | 1 | 4 | | 1 | 1 | 1 | 8 | 2 |
| | Pinussubgen. Diploxylon | マツ属雄雄椎葉亜属 | 1 | 1 | 8 | 5 | 2 | 11 | 2 | 1 | 11 | 4 |
| | Pinussubgen. Haploxyton | マツ属雄雄椎葉亜属 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | 6 | 4 |
| | Cryptomeriajaponica | スギ | 6 | 5 | 14 | 8 | 8 | 7 | 10 | 15 | 9 | 6 |
| | Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cepressaceae | イチイ属-イチイ科-セノキ科 | | 1 | | | | | 1 | | | 1 |
| | Salix | ヤナギ属 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | Myrica | ヤマモモ属 | | | 1 | | | | 1 | | 5 | |
| | Juglans | クルミ属 | 1 | 2 | | | | | | | | |
| | Pterocaryafofolia | サワグルミ | | | | | 1 | 1 | | 2 | 1 | |
| | Alnus | ハンノキ属 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 | | | 7 | 13 | 4 |
| | Betula | カバノキ属 | 3 | 3 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 7 | 1 |
| | Carpinus-Ostryajaponica | クマシデ属-アサダ | 2 | | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | |
| | Castanacearenata | クリ | 18 | 5 | 2 | 2 | 10 | 8 | 5 | 38 | 8 | 8 |
| | Castanopsis | シイ属 | 3 | | | | | 2 | | 6 | 1 | |
| | Fagus | ブナ属 | | 2 | 1 | | | | | 1 | 2 | 4 |
| | Quercussubgen. Lepidobalanus | コナラ属コナラ亜属 | 13 | 1 | | | | 3 | 4 | 4 | 4 | 9 |
| | Quercussubgen. Cyclobalanopsis | コナラ属アガシ亜属 | 7 | | | | 1 | 2 | | 1 | 2 | |
| | Ulmus-Zelkoveaserrata | ニレ属-ケヤキ | 4 | 2 | | 2 | 1 | | | 9 | | |
| | Ilex | モチノキ属 | 1 | | | | | | | | | |
| | Acer | カエデ属 | 2 | | | | | 2 | 1 | 1 | | |
| | Aesculusturbinata | トチノキ | 8 | 1 | | | | | 1 | 5 | 2 | 7 |
| | Ericaceae | ツツジ科 | | 1 | | | | | | | 1 | |
| Arboreal・Nonarborealpollen 樹木・草本花粉 | | | | | | | | | | | | |
| | Moraceae-Urticaceae | クワ科-イラクサ科 | 11 | 23 | 26 | 50 | 35 | 13 | 25 | 18 | 8 | 6 |
| | Bosaceae | バラ科 | 1 | | | | | | | | | |
| | Leguminosae | マメ科 | 2 | | 1 | | 1 | | | | | |
| | Araliaceae | ウコキ科 | | | | 2 | | | | | 1 | |
| Nonarborealpollen 草本花粉 | | | | | | | | | | | | |
| | Typha-Sparganium | ガマ属-ミクリ属 | | | | 1 | | | | | | |
| | Gramineae | イネ科 | 144 | 87 | 102 | 138 | 56 | 132 | 93 | 66 | 38 | 34 |
| | Oryzatype | イネ属型 | 20 | 19 | 25 | 27 | 6 | 10 | 5 | 4 | | 5 |
| | Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 6 | 10 | 45 | 12 | 27 | 28 | 26 | 5 | 51 | 12 |
| | Allium | ネギ属 | | | 3 | 1 | | | | | | |
| | Polygonum | タデ属 | | | | | | | 1 | | | |
| | Polygonumsect. Persicaria | タデ属サナエタデ節 | 6 | | 4 | 4 | | 1 | 2 | 1 | 1 | |
| | Fanogryum | ソバ属 | 3 | 1 | 5 | 14 | 1 | | 4 | | | |
| | Chenopodiaceae-Amaranthaceae | アカザ科-ヒユ科 | 20 | 19 | 33 | 82 | 105 | 95 | 96 | 8 | 6 | 7 |
| | Caryophyllaceae | ナデシコ科 | 2 | | 2 | | 2 | | 4 | | | |
| | Ranunculaceae | キンポウゲ属 | | | | | | | | | | 2 |
| | Cruciferae | アブラナ科 | 46 | 150 | 15 | 16 | 45 | 6 | 28 | 70 | 116 | 122 |
| | Sanguisorba | ワレモコウ属 | | 1 | | | | | | | | |
| | Impatiens | ツリフネソウ属 | | | | 1 | | | | | | |
| | Ampelopsishevipedunculata | ノブドウ | | | | | 2 | | | | | |
| | Onagraceae | アカバナ科 | | | | | | | | | | 1 |
| | Aplodeae | セリ亜科 | 1 | 1 | 1 | | 2 | 4 | 1 | 3 | 1 | 3 |
| | Solanaceae | ナス科 | | | | | | | | | | 1 |
| | Plantago | オオバコ属 | | | | 2 | | 1 | | 2 | | 4 |
| | Lactucoidae | タンポポ属 | 1 | | 1 | | 6 | 2 | | | | |
| | Asteroidae | キク亜科 | 1 | | 5 | | 2 | 3 | | 3 | 3 | 7 |
| | Xanthium | オナモミ属 | | | | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | |
| | Artemisia | ヨモギ属 | 30 | 39 | 33 | 47 | 30 | 61 | 67 | 70 | 40 | 34 |
| Ferspore シダ植物胞子 | | | | | | | | | | | | |
| | Monolatypespore | 単葉溝胞子 | 9 | 4 | 8 | 1 | 5 | 13 | 20 | 18 | 13 | 8 |
| | Trilatypespore | 三葉溝胞子 | 15 | 5 | 5 | 7 | 11 | 21 | 8 | 44 | 46 | 12 |
| Arborealpollen 樹木花粉 | | | 66 | 26 | 40 | 28 | 29 | 44 | 29 | 94 | 106 | 47 |
| Arboreal・Nonarborealpollen 樹木・草本花粉 | | | 14 | 23 | 27 | 52 | 36 | 13 | 25 | 18 | 9 | 6 |
| Nonarborealpollen 草本花粉 | | | 280 | 327 | 294 | 346 | 285 | 345 | 328 | 233 | 257 | 231 |
| Totalpollen 花粉総数 | | | 360 | 376 | 361 | 426 | 350 | 402 | 382 | 345 | 372 | 284 |
| 試料中の花粉密度 | | | 2.4×10^4 | 3.7×10^4 | 8.6×10^4 | 8.6×10^4 | 1.3×10^5 | 4.5×10^4 | 2.2×10^4 | 7.0×10^4 | 1.1×10^5 | 2.2×10^5 |
| Unknownpollen 未同定花粉 | | | 11 | 2 | 5 | 2 | 5 | 4 | 2 | 7 | 11 | 12 |
| Ferspore シダ植物胞子 | | | 24 | 9 | 13 | 8 | 16 | 34 | 28 | 62 | 59 | 20 |

表3 柳之御所遺跡における種実同定結果

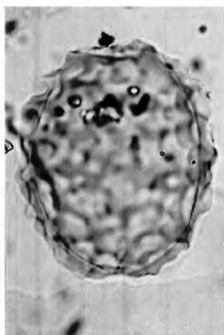
| 分 類 群 | 部位 | 56SK26 | | 56SK27 | | | 56SK28 | 56SK29 | 56SK33 | | 56SK53 | | 56SK67 | | | |
|--|--------|--------|----|--------|-----|-----|--------|--------|--------|----|--------|-----|--------|----|-----|-----|
| | | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
| 学 名 | 植 名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| Arbor | 樹木 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <i>Morus bombycis</i> | ヤマクワ | 種子 | 8 | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 |
| <i>Akebia</i> | アケビ属 | 種子 | | | 46 | | | | | | | | | | | |
| <i>Rubus</i> | キイチゴ属 | 核 | 19 | | | | 1 | 104 | 1 | | | | 1 | 3 | 24 | |
| <i>Vitis</i> | ブドウ属 | 種子 | | | 3 | 1 | 2 | | | 1 | | | | | | |
| <i>Actinidia polyana</i> Planch. ex Maxim. | マクタブ | 種子 | | 2 | 48 | 33 | | | | | | | | | 1 | |
| <i>Actinidia arguta</i> Planch. ex Maxim. | サルナシ | 種子 | | 3 | 32 | 9 | | | | | | | 1 | | | |
| <i>Elaeagnus</i> | タミ属 | 種子 | | 1 | 2 | 3 | 1 | | | 1 | | | | | 1 | |
| <i>Viburnum</i> | ガマズミ属 | 核 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| Herb | 草本 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <i>Oryza sativa</i> L. | イネ | 穀粒 | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| <i>Carex</i> | スゲ属 | 莢実 | 1 | 3 | 4 | 3 | | | | | | | | | 1 | |
| Cyperaceae | カヤブク科 | 莢実 | | | 4 | 3 | 3 | | | | | | | | | |
| <i>Polygonum</i> | タケ属 | 莢実 | | | 1 | | 3 | | | | | | | | | |
| <i>Chenopodium</i> | アカザ属 | 種子 | 2 | 12 | 11 | 6 | 6 | 22 | 5 | | | | | | | 3 |
| <i>Amaranthus</i> | ヒユ属 | 種子 | 1 | | | 4 | 3 | 8 | 1 | | | | | | | |
| Caryophyllaceae | ナゲシ科 | 種子 | | 2 | 4 | | 3 | 4 | | | | | | | | |
| <i>Anemone hepatica</i> Tratt. | ノブドウ | 種子 | | 1 | 6 | 5 | 3 | | | | | | | | | |
| Umbelliferae | セリ科 | 莢実 | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| <i>Poa annua</i> L. var. <i>jasca</i> Re. | エゴマ | 莢実 | 1 | 2 | 6 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| <i>Solanum melongena</i> L. | ナス科 | 種子 | 18 | 9 | 111 | 52 | 12 | | | | | | 3 | 29 | 5 | |
| <i>Solanum nigrum</i> L. | イヌカウズキ | 種子 | | | 15 | 1 | | | 1 | | | | | | | |
| <i>Cucumis melo</i> L. | ウリ類 | 種子 | 17 | 5 | 309 | 189 | 575 | | | | | | 7 | 9 | 212 | |
| Total | 合計 | | 66 | 42 | 604 | 312 | 718 | 36 | 8 | 13 | 44 | 245 | | | | |

〔200g中0.25mm篩：*8、*9は少量のため50g中〕

柳之御所遺跡の寄生虫卵



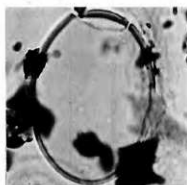
1 回虫卵 (不受精卵?)



2 回虫卵 (不受精卵?)



3 鞭虫卵



4 広節裂頭条虫卵

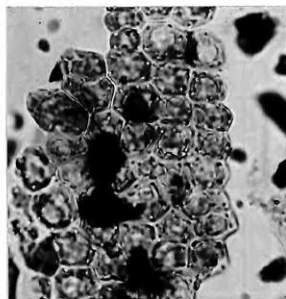


5 広節裂頭条虫卵



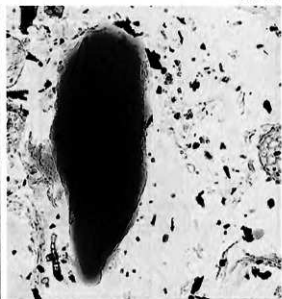
6 カビラリア

— 10 μm



7 石細胞

— 10 μm



8 消化残渣

— 100 μm

柳之御所遺跡の種実 I



1 キイチゴ属核



2 キイチゴ属核

— 1.0mm



3 ブドウ属種子



4 ブドウ属種子

— 1.0mm



5 マタタビ種子



6 マタタビ種子

— 0.5mm



7 サルナシ種子



8 サルナシ種子

— 1.0mm



9 ガマミス属核

— 1.0mm



10 イネ果実(炭化)

— 1.0mm



11 スゲ属果実

— 1.0mm



12 カヤツリグサ科果実

— 0.5mm



13 アカザ属種子



14 アカザ属種子

— 0.1mm



15 ナデシコ科種子



16 ナデシコ科種子

— 0.1mm

柳之御所遺跡の種実Ⅱ



1 セリ科果実 _____ 1.0mm



2 エゴマ果実



3 エゴマ果実 _____ 1.0mm



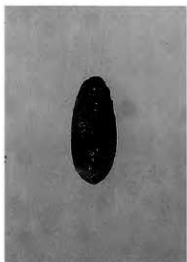
4 ナス科種子



5 ナス科種子 _____ 1.0mm



6 ウリ類種子 _____ 2.0mm



7 ウリ類種子



8 ウリ類種子



9 ウリ類種子 _____ 2.0mm

写 真 图 版

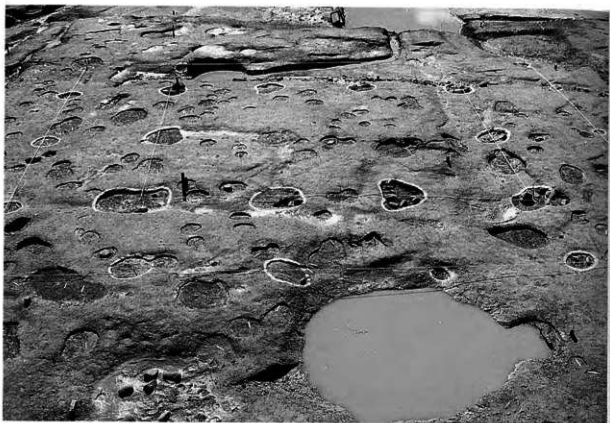


遺跡遠景（南から）

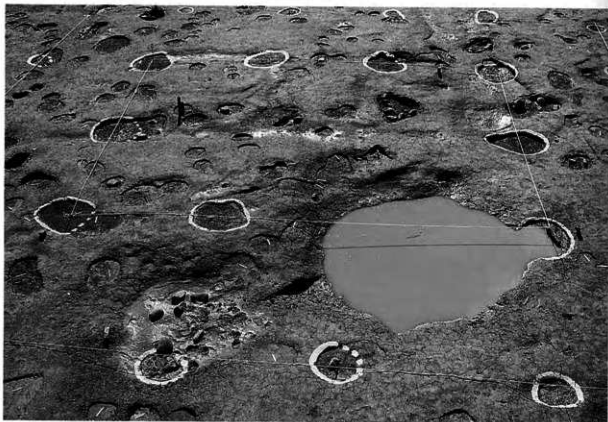


調査区上空（上が南）

写真図版1 第56次調査区航空写真



56SB1 (北から)



56SB2 (北から)

写真図版 2 56SB1・56SB2



56SE1 検出



56SE1 断面



56SE1 完掘



56SE3 検出



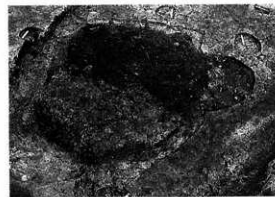
56SE3 断面



56SE3 断面

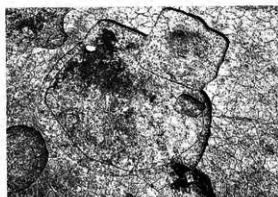


56SK6 検出

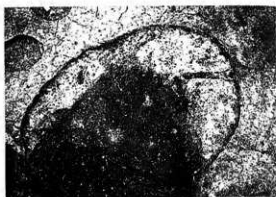


56SK16・56SK44検出

写真図版3 56SE1・56SE3・56SK6・56SK16・56SK44



56 S K 19検出



56 S K 23検出



56 S K 25検出



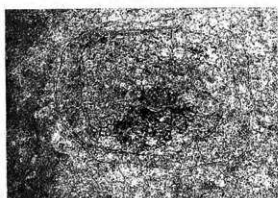
56 S K 25平面



56 S K 26完撮



56 S K 26断面



56 S K 27検出



56 S K 27断面

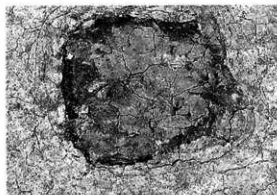
写真図版 4 56SK19・56SK23・56SK25～56SK27



56 S K 28完掘



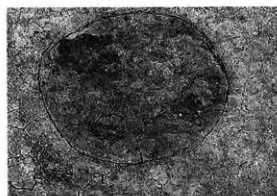
56 S K 28断面



56 S K 29検出



56 S K 29完掘



56 S K 30検出



56 S K 30断面

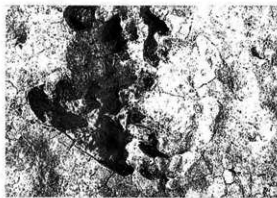


56 S K 31完掘



56 S K 31断面

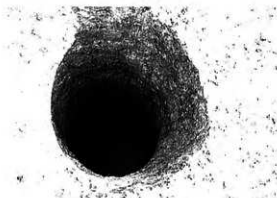
写真図版 5 56SK28~56SK31



56 S K 32完掘



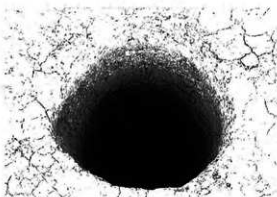
56 S K 32断面



56 S K 33完掘



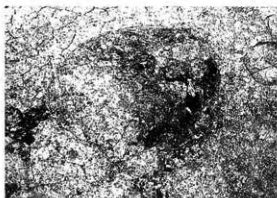
56 S K 33断面



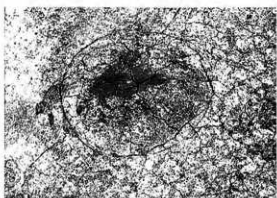
56 S K 34完掘



56 S K 34断面



56 S K 35検出



56 S K 36検出

写真図版 6 56SK32~56SK36



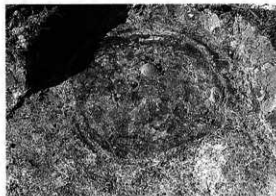
56 S K 37検出



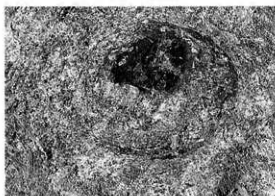
56 S K 38検出



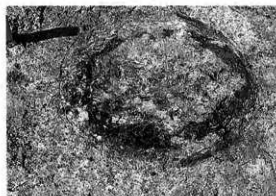
56 S K 39検出



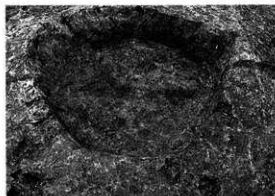
56 S K 40検出



56 S K 41検出



56 S K 42検出



56 S K 43完採

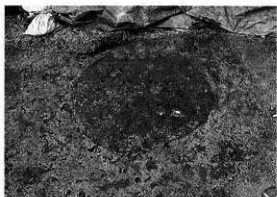


56 S K 43断面

写真図版 7 56SK37~56SK43



トイレ状遺構分布状況



56 S K 51検出



56 S K 52検出



56 S K 53完掘



56 S K 53断面

写真図版 8 56SK51～56SK53



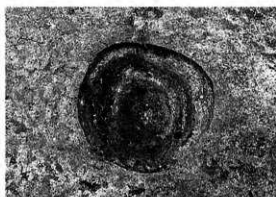
56 S K 54検出



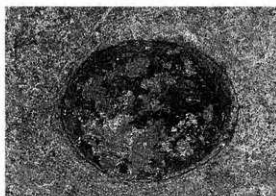
56 S K 55検出



56 S K 56検出



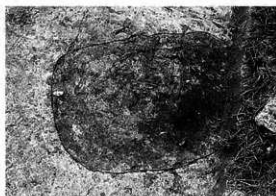
56 S K 57検出



56 S K 58検出



56 S K 59検出

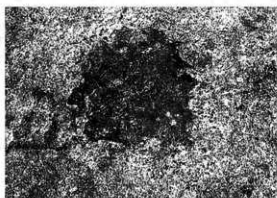


56 S K 60検出

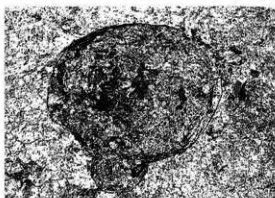


56 S K 62~56 S K 64検出

写真図版 9 56SK54~56SK60・56SK62~56SK64



56 S K 65検出



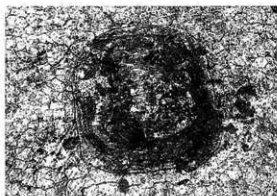
56 S K 66検出



56 S K 67完掘



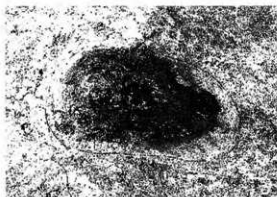
56 S K 67断面



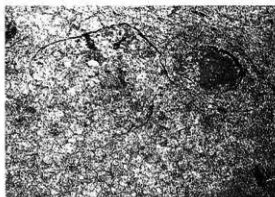
56 S K 68検出



56 S K 69検出

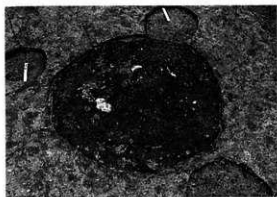


56 S K 70検出



56 S K 72・56 S K 73検出

写真図版10 56SK65~56SK70・56SK72・56SK73



56 S K 77検出



56 S K 80検出



56 S K 80完掘



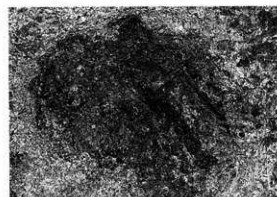
56 S K 80断面



56 S K 84断面



56 S K 85検出



56 S K 87検出



56 S K 89検出

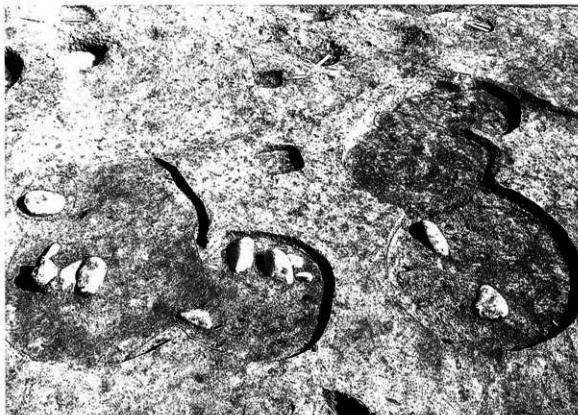
写真図版11 56SK77・56SK80・56SK84・56SK85・56SK87・56SK89



56 S K 15検出



56 S K 90検出



56 S K 93~56 S K 96検出



56 S K 99完掘



56 S K 99断面

写真図版12 56SK15・56SK90・56SK93~56SK96・56SK99



56 S D 20・56 S D 40(北半部)



56 S D 20・56 S D 40(南半部)



56 S D 19・56 S D 20・56 S X 3 断面

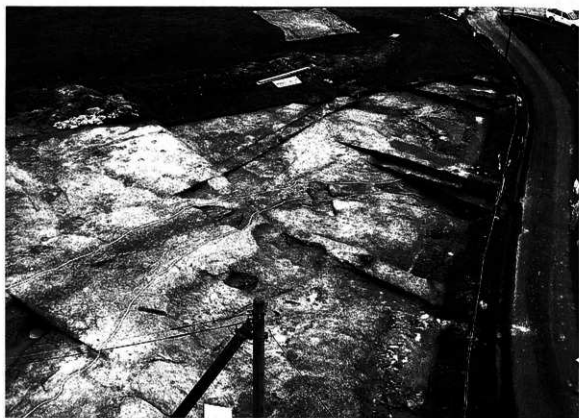


56 S D 20断面(北端部)



56 S D 20・56 S D 38断面

写真図版13 56SD19・56SD20・56SD38・56SD40・56SX3



56SD20と56SD38堀跡



56SD38堀跡断面

写真図版14 56SD20・56SD38



56SD38・56SD39堀跡 (T1)



56SD38堀跡 (T1)



56SD38堀跡 (T1)



56SD39堀跡 (T1)



56SD38・56SD39堀跡 (T2)



56SD38・56SD39堀跡 (T3)

写真図版15 56SD38・56SD39堀跡



56SD39堀跡 (T2) 断面 (北から)

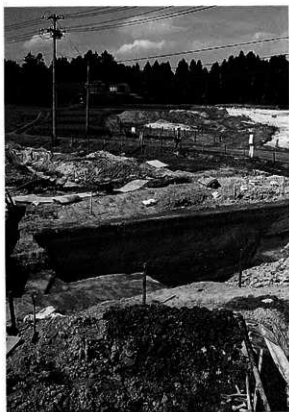


56SD39堀跡 (T2) 断面 (南から)

写真図版16 56SD39 (T2)



56SD39堀跡 (T2) 断面



56SD39堀跡 (T2) 断面



猫間が淵 (T2) 調査状況

写真図版17 56SD39(T2)・猫間が淵(T2)



56SD38堀跡埋土



56SD39堀跡(T2)埋土



56SD39堀跡(T2)埋土



56SD39堀跡(T2)埋土



56SD39堀跡(T2)埋土



56SD39堀跡(T2)埋土



56SD39堀跡(T4)埋土



56SD39堀跡(T4)埋土

写真図版18 遺物出土状況(1)



56SD39堀跡 (T2) 埋土



56SD39堀跡 (T2) 埋土



56SD39堀跡 (T2) 埋土



猫間が淵 (T2)



猫間が淵 (T2)

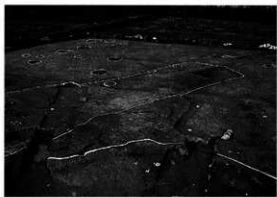


猫間が淵 (T2)



56SD37 (T3)

写真図版19 遺物出土状況(2)ほか



56SD40北端部



56SD40南端部



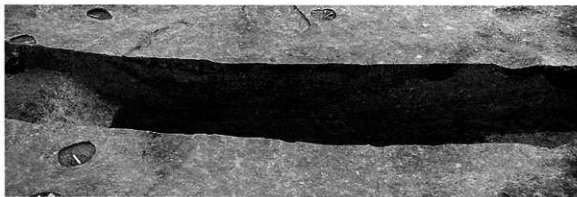
56SD20・56SD40南端部



56SD40断面（北端部）



56SD40出土遺物



56SD40断面

写真図版20 56SD20・56SD40



56 S X 16土橋埋土(南から)



56 S X 16断面



56 S X 16断面



56 S X 16土橋埋土(北から)



56 S X 16・56 S D 40



56 S D 40断面

写真図版21 56SX16土橋・56SD40



整地層北半部トレンチ断面



整地層北半部トレンチ断面



整地層南半部トレンチ断面

写真図版22 整地層



56 S X 1 現況



56 S X 1 断面



56 S X 4 検出



56 S X 2 断面



56 S X 4 断面



56 S X 9 断面



56 S X 15 検出



焼土断面

写真図版23 その他の遺構



写真図版24 作業風景ほか



1



8



9



10



16



18



19



21



26



27



28



29



30



32



31



38

写真図版25 かわらけ(1)



39



44



46



53



51



52



54



55



56



58



62



63



73



69



74



75

写真図版26 かわらけ(2)



76



77



78



79



80



81



83



84



85



86



87



88



89



90

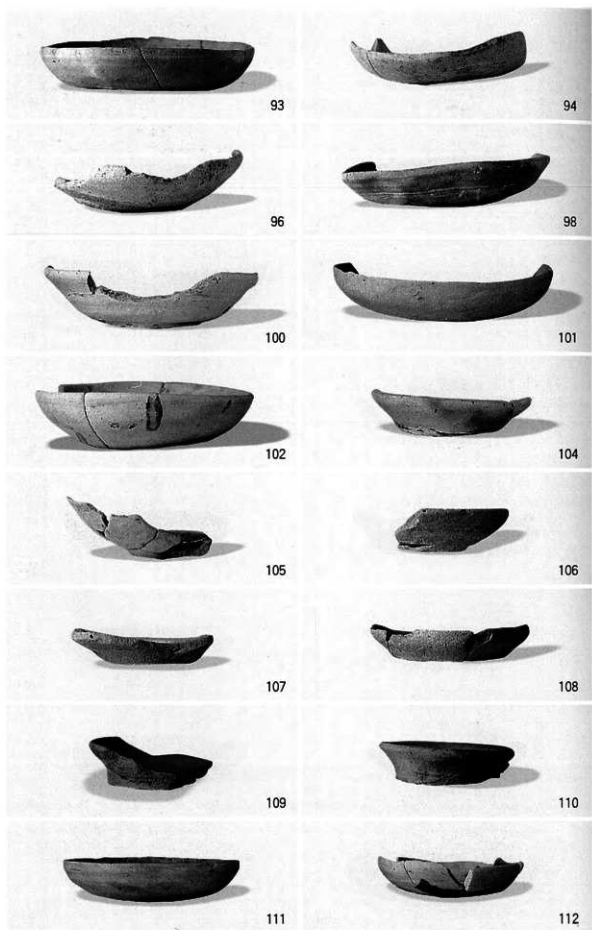


91



92

写真図版27 かわらけ(3)



写真図版28 かわらけ(4)



113



114



115



116



117



118



119



120



121



123



124



125

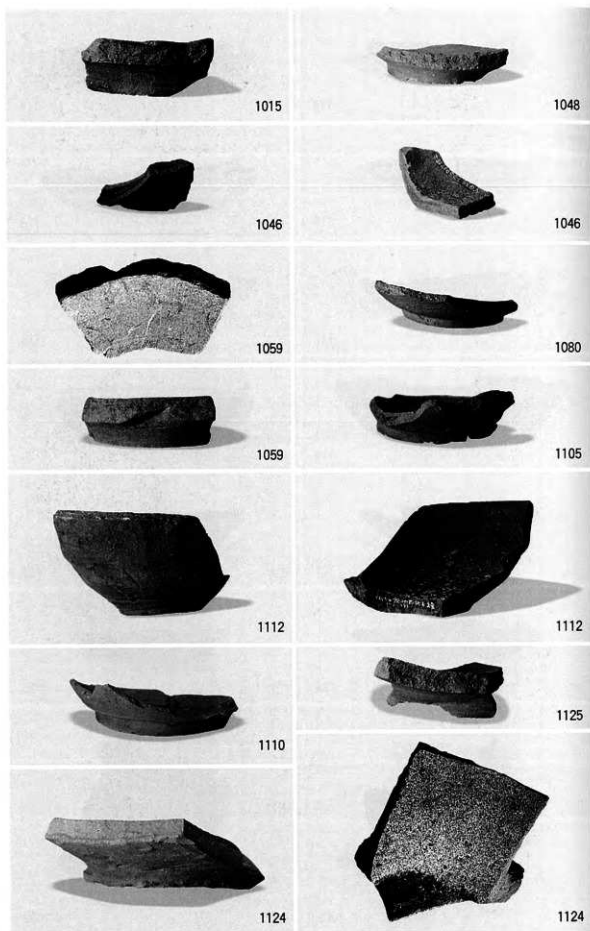


1002



1002

写真図版29 かわらけ(5)・国産陶器(1)



写真図版30 国産陶器(2)



1124



1154



1161



1001



1003



1162



1163



1164



1165



1005



1166



1004



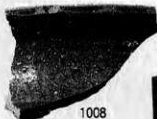
1167



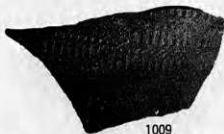
1007



1006



1008

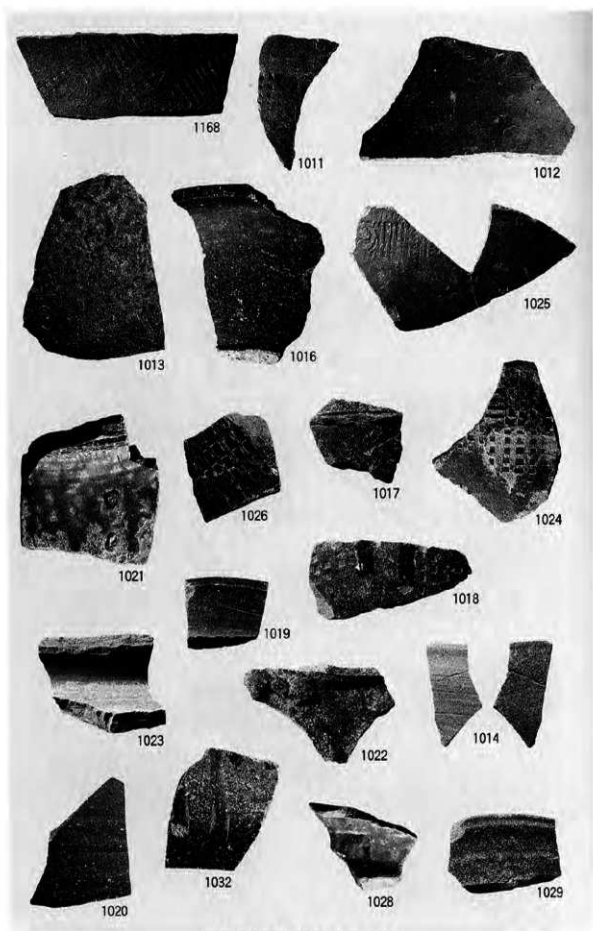


1009

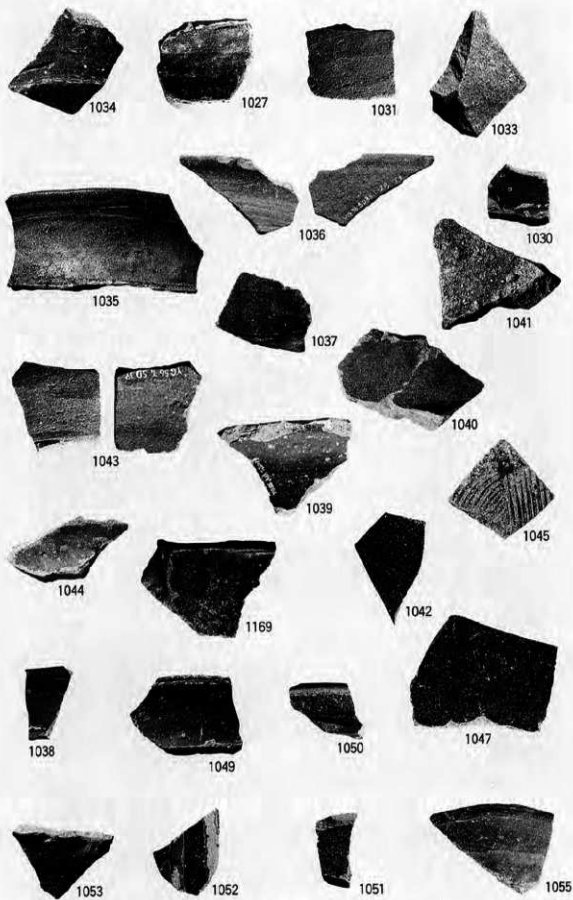


1010

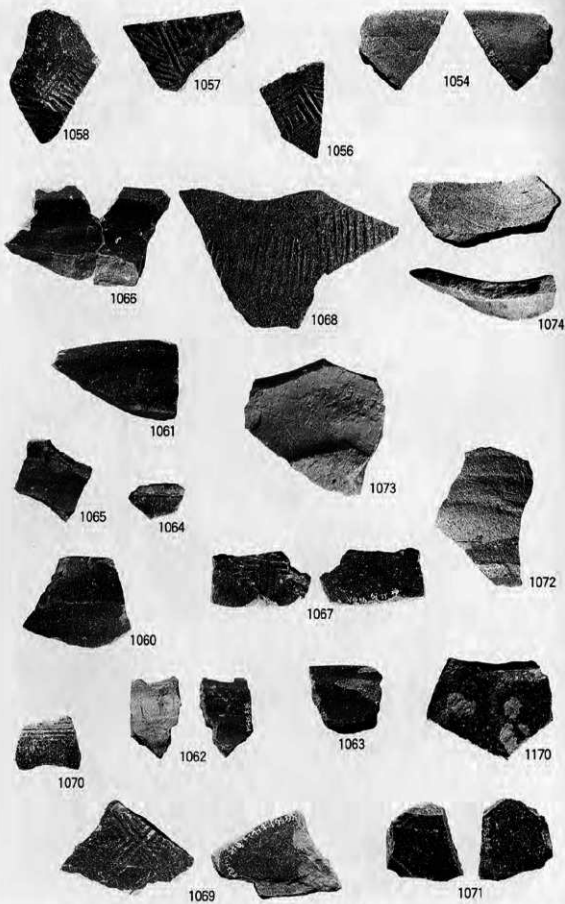
写真図版31 国産陶器(3)



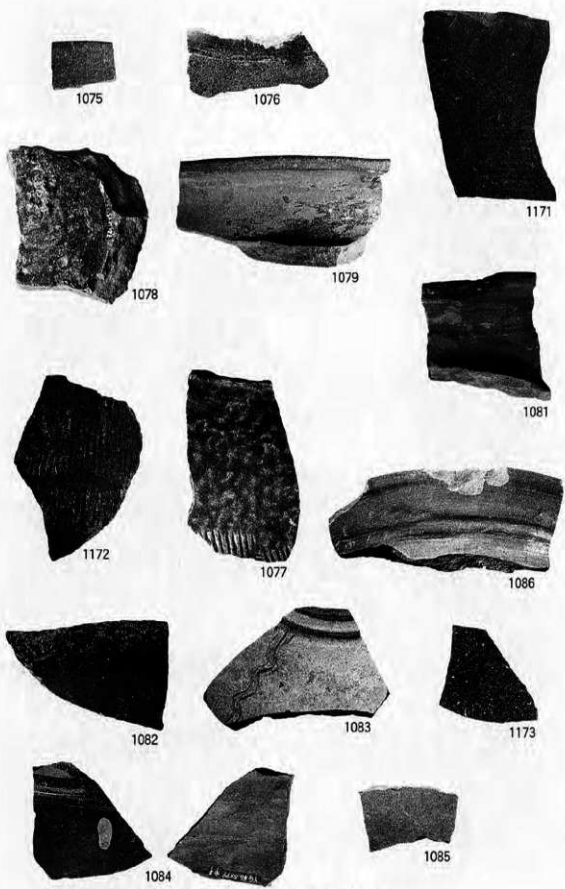
写真図版32 国産陶器（4）



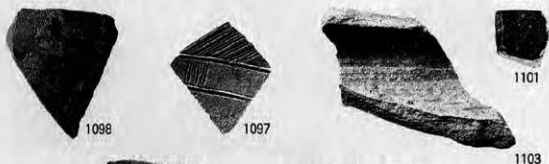
写真图版33 国産陶器(5)



写真図版34 国産陶器 (6)



写真図版35 国産陶器 (7)



写真図版36 国産陶器(8)



1099



1106



1178



1179



1104



1111



1107



1113



1114



1180



1115



1181



1118



1117



1182



1183



1184

写真図版37 国産陶器(9)



1185



1119



1186



1187



1109



1108



1116



1121



1122

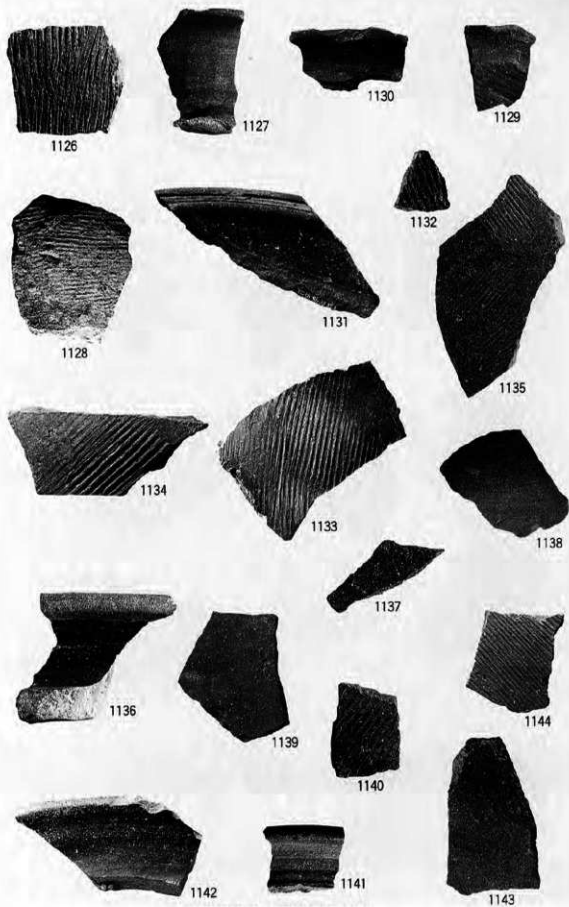


1120



1123

写真図版38 国産陶器 (10)



写真図版39 国産陶器 (11)



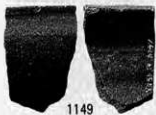
1146



1145



1147



1149



1150



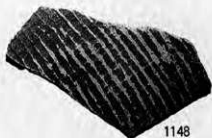
1151



1152



1155



1148



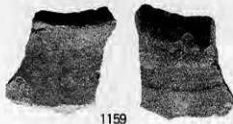
1153



1156



1158



1159



1160



1157

写真図版40 国産陶器 (12)



2039



2039



2022



2022



2020



2023



2001



2003



2045



2046

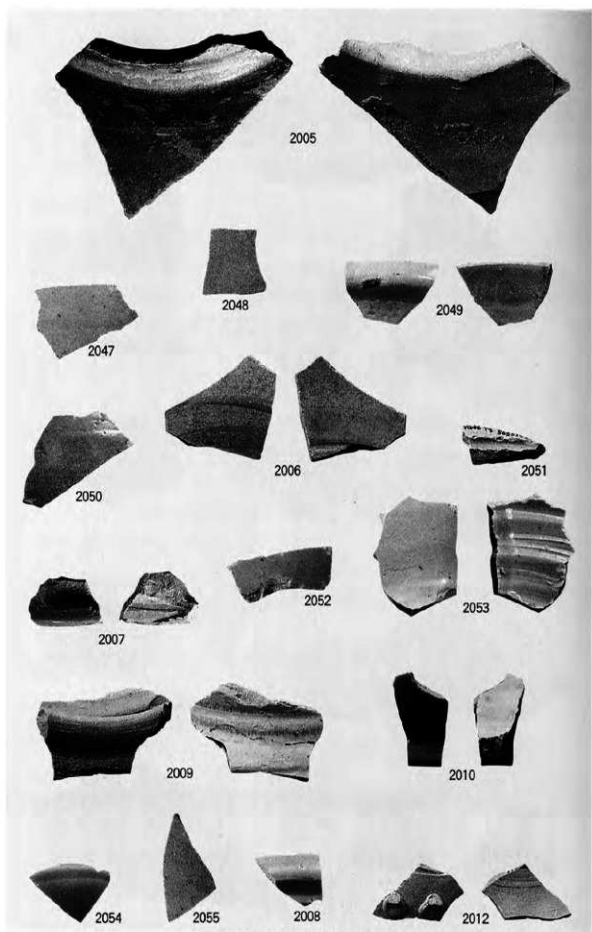


2002

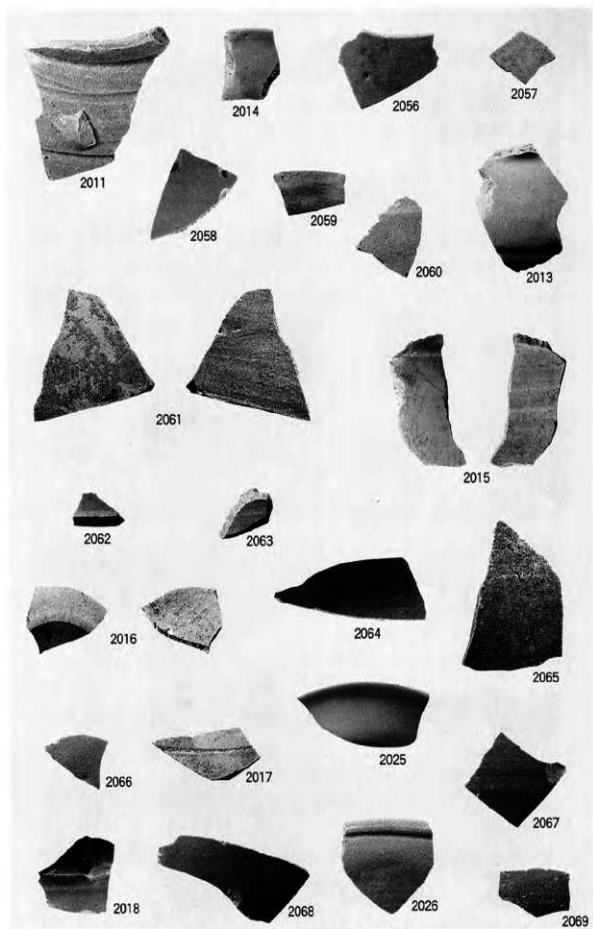


2004

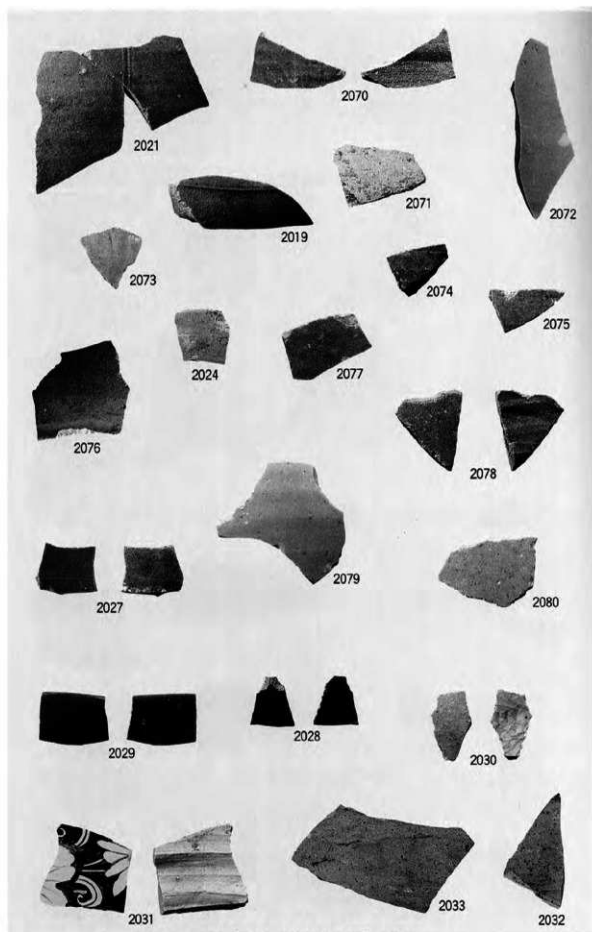
写真図版41 中国産陶磁器 (1)



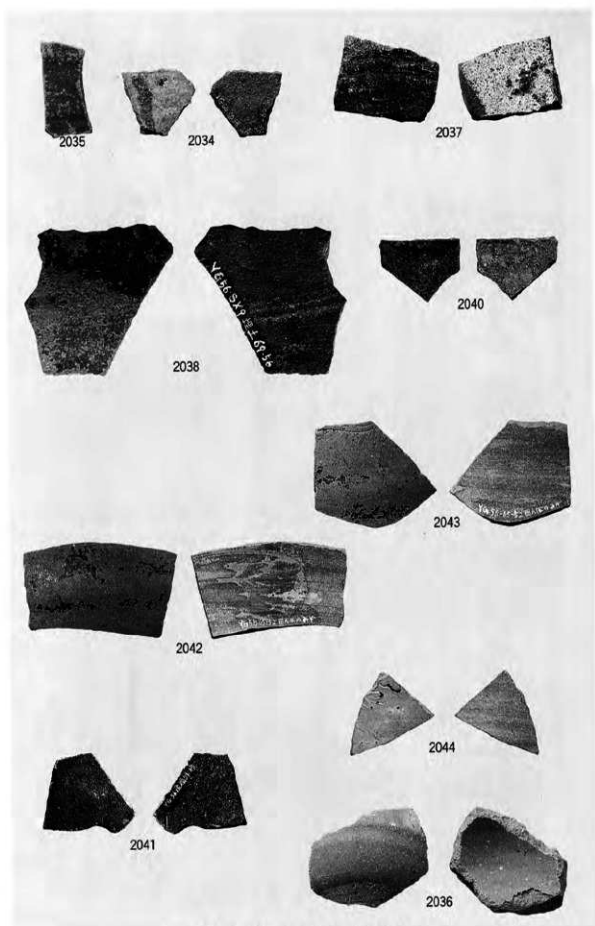
写真图版42 中国産陶磁器（2）



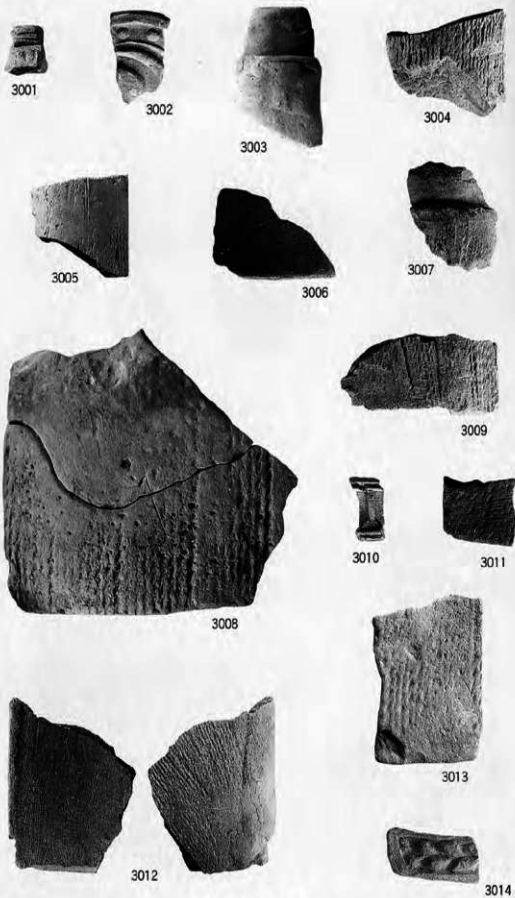
写真图版43 中国産陶磁器(3)



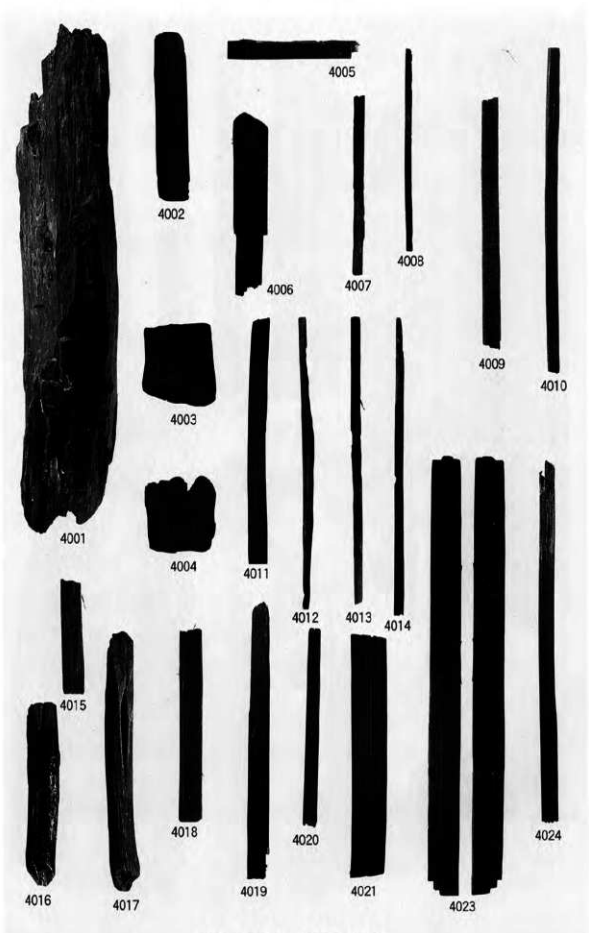
写真图版44 中国産陶磁器（4）



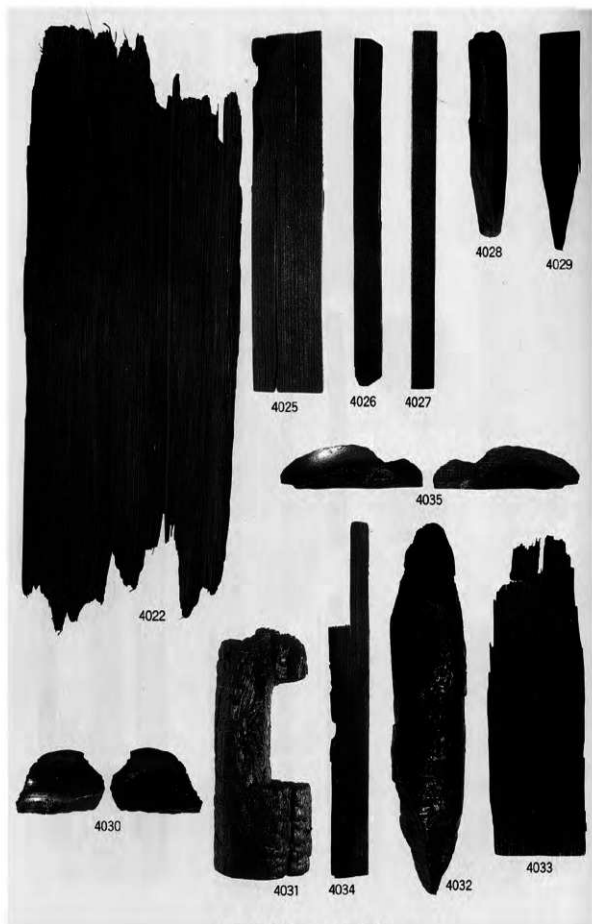
写真图版45 中国産陶磁器（5）



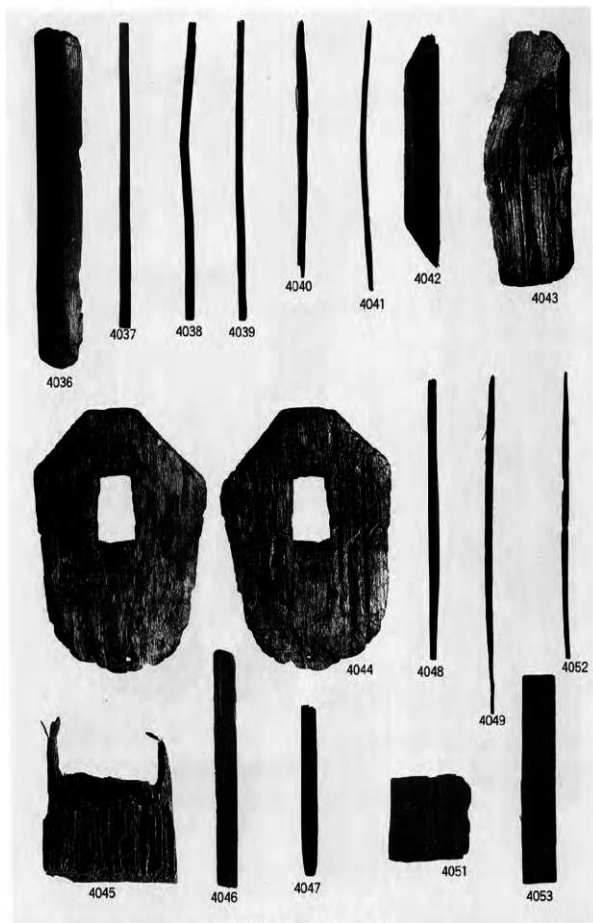
写真图版46 瓦



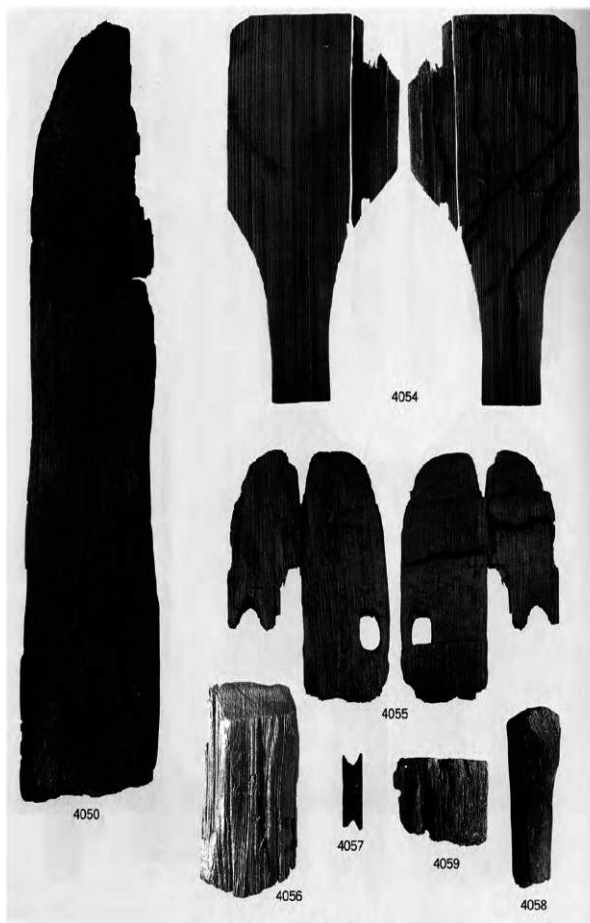
写真図版47 木製品 (1)



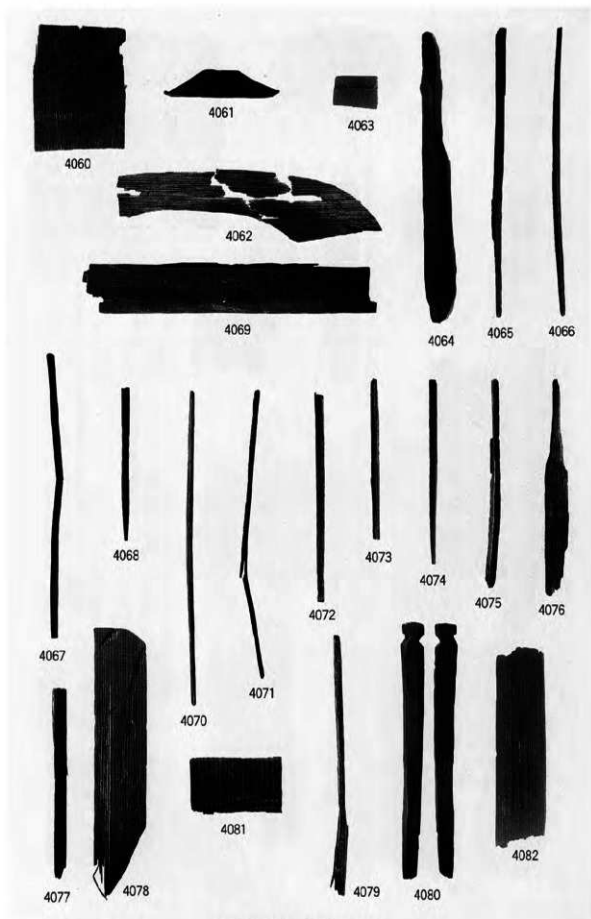
写真図版48 木製品(2)



写真図版49 木製品(3)



写真図版50 木製品(4)



写真図版51 木製品 (5)



4083



4084



4085



4086



4087



4088



4089



4095



4090



4091



4092

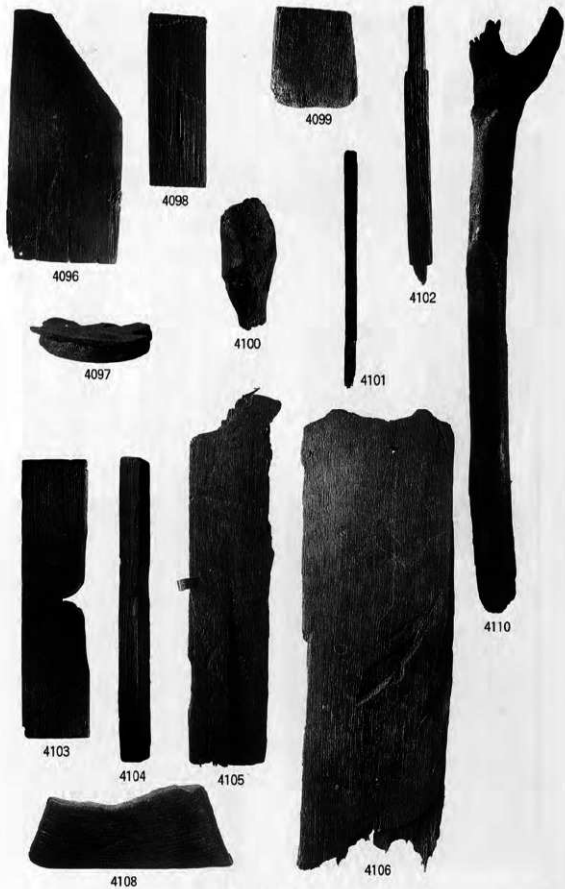


4093

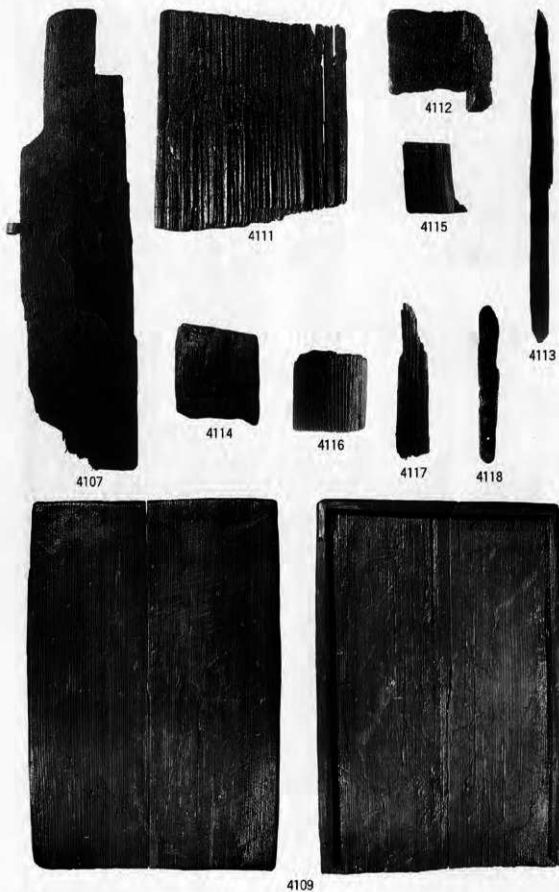


4094

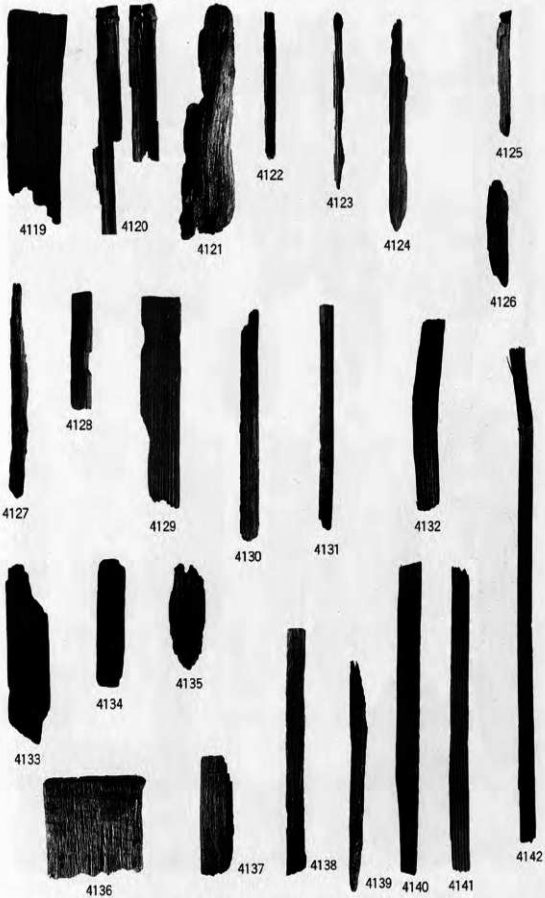
写真図版52 木製品 (6)



写真図版53 木製品(7)



写真図版54 木製品(8)



写真図版55 木製品(9)



4143



4144



4145



4146



4147



4148



4149



4151



4152



4153



4150



4154

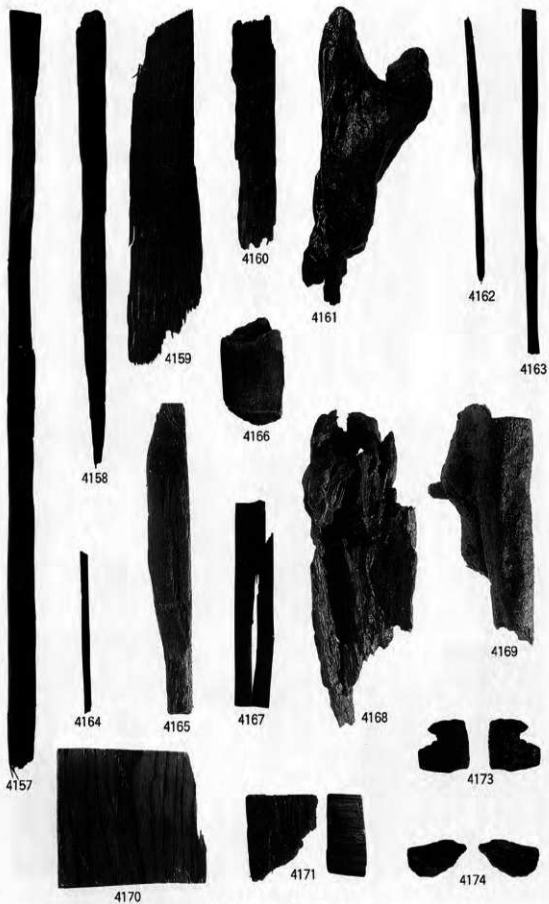


4155

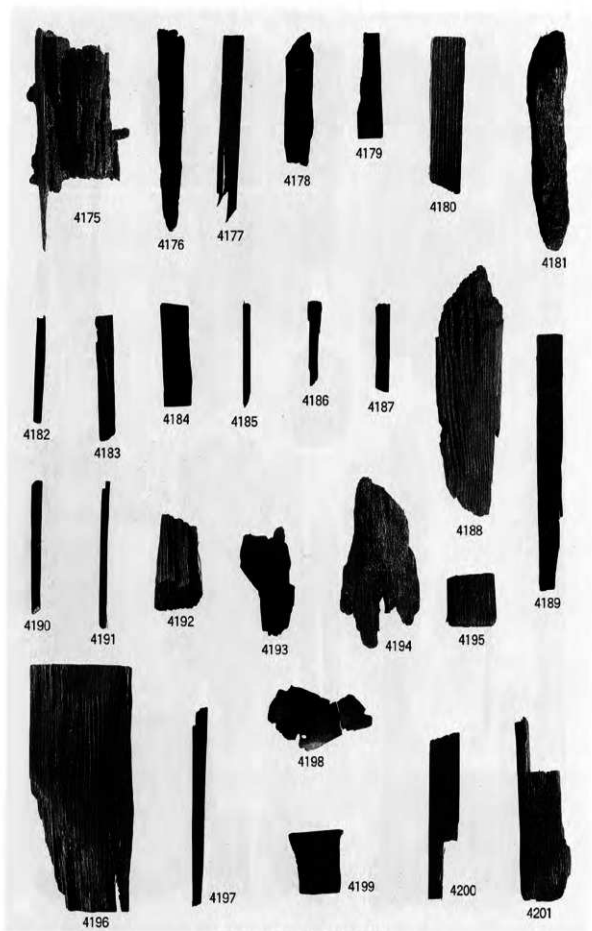


4156

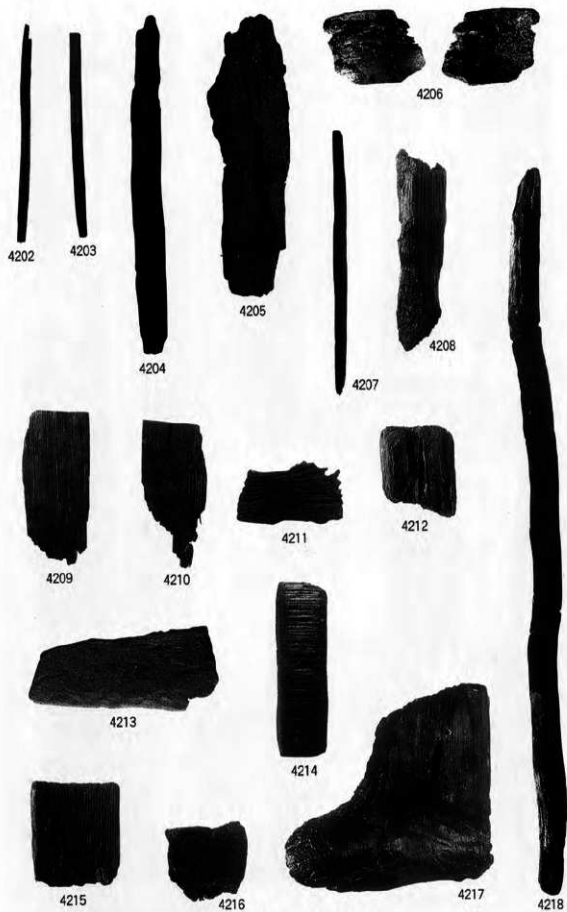
写真図版56 木製品 (10)



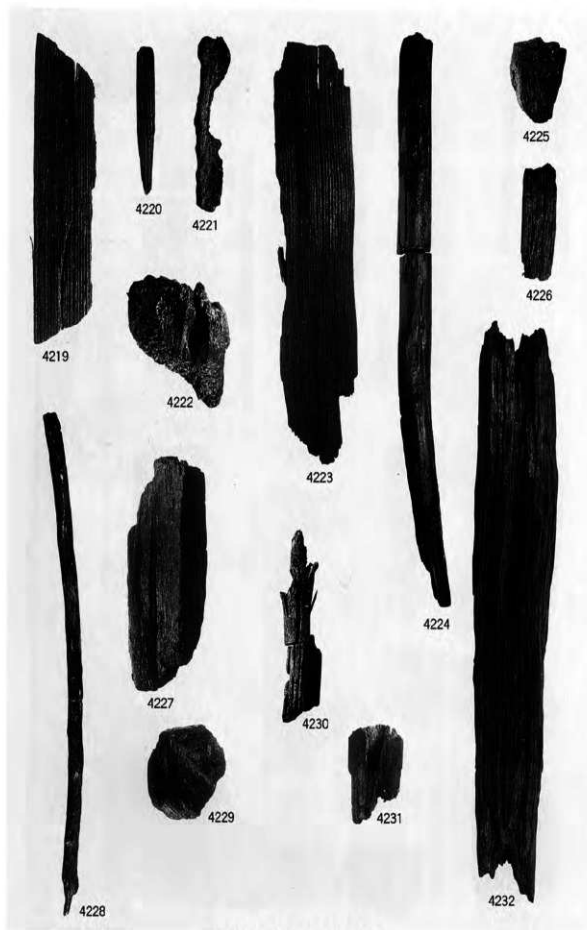
写真図版57 木製品 (11)



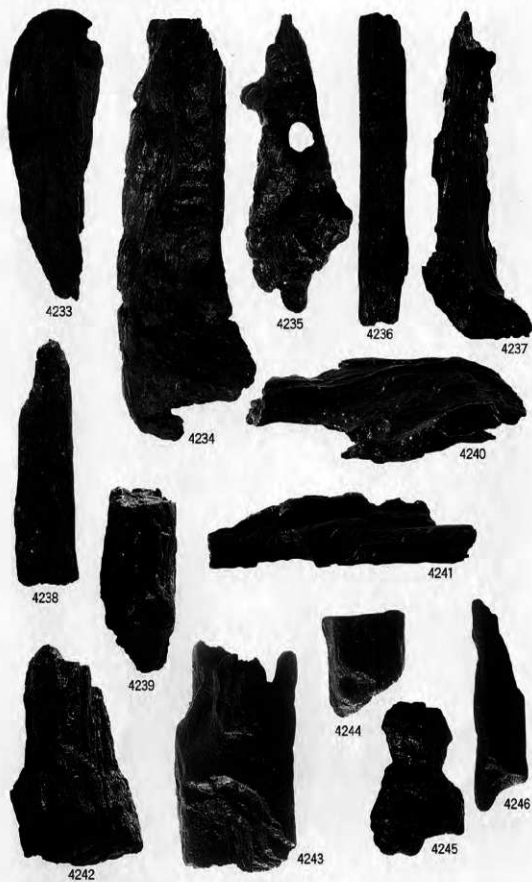
写真図版58 木製品 (12)



写真図版59 木製品 (13)



写真図版60 木製品 (14)



写真図版61 木製品 (15)



写真図版62 木製品 (16)



4261



4262



4263



4265



4264



4266



4267



4268



4269



4270



4271

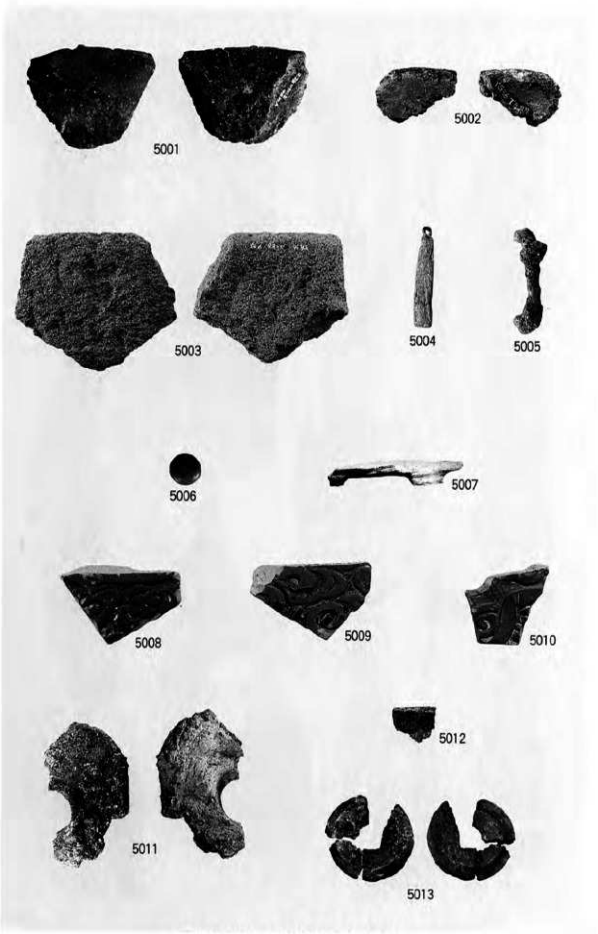


4272

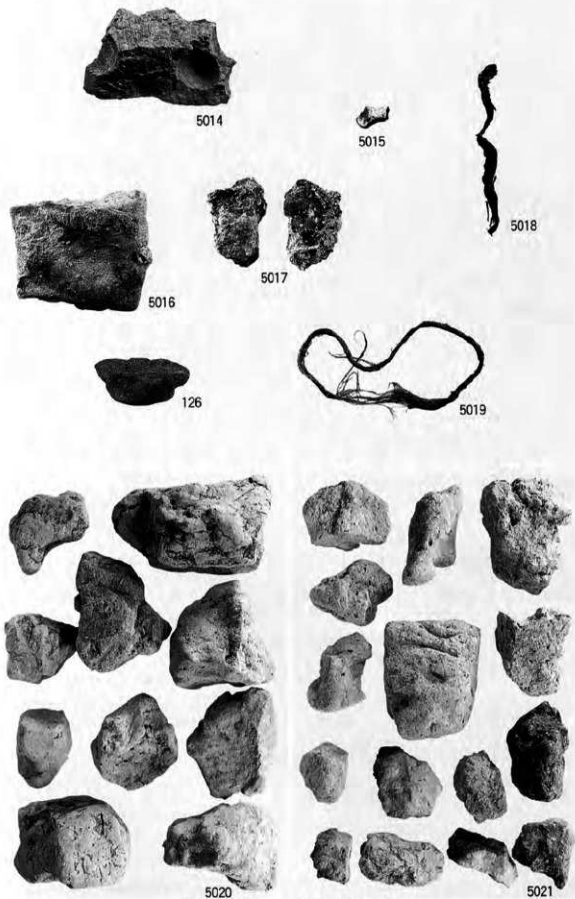


4273

写真図版63 木製品 (17)



写真図版64 その他の遺物 (1)



写真図版65 その他の遺物（2）

報告書抄録

| ふりがな | ひらいずみいせきぐん やなぎのごしょいせき | | | | | | | |
|------------------------------------|--|-------|---|---|---|-----------------------------------|--|------------------------|
| 書名 | 平泉遺跡群 | | 柳之御所遺跡 | | | | | |
| 副書名 | 第56次発掘調査概報 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第117集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 斎藤邦雄 佐々木務 戸根貴之 杉沢昭太郎 | | | | | | | |
| 編集機関 | 岩手県教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 岩手県盛岡市内丸10-1 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2003年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| ひらいずみいせきぐん やなぎのごしょいせき 柳之御所遺跡 | いわてけんいせい 岩手県西磐 いせきぐんいせきぐん 井郡平泉町 ひらいずみいせきぐん 平泉字柳之 ごしょ 御所126-34 ほか | 03402 | | 38度 59分 28秒 | 141度 7分 35秒 | 第56次 20020513 ～ 20021129 | 4000 | 史跡整備に 向けた内容 確認調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 柳之御所遺跡 | 奥州藤原氏に関連する居館跡 | 12世紀 | 掘立柱建物跡 土坑 井戸跡 堀 溝跡 土橋 その他 | 5棟 59基 3基 3条 5条 1基 9基 | かわらけ 国産陶器 中国産陶磁器 瓦 木製品 (折敷 扇など) 近世陶磁器 | | ・ 居館の外周を巡る2条の堀跡。 [56SD38、39] ・ トイレ状遺構の集中域 [56SK26他] | |
| | | 近世以降 | 掘立柱建物跡 溝跡 土坑 | 3棟 30条 12基 | | | | |
| | | 時期不詳 | 土坑 | 28基 | | | | |

岩手県文化財調査報告書 第117集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

—第56次発掘調査概報—

平成15年3月31日発行

発行 岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10-1
編集 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
印刷 川崎印刷株式会社
岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21



柳之御所遺跡第56次調査遺構配置図(2)



柳之御所遺跡第56次調査遺構配置図(1)